

サンポート高松総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊

西打遺跡Ⅱ

2002.3

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊
西打遺跡II 正誤表

	誤	正
挿図目次第154図	(×30)	(落斜光×30)
79P S B 02	Y=46.455	Y=46.445
85P S B 04	白磁VII類の碗	白磁VII類の碗
107P S B 02	X=141.685	X=147.685
110P S B 06	X=141.682	X=147.682
241P 1513の器種	壺	弥生後期 壺
243P 1572の器種	鉢	弥生後期 鉢
268P 図版番号	備考欄	図版番号欄

サンポート高松総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊

西打遺跡Ⅱ

2002.3

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

序 文

香川県教育委員会では、四国横断自動車道や高松東道路の建設、高松空港跡地の整備など大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と出土文化財の整理研究・報告書刊行業務を、財団法人香川県埋蔵文化調査センターに委託して実施しております。

このたび『サンポート高松整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西打遺跡Ⅱ』として刊行いたしますのは、JR貨物操車場移転に伴い平成8、9年度に発掘調査を行った高松市香西南町・鬼無町に所在する西打遺跡の北半部についてであります。この遺跡の発掘調査では、縄文時代前期末の遺物を含む旧河道と堀で囲まれた中世の居館を中心に、多くの遺構・遺物が確認されました。これまで香川県内では、平安時代末から鎌倉時代にかけての集落の本格的な発掘調査例は少なく、当時の文化を究明する上で大変貴重なものと考えられます。

本報告書が香川県の歴史を考える資料と広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土文化財の整理・報告にいたるまでの間、香川県土木部サンポート高松推進局及び関係諸機関並びに地元関係各位には多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成13年3月

香川県教育委員会

教育長 折原 守

例　　言

1. 本報告書は、サンポート高松(高松港頭地区)総合整備事業のうち、JR貨物操車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告で、高松市香西南・鬼無地区に所在する西打遺跡(にしうちいせき)の北半部の報告を収録した。

2. 発掘調査は、香川県教育委員会が香川県土木部サンポート高松推進局(旧高松港頭地区開発局)より委託を受け、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3. 発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

平成8年12月1日～平成9年3月31日 藤好史郎 中村昭博 東条貴美

平成9年4月1日～平成10年3月31日 北山健一郎 島田英夫 門脇範子(10月1日～)

平成9年4月1日～平成9年9月31日 中西昇 多田佳弘 森川歩

平成9年4月1日～平成9年9月31日 乗松真也 住野正和 門脇範子

4. 調査にあたって、下記の方々の御教示を得た。記して謝意を表したい。

池澤俊幸 石尾和仁 泉拓良 市村高男 伊藤祐偉 伊野近富 佐藤亞聖 鈴柄敏夫 中野良一
橋本久和 百瀬正徳 山本純代 山内英樹(順不同、敬称略)

5. 本報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。

本報告書の執筆・編集は、山下平重及び信田芳紀が担当した。

6. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標系第IV系の北であり、標高は東京湾平均海水位(T.P.)を基準としている。

また、遺構は基本的に下記の略号により表示している。

S B 挖立柱建物跡 S D 溝状遺構 S K 土坑 S P 柱穴

S X 不明遺構 S R 旧河道

7. 第3章の遺構名の後の()内の表記は、付図での遺構の位置を示している。

8. 石器実測図中、薄く黒く表現している部分は摩滅痕を、輪郭線の回りの実線は潰れを、同じく破線は顕著な研磨あるいは摩滅を、同じく点線はあまり顕著でない研磨あるいは摩滅をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合、新しい剥離面は黒丸で、古い剥離面は白丸で表す。なお、現代の折損は濃く黒で潰している。石器石材は特に表記が無い限り、サスカイトである。

9. 掘図の一部に建設省国土地理院地形図「高松」「高松南部」「香西」「白峰山」(1/25,000)を使用した。

10. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関等に分析を依頼・委託した。

九州テクノリサーチ・TACセンター 大澤正己・鈴木瑞穂(鍛冶津)

別府大学文学部文化財学科 志賀智史・本田光子(赤色顔料)

11. 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値(単位m)である。

12. 土器観察表の中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖1992年度版」に準拠する。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

13. 中世の時期の表示や年代決定については、下記の文献を参考にした。

『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査調査報告 第4冊 空港跡地遺跡IV』香川県教育委員会他 2000.3

目 次

序文

例言

第1章 整理作業の経緯	1
第1節 整理作業の経緯と体制	1
第2節 報告書の体裁について	2
第2章 B 3区の調査	2
第1節 土層序	2
第2節 遺構と遺物	2
1 縄文時代	2
2 弥生時代前期	2
3 弥生時代後期	7
4 中世前半	7
5 中世後半	22
6 ピット出土の遺物	45
7 近世以降	53
8 包含層等出土の遺物	54
第3章 B 3区のまとめ	65
第1節 B 3地区の遺構の変遷	65
1 旧石器時代	65
2 縄文時代	65
3 弥生時代前期	65
4 中世前半	65
5 中世後半	65
6 近世以降	68
第2節 西打遺跡出土石器類の集計	68
第4章 A 2・B 2・C区の調査	69
第1節 調査成果の概要	69
1 地形と土層序・遺構分布	69
第2節 A 2区の調査	71
1 調査の概要	71
第3節 B 2区の調査	97
1 B 2区東半部の調査の概要	97
2 B 2区西半部の調査の概要	119
第4節 C区の調査	126
1 C区の調査の概要	126

第5章 総括 西打遣跡周辺の歴史的変遷	166
第1節 西打遣跡主要遺構の変遷	166
1 11c 後半～12c 前半	166
2 13c 後半～14c 初頭	168
3 14c 初頭以降	171
第2節 西打遣跡出土サヌカイト製石器類の集計	172
1 サヌカイトの分類	172
2 石器類の集計	172
3 石器類の出土傾向	172
第3節 時期別の遺構・遺物の変遷と周辺の微地形	179
1 縄文時代晚期	179
2 弥生後期終末	181
3 古代	181
4 中世I	184
5 中世II	184
第4節 西打遣跡出土楕形鍛冶津の金属学的調査	187
1 いきさつ	187
2 調査方法	187
3 調査結果	187
4 まとめ	188
第5節 高松市西打遣跡出土赤彩土器の調査	190
B 3区土器観察表	
B 3区石器観察表	
B 3区金属器観察表	
A 2・B 2・C区土器観察表	
A 2・B 2・C区石器観察表	
A 2・B 2・C区金属器観察表	
A 2・B 2・C区土錘観察表	
図版	
報告書抄録	

表 目 次

表1 SB01出土遺物に関する遺器名一覧	99	表14 製品集計表	173
表2 B2区埋蔵地建物一覧 (11c後半~12c前半)	166	表15 制片集計表	173
表3 B2区埋蔵地区両溝一覧 (11c後半~12c前半)	166	表16 製品器種別集計表	174
表4 C区集落建物一覧 (11c後半~12c前半)	168	表17 A1区製品集計表	175
表5 B2区埋蔵地SB01・SD08・SK01の供耕具の組成		表18 A2区製品集計表	175
組成表5 (遺構外含む)	168	表19 B1区製品集計表	176
表6 B2区埋蔵地その他遺構の供耕具の組成	168	表20 B2区製品集計表	176
表7 B2区埋蔵地全体の供耕具の組成 (表4+表5)	168	表21 B3区製品集計表	177
表8 C区SD02の供耕具の組成	168	表22 C区製品集計表	177
表9 D区埋蔵地の遺物一覧	170	表23 D区製品集計表	178
表10 D区埋蔵地に面施設一覧	170	表24 旧石器一覧表	178
表11 A2区集落建物一覧 (13c末~14c初頭)	171	表25 周辺の埋没旧河床一覧	179
表12 C区集落建物一覧 (13c末~14c初頭)	171	表26 供試材の埋覆と調査項目	189
表13 全石器集計表	173	表27 供試材の組成	189

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置	3	第17図 SX02・05出土遺物 (1/4)	14
第2図 調査区割り	4	第18図 SX06出土遺物 (1/4)・(1/2)	15
 B3区		第19図 SX07・10出土遺物 (1/4)・(1/2)	16
第3図 突帯文土器 (1/4)	5	第20図 SX12平・断面 (1/50)	17
第4図 ST14平・断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)	5	第21図 SX12・14出土土器 (1/4)・(1/2)	18
第5図 ST19平・断面 (1/50)	5	第22図 SX15断面 (1/50) 及びSX15・16・18, SD08・10 出土遺物 (1/4)・(1/2)	19
第6図 SD25断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)	5	第23図 SD13出土遺物 (1/4)・(1/2)	20
第7図 SD31-33断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)	6	第24図 SD26・22断面 (1/50) 及びSD22出土遺物 (1/4) (1/6)・(1/2)	21
第8図 SX13平・断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)	6	第25図 SD27・36断面 (1/50) 及びSD29・32出土遺物 (1/4)	23
第9図 SX20平・断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)	7	第26図 SB01-04平・断面 (1/100)	24
第10図 SP1687出土遺物 (1/4)	7	第27図 SB05・11・13平・断面 (1/100)	25
第11図 SP1115出土遺物 (1/4)	7	第28図 SX01平・断面 (1/50) 及びSX01・03出土遺物 (1/4)	26
第12図 SB06・07・08・09平・断面 (1/100)	8	第29図 SX04平・断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)・(1/2)	28
第13図 SB10・12平・断面 (1/100)	9	第30図 SX08出土遺物 (1/4)	29
第14図 SE01平面 (1/20) 及び出土遺物 (1/4)	10	第31図 SD01出土遺物その1 (1/4)	30
第15図 土坑平・断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)・(1/2)			
	11		
第16図 土坑墓平・断面 (1/20・1/50) 及び出土遺物 (1/4)・(1/2)	13		

第32図	S D01出土遺物その2 (1/4)	31
第33図	S D01出土遺物その3 (1/4)	32
第34図	S D01出土遺物その4 (1/4)	33
第35図	S D01出土遺物その5 (1/4)・(1/2)	34
第36図	S D02出土遺物その1 (1/4)	35
第37図	S D02出土遺物その2 (1/4)	36
第38図	S D02出土遺物その3 (1/4)	37
第39図	S D02出土遺物その4 (1/4)	38
第40図	S D02出土遺物その5 (1/4)・(1/6)	39
第41図	S D02出土遺物その6 (1/4)・(1/6)・(1/2)	40
第42図	S D02出土遺物その7 (1/2)	41
第43図	S D03出土遺物 (1/4)	41
第44図	S D04出土遺物 (1/4)・(1/2)	41
第45図	S D05出土遺物 (1/4)	41
第46図	S D05出土遺物 (1/2)	42
第47図	S D06・07・12出土遺物 (1/4)・(1/2)	42
第48図	S D02・12・23・28・30・51断面 (1/50)	43
第49図	S D14・21・23・24・28出土遺物 (1/4)・(1/6)・ (1/2)	44
第50図	S D28出土土器 (1/4)・(1/6)・(1/2)	45
第51図	ピット出土遺物その1 (1/4)・(1/2)	46
第52図	ピット出土遺物その2 (1/4)・(1/2)	47
第53図	ピット出土遺物その3 (1/4)・(1/2)	48
第54図	ピット出土遺物その4 (1/4)・(1/2)	49
第55図	ピット出土遺物その5 (1/4)・(1/2)	50
第56図	ピット出土遺物その6 (1/4)・(1/2)	51
第57図	ピット出土遺物その7 (1/4)・(1/2)	52
第58図	ピット出土遺物その8 (1/4)	53
第59図	S D35断面 (1/50) 及び縦平面 (1/40)	55
第60図	近世以降の遣構出土遺物 (1/4)・(1/2)	56
第61図	包含層等出土遺物その1 (1/4)	57
第62図	包含層等出土遺物その2 (1/4)	58
第63図	包含層等出土遺物その3 (1/4)	59
第64図	包含層等出土遺物その4 (1/4)・(1/2)	60
第65図	包含層等出土遺物その5 (1/2)	61
第66図	包含層等出土遺物その6 (1/2)	62
第67図	包含層等出土遺物その7 (1/2)	63
第68図	包含層等出土遺物その8 (1/1)・(1/2)・(1/4)	64
第69図	B 3区遣構変遷 (1) (1/600)	66
第70図	B 3区遣構変遷 (2) (1/600)	67
A 2 区		
第71図	A 2・B 2・C区遣構配置 (1/1000)	70
第72図	A 2区遣構配置 (1/300)	71
第73図	S H01平・断面 (1/60)	72
第74図	S H01出土遺物その1 (1/4)	74
第75図	S H01出土遺物その2 (1/4)・(1/2)・(1/3)	75
第76図	S H02平・断面 (1) (1/60)	76
第77図	S H02出土遺物その1 (1/4)	77
第78図	S H02出土遺物その2 (1/4)	78
第79図	S H02出土遺物その3 (1/4)	79
第80図	S B02・03・07・08平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)	80
第81図	S B06・09平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)	81
第82図	S B05平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)	82
第83図	S B05内P85出土遺物 (1/4) (1/3)	83
第84図	S B01・04平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)	84
第85図	S D01・02・16・17・18S K05・08・12S X04断面 S X06平・断面 (1/40) (1/30) (1/20)	86
第86図	S D01・S X06出土遺物 (1/4) (1/3)	87
第87図	S D02・14・16・18・26S X03出土遺物 (1/4)	89
第88図	S K05・08・12及び柱穴出土遺物 (1/4)	90
第89図	遣構外出土遺物 (1/4) (1/2)	92
B 2 区		
第90図	A 2・B 2区遣構配置 (1/400)	95・96
第91図	B 2区東半部遣構配置 (1/400)	97
第92図	S B01周辺遣構配置 (1/200)	98
第93図	S B01平・断面 (1/80)	100
第94図	S K01平・断面 S B01出土遺物 (1/20) (1/4)	101
第95図	S K01・02・S D08出土遺物その1 (1/4) (1/3)	103
第96図	S D08出土遺物その2 (1/4)	104
第97図	S D08出土遺物その3 (1/4) (1/2) (1/3)	105
第98図	S B10平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)	106
第99図	S B02・03平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)	108

- 第100図 S B05・08・11平・断面及び出土遺物 (1/80)
 　　(1/4) 109
- 第101図 S B06・07平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)
 　　..... 111
- 第102図 S D03・04・05・09・10断面 (1/20) 112
- 第103図 S D03・04・05・21・22出土遺物 (1/4)(1/3)
 　　..... 114
- 第104図 S D06・07・09・10・11・17・27出土遺物 (1/4)
 　　..... 115
- 第105図 B 2区半部遺構配置 (1/400) 117・118
- 第106図 S B04平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4) .. 120
- 第107図 S D21・28・SD101断面及び出土遺物
 　　(1/20) (1/4) 121
- 第108図 柱穴出土遺物 (1/4) 123
- 第109図 遺構外出土遺物その1 (1/4) 124
- 第110図 遺構外出土遺物その2 (1/4)(1/2) 125
- C区**
- 第111図 C区遺構配置 (1/400) 127
- 第112図 S K01平・断面及び出土遺物その1 (1/30) (1/4)
 　　..... 128
- 第113図 S K01出土遺物その2 (1/4) 129
- 第114図 S K01出土遺物その3 (1/4) 130
- 第115図 S K01出土遺物その4 (1/4) 131
- 第116図 S K01出土遺物その5 (1/4) 132
- 第117図 S B01・09平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)
 　　..... 133
- 第118図 S B06・10平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)
 　　..... 135
- 第119図 S B07・11平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4)
 　　..... 136
- 第120図 S B02・03・05平・断面及び出土遺物 (1/80)
 　　(1/4) 137
- 第121図 S B02柱穴断面及び出土遺物 (1/20) (1/4) .. 138
- 第122図 S B06平・断面及び出土遺物 (1/80) (1/4) .. 139
- 第123図 S B04・12・13平・断面及び出土遺物 (1/80)
 　　(1/4) 140
- 第124図 S E01・02・03平・断面 (1/30) (1/150) 142
- 第125図 S E01出土遺物その1 (1/4) 143
- 第126図 S E01出土遺物その2 (1/4) 144

- 第127図 S E02・03出土遺物 (1/4) 145
- 第128図 S D01・02・26・27断面 (1/40) S D01出土遺物
 　　その1 (1/4) 147
- 第129図 S D01出土遺物その2 (1/4)(1/3) 148
- 第130図 S D02下位出土遺物その1 (1/4) 150
- 第131図 S D02下位出土遺物その2 (1/4) 151
- 第132図 S D02下位出土遺物その3 (1/4)(1/2) 152
- 第133図 S D02上位出土遺物 (1/4) 153
- 第134図 S D26・27・29出土遺物 (1/4) 154
- 第135図 S D03・05・08~10・12・14・16~18・23・25
 　　平・断面 (1/40) 155
- 第136図 S D03・05・08~10・12・14・16・17出土遺物
 　　(1/4) 157
- 第137図 S D17・18・22・23・25出土遺物 (1/4) 158
- 第138図 土器滲り S X02・04・16他出土遺物 (1/4) 160
- 第139図 柱穴出土遺物 (1/4)(1/3) 161
- 第140図 塚平・断面及び出土遺物 (1/150) (1/80) (1/4)(1/3)
 　　..... 162
- 第141図 遺構外出土遺物その1 (1/4)(1/3) 163
- 第142図 遺構外出土遺物その2 (1/2) 164
- 第143図 遺構配置1 (11c後半~12c前半) (1/1500) .. 167
- 第144図 遺構配置2 (13c後半~14c初頭) (1/1500) .. 169
- 第145図 屋辺の地形変遷1 (1/5000) 180
- 第146図 屋辺の地形変遷2 (1/5000) 182
- 第147図 屋辺の地形変遷3 (1/5000) 183
- 第148図 屋辺の地形変遷4 (1/5000) 185
- 第149図 西西南縁出土遺物 (1/4) 186
- 第150図 楔形窓治溝の顕微鏡組織 193
- 第151図 赤彩土器の顕微鏡写真 分析資料 (×1/2) .. 194
- 第152図 赤彩土器の顕微鏡写真
 　　赤彩土器の復元 (×1/4) 194
- 第153図 赤彩土器の顕微鏡写真 表面写真 (×40) 194
- 第154図 赤彩土器の顕微鏡写真 断面写真 (×30) 194
- 第155図 赤彩土器の顕微鏡写真
 　　断面写真 (落射光+透過光×200) 194
- 第156図 赤彩土器の顕微鏡写真
 　　断面写真 (落射光+透過光×400) 194
- 第157図 赤彩土器の顕微鏡写真
 　　赤色顔料 (落射光×400) 194
- 第158図 赤彩土器の顕微鏡写真
 　　断面写真 (落射光+透過光×400) 194

図版目次

B 3 区	
図版 1 調査区全景 北から	S D02断面 南から
調査区北半空中写真	S D12断面 南から
図版 2 調査区南半空中写真	S D23断面 西から
S T14断面 北から	S D30断面 南から
S T19断面 南東から	図版 7 S D35(水路西) 北壁断面 南から
S D25断面 西から	S D51断面 西から
S D31断面 南から	塚
図版 3 S D33断面 北から	A 2 区
S X13断面 南から	図版37 全景 上が北
S X20断面 東から	A 2・B 2 区 全景 上が北
S E01完掘 南東から	図版38 全景 北から
S E01断ち割り 南から	S H01検出状況 南から
S K02金属器出土状況 南から	S H02検出状況 南から
S K09断面 南から	S H01遺物出土状況 南から
S T01断面 西から	S B06・09検出状況 東から
図版 4 S T02断面 北から	図版39 S B07検出状況 北から
S T05・S D34断面 北から	S B05検出状況 西から
S T06断面 南から	S B05内 S P85遺物出土状況 西から
S T07人骨出土上状況 東から	S B01・04検出状況 北から
S T07人骨(上半身) 南東から	S D01内 S X06検出状況 東から
S T07人骨(脚) 南東から	S D02・16・17検出状況 北から
S T08断面 南から	S D18断面 西から
S T11人骨出土状況 南から	B 2 区
図版 5 S T12人骨出土状況 東から	図版40 全景 北から
S T13断面 南から	S B01周辺 北から
S K12南壁断面 南から	図版41 全景 北東から
S X12南壁断面 南から	S B01検出状況 西から
S X15断面 西から	S K01遺物出土状況 南から
S D26断面 南から	S B06・07・08検出状況 東から
S D22断面 南から	S B03全景 南から
S D27断面 南から	S B05検出状況 北から
図版 6 S D36断面 南から	S B08検出状況 北から
S X01南壁断面 南から	S B04検出状況 南から
S X03内土器出土状況 東から	C 区
S X04断面 南から	図版42 南半部全景 上が北

	S B01～S B09周辺 上が北	S D02全景 北から
図版43	S B01～09全景 西から	図版45 S D02・S E03検出状況 東から
	S B01検出状況 南から	S D02・S E03全景 北から
	S B06検出状況 北から	S E03検出状況 西から
	S B02・03・05検出状況 北から	S D26・27の交点 北から
	S B02検出状況 東から	S D25西端縫部 南から
図版44	S B08検出状況 西から	S E02検出状況 南から
	S E01上唇 南から	S K01検出状況 東から
	S E01断面 南から	S K01断面 南から
	S E01井戸枠検出状況 南から	

第1章 整理作業の経緯

第1節 整理作業の経緯と体制

西打遺跡の発掘調査の経緯及び平成11年度の整理作業の経緯は、既刊の「西打遺跡Ⅰ」*1で報告したので、ここでは省略する。以下は、平成12年度の整理作業の概要である。

平成12年度の整理作業は、全作業期間1年6ヶ月のうちの、残り1年間に当たる。1年の整理作業期間を7ヶ月と5ヶ月にわけ、当初の7ヶ月は一番北側の調査区B3区の整理作業を行い、あと5ヶ月でA2、B2、C区の整理作業を行った。整理作業担当職員は、当初の7ヶ月とあと5ヶ月で交替している。なお、A1、B1、D区は平成11年度に整理作業を行い「西打遺跡Ⅰ」*1として刊行済みである。

平成12年度の整理作業の体制は、以下のとおりである。

香川県教育委員会文化行政課

総括	課 長	小原 克己
	課 長 補 佐	小国 史郎
	副 主 幹	廣瀬 常雄
総務	係 長	中村 順伸
	主 査	三宅 陽子
	主 査	亀田 幸一
埋蔵文化財	係 長	西岡 達哉
	文化財専門員	森 格也
		宮崎 哲治

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括所	長	菅原 良弘（～12.10.31）
		小原 克己（12.11.1～）
次	長	川原 裕章
総務	副主幹	大西 誠治
	係長	新 一郎
	主 査	山本 和代
	主任主事	高木 康晴
調査	主任文化財専門員	大山 真充
	文化財専門員	木下 晴一
		山下 平重（B3区担当）
	主任技師	信里 芳紀（A2、B2、C区担当）
整理	員	葛西 薫

*1 「サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西打遺跡Ⅰ」

香川県教育委員会他 2000.11

整理補助員 三谷 和子、市川 孝子

整理作業員 福永 光恵、門脇 範子、田中 宏美、松本 恭子、辻 悅子

第2節 報告書の体裁について

西打遺跡は、前節のとおり、平成12年度は2期に分けての作業となったため、報告書の体裁は各調査区ごとに分けて遺構・遺物の報告を行い、最後に全体のまとめを行うものとした。遺物観察表及び写真図版は、巻末に各調査区ごとにまとめた。挿図番号及び遺物番号は、全体の通し番号を付与した。付図は各調査区ごとに作成した。また、当遺跡の立地と環境については、既刊の『西打遺跡I』で報告済みのため、本書では省略するが、遺跡の位置図及び調査区割図については、再掲する（第1・2図）。

第2章 B3区の調査

第1節 土層序

B3区は、西打遺跡の一一番北側の調査区あたり、標高は約2mである。調査区内の傾斜は南から北へやや傾斜があるが、東西方向では、中央がやや高く、東西両側が若干低くなっている。

遺構検出面である基盤層は黄白色粘質土である。表土から基盤層までには、調査区内ほぼ同様に、水田底土の黄褐色粘質土、その下層に灰色粘質土層の堆積が認められる。北東部分の川跡があるところでは、河の埋没後に中世の遺構が掘り込まれている。

第2節 遺構と遺物

遺構の報告に当たり、遺構の位置を調査地内に設定した5m四方の区画名でしめすことにする。遺構名のあとの括弧内のアルファベットと数字の組み合わせが区画名である。たとえば、SK01（B2）。区画割については、付図を参照されたい。なお、遺構名は調査時の遺構名をそのまま使用する。

また、石器については、まとめの章で、一覧表を作成して報告する。

1 繩文時代 第3図

中世の柱穴から、突帯文土器が2点（1・2）出土している。

2 弥生時代前期

土坑

ST14（H14）第4図

主軸方位は、N14° Eである。弥生時代前期の土器3が出土していること及び主軸方位・埋土が中世の土坑墓群と異なることから当時期と考える。

ST19（B13）第5図

埋土及び主軸方位が中世の土坑墓と異なる。主軸方位は、N35° Wである。遺物は弥生土器のみ出土している。すぐ南西に近接する遺構も主軸方位の関係から同時期と考えられる。



第1図 遺跡位置

46.20

X =
147.10

30

40

B 3 区

147.10

00

50

00

90

90

80

80

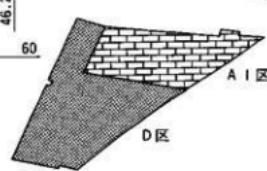
70

70

46.20

60

A 1 区



D 区

B 1 区 40

50

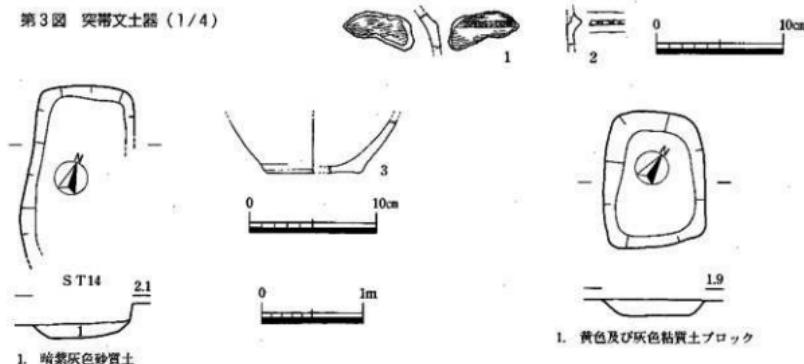
60

0

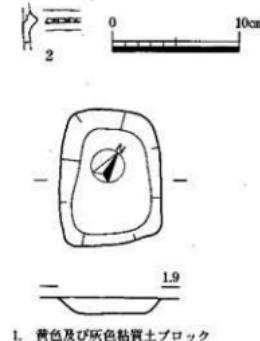
100m

第2図 調査区割り

第3図 突帯文土器 (1/4)



第4図 ST14平・断面 (1/50)
及び出土遺物 (1/4)



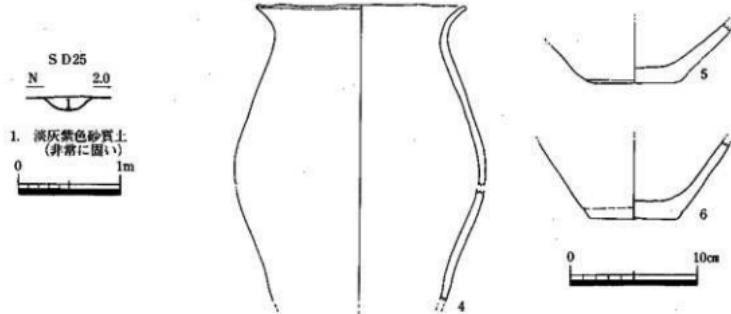
第5図 ST19平・断面 (1/50)

溝跡

SD25 (A17~C16) 第6図

深さ10cm程度の浅い皿状の断面をなす溝である。埋土は基盤層の黄色粘質土ブロックを含み、非常に固い。溝底面の標高には、場所による変化はほとんど無い。

中世の足釜の破片が1点出土しているが、残りは2袋程度弥生前期の土器が出土していることから、中世土器は混入品で、弥生時代前期の造構と考える。中世の溝SD27に壊されている。SD27の東側では、SD36がその延長とも考えられるが、この溝からは遺物は出土していない。埋土が異なることから違う時期のものと考える。4~6は出土土器で、いずれも摩滅が著しい。



第6図 SD25断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)

SD31・33 (E 9～G 5) 第7図

出土遺物にわずかに中世土器が混じるがほとんどが弥生土器である。遺構の方向及び埋土が中世のものとは異なり、前後関係のわかるあらゆる遺構より新しいこと、またSD33の南に続く落ち込み付近から弥生時代前期の土器7・8が出土していることから、弥生時代前期のものと考えた。溝の底面の標高は、場所による違いはほとんど無い。

不明遺構

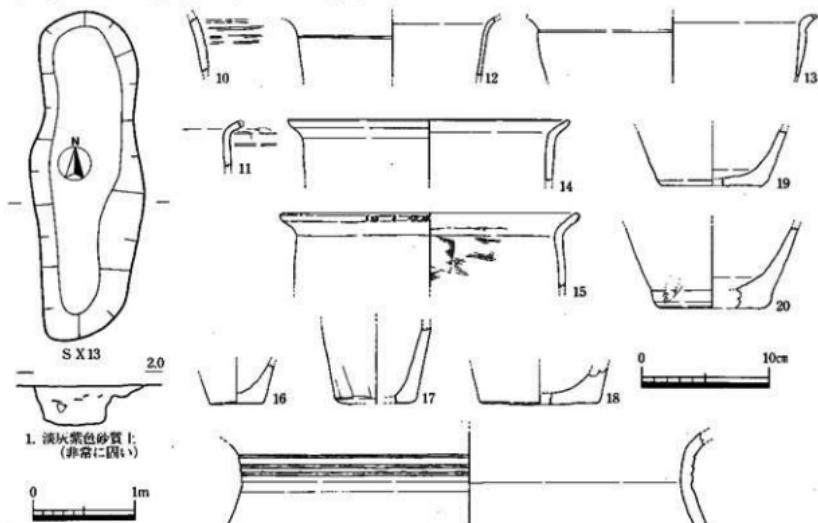
SX13 (E14・E15) 第8図

遺物は、埋土中位よりやや上からまとめて出土している。底面は平坦である。

弥生時代前期の土器がコンテナ1箱程度出土している。9は大型の壺である。



第7図 SD31・33断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)



第8図 SX13 平・断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4)

S X20 (F11、G11) 第9図

断面形V字状をなす。平面図は不完全で、下場の線は不明である。
弥生時代前期の土器が1袋程度出土している。21は突帯文土器である。

S P1687 (F13) 第10図

土坑より新しいピットから弥生時代前期の土器が2点出土している。ピットは後世のものである可能性があるので、この2点の遺物は土坑の時期を示している可能性がある。

3 弥生時代後期 第11図

S P 1115 (I 4) から土器28が出土している。

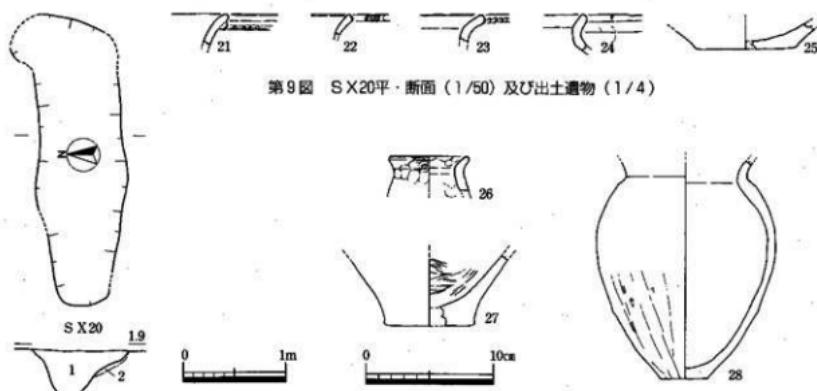
4 中世前半

ここでは、14世紀までの時期を中世前半、それ以降の時期を中世後半としてわけて報告する。また、掘立柱建物跡を構成する柱穴を含むピットは、「6ピット出土の遺物」としてあとでまとめて報告する。遺構の時期認定の方法としては、出土遺物からの判断と、中世前半までの遺物を出土する遺構の方向と中世後半の遺物を出土する遺構の方向が異なることから、遺構の方向を参考にして判断した。中世前半の遺構は、S D27及びS D29に代表され、方向が現在の地割から西へ傾いている方向である。中世後半の遺構は、S D01やS D28に代表され、方向が現在の地割と合致するものが多い。

掘立柱建物跡

S B06 (D 4) 第12図

主軸方位は、N15° Eである。柱穴492から875が出土しており、これから14世紀前葉と考える。



1. 淡緑灰色砂質土。
(非常に固くしまっている)
2. 明黄色粘土。(地山)

第10図 S P1687出土遺物 (1/4) 第11図 S P1115出土遺物 (1/4)

SB07 (D10) 第12図

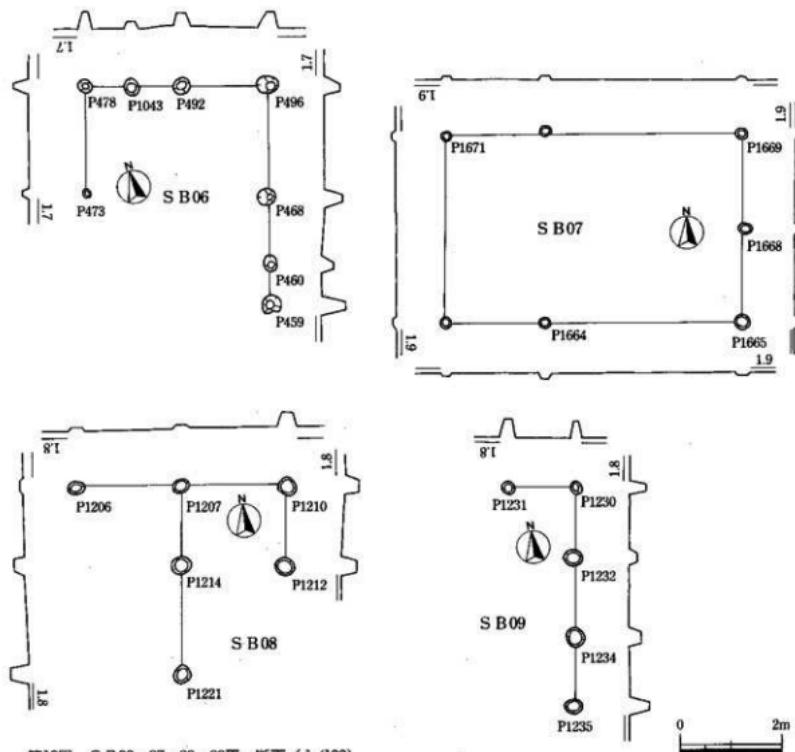
主軸方位は、N88°Wである。柱穴1665から中世土器の小片が出土しているものの、詳細な時期は不明である。主軸方位が、SD29と直交することから、同じ様な時期と考える。

SB08 (F17) 第12図

主軸方位はN83°Wで、ほぼSB09やSD27と同じ方向であることから、II-3~5期の年代と考える。遺物は土師器杯の摩滅した小片がSP1221から出土しているのみである。

SB09 (E18) 第12図

柱穴1235は16世紀前半の遺物を出土するSD24より古く、柱穴1231からII-3~4期と考えられる、1049が出土していることから、13世紀後半頃の年代を考えておく。主軸方位は、N83°Wで、SD36とはほぼ同じ方向である。



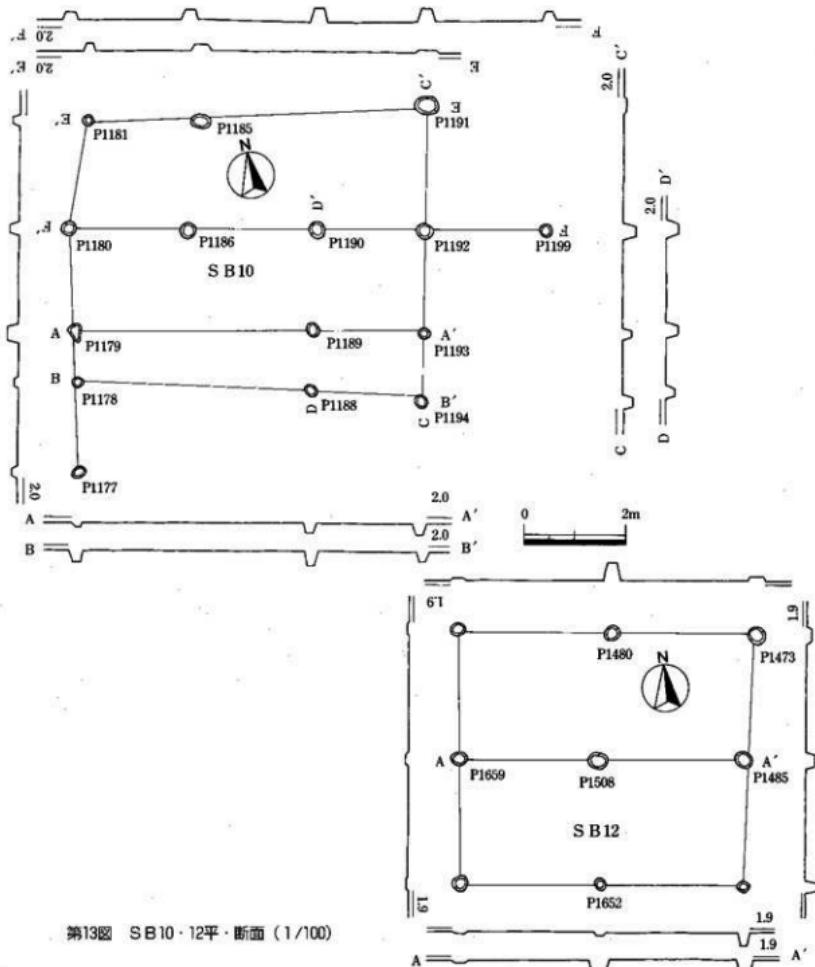
第12図 SB06・07・08・09平・断面(1/100)

S B10 (B17) 第13図

柱穴1199からはII-4・5期と考えられる土師器杯が出土している。焼土を含む柱穴もある。主軸方位はN79°Wで、ほぼS D22の方向と一致することから、S D22と同時期と考え、14世紀後葉の時期とする。

S B12 (E12) 第13図

主軸方位は、N84°Wである。柱穴出土遺物1136、1145~1147、1173からは、14世紀前葉の時期が考えられる。

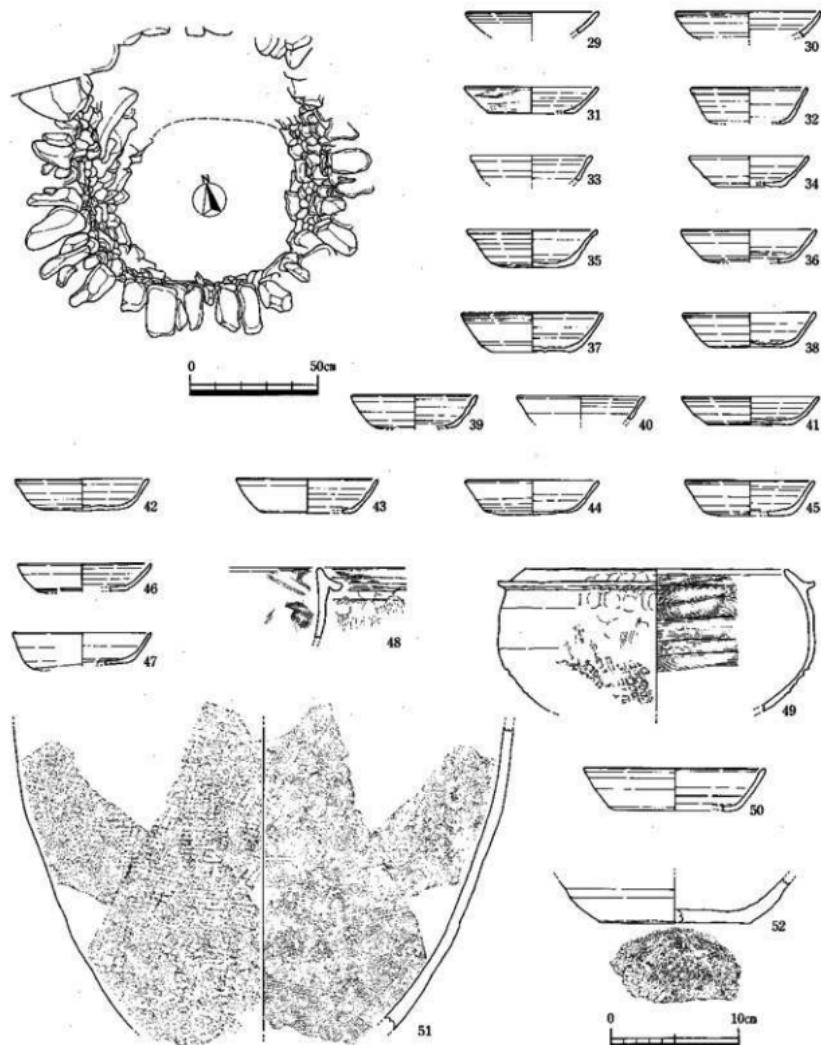


第13図 SB10・12平・断面 (1/100)

井戸

S E01 (E0) 第14図

S D01下層で検出した遺構である。円礫組の井戸である。深さは、1m程度である。鎌倉時代末頃の遺物が出土している。



第14図 S E01平面 (1/20) 及び出土遺物 (1/4)

土坑（第15図）

SK02~08

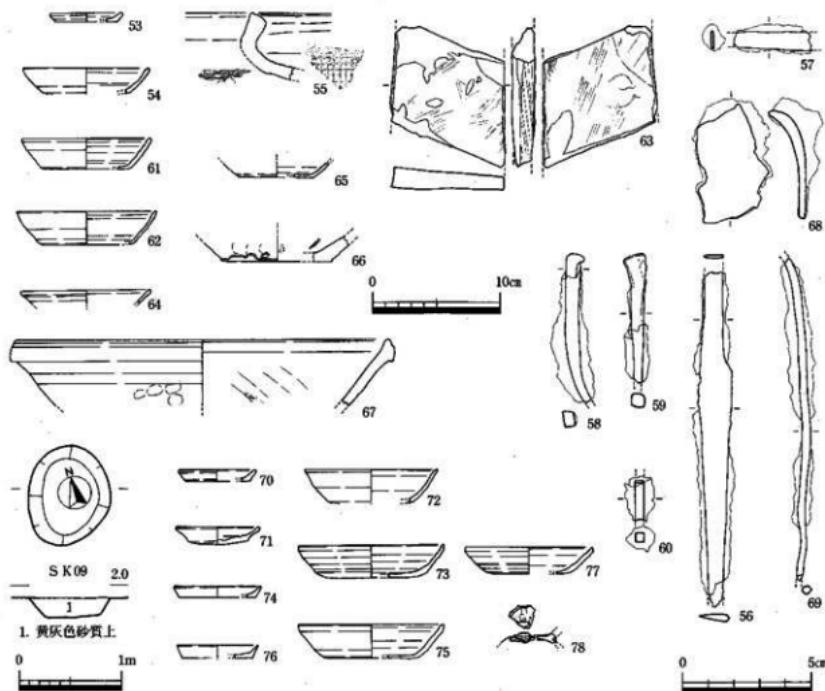
E 3・F 3区画周辺に、SK02からSK08までが位置している。これは柱穴の可能性もあるが、明確な建物跡は復元できない。いずれも鎌倉時代末頃の遺物を出土している。SK02からは、石が水平におかれたような状態で出土している。53~60はSK02から出土した遺物である。61~63はSK03から出土した土器である。64~67はSK04から出土した土器である。68はSK05から出土した鉄器である。69はSK06から出土した土器である。70~73はSK07から出土した土器である。74・75はSK08から出土した土器である。

SK09 (C16)

鎌倉時代末頃の遺物が出土している76。

SK10 (H12)

深さは10cm程度で、平面形は不整である。14世紀中葉から後葉の遺物77・78が出土している。77は「口縁部→体部ナデ手法」によるものである。



第15図 土坑平・断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4) (1/2)

墓

土坑墓は、主軸方向により大きく2つに分かれるものと考えられる。一つは、S D27・34・29とはほぼ同じ方向の群（S T05・06・07・08・11・12・13）とそれよりやや東に傾いた方向の群（S T01・02・04）である。出土遺物による時期差は不明であるが、後者が、14世紀後葉の溝S D22とはほぼ同じ方向を持つことから、前者と後者の時期差を考えることもできよう。

S T01 (C16) 第16図

主軸方位はN20° Eである。骨が出土している。出土遺物79~81からは鎌倉時代末頃の時期が想定できる。主軸方向は、S T02及びS T04とのほぼ同じである。

S T02 (C16) 第16図

主軸方位は、N12° Eである。骨が出土している。遺物は土師器の小片が2点出土しているのみである。主軸方位が、S T01とはほぼ同じことから同時期と考える。

S T03 (C16) 第16図

時期不明の遺構であるが、ここで報告する。鉄器82が出土しているのみである。規模・形態からも土坑墓とは考えがたい。

S T04 (C15) 第16図

主軸方位は、N 9° Eである。規模及び形態から考えて土坑墓の可能性があるが、人骨は出土していない。遺物は須恵器小片1点、土師器杯小片9点が出土している。主軸方位からS T01・02と同時期と考える。

S T05 (D15) 第16図

主軸方位は、N 8° Wである。遺物は須恵器壺1点、土師器1点83が出土しているのみである。人骨は出土していない。S D34より新しいものであるが、方向はほぼ同じである。

S T06 (D14) 第16図

主軸方位は、N 5° Eである。鎌倉時代末頃の遺物84が出土している。人骨は出土していない。

S T07 (D14) 第16図

主軸方位は、N 14° Wである。遺物は弥生土器が1点及び鉄器85が出土しているのみである。人骨が出土しているが、頭骨は残存していない。歯が一部残っている。

S T08 (D14) 第16図

主軸方位は、N 10° Eである。遺物は鎌倉時代末頃のもの86が出土している。埋土には、焼土、炭、骨の碎片を含み、土坑底部は赤変している部分がある。火葬に関連した遺構と考えられる。



第16図 土坑墓平・断面 (1/20・1/50) 及び出土遺物 (1/4) (1/2)

S T11 (E11) 第16図

主軸方位は、座標北に一致する。遺物は出土していない。人骨の残存状況は悪く、下肢の部分が比較的よく残っている。

S T12 (E14) 第16図

主軸方位は、N 4° Eである。遺物は出土していない。人骨は残存状況が悪く、全体の輪郭がわかる程度である。

S T13 (F14) 第16図

主軸方位は、N 4° Eである。遺物及び人骨は出土していない。埋土に炭が混じることから、S T08と同様な性格かもしれない。

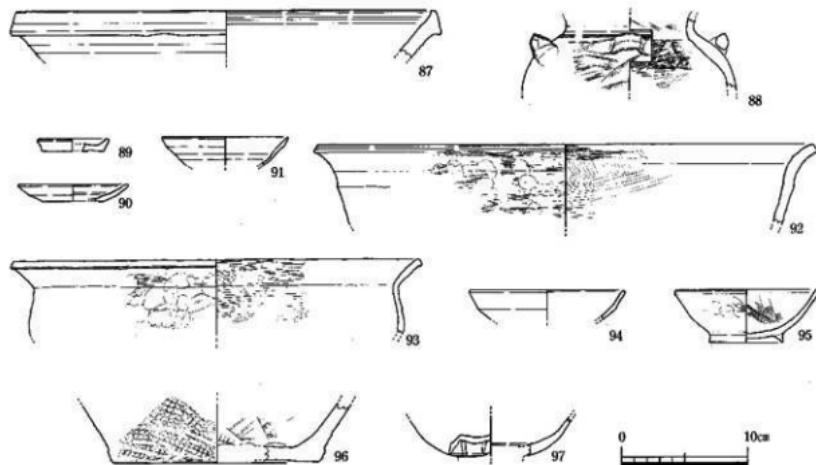
不明遺構

S X02 (I1) 第17図

深さ20cm程度の不定形な土坑である。87は東播系須恵器である。88は備前焼と考える。中世後半の遺構である。編集作業の都合上ここで報告する。

S X05 (F6) 第17図

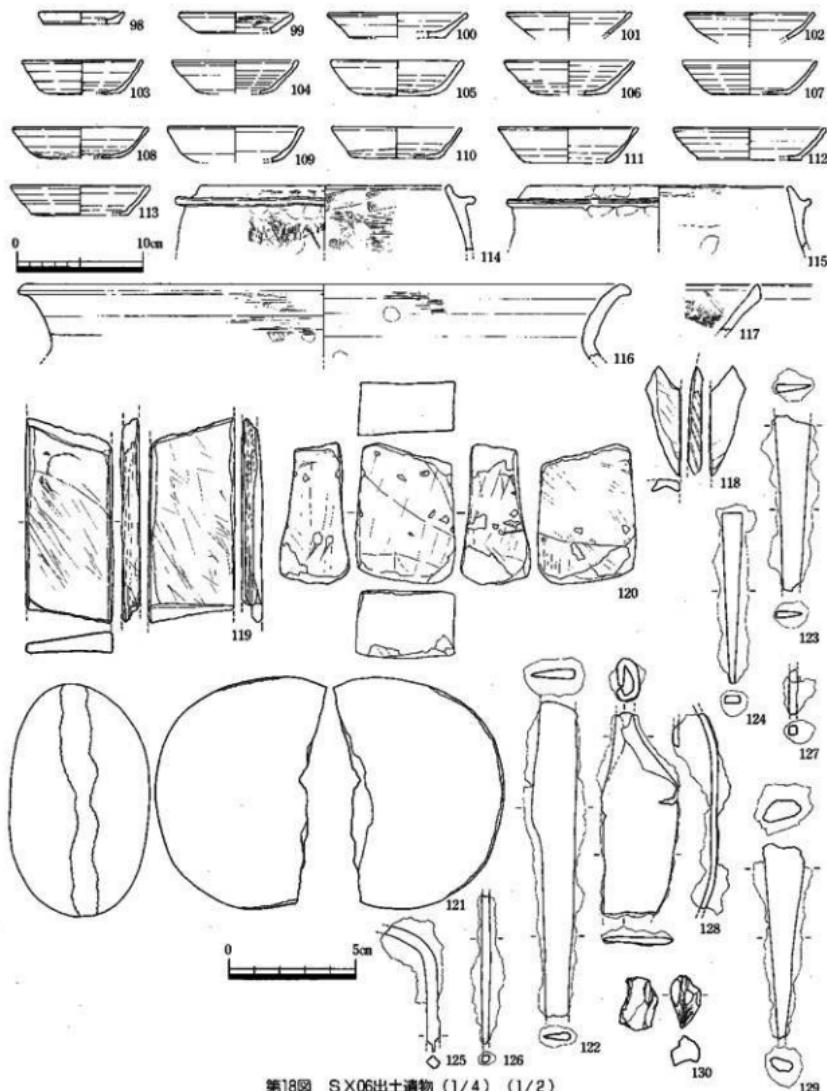
平面形は不整な方形で、深さは60cm程度である。遺物は鎌倉時代末頃までのもの89~97が出土している。92・93は足のつく鍋であろう。95は吉備系上師器碗である。



第17図 S X02・05出土遺物 (1/4)

S X06 (F3) 第18図

平面形は方形で、深さは10数cm程度である。遺物98～130は鎌倉時代末頃のものが出土している。このうち、99は16世紀に下る可能性をもつものであるが、他にここまで時期が下るものは無いことから、混入品の可能性を考えたい。130は加工痕のある骨で、左図右上に加工面が見られる。



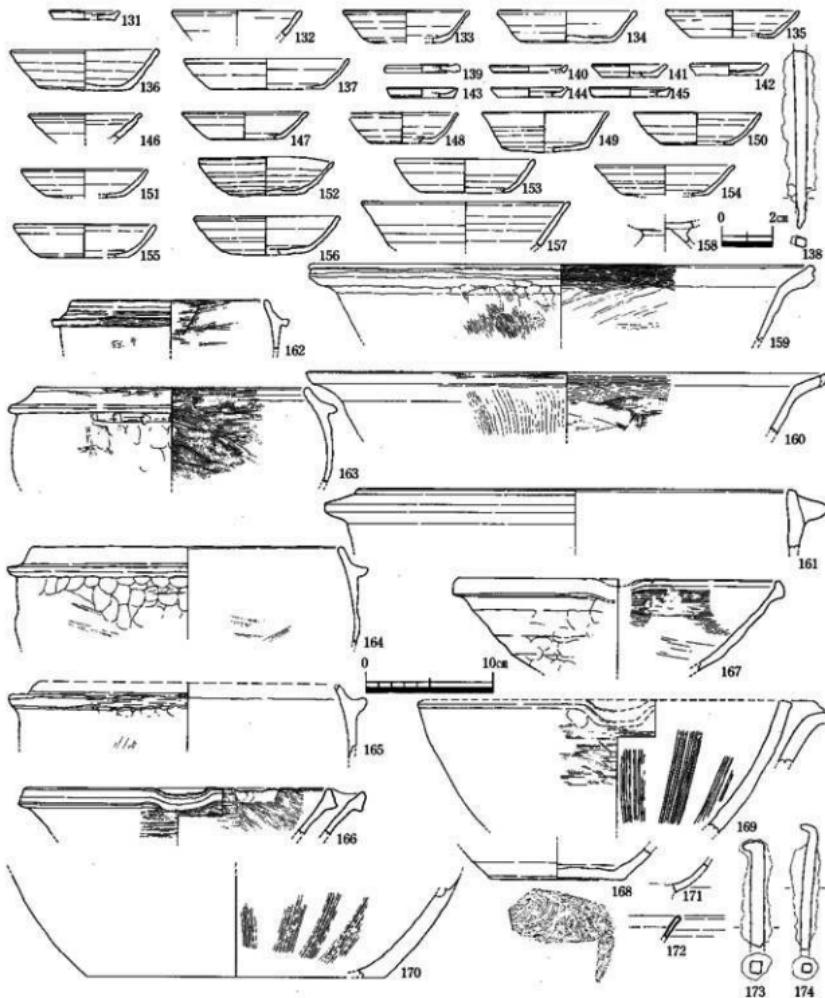
第18図 S X06出土遺物 (1/4) (1/2)

S X07 (F 3) 第19図

深さは、20cm程度である。埋土には炭を含む。鎌倉時代木頃の遺物131～138が出土している。

S X10 (G 3) 第19図

平板測量による平面図のためやや不正確ではあるが、4m四方の不整な方形の遺構である。深さは不明である。鎌倉時代末頃の遺物139～174が出土している。161は古代の遺物である。



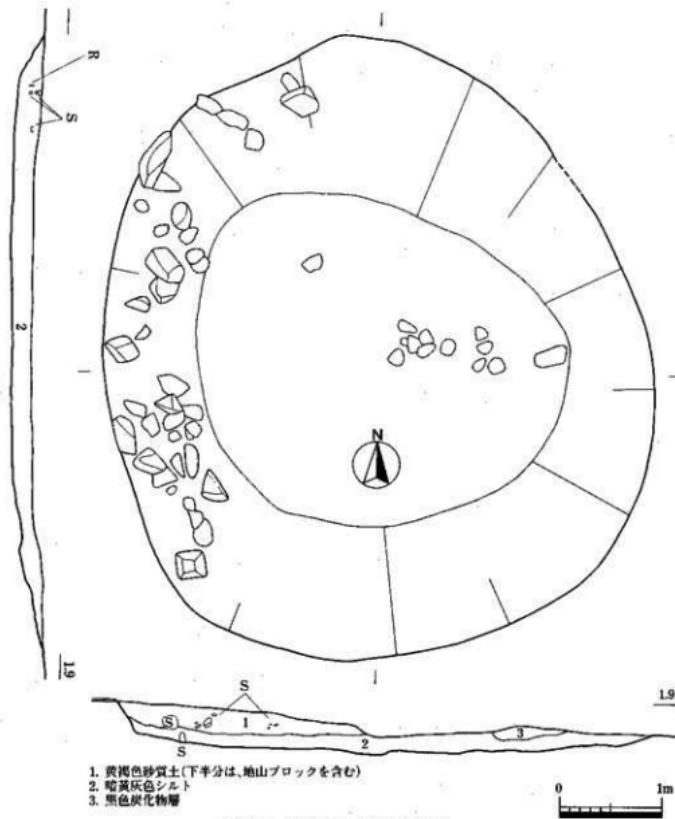
第19図 S X07・10 出土遺物 (1/4) (1/2)

S X12 (E16) 第20・21図

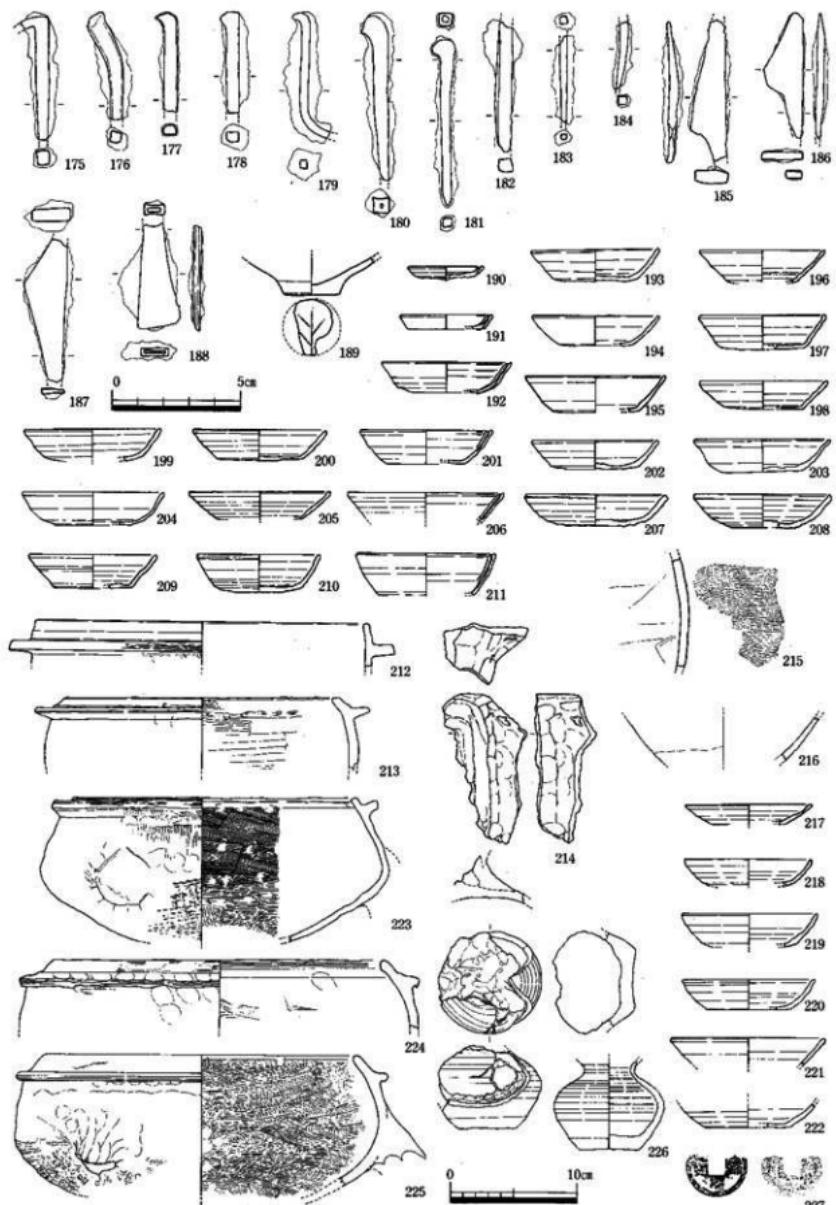
西肩付近に石が多いが、明確に並べられているとは言えない。また、石材も、大きさもまちまちである。また、中央部付近には3~5cmの川原石を埋土に含んでいる。鎌倉時代末頃の遺物175~216が出土している。189は弥生土器である。

S X14 (H10) 第21図

深さは、20cm程度である。平面形がS X15のほうへ若干張り出し気味であることから関連性があるのかもしれない。鎌倉時代末頃の遺物217~227が出土している。226は備前焼の壺であるが、内部に鉄分の厚い堆積がみられ、溶融状態の鉄を含むものを蓄積した可能性が考えられる。227は、「中世の出土銭」49~12に類似する「熙寧元寶」(初鋤年1068年)あるいは60~9に類似する「聖宋元寶」(初鋤年1101年)と考えられる。



第20図 S X12平・断面 (1/50)



第21圖 SX12·14出土遺物 (1/4) (1/2)

S X15 (G10～H10) 第22図

その位置及びS X14の平面形から考えて、S X14から続く溝跡の可能性もある。鎌倉時代末頃の遺物228～233を出土する。

S X16 (G14) 第22図

深さは10cm程度である。近世の溝S D51より古く、鎌倉時代後半のS D32より新しい。遺物234～238は14世紀後葉までのものが出土している。234はやや時期が下る可能性がある。

S X18 (G11) 第22図

方向から考えて、中世前半の時期とする。管状土錘239、鉄釘240等が出土している。

溝跡

S D08 (E2、E3) 第22図

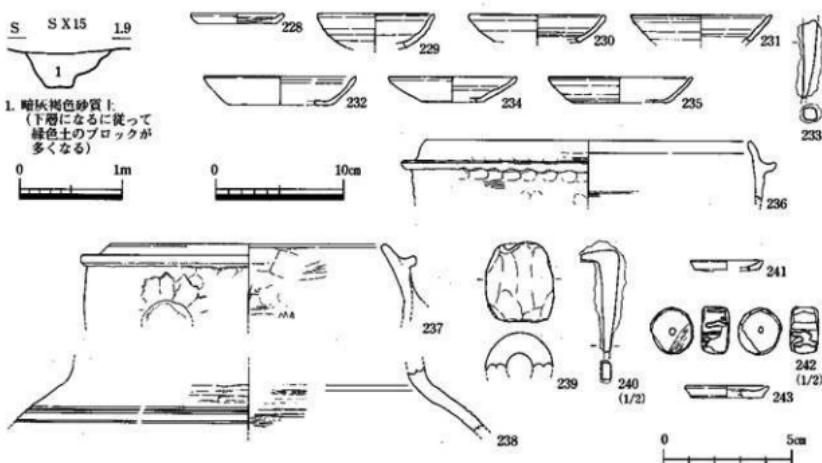
その位置から考えてS D29の延長と考えられる。深さは10cm程度の深い溝である。鎌倉時代末頃の遺物241・242を出土する。242は骨製の玉である。

S D10 (I4～J4) 第22図

深さ数cmの深い溝である。鎌倉時代末頃の遺物243が出土している。

S D11 (I3～J3)

深さ数cmの深い溝である。遺物は出土していない。S D02より古いこと及びS D10とはほぼ同じ方向であることから鎌倉時代末頃としておく。



第22図 S X15断面(1/50)及びS X15・16・18、SD08・10出土遺物(1/4)(1/2)

SD13 (C4~D1) 第23図

SD01の下層で検出された溝である。SD12より古いと考えられる。現在の地割とは同じ方向である。一番南端は土坑状に深くなっている、深さ30cm程度である。遺物は13世紀中葉から14世紀前葉までのものが出土している244~267。杯はほぼ同じ法量で、空港D II - 7類に対応し、中世II - 5期の時期である。中世土器2袋程度の他に、骨や焼土が出土している。

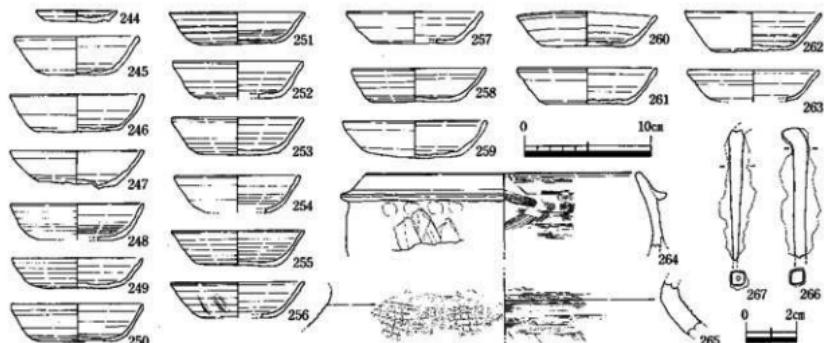
SD26 (D14~F15) 第24図

直角に曲がる部分をもつ溝である。遺物は、出土していない。SD26は14世紀後葉以前と考えられるSD32より古いくこと、SD34とほぼ平行な位置であることからSD34と同時期の14世紀前葉の時期が考えられる。SD22と組み合わせて方形の区画を考えることもできるが、SD22の時期が14世紀後葉頃の時期が考えられること及び方向が若干異なることから、同時存在とは考えないでおく。ここでは、SD34と組合わさせて方形区画を形成するものと考え、区画対象として、ST06・07・12の土坑墓を考えておきたい。

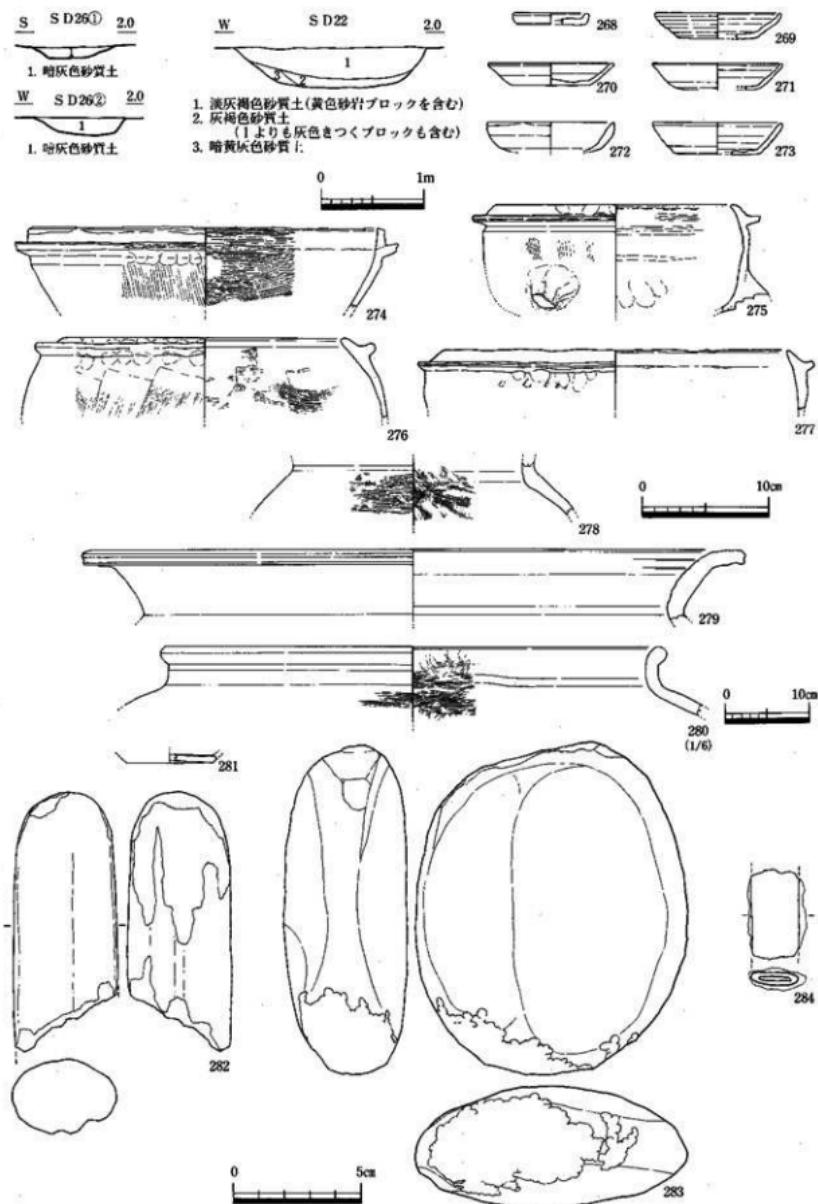
SD22 (A17~D14) 第24図

直角に曲がる部分をもつ溝である。区画溝であることは確実であろうが、区画する対象は、建物SB10が考えられる。ST04等の土坑墓も区画対象の可能性があるが、位置がやや区画想定範囲の端に寄っていることからやや不自然である。また、SB10を区画対象とした場合もSB10北側には空白域が存在する。

出土遺物268~284は14世紀後葉までのものが出土しており、SD26とは時期がやや異なるため、SD26と組み合って方形区画を形成するとは、ここでは考えない。中世土器4袋のほかに焼土が出土している。



第23図 SD13出土遺物 (1/4) (1/2)



第24図 SD26・22断面(1/50) 及びSD22出土遺物(1/4・1/6)(1/2)

S D27・29・34 (D10~C19) 第25図

クランク状に曲がる部分をもつ。鎌倉時代末頃までの遺物285~304を出土する。291・294・295は足鍋であろう。292・293の足の接着部分がはがれたあとには、格子状の沈線が観察される。

14世紀後葉までの遺物を出土するS D22より古いことから、14世紀前葉頃の遺構と考えられる。方向は現在の地割より、やや西に傾いた方向である。底面の標高は北端のほうが南端より10cm程度低くなっている。S D26及びS D36と組合わさって方形区画を形成するものと考えられる。

S D32 (G14、H14) 第25図

深さ数cmの深い溝である。II~IV期までの遺物305・306を出土する。14世紀後葉までの遺物を出土するS X16より古い。

S D36 (E17~E19) 第25図

直角に曲がる部分を持つ溝跡である。遺物は出土していない。方向がS D27と同じであることから同時期と考えられる。S D27と組合わさり方形区画を形成するものと考えるが、区画対象は不明である。

5 中世後半

掘立柱建物跡

S B01 (J5) 第26図

主軸方位は、N89°Wである。S P675から16世紀代の遺物が出土している897。

S B02 (F5) 第26図

溝によって囲まれた建物跡である。主軸方位は、N78°Wである。柱穴からは14世紀から16世紀にかけての遺物が出土している848~853・856・867・898・899~901。また、溝からも同様な時期の遺物が出土している。

S B03 (G7) 第26図

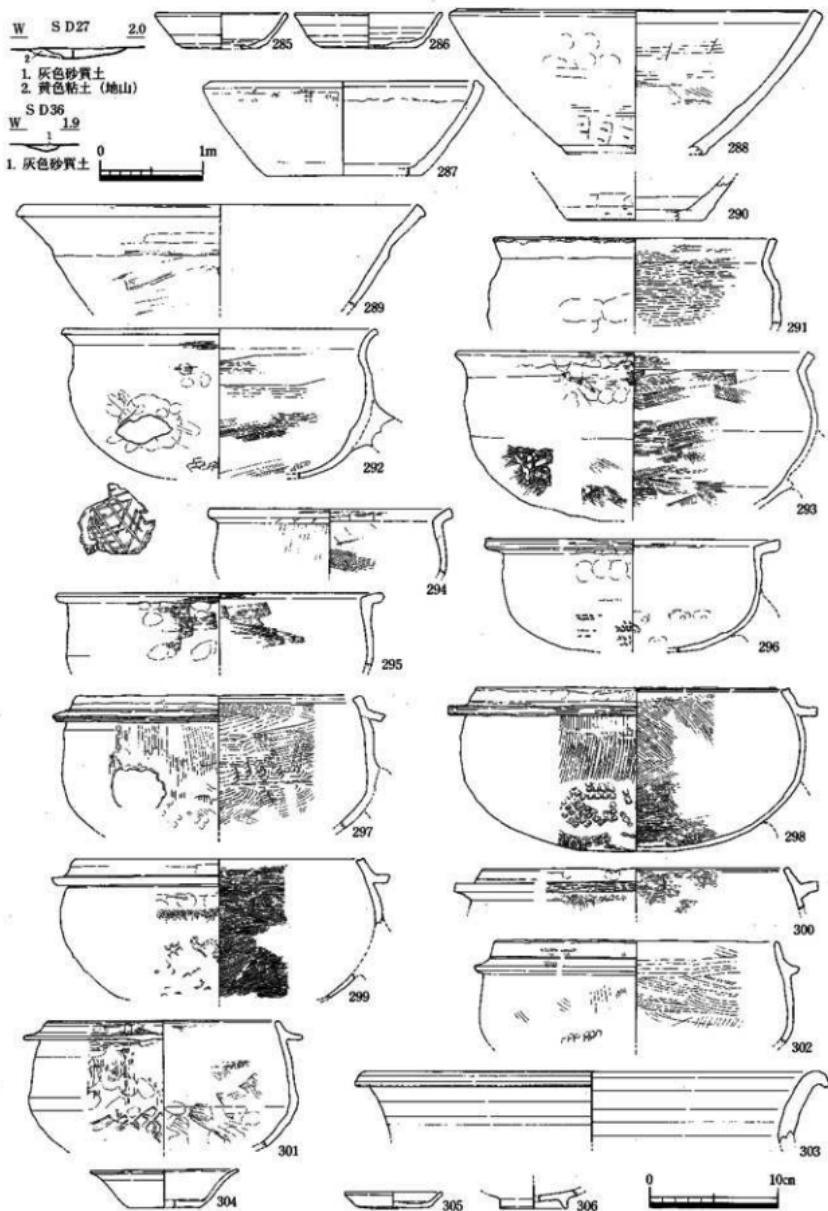
主軸方位は、N5°Eである。柱穴からは、13世紀から16世紀の遺物が出土している790・792・794。

S B04 (E7) 第26図

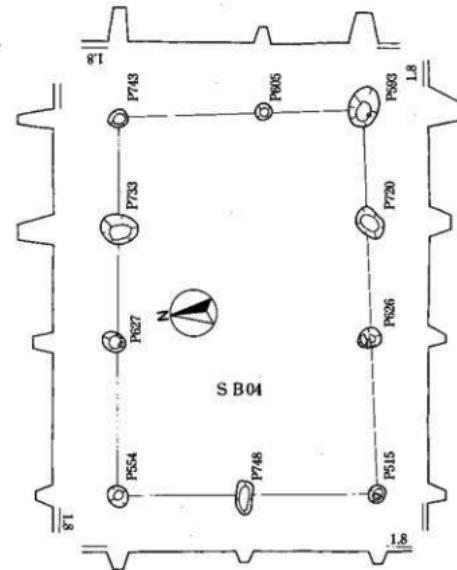
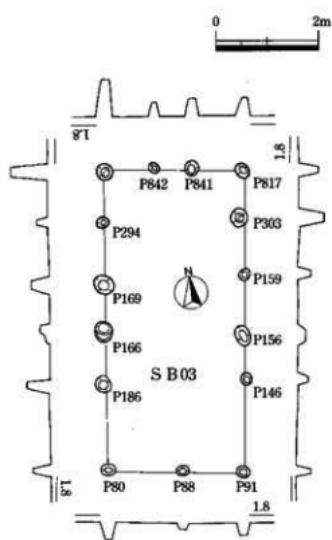
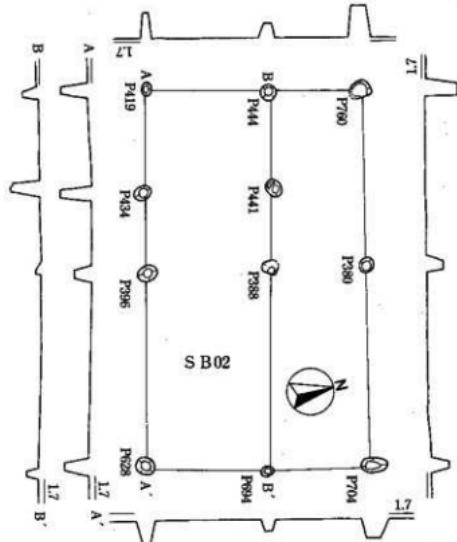
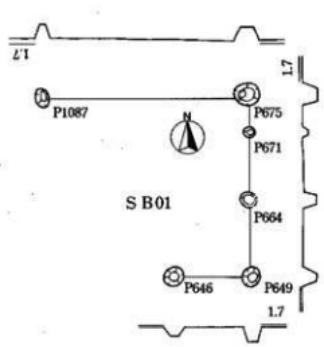
主軸方位は、N84°Wである。柱穴からは13世紀末葉から16世紀にかけての遺物が出土している876・880・885・886・887・906・911~916。

S B05 (D7) 第27図

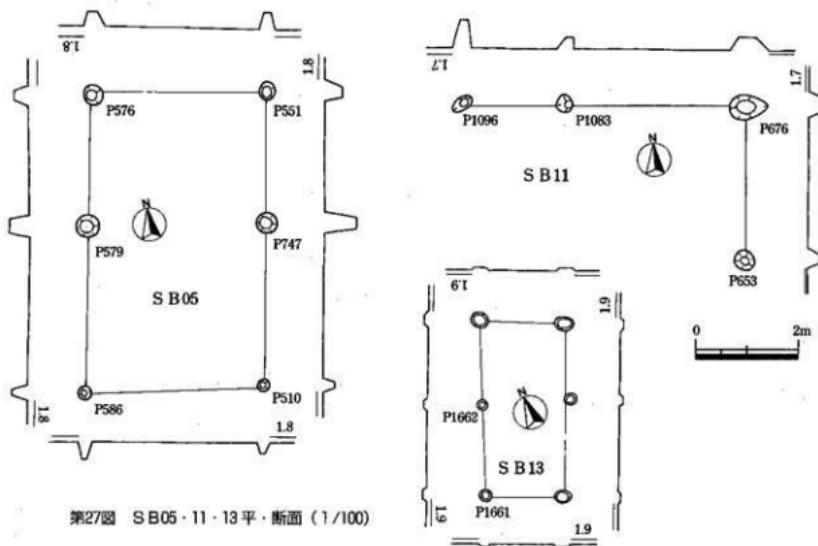
主軸方位は、N9°Eである。柱穴から、「口縁→体部ナデ手法」の土師器皿小片が出土している。器高が小さいことから16世紀代のものと考えられる。



第25図 S D27・36断面(1/50)及びS D29・32出土遺物(1/4)



第26図 SB01~04 平・断面 (1/100)



第27図 SB05・11・13平・断面 (1/100)

SB11 (J5) 第27図

主軸方位は、N85°Wである。柱穴1096から「口縁→体部ナデ手法」の土師器が出土しているので、中世後半と考える。

SB13 (D12) 第27図

柱穴から備前焼の破片が出土しているが、時期特定はできない。主軸方位は、N23°Eで、当遺跡の建物では他に例の無い方向である。SD23の近接部分に直交する方向であることから、SD23との関連を考えたい。SD23は16世紀前葉までの遺物を出土していることから、当建物も16世紀前葉と考える。

不明遺構

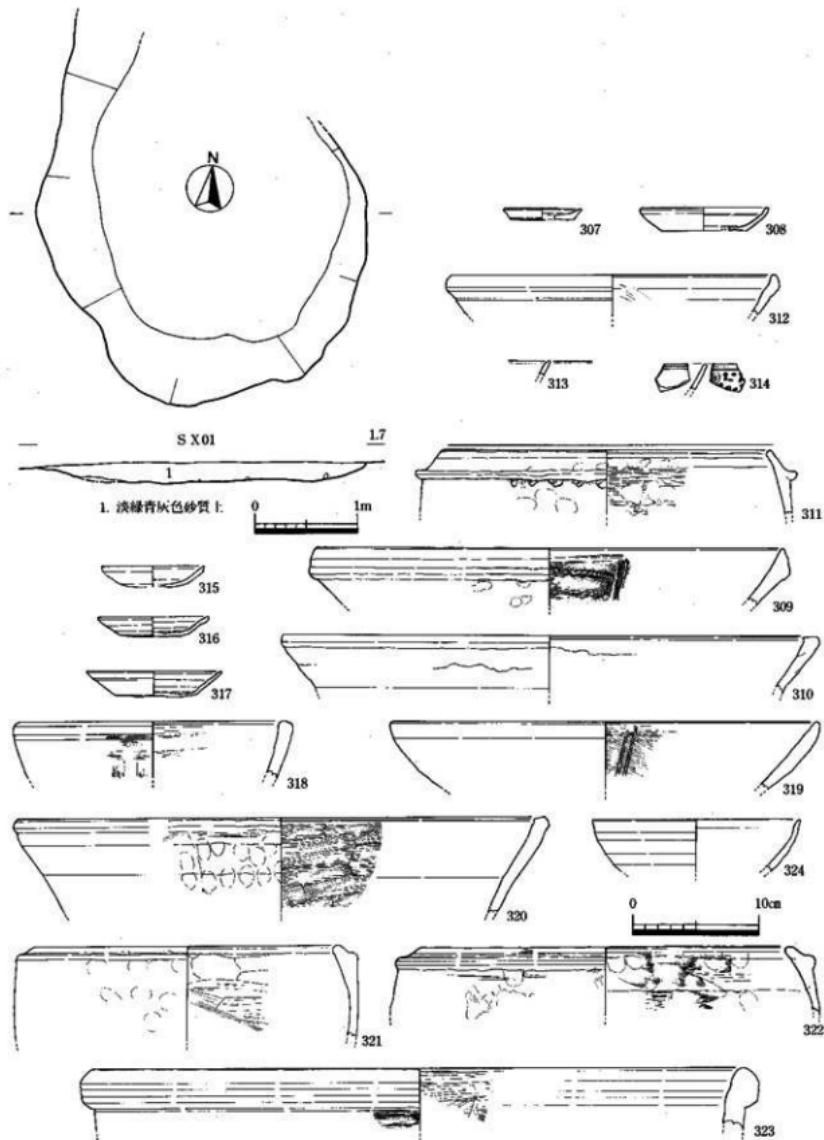
S X01 (H4, H5, I4, I5) 第28図

浅い皿状の遺構で、底面の凹凸はありません。16世紀代の遺物を出土するSD02より新しい。出土遺物941~314は16世紀前葉までのものが出土している。

S X03 (G6) 第28図

深さ10cm程度の浅い遺構である。埋土は、S X03より新しい柱穴の周りの切り合い畦の写真から判断すれば、S X04と同様なものと考えられる。形態及び規模も同じであった可能性もある。

遺物315~324は、15世紀前葉~16世紀中葉までのものが出土している。324は、S X04出土の破片と接合したもので、瀬戸平碗である。古瀬戸後期様式Ⅲ期のもので、15世紀第2四半期の年代が想定されている*1。



第28図 S X01平・断面 (1/50) 及び S X01・03出土遺物 (1/4)

* 1 藤澤良祐「古瀬戸」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会 1995

S X04 (G 5、H 5) 第29図

主軸方向は、S B02とほぼ同じである。また方形の堀方部分に接続する小溝は、S B02を囲むようになっていることから、この遺構がS B02と関連をもつものと考えられる。溝の深さは数cmで、方形堀方部分とは標高差が、20cm以上ある。方形堀方部分の底面は凹凸があまりない。埋下下層には暗色の粘質土が堆積し、中層には砂層の堆積が見られることから、滌水あるいは流水を伴う遺構と考えられる。建物廻りの排水を利用した池の可能性があろうか。上層は基盤層土ブロック及び焼土を含む土層の堆積がみられ、またこの遺構埋没後に柱穴が掘削されていることから、建物を建てるための造成により埋められた可能性が考えられる。

遺物325～343はII～2期から15世紀前葉までのものが出土しているが、S B02と関連を持つ遺構の時期を考えれば16世紀代に下るものであろう。332と333は同一個体の可能性がある。341は一番右の図の下端に線状痕があるので、これを砥石の切断面とも考えられるが、単なる折れ面との区別はできない。

S X08 (F 6) 第30図

深さは、数cm程度の浅い遺構である。方向から考えてS D04と関連するものとしておきたい。12世紀後半から15世紀前葉までの遺物344～350を出土する。349は竹等を心材にした土壁状のものであるが、心材の痕跡が残る反対側の面はやや湾曲し、黒く焦げている。おそらく窯等の覆われた壁面の破片と考えられる。これと同じと考えられるものが、2箱出土している。350は片面のみに摩滅がある。

溝跡

S D01 (C 7～D 0～H 1) 第31～35図

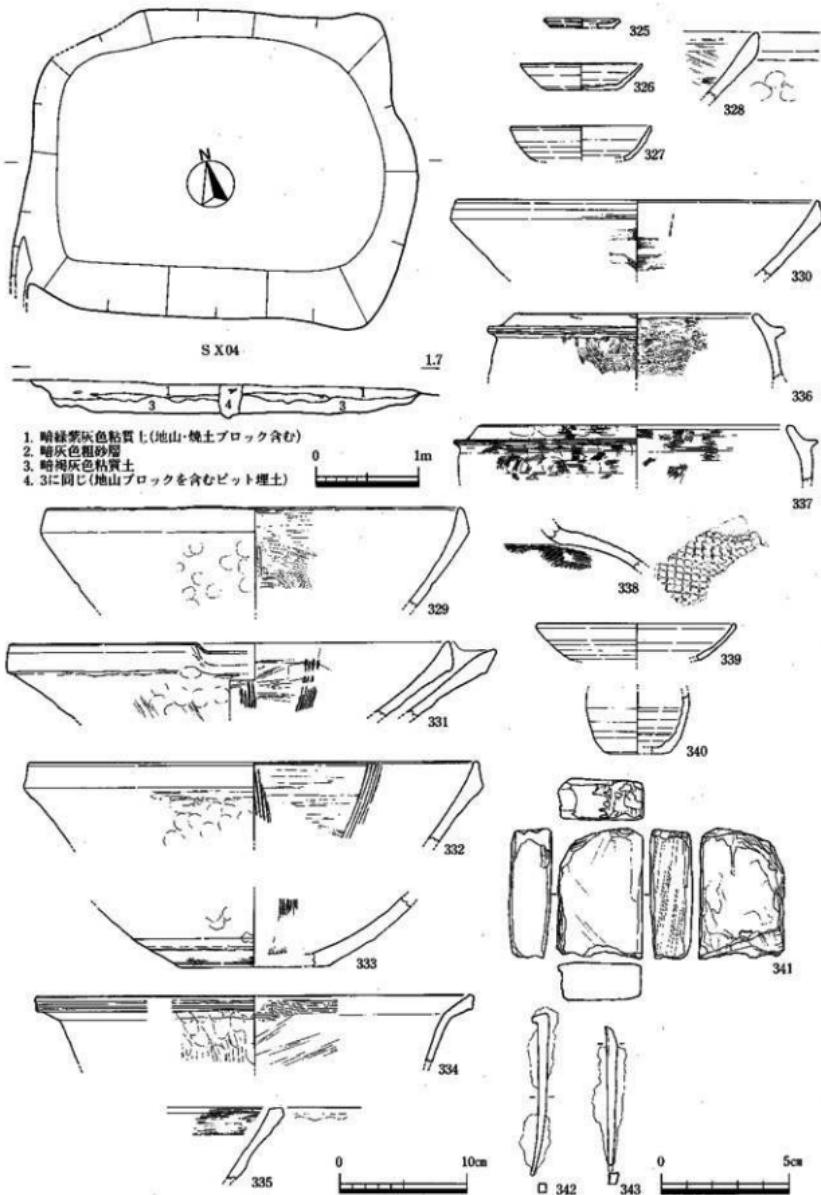
S D12・13・14の上層に堆積した土層である。遺物351～514は、16世紀中葉までのものが出土している。375はS D12出土の破片と接合したものである。402は古代の遺物である。432は土師質の焼成であるが、形態は備前焼に類似している。435はミニチュアの瓦質足釜である。447は須恵質の壺で、類例を知らない。491～496は近世陶磁器である。出土量が中世土器に比べて著しく少ないとから、混入品であろう。

513は、「中世の出土銭」49-1に類似する「熙寧元寶」（初鋤年1068年）である。514は、破片のため銘が判読できない。512は、遺構検出時に出土したもので、「中世の出土銭」38-3に類似する「天聖元寶」（初鋤年1023年）である。

S D02 (I 8～J 2) 第36～41図・48図

南側では、南東から北西へ方向をとるが、北側では現在の地割と同じ方向になっている。埋土中には石や土器等を含んでいる。

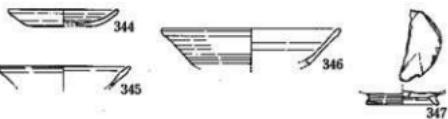
遺物515～656は11世紀末～16世紀中葉までのものが出土している。566は三足の付く鉢と考えられる。637～640は近世陶磁器であるが、中世土器に比べて出土量が小さいことから、混入品と考えられる。654は、「中世の出土銭」42-11に類似する「皇宋通寶」（初鋤年1038年）である。655は、「中世の出土銭」132-4に類似する「洪武通寶」（初鋤年1368年）である。656は、「中世の出土銭」135-1に類似する「永樂通寶」（初鋤年1408年）である。



第29図 S X04 平・断面 (1/50) 及び出土遺物 (1/4) (1/2)

S D03 (F 9 ~ H 8) 第43図

深さは10cm程度であるが、底面の標高は西から東へ低くなっている。遺物657~659は、15世紀中葉~16世紀中葉までのものが出土している。



S D04・05・06・07 第43~47図

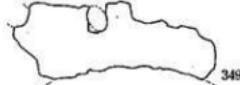
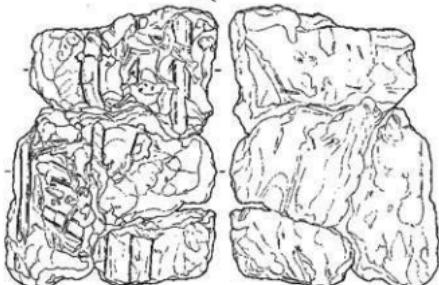
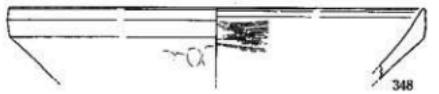
S B02を囲む深さ10cm程度の溝である。
S D04からは12世紀前葉から15世紀前葉までの遺物660~665が出土している。

665は、『中世の出土銭』41~7に類似する
「皇宋通寶」(初鑄年1038年)である。

S D05からは、13世紀中葉~14世紀後葉までの遺物666~681が出土している。

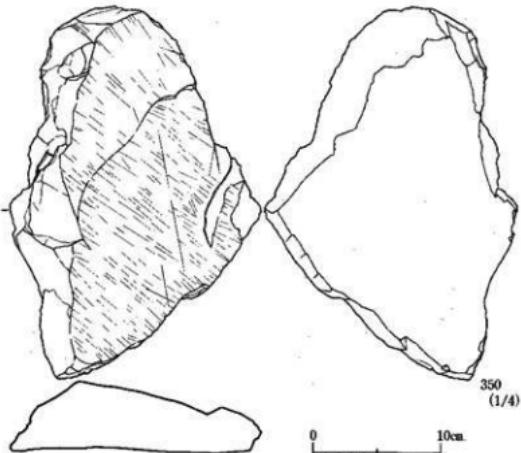
S D06からは、13世紀中葉から14世紀中葉までの遺物682~689が出土している。682はS D07出土の破片と接合した。

S D07からは、13世紀中葉から14世紀前葉までの遺物690~692が出土している。

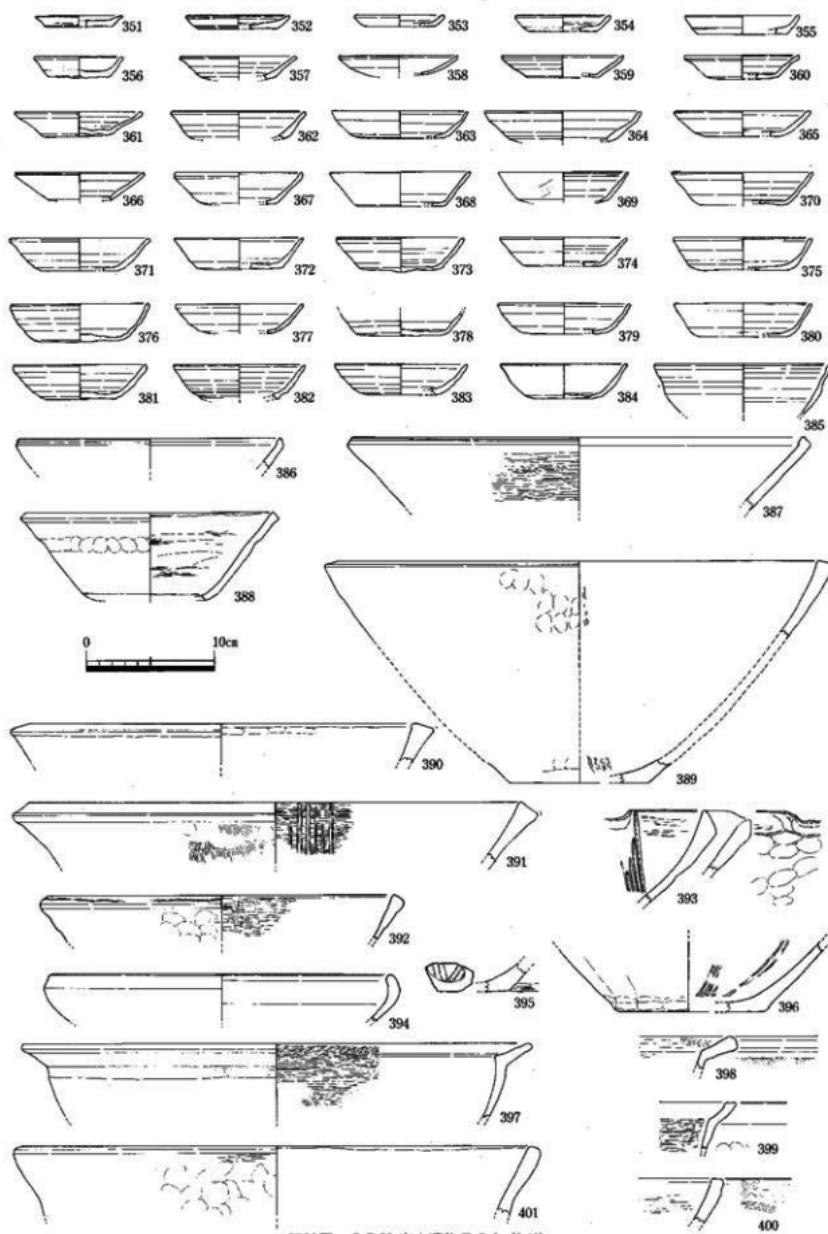


S D12 (C 7 ~ D 0) 第47・48図

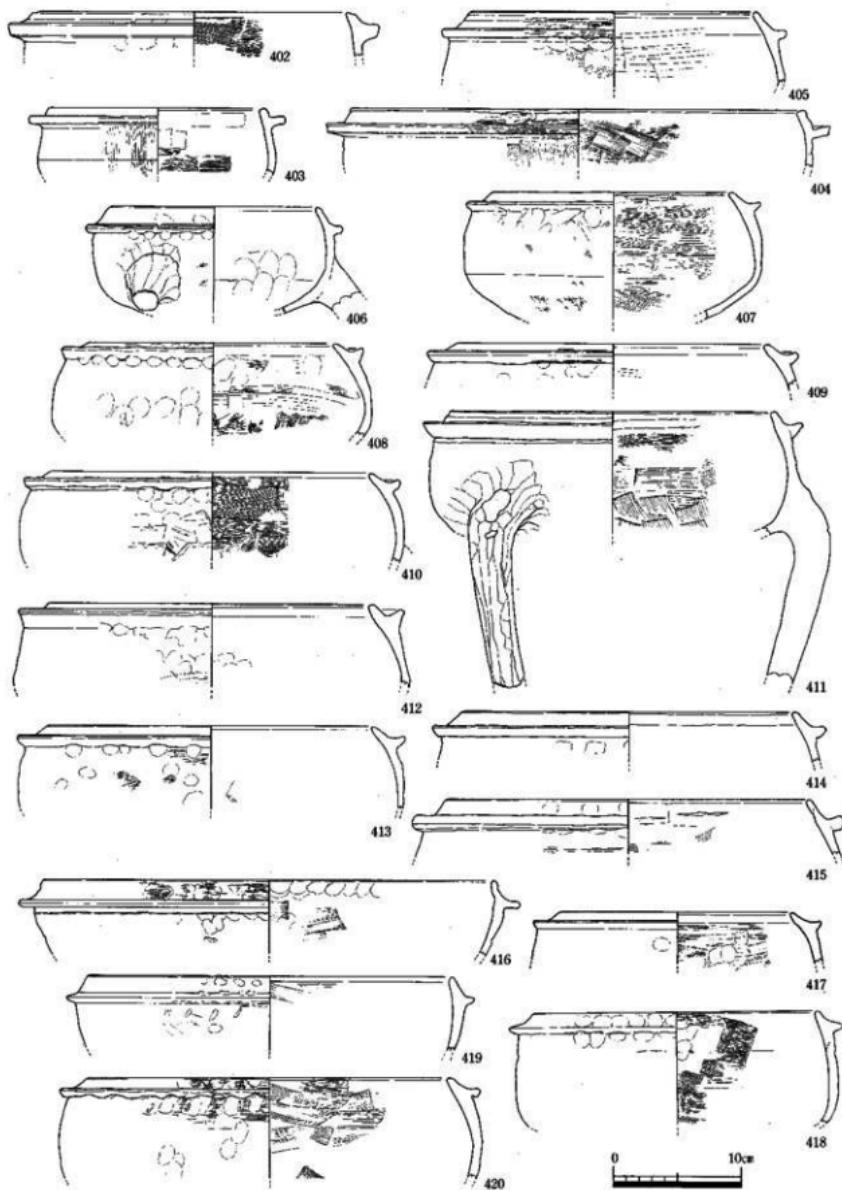
S D01の下層で検出された溝である。断面図土層1がS D01にある。現在の地割とほぼ同じ方向である。2ヶ所土坑状に深くなっている部分があり、出水状の遺構と考えられる。土坑状の部分の深さは、50cm程度であり、溝部分の深さは10~30cm程度である。遺物は13世紀中葉から16世紀中葉693~712までのものが出土している。694・695・699・700・712は、SD13にまたがるトレンチから出土したものである。711はSD14から出土した破片と接合した。



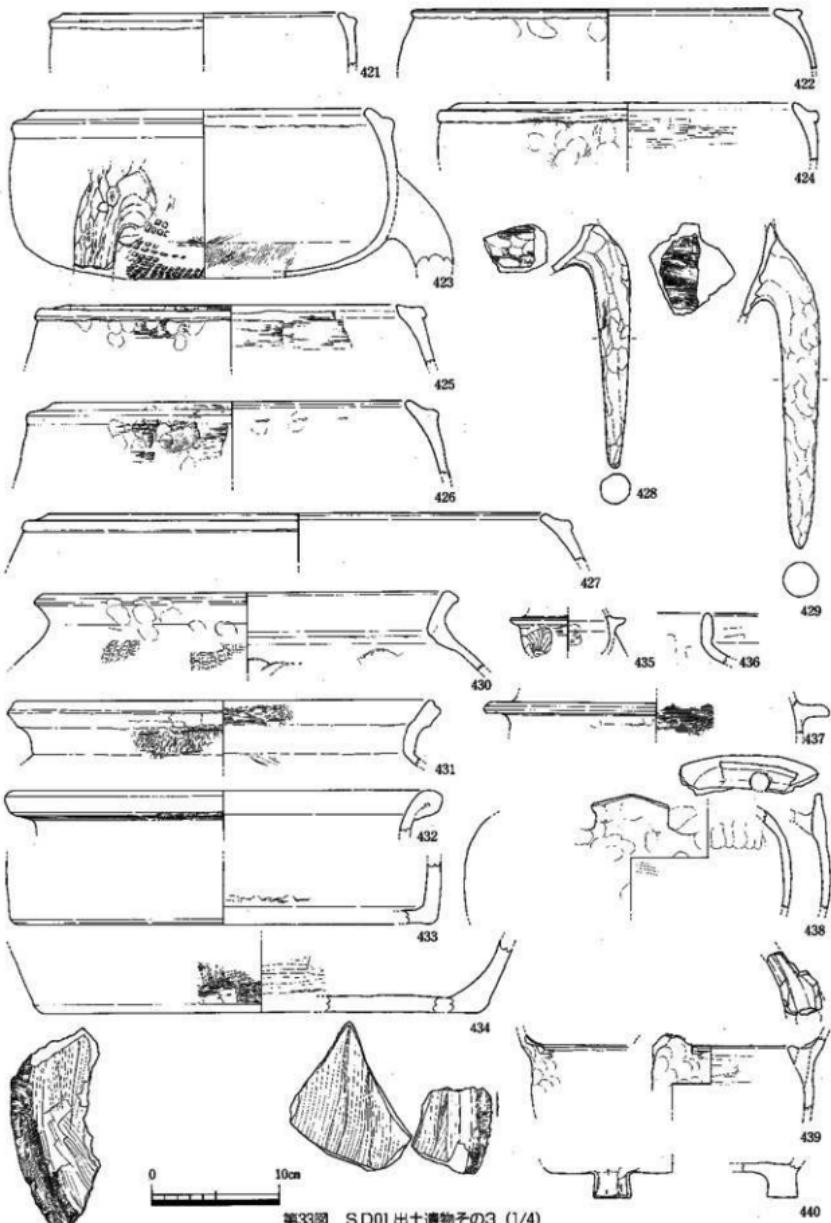
第30図 S X08出土遺物 (1/4)



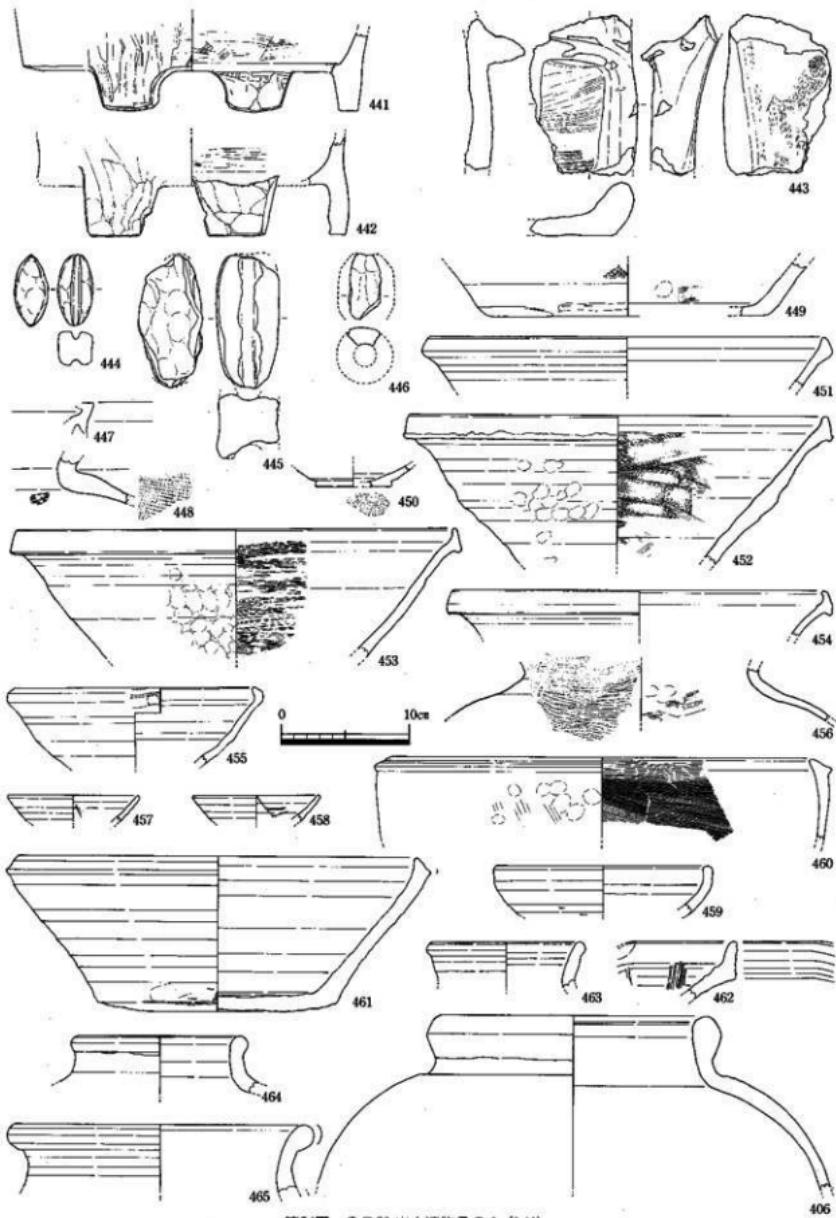
第31図 SD01出土遺物その1 (1/4)



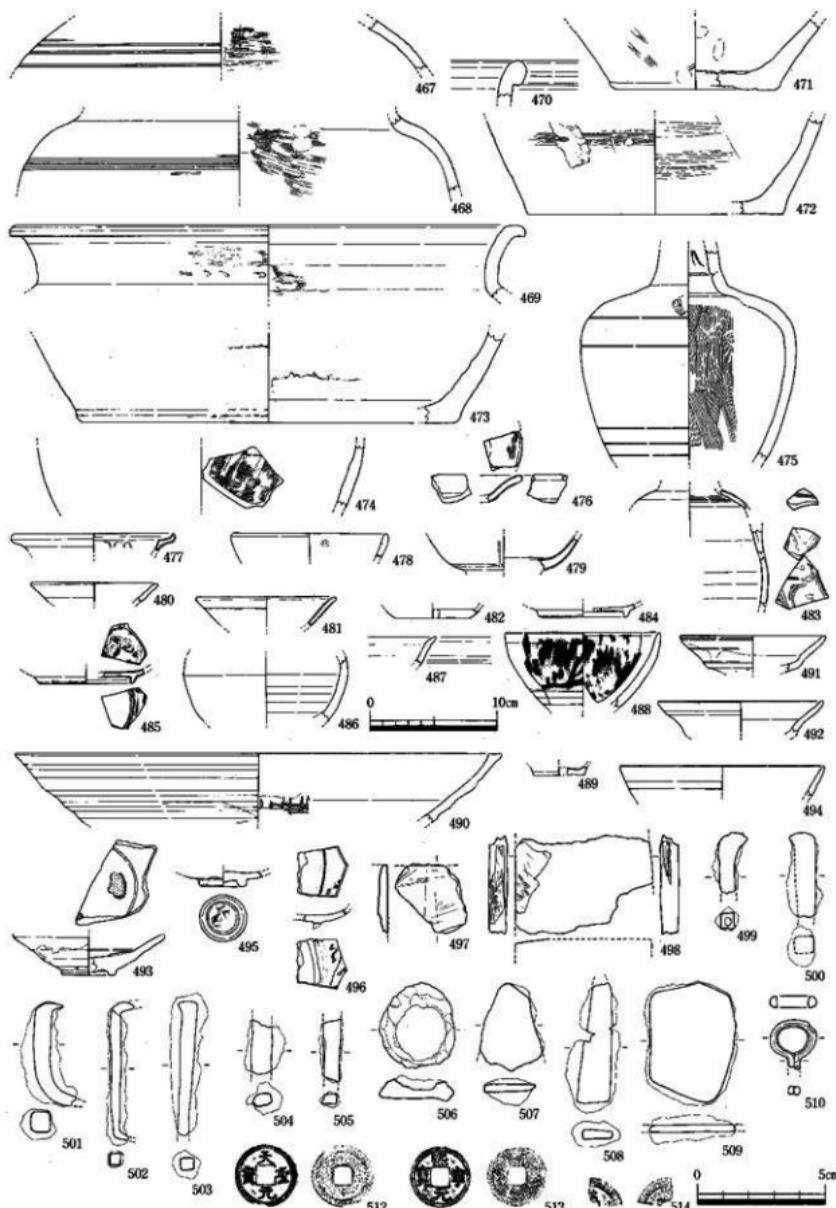
第32図 SD01 出土遺物その2 (1/4)



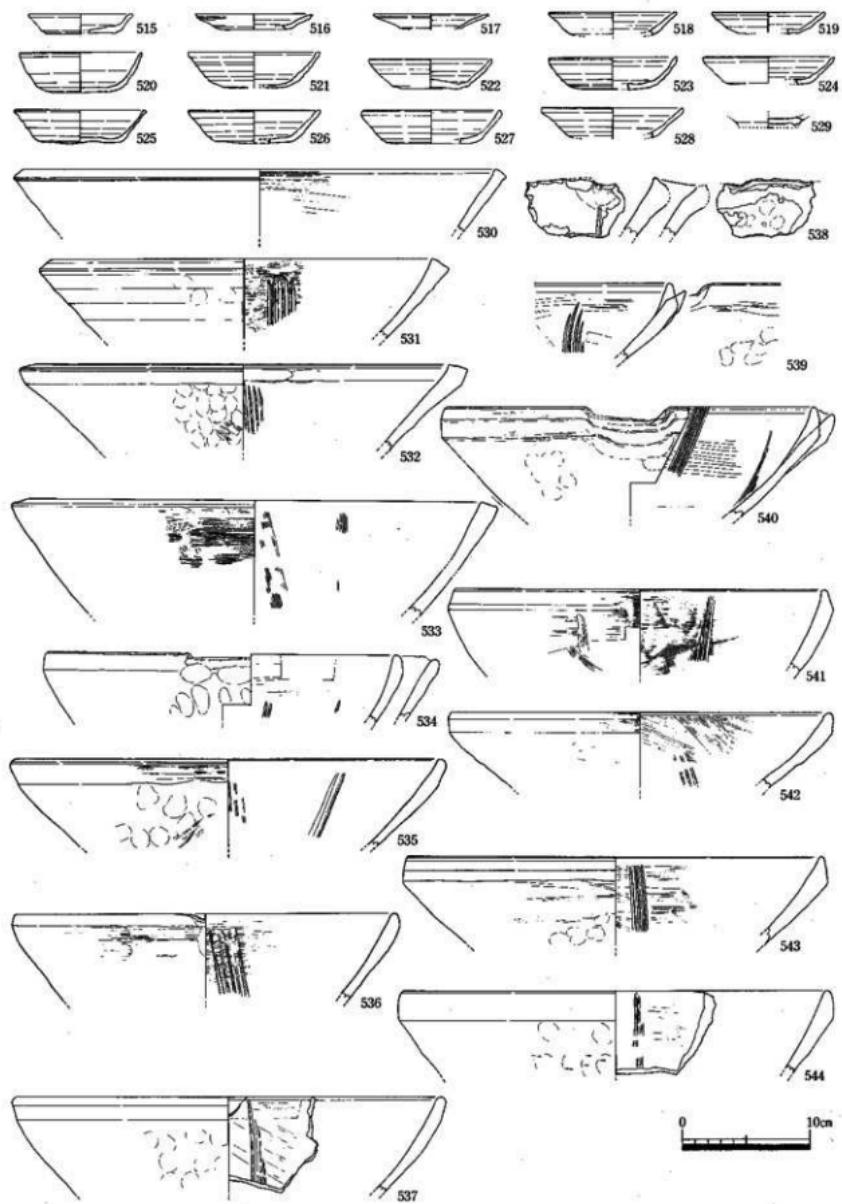
第33図 SD01 出土遺物その3 (1/4)



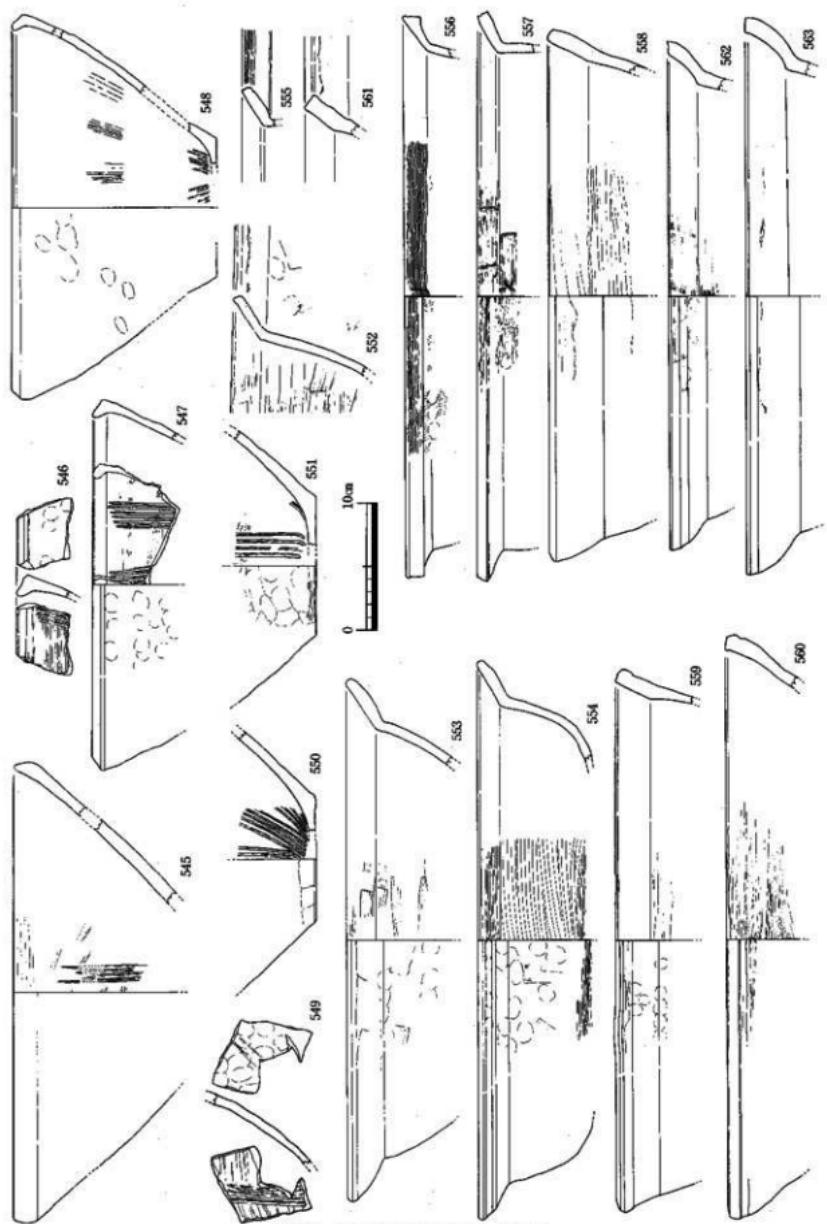
第34図 SD01出土遺物その4 (1/4)



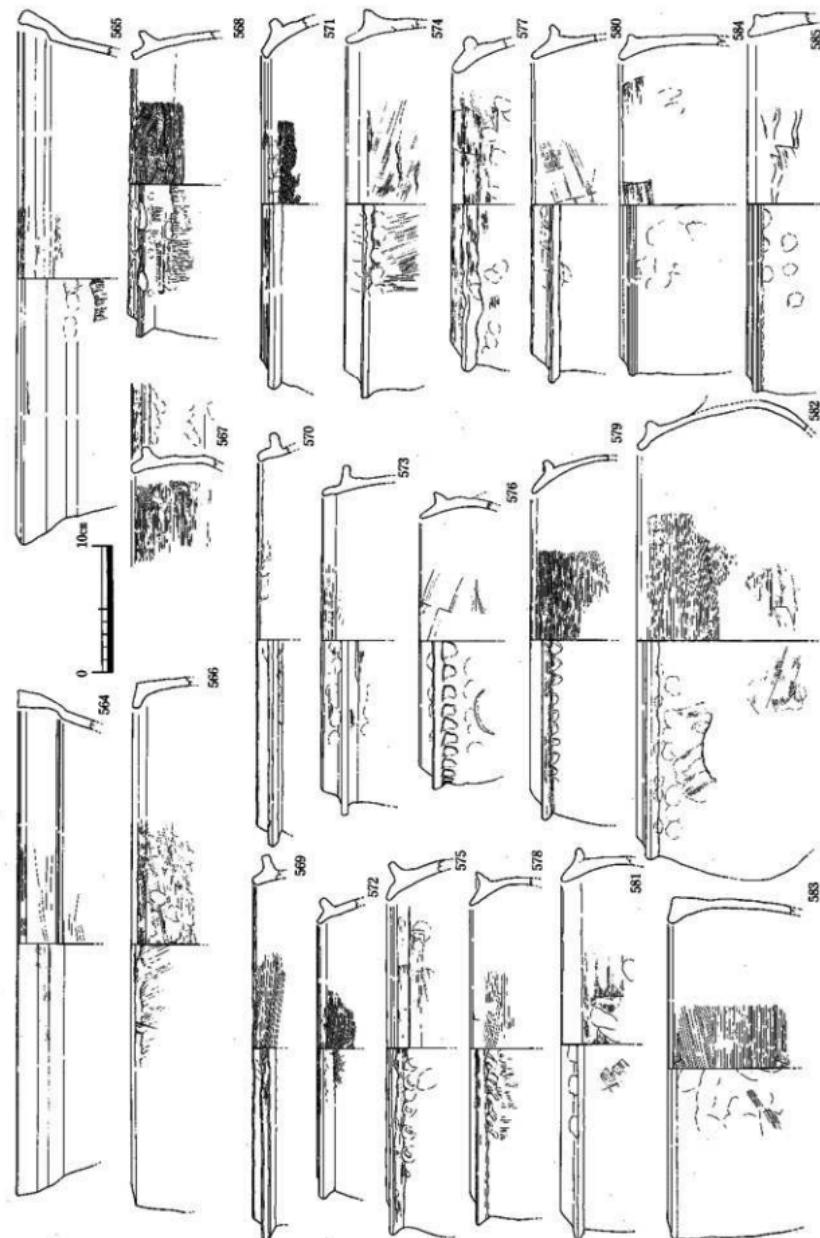
第35図 SD01出土遺物その5 (1/4) (1/2)



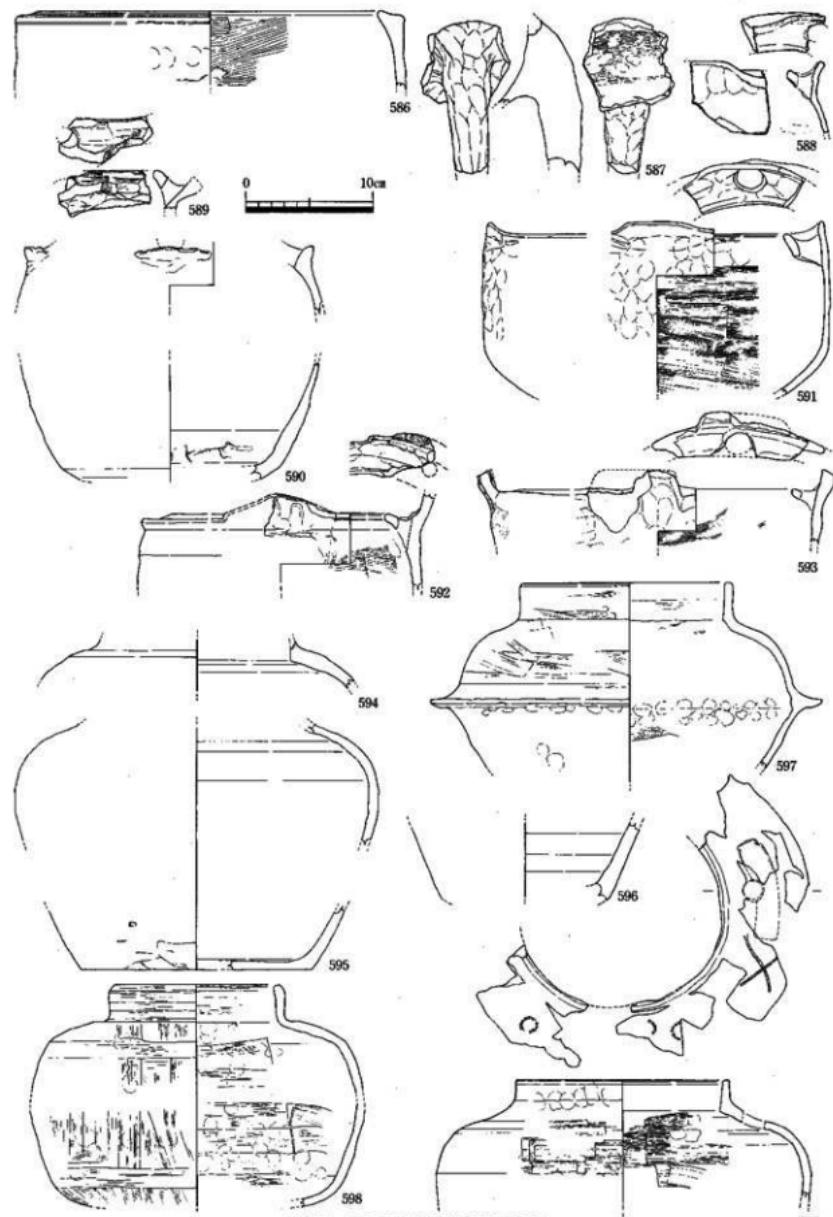
第36図 SD02 出土遺物その1 (1/4)



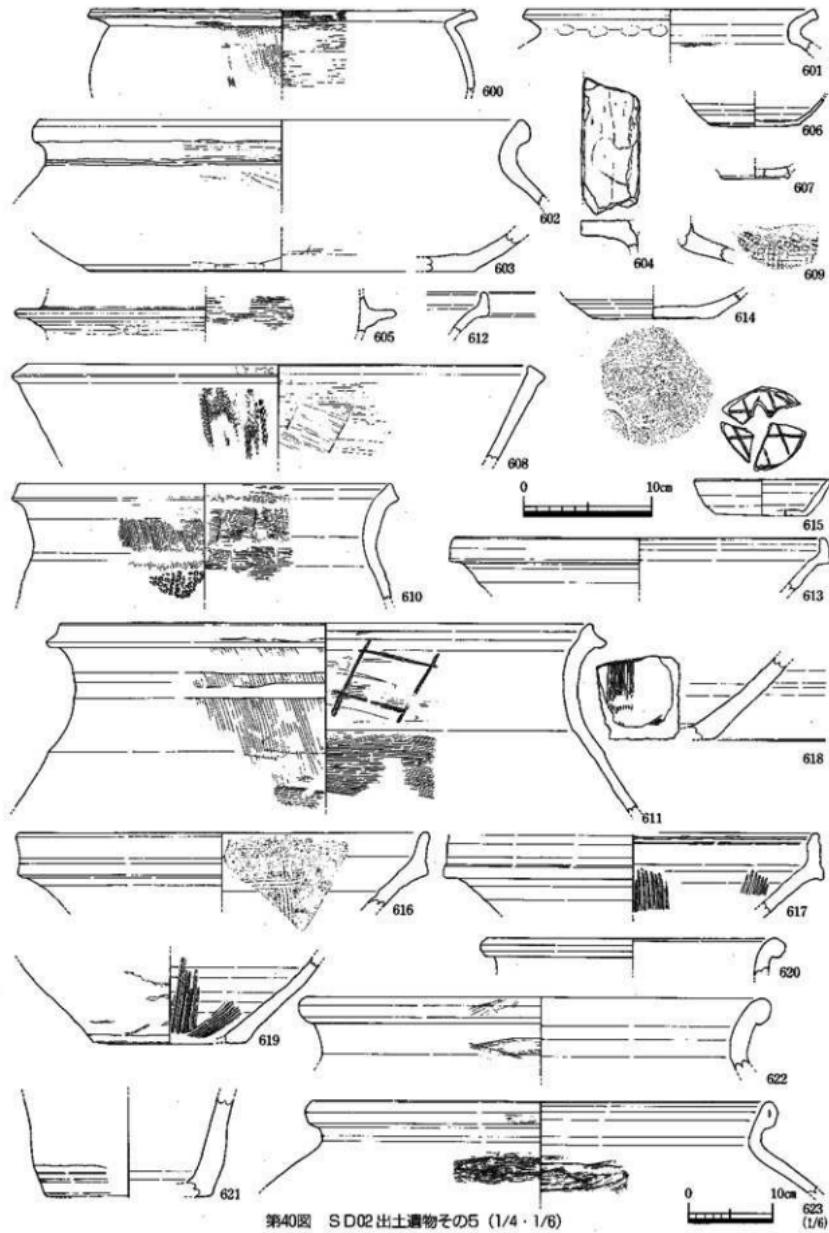
第37図 SD02 出土遺物その2 (1/4)



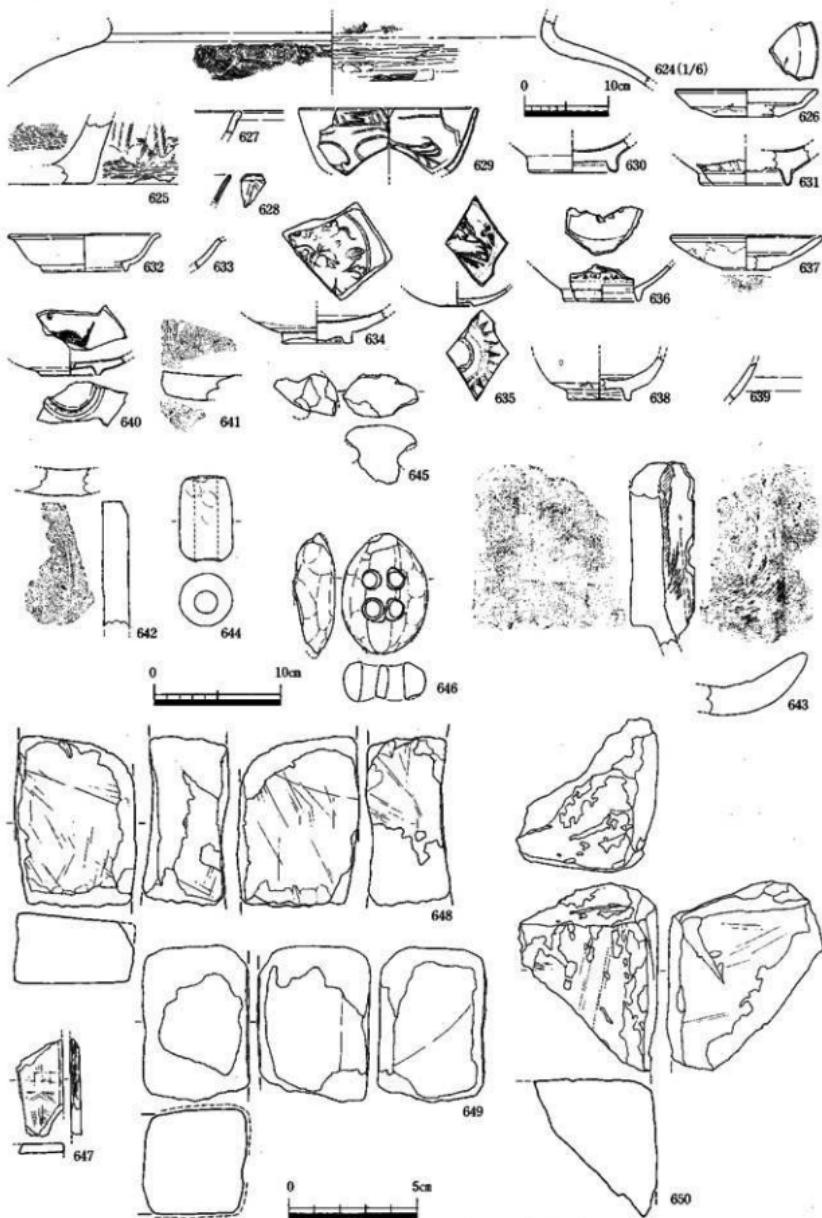
第38図 SD2出土遺物その3 (1/4)



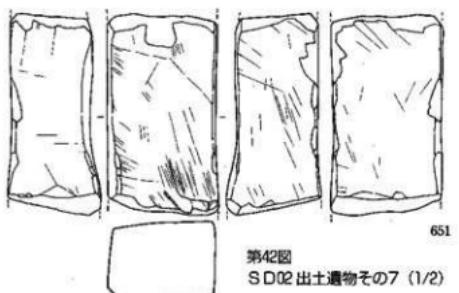
第39図 SD02 出土遺物その4 (1/4)



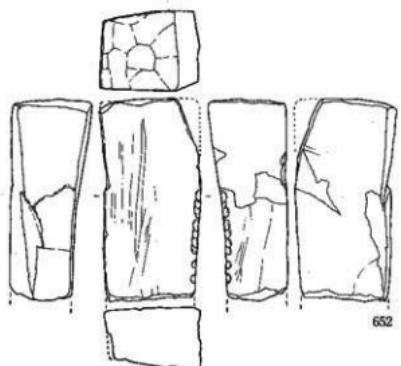
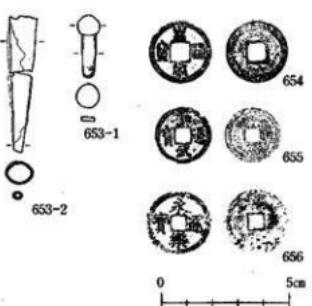
第40図 SD02出土遺物その5 (1/4・1/6)



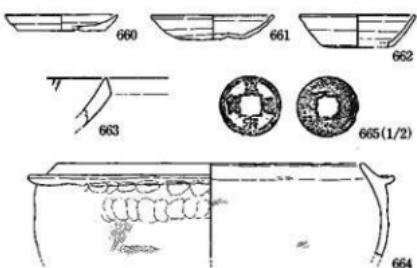
第41図 SD02 出土遺物その6 (1/4・1/6) (1/2)



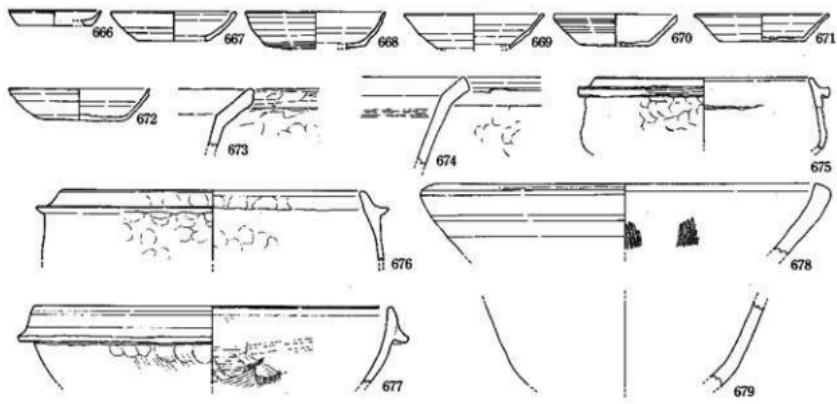
第42図
SD02出土遺物その7 (1/2)



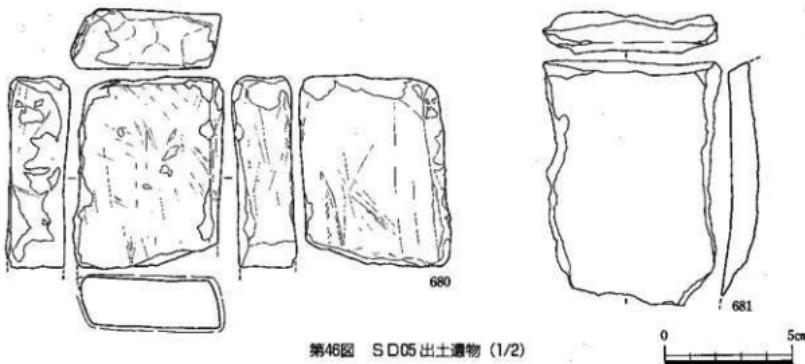
第43図 SD03出土遺物 (1/4)



第44図 SD04出土遺物 (1/4) (1/2)

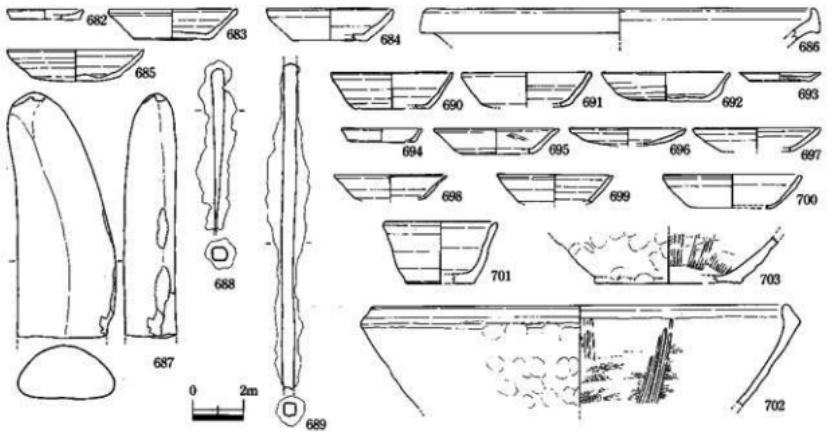


第45図 SD05出土遺物 (1/4)

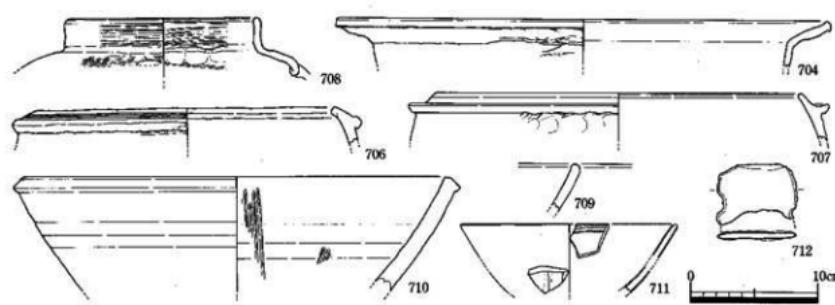


第46図 S D05出土遺物 (1/2)

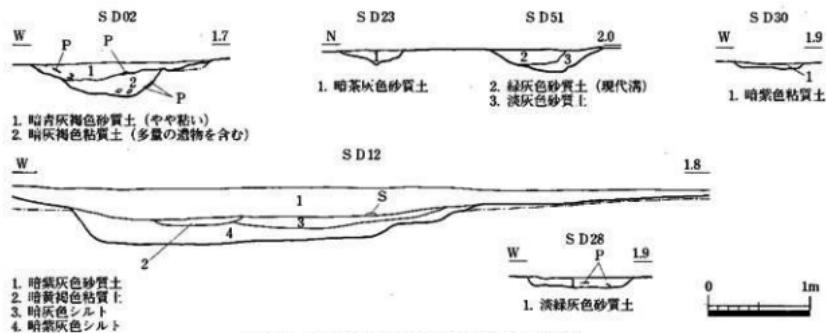
0 5cm



0 2m



第47図 S D06・07・12出土遺物 (1/4) (1/2)



第48図 SD02・12・23・28・51断面 (1/50)

SD14 (E1~H1) 第49図

SD01の下層で検出された溝である。SD12の続きの溝である。13世紀前葉～16世紀前葉713～730までの遺物が出土している。727はSD28から出土した破片と接合した。730は、柱材の破片と考えられる。スギ材であろう。

SD21 (E17~E19) 第49図

平板測量図をもとに記載したため、その位置はあまり正確ではない。また、深さ等の詳細なデータは不明で、その位置関係からSD26につながるものとも考えられるが、方向がやや異なることから別の溝としておく。遺物は、鉄器731・732が出土しているのみである。

SD23 (H14~B12) 第48・49図

途中でややクランク状に曲がり、SD28に続く。底面の標高は、場所による違いはほとんど無い。遺物733～736は、13世紀中葉から16世紀前葉までのものが出土している。

SD24 (D19~F19) 第49図

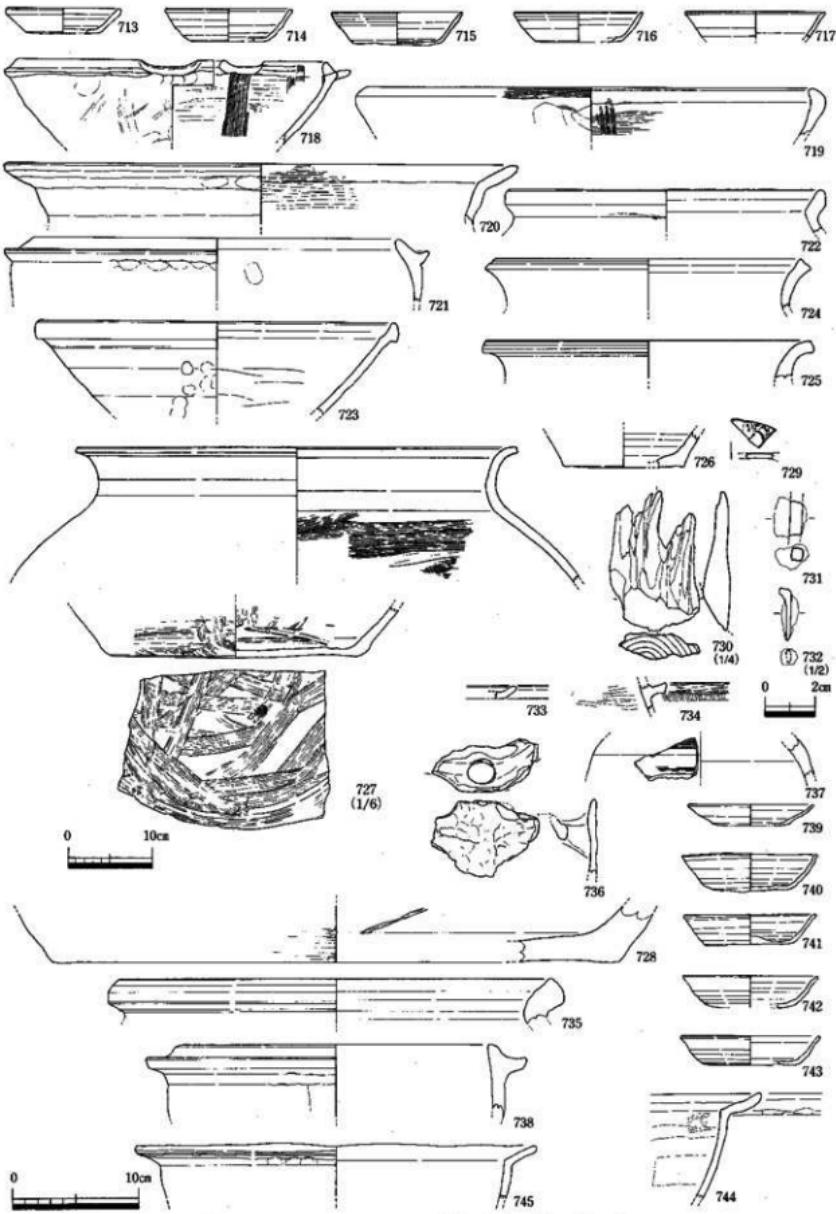
深さ40cm～50cmである。途中でとぎれる壠状の造構と考えられる。方向は現在の地割と一致する。遺物737は、16世紀前半のものが出土している。

SD28 (B8~B12) 第48～50図

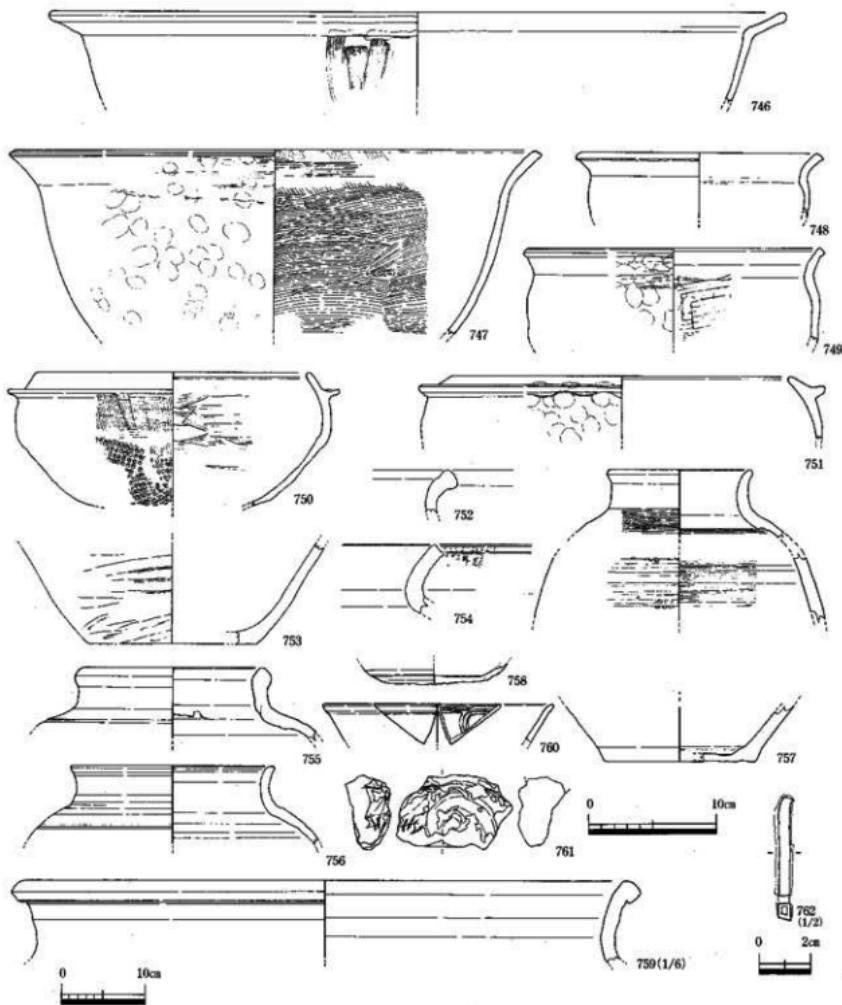
途中でとぎれる溝である。一番北側は深くなっている、深さ20cmである。溝部分の深さは10cm程度である。溝部分の標高はSD23より10cm程度低い。遺物738～762は13世紀後半から15世紀後葉までのものが出土している。738は平安時代の遺物である。747・749・750は、SD29出土の破片と接合したものである。748・749は足鍋である。758は須恵質の焼成であるが、土師器杯と同様な製作技法を用いている。761は瓦であるが、全形及び使用位置は不明である。

SD30 (B10~A12) 第48図

SD28と平行する溝である。土師質土釜と亀山焼壺の小片3点を出土している。SD28と同時期と考える。



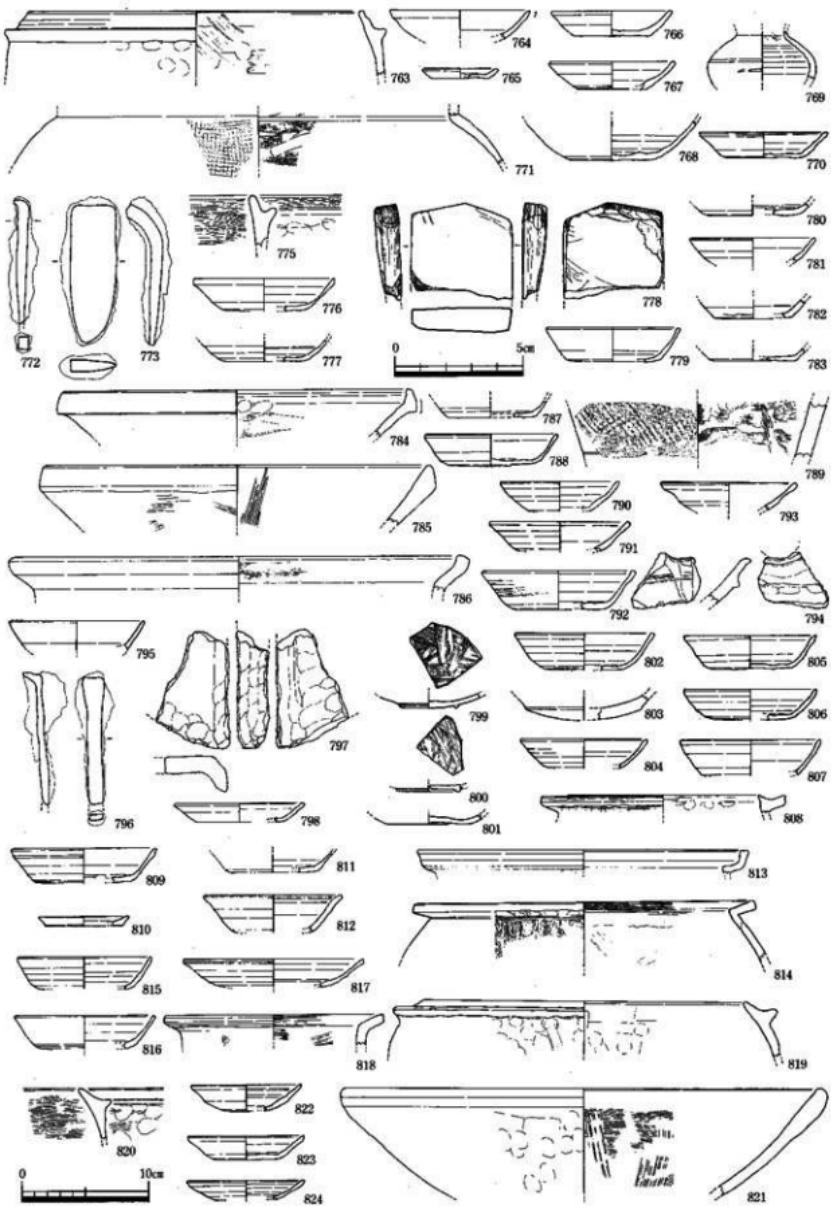
第49図 SD14・21・23・24・28出土遺物 (1/4) (1/6) (1/2)



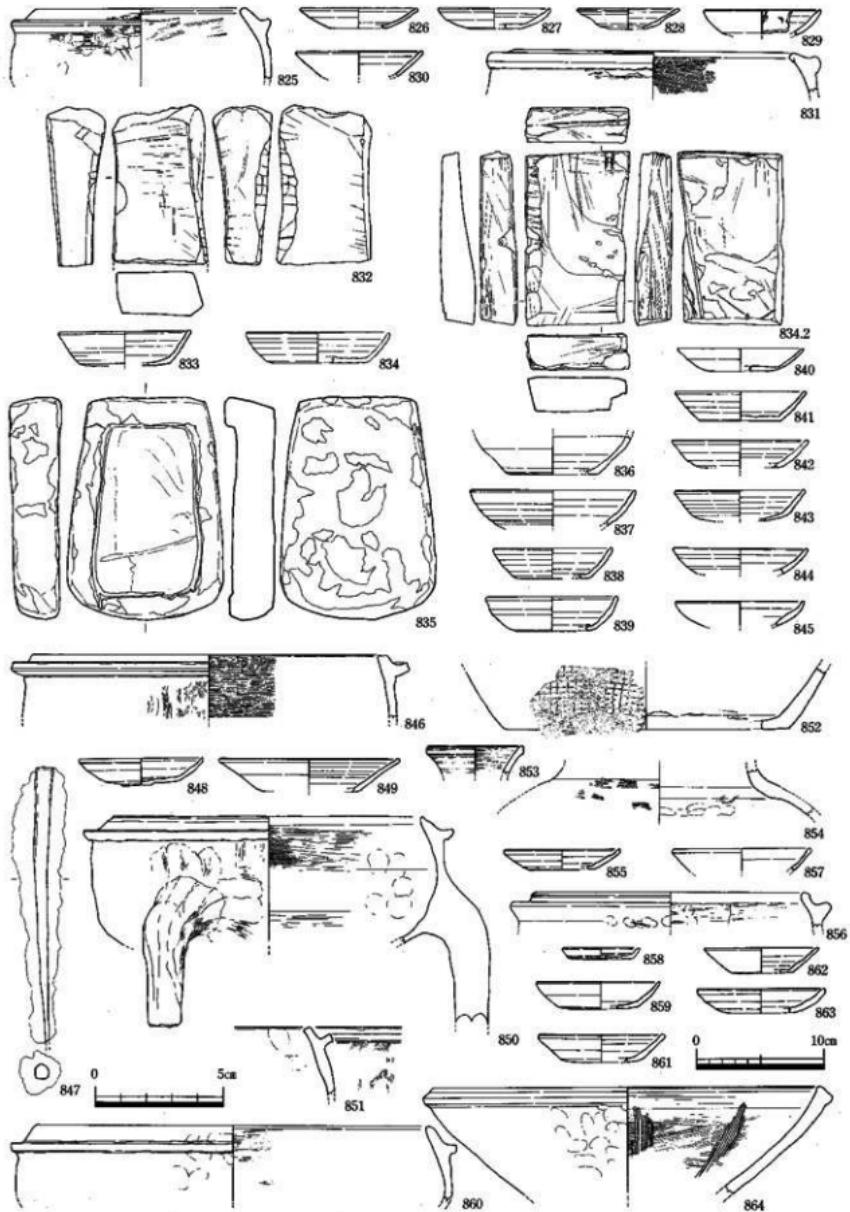
第50図 SD28出土遺物 (1/4) (1/6) (1/2)

6 ピット出土の遺物 第51~58図

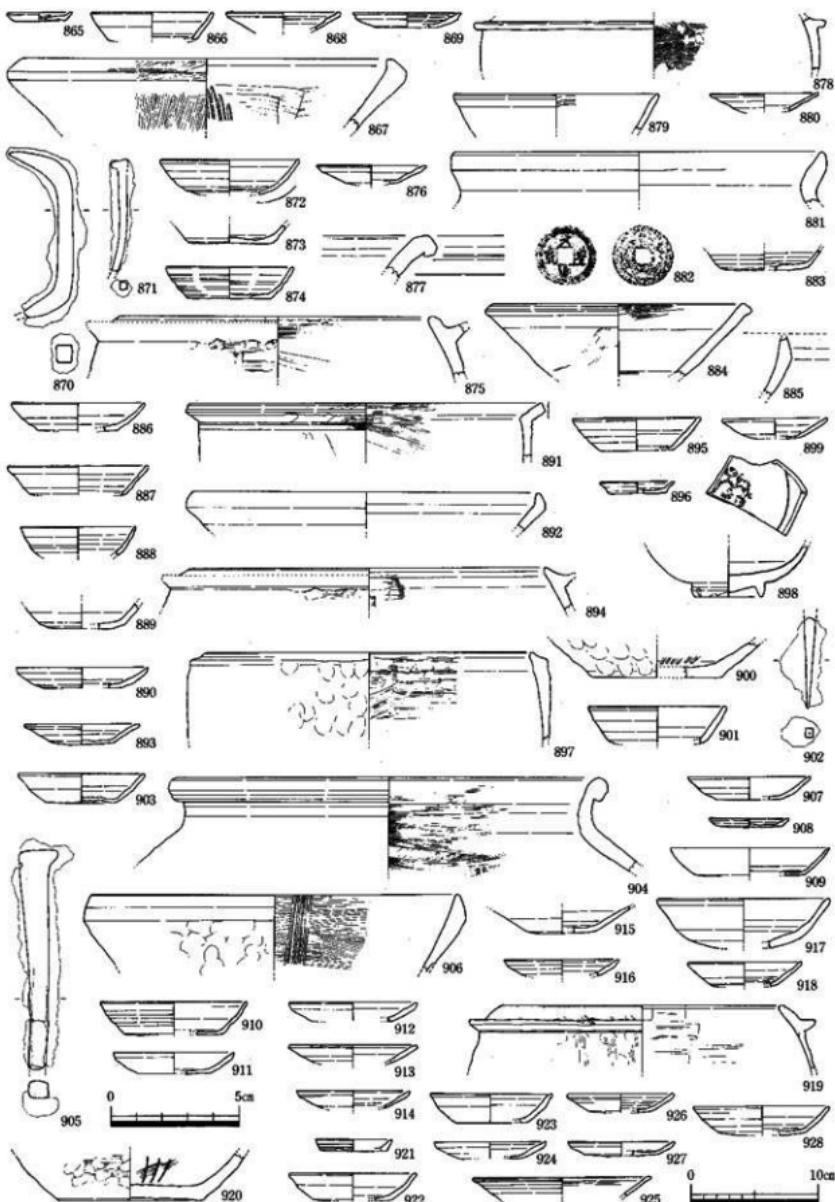
ここでは、ピット出土の遺物763~1179.12をまとめて掲載する。なお、掘立柱建物跡を構成する柱穴出土の遺物も、ここで一緒に掲載する。掲載順は、ピット番号順である。出土した遺物のピット番号は遺物観察表を参照されたい。



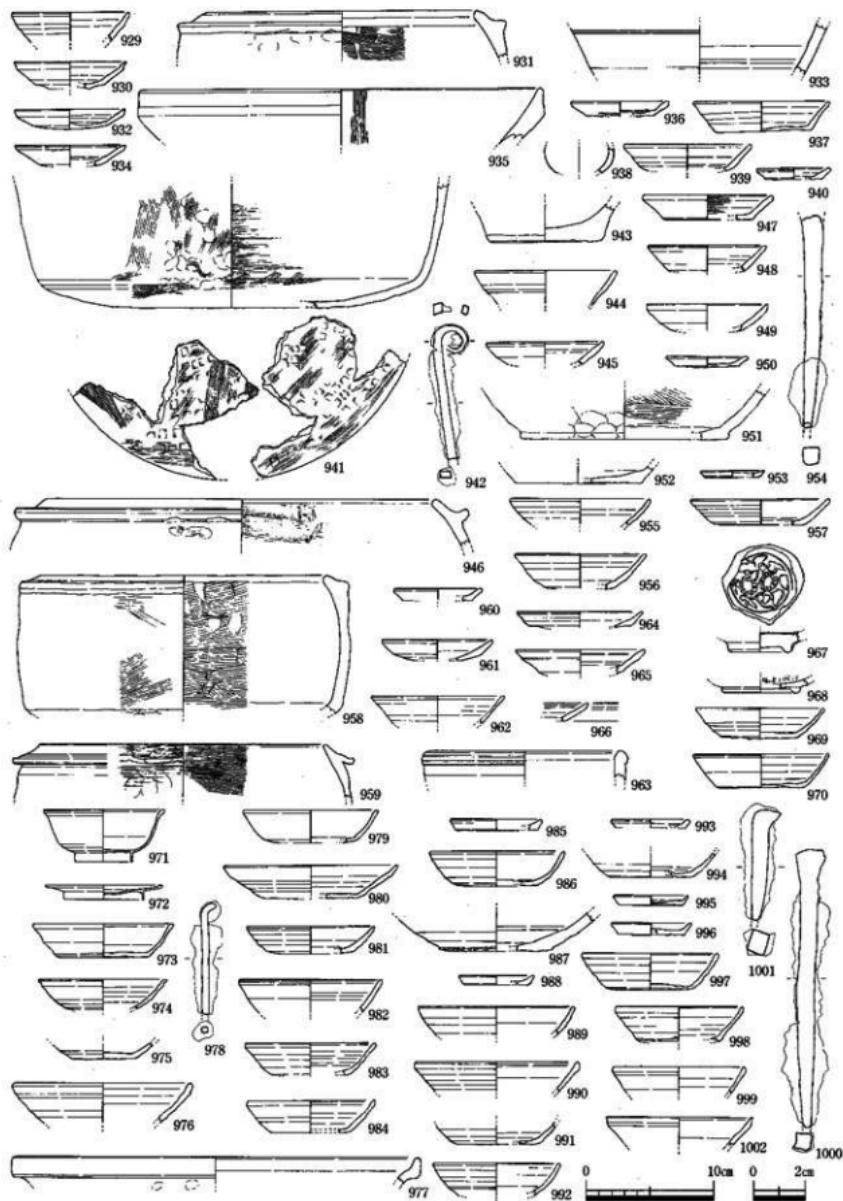
第51図 ピット出土遺物その1 (1/4) (1/2)



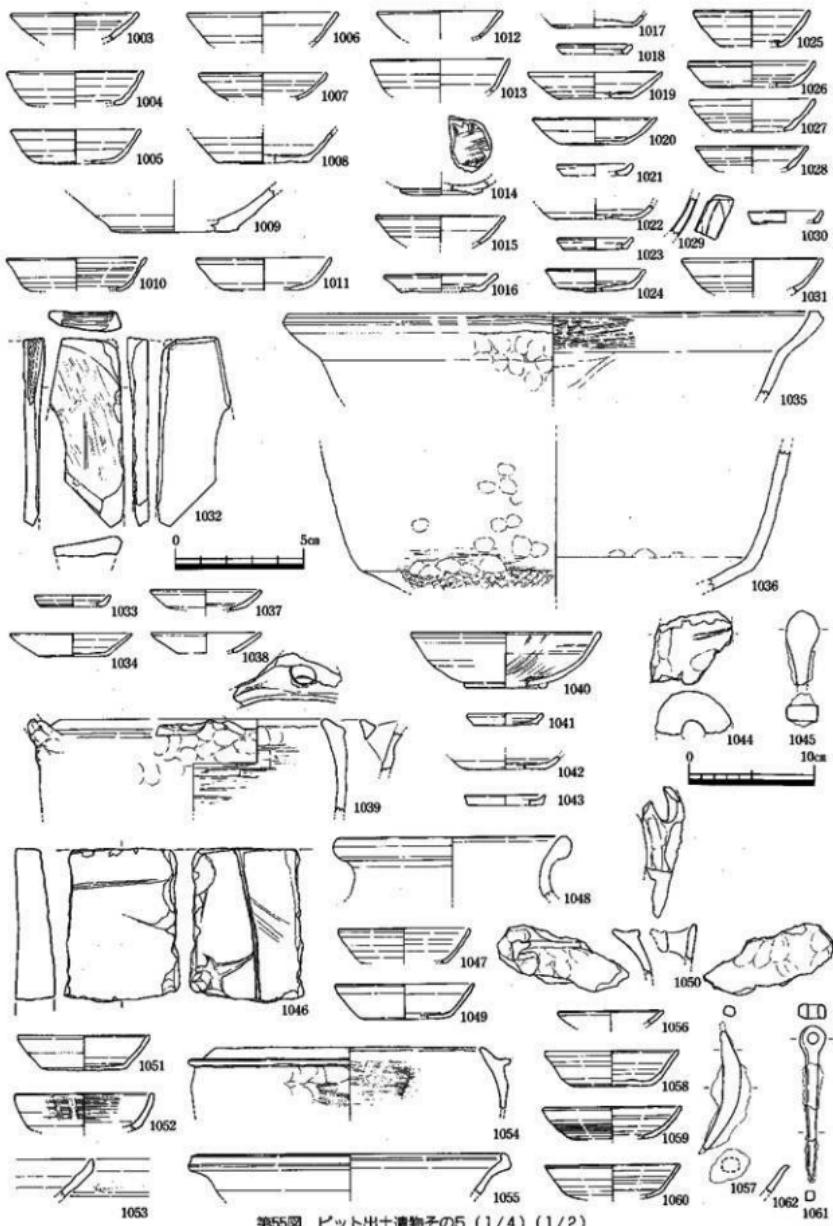
第52図 ピット出土遺物その2 (1/4) (1/2)



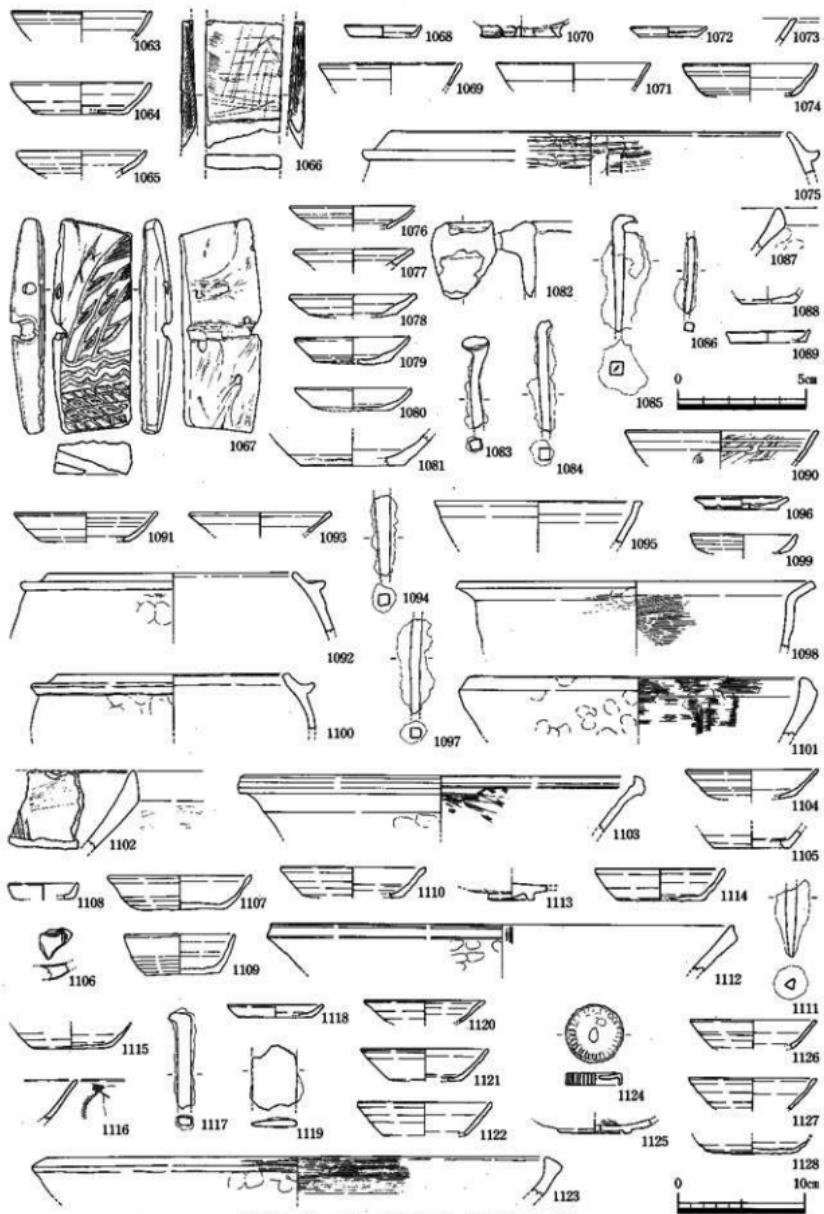
第53図 ピット出土遺物その3 (1/4) (1/2)



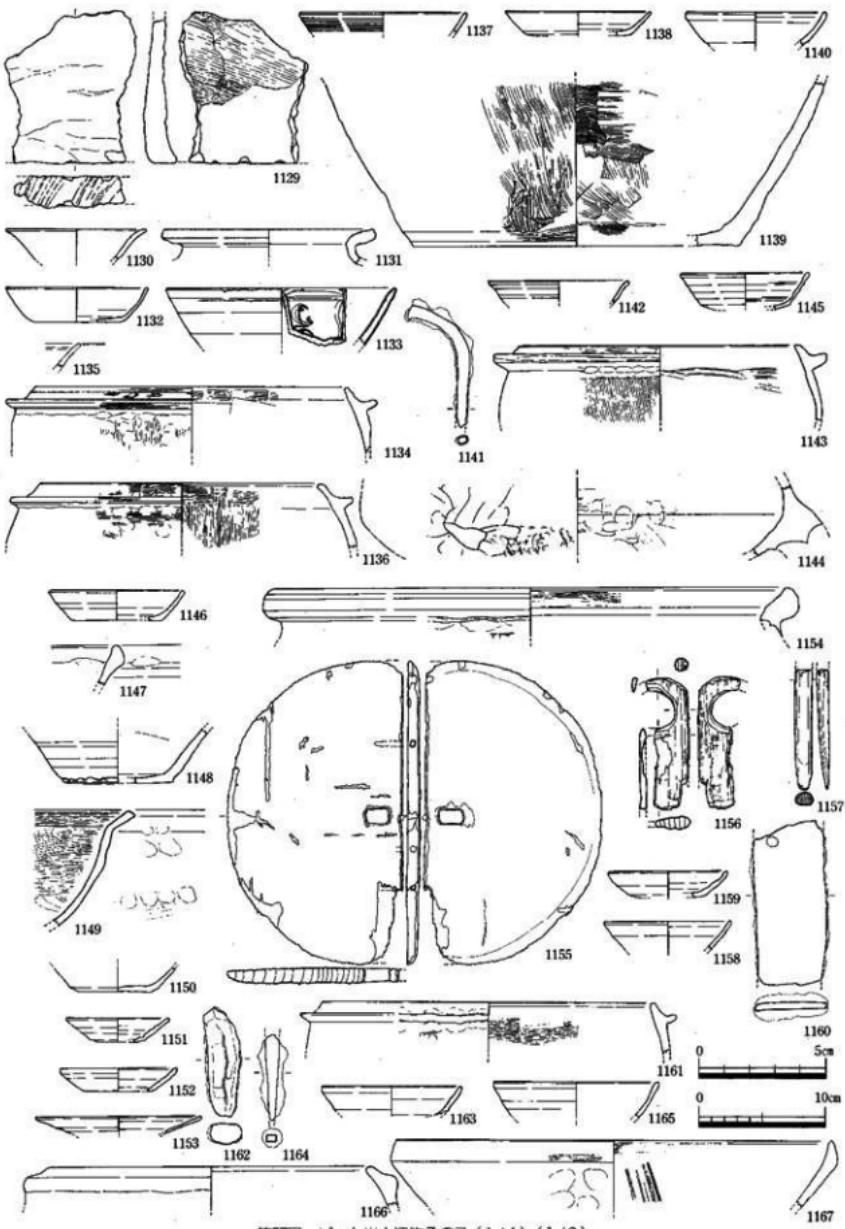
第54図 ピット出土遺物その4 (1/4) (1/2)



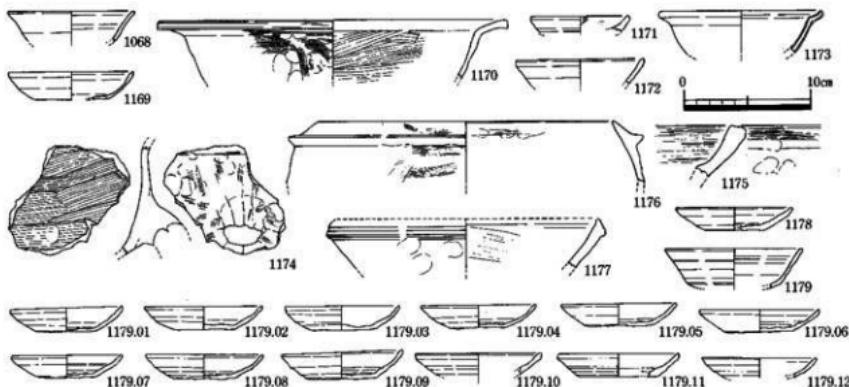
第55図 ピット出土遺物その5 (1/4) (1/2)



第56図 ピット出土遺物その6 (1/4) (1/2)



第57図 ピット出土遺物その7 (1/4) (1/2)



第58図 ピット出土遺物その8 (1/4)

834.2は硯の約1/4に擦り切り技法で分割したもので、一部に穿孔途上の跡が見られることから、1067のようなスタンプを作り出そうとしたものと考えられる。ただ、他のスタンプは滑石を使用しているのに対して、834.2は頁岩製である。835は砂岩製の硯で、撫り込み面周囲には、その区画線の溝が残存している。832はS P566から出土したもので、『中世の出土銭』51-7に類似する「元豊通寶」(初鑄年1078年)である。898は、見込みにスタンプによる文様がある。930はS P323とS P751から出土した破片が、接合したものである。967は、見込みにスタンプによる文様がある。971は、S P939から出土した青銅製の小型椀で、付近を上面精査中に出土した青銅製の小型器台(皿大)972とセットになるものと考えられる。密教法具の六器の一つと考えられる。1067は滑石製の石鍋を転用したスタンプと考えられる。1113は中国産白磁と考えられる。1155はスギ製と考えられる蓋である。割れ面に木釘が残存している。1156は不明木製品で、孔があいている。広葉樹製である。1157はヒノキ製と考えられる先端の尖った木製品である。1179.01~1179.12は一括出土したもので、器形もよく類似した資料である。

7 近世以降

ピット

S P051 (H 9) 第60図

近世の遺物 1180~1187.2が2袋程度出土している。1186は綠釉のかかった陶器の脚で、近世以降に下ることも考えられる。1187.2は蟹の頭の金具に類似し、内面には木質物が残存している。

溝跡

S D35 (C0~南へ) 第59・60図

現在の地割に沿う大溝である。最下層の暗灰色粘土からは、中世土器が出土しているが、上層からは近世陶磁器が出土している1188~1190。

S D51 (A3～H14) 第48・60図

現在の地割りに一致する溝跡である。深さは約30cm以下である。底面の標高は東より西が20cmほど低くなっている。コンテナ1箱程度の遺物1191～1226が出土している。1222は土人形で、底面から穿孔が行われている。1223は、2つのものの合わせ面と考えられる部分があり、中空の人形の破片と考える。1225は銅製の筒で、内部に竹と思われるものが残存している。1226はスギ製の栓である。

土坑

S T09 (C13)

主軸方位は、N67°Eである。深さは15cm程度である。堆土から、摩滅した中世土器、近世陶器、摩滅した銅鏡などが出土している。

塚 (D17) 第59図

現状で残存していたものである。遺構検出面からの高さは約70cmである。主軸方位は、N11°Eである。上面には、碟で舟形に開んだ空間があり、その中に五輪塔を転用した塔が2基ある。塚の主軸方位は、現在の地割の方向とほぼ一致する。

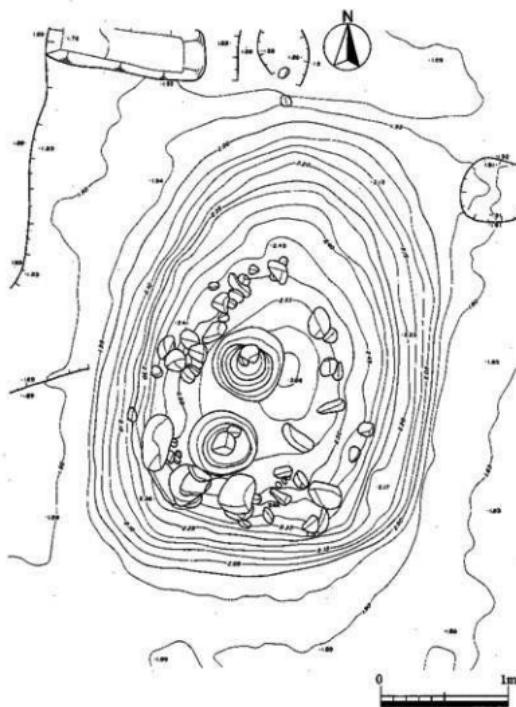
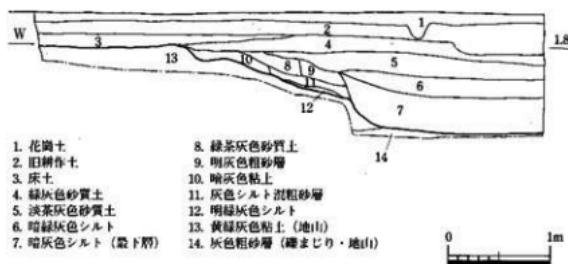
8 包含層等出土遺物 (1227～1445) 第61～68図

ここでは、表土掘削中や遺構検出時などに出土した出土位置が不確実な遺物及び包含層出土の遺物を報告する。ただし、弥生時代以前の石器については、後世の遺構への混じり込みがあるので、遺構出土のものもここで、報告する。

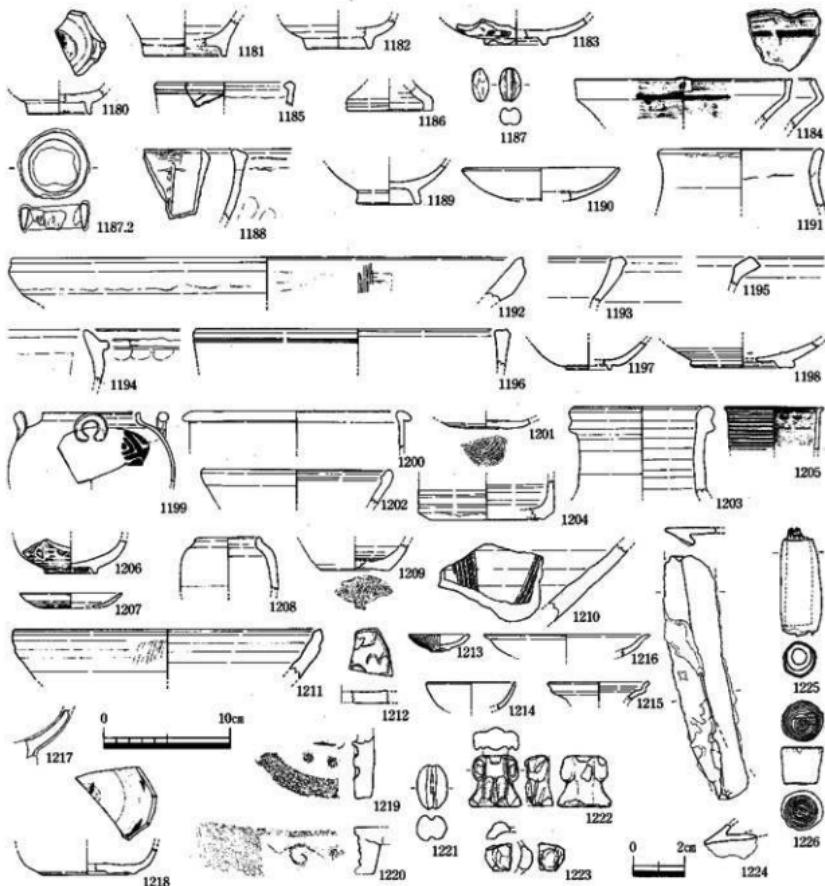
1152は内面に墨書きがある。1246は、足釜の鋲部に穿孔が見られるものである。1267は有軸羽状文の原体によるタタキメを施した東播系と考えられる壺である。1328は、349と同様凹面が黒色を呈する焼壁状の遺物である。心材3本の痕跡が残っている。1329は器種不明であり、何かの把手状のものが剥落したものである可能性もある。1330は外面にヘラミガキがみられ、縄文土器破片の可能性がある。1335は、包含層第5層出土の土器である。1336～1338は包含層第4層出土の土器である。

1339は背面から加壓により二次加工されたナイフ形石器である。1343は石核が分割したものと考えられる。石核素材の主要剥離面末端の面は、潜在割れが現れたものである。また石核素材背面は平坦面であるが、風化が著しく剥離方向は不明である。1344は小剥片目的の石核が分割したものである。1346は左団右端の階段状剥離による潜在割れが左団左端に現れている。1347は風化が進んだ石鎌である。1362は、小剥離の無い縁部はすべて同時に形成された折れ面と考えられる。1369は磨製石砲丁未製品と考えられる。1370は後面の方が磨きが著しい。1372は引田町庵の谷遺跡^{*}で出土した玉に類似している。穿孔は貫通しておらず、未製品と考えられる。また、穿孔は回転力を利用しては行っていない。1374は結晶片岩製で、一部に敲打痕があるが、原石を分割したままの状態に近いものと考えられる。1377は、滑石製石鍋破片で、一部に穿孔と研磨面が認められ、スタンプへの転用が考えられる。1378は滑石製石

* 1 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三十六号 金毘羅山遺跡I 塔の山南遺跡庵の谷遺跡』香川県教育委員会他 2000. 8



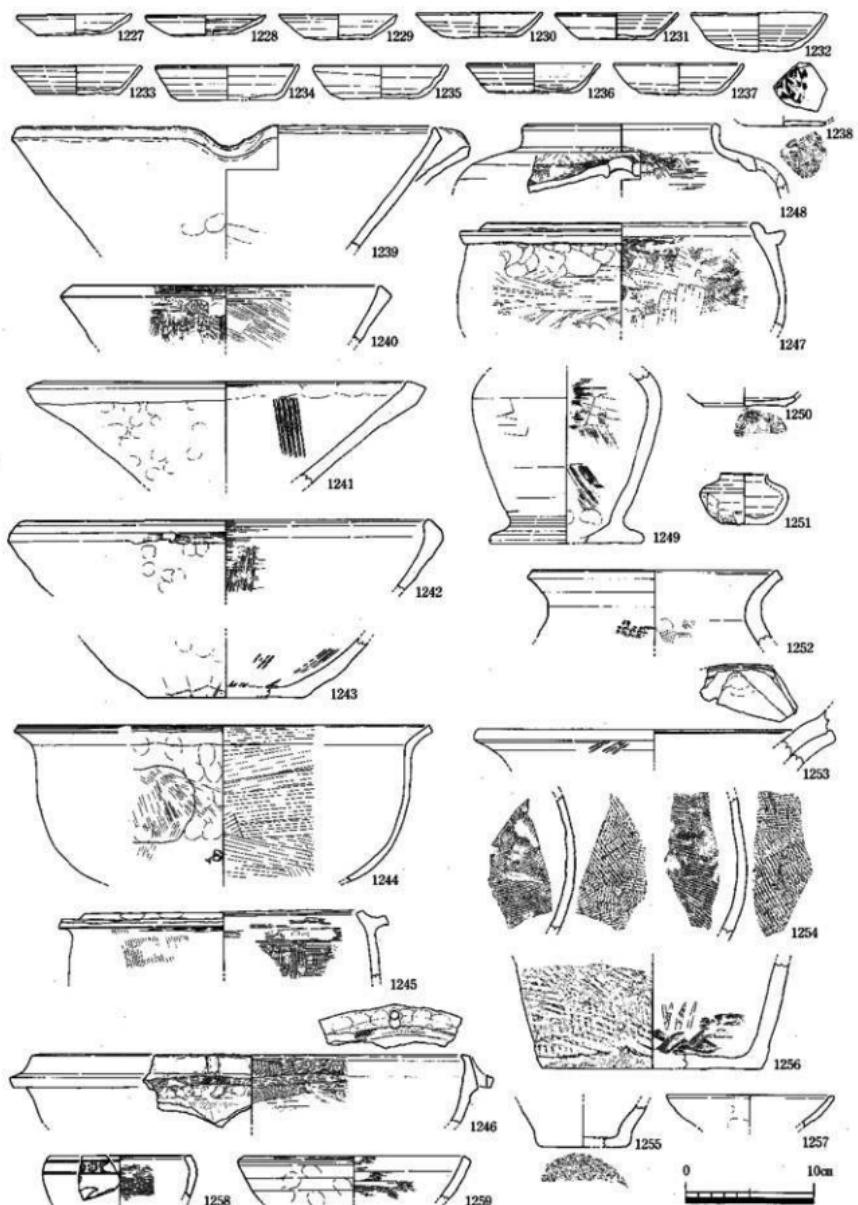
第59図 SD35断面(1/50)及び稼平面(1/40)



第60図 近世以降の遺構出土遺物 (1/4) · (1/2)

鍋を転用したスタンプの破片である。1379・1380も、同様なスタンプの破片である。1381は、黒色の石材で、表面全体がわずかに剥離していることから、基石と考えられる。1385は側面3面が擦り切りにより形成されている。1388は、表面が赤色に変化しており、熱を受けていると考えられる。

1423.2は、上面精査時に出土したもので、「中世の出土銭」30-6に類似する「太平通寶」(初鋤年976年)である。1424は上面精査時に出土したもので、「中世の出土銭」41-10に類似する「皇宋通寶」(初鋤年1038年)である。1425は、上面精査時に出土したもので、「中世の出土銭」40-8に類似する「景祐元寶」(初鋤年1034年)である。1426は上面精査時に出土したもので、「中世の出土銭」51-6に類似する「元豐通寶」(初鋤年1078年)である。1427、1428及び1429は、上面精査時に3枚が重なった状態で出土したもので、1428と1429の間に1427が挟まれていた。1427は、「元祐通寶」(初鋤年1086



第61図 包含層等出土遺物その1 (1/4)

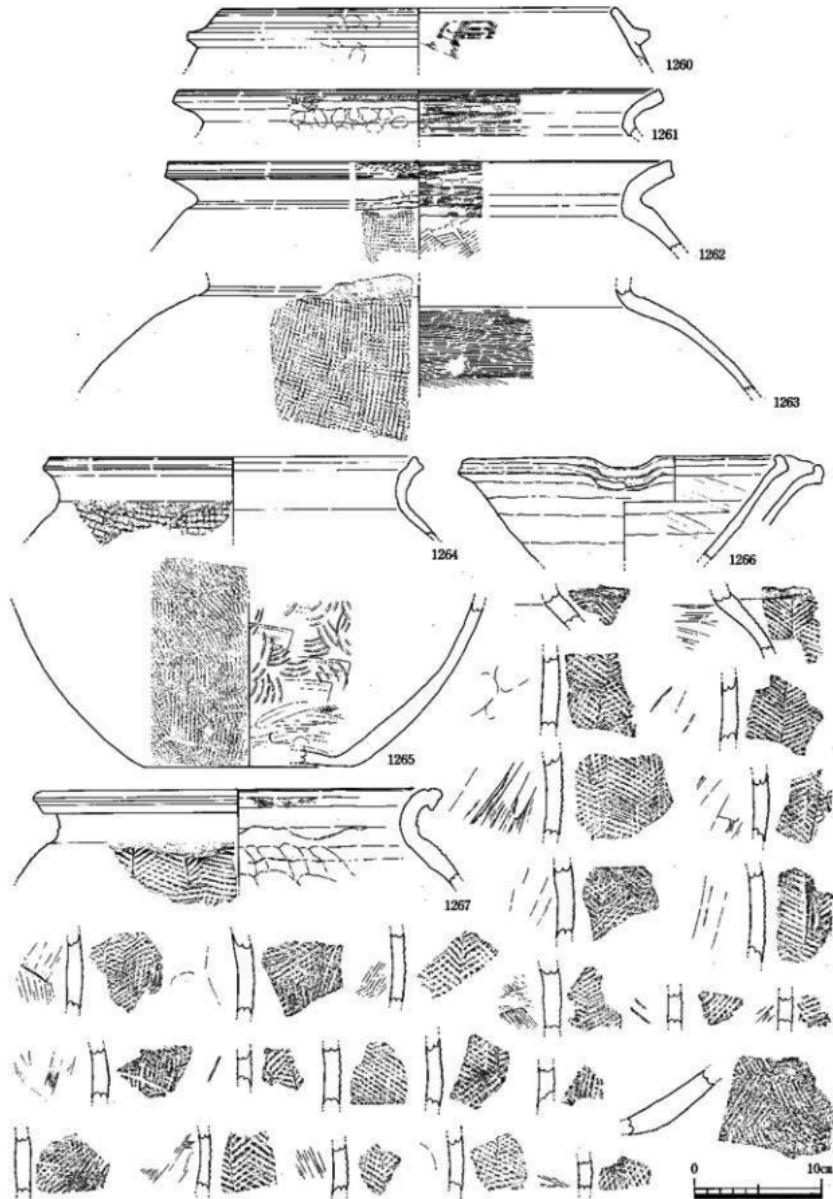
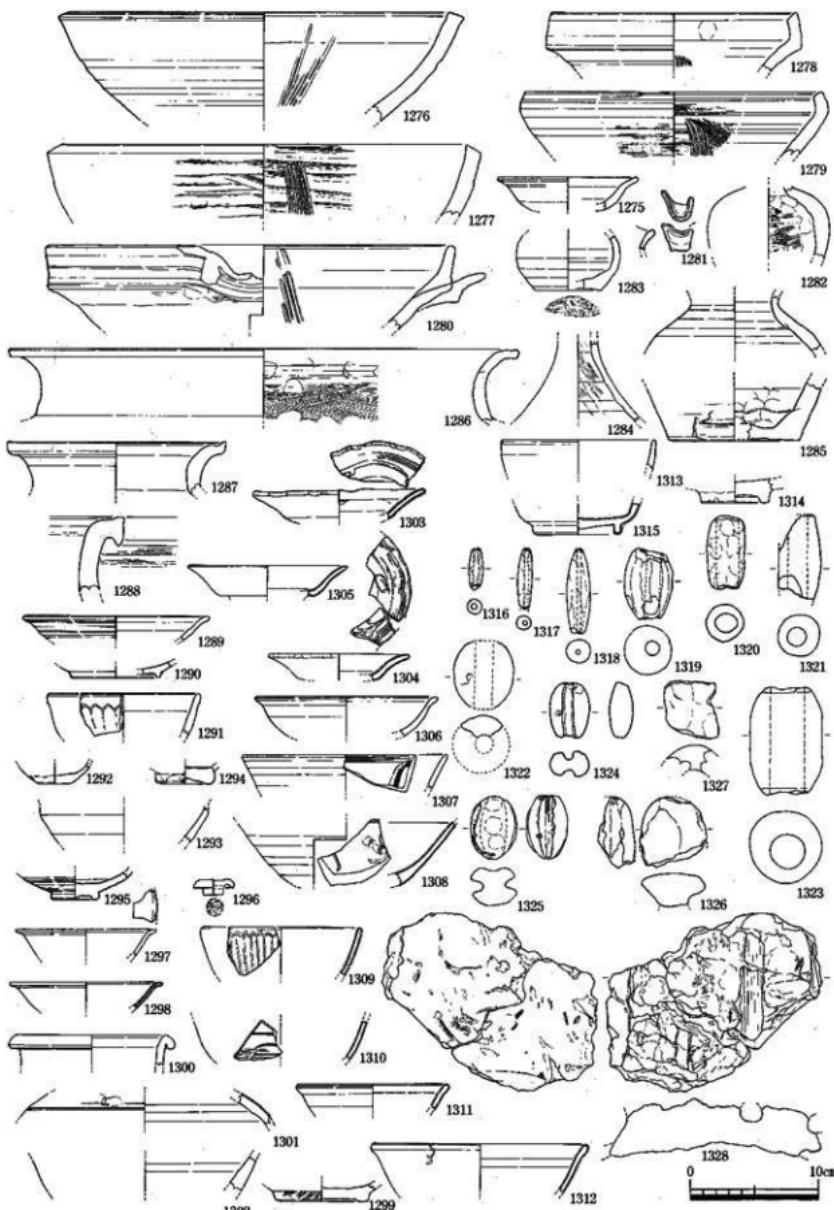
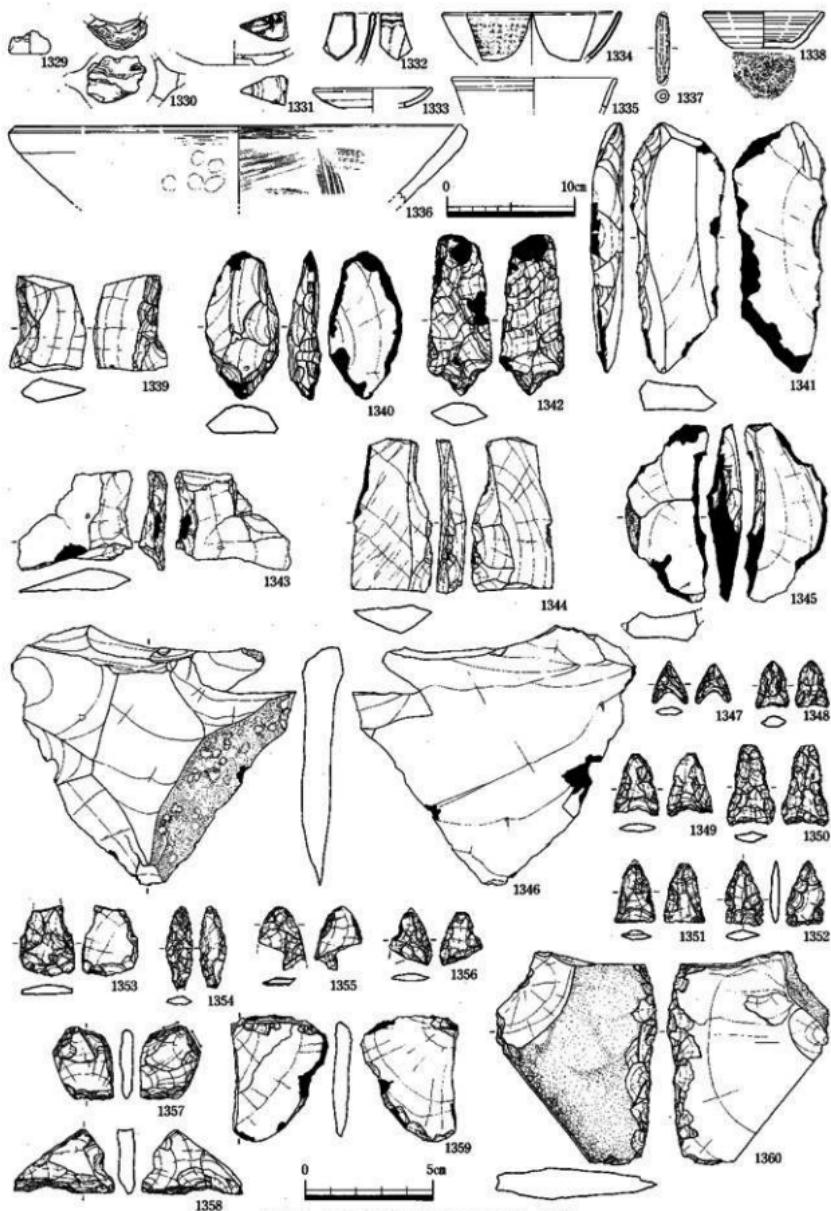


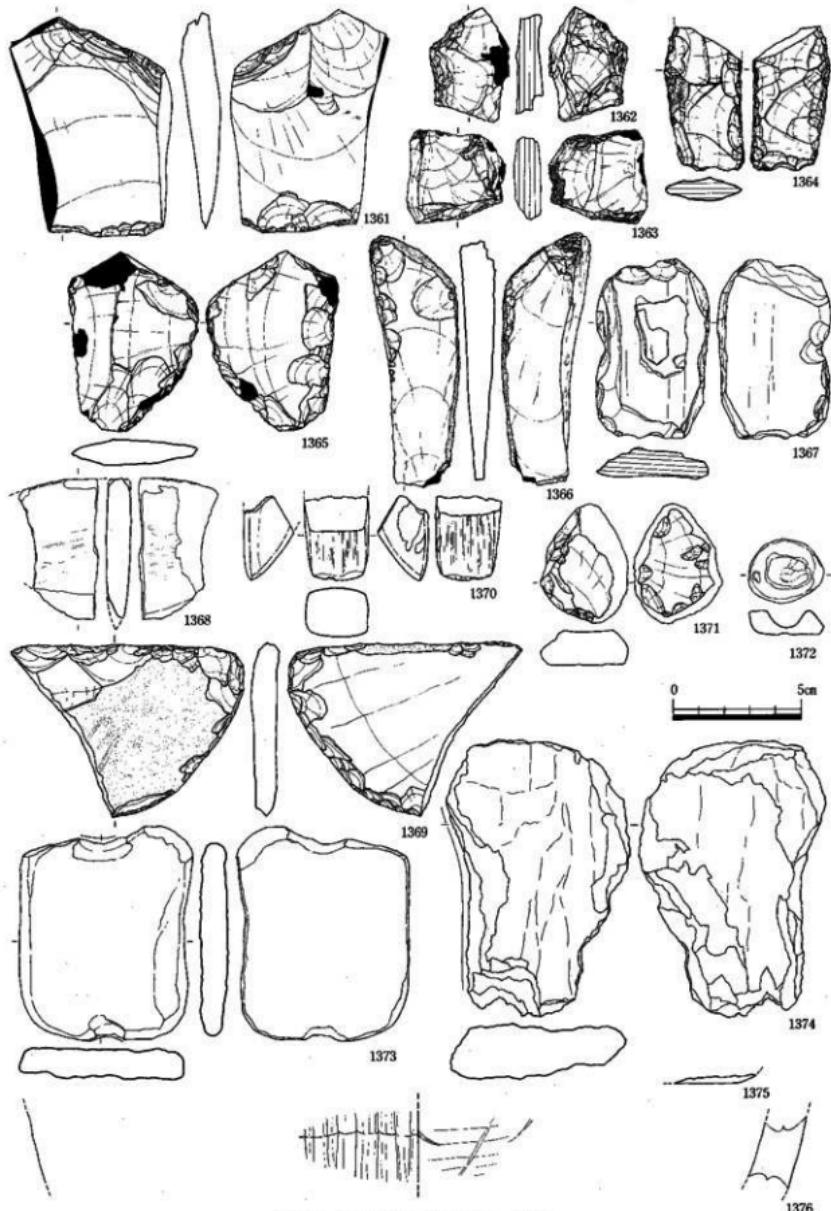
図62 包含器等出土遺物その2 (1/4)



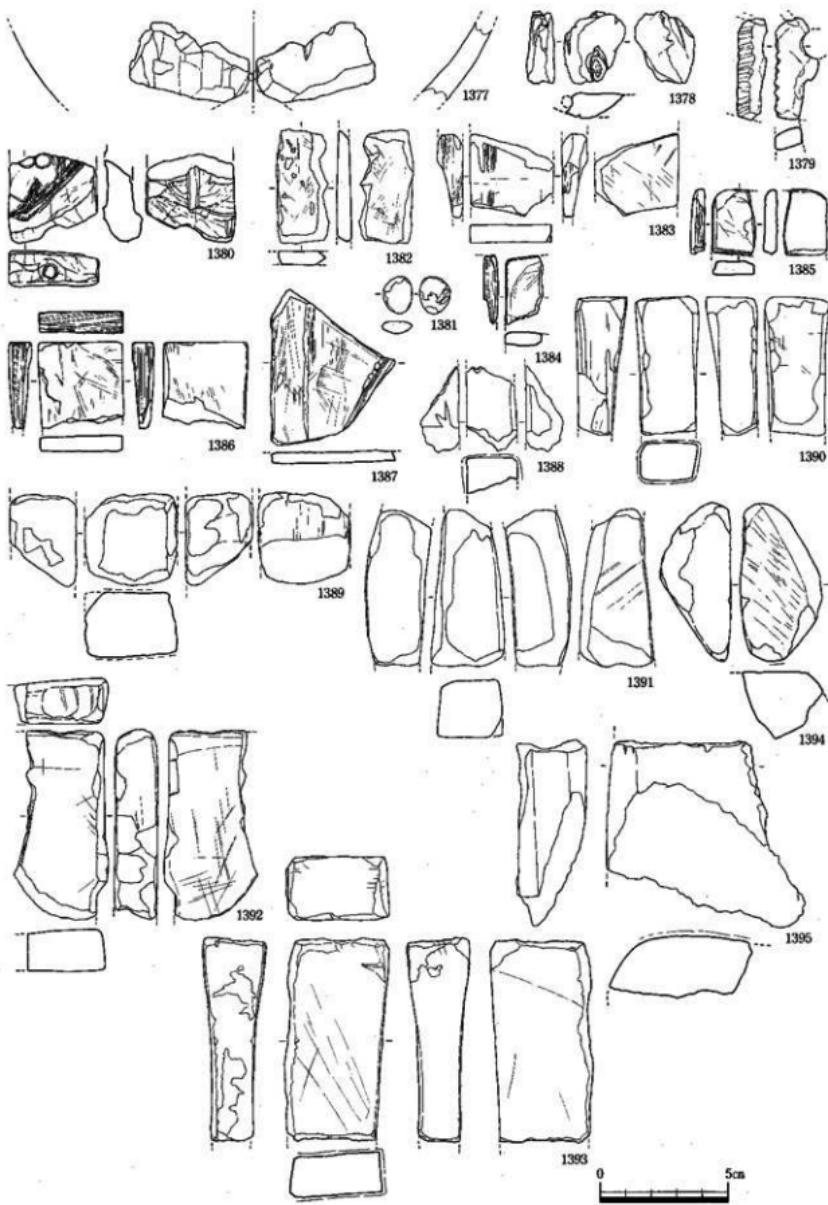
第63図 包含層等出土遺物その3 (1/4)



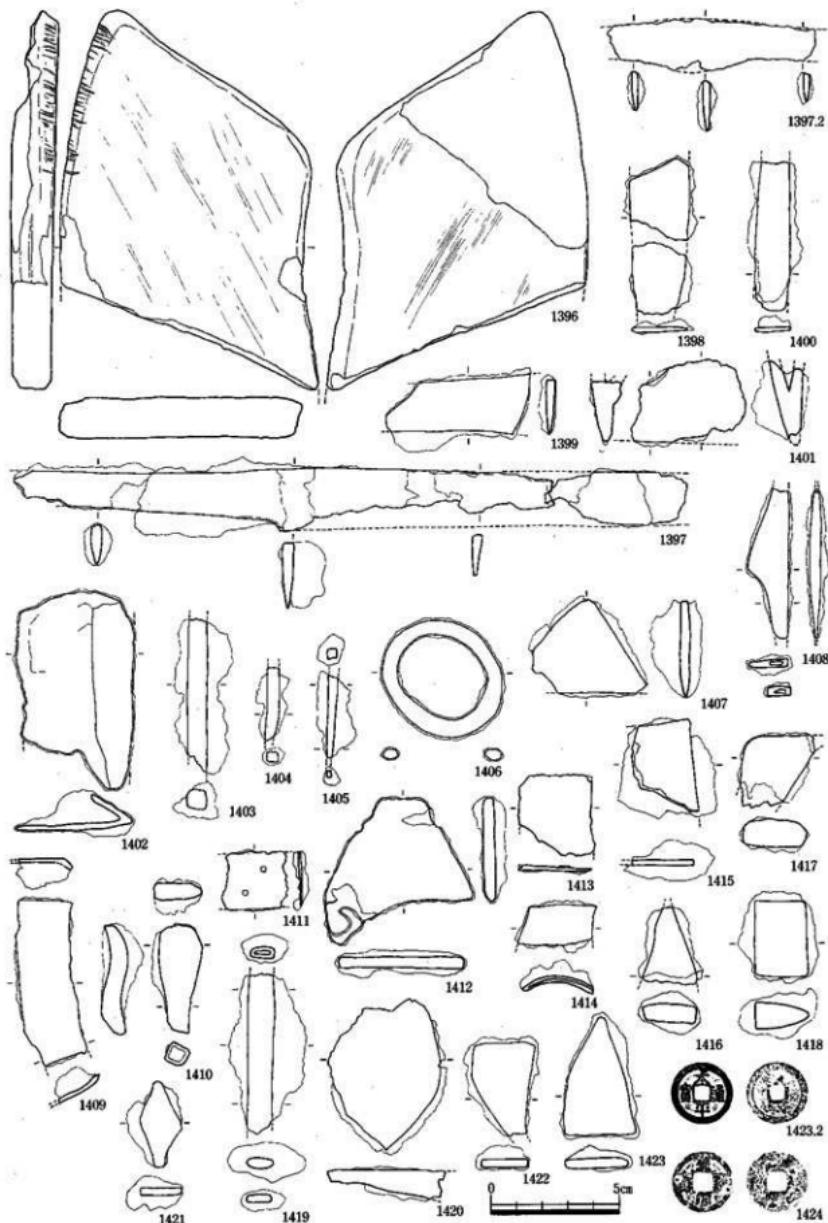
第64図 包含層等出土遺物その4 (1/4) (1/2)



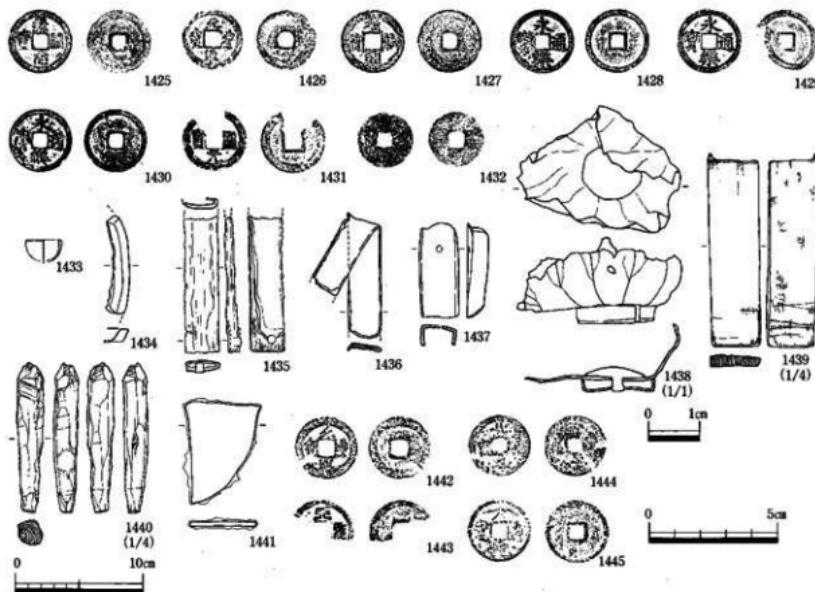
第65図 包含層等出土遺物その5 (1/2)



第66図 包含層等出土遺物その6 (1/2)



第67図 包含層等出土遺物その7 (1/2)



第68図 包含層等出土遺物そのB (1/1) (1/2) (1/4)

年)と考えられる。1428は、「中世の出土銭」135-1に類似する「永楽通寶」(初鋤年1408年)である。つまり、「永楽通寶」の間に「元祐通寶」が挟まれていたことになる。1429は、「中世の出土銭」135-1に類似する「永楽通寶」(初鋤年1408年)である。1430は上面精査時に出土したもので、「中世の出土銭」135-1に類似する「永楽通寶」(初鋤年1408年)である。1431は上面精査時に出土したもので、「元」「通」「寶」の三字が判読でき、「開通元寶」(初鋤年621、845年)、「漢通元寶」(初鋤年948年)、「周通元寶」(初鋤年955年)、「宋通元寶」(初鋤年960年)の可能性がある。1432は、上面精査時に出土したもので、銘は摩滅のため判読できない。1434は銅鏡の破片である。1435は目釘が残っている。1436は、1435と同様な遺物と考えられる。1438は「空港跡地IV」の1787と同様な金銅製紅皿と考えられる。

1439は、ヒノキ製と考えられる板で、一部につぶされた痕跡を残す。1440はマツ製と考えられるもので、一部が栓状に産んでいる。

1441~1445は第4層掘削時の遺物である。1442は、「中世の出土銭」51-7に類似する「元豐通寶」(初鋤年1078年)である。1443は第4層掘削時の遺物で、「中世の出土銭」38-6,7,8に類似する初鋤年1023年の「天聖元寶」である。1444は、「天元通寶」(初鋤年1158年)、「天元漢寶」(初鋤年917年)、「天聖元寶」(初鋤年1023年)のいずれかであろう。1445は、「中世の出土銭」65-2に類似する「大觀通寶」(初鋤年1107年)である。

第3章 B3区のまとめ

第1節 B3地区の遺構の変遷

1 旧石器時代

ナイフ形石器が若干出土しているのみである。

2 繩文時代

有舌尖頭器及び風化の進んだ石器が出土している。また、晚期突堤土器もわずか出土している。

3 弥生時代前期

溝跡及び十坑から土器片が出土している。また、サヌカイト製の石器もほとんどは当期のものと考えられる。

4 中世前半

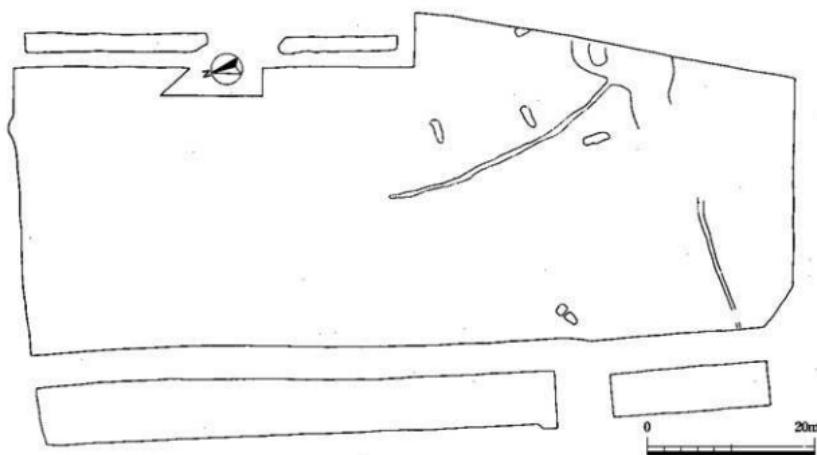
ここでは、14世紀までの時期を中世前半としておく。掘立柱建物跡、溝、井戸、土坑墓がある。ピットも多数あると思われるが、ここでは建物を構成するものだけを取り上げた。

南側では、やや方向が異なる溝で囲まれた方形の区画が3つ見られる。そのうち2つは1つの溝でつながっているので、同時期と考えられ、その方向は現在の地割よりやや西に傾いている。これは概ね鎌倉時代末頃の年代が考えられる。もう一つの区画は、先の区画より新しいもので、14世紀代の遺物を出土する。方向は、現在の地割とほぼ同じである。この区画と関連すると考えられるものに、掘立柱建物跡と土坑墓がある。掘立柱建物跡は、主軸方向で、概ね2つの群に分けられ、方形区画溝の方向とそれぞれ一致するものがある。また、土坑墓も主軸方向で概ね2つの群に分けられそうであるが、一つの群（現在の地割より西に傾く群）は、概ね鎌倉時代末の区画溝の方向と一致しするものの、もう一つの群は明確に区画溝に一致することは言えない。また、溝が区画の対象としているものについては、掘立柱建物跡1棟については明確であるが、他の掘立柱建物跡や土坑墓について区画対象となっているのかどうかは明確ではない。

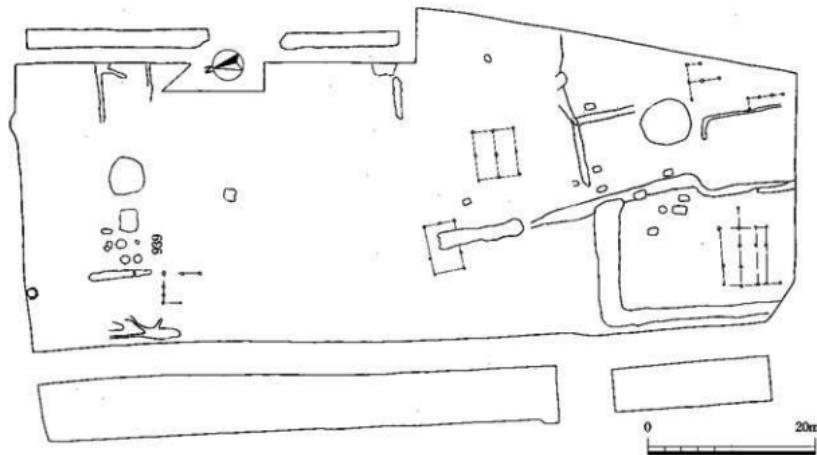
北側では、溝及び建物の方向はほぼ現在の地割に一致する。溝は、南側の区画溝の延長である可能性がある。密教で使用される六器の一つである銅鍤を出土した柱穴S P939からは、鎌倉時代末頃のほぼ完形の土師器杯が出土している。また、この周辺の土坑（大型の柱穴か）も同時期の遺物を出土し、復元はできないが、このあたりに鎌倉時代末頃の仏教に関連した建物跡が想定できそうである。

5 中世後半

南側では、調査区南端に溝が1条あるので、遺構はほとんど見られない。中央から北側にかけて、現在の地割に方向が一致する溝で囲まれた南北長約60mの区画が存在する。区画西側には、溝が約1.5mとざれる部分があり、区画への進入口と考えられよう。また、上層で近世の遺物が出土したS D35は、現在の水路のため、半分程度調査できていないと考えられるが、幅4m程度、深さ50cm以上を想定できる大きな溝である。最下層から中世前半の土器が出土したことで、この大溝の上限を中世前半まで遡らせることができるかどうかは不明である。ただ、中世後半に幅4mのこの大溝があったとすれば、大溝

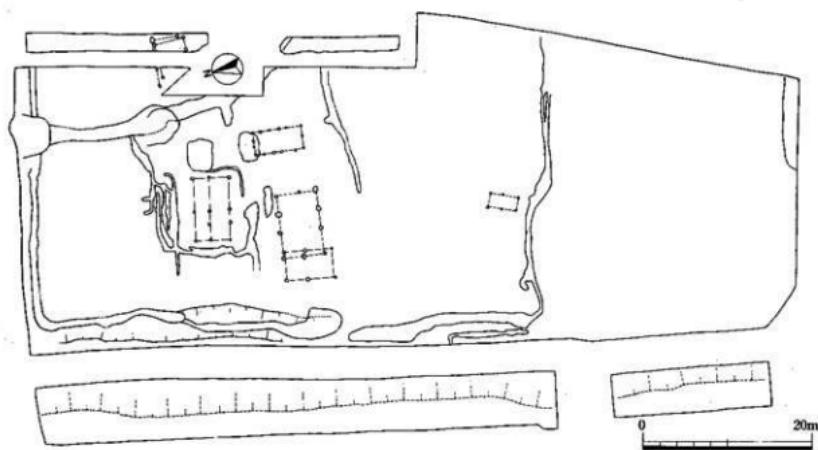


弥生時代前期

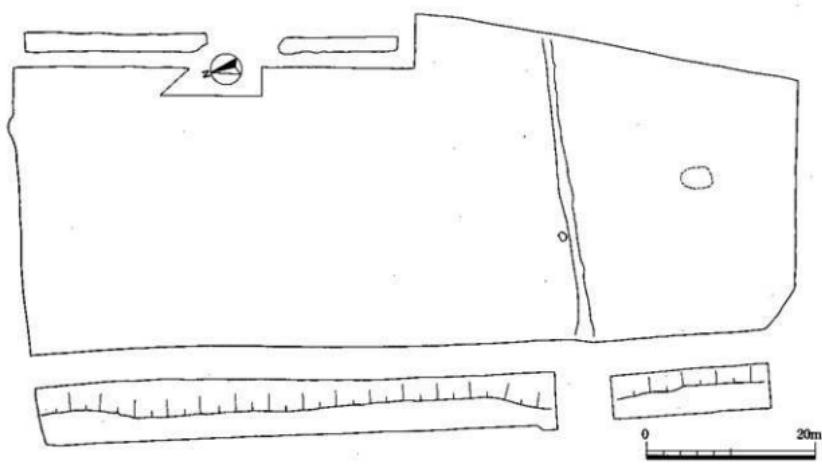


中世前半

第69図 B3区遺構変遷 (1) (1/600)



中世後半



近世以降

第70図 B 3区遺構変遷 (2) (1/600)

と区画溝の間は3m程度の巾が想定できる。

区画溝からは中世前半から16世紀前半までの遺物が出土する。復元できた掘立柱建物跡からは16世紀前半の遺物が出土することから、第70図は16世紀前半の状況を示していると言えよう。掘立柱建物跡のうち1棟は、小規模な溝に囲まれている。15世紀代と考えられる遺構は復元できないが、出土遺物には15世紀代のものもあることから、ある程度16世紀段階の状況をそのまま辿って考えることができるのかもしれない。

6 近世以降

溝S D35及びそれにはほぼ直交する溝跡がある。現存していた塙は、上面で中世への関連を考えされるような遺物が残っていたが、塙内部及び下部には遺構は存在しなかった。現状がどこまで遡るかは不明とせざるを得ない。

第4章 A2・B2・C区の調査

第1節 調査成果の概要

1. 地形と土層序・遺構分布（第71図）

A2・B2・C区は、西打遺跡全体で中央部に位置する調査区であり、標高2m前後を測る。調査前は水田として利用されており、現畦畔や水路によって条里型地割が良好に遺存していた。

調査区全体の地形を検討材料と成り得る土層図が作成されていない為、本報告書第1巻（以下、第1巻という）における微地形の検討や予備調査時の所見を交えて概略的な説明にとどめる。

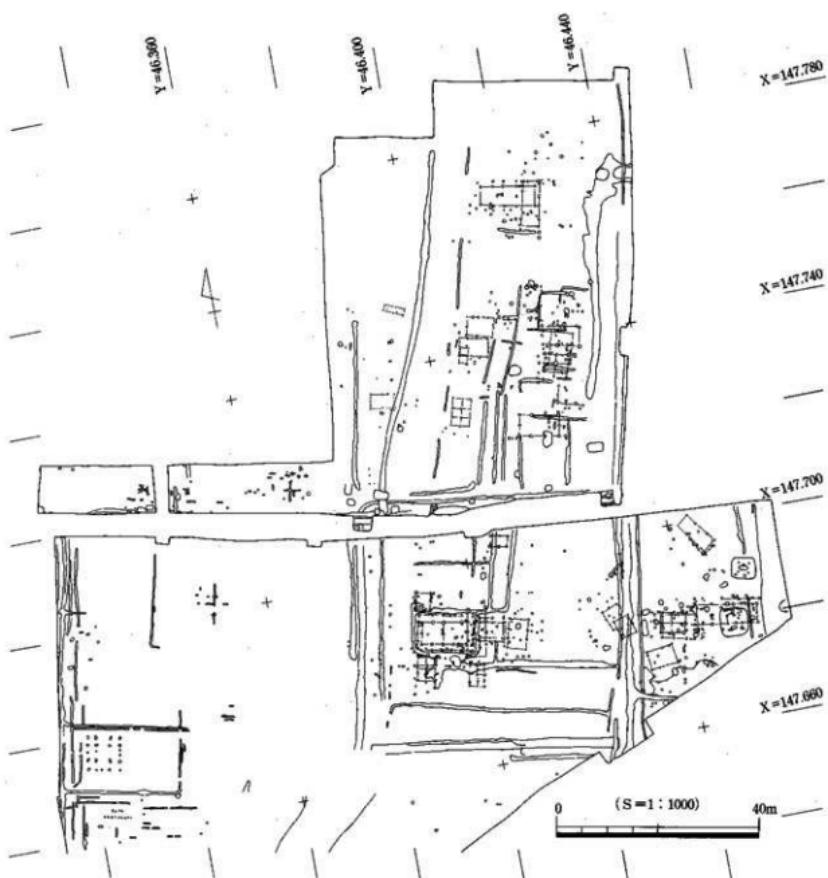
現地表面の標高は、B2区南端部で3.4m前後・A2区東端部で3.0m前後・C区北端部で2.9m程を測り緩やかに北へ下る。各調査区でややバラツキがあるが、現地表面から0.2m前後の現水田耕作土・床土が見られた後、0.1~0.3m程の中世~近現代の遺物を包含する灰色系シルトが確認される。これらの下位には、黄灰色乃至黄色シルトと呼ばれる粘質土が見られ、ここで報告する遺構は基本的に本層上面において検出している。遺構の所属時期は、弥生時代後期から中世後半までかなりの時間幅が存在することや、上層の灰色系シルトが概ね水平堆積すること、後述するように遺構埋土に幾つかのパターンが見られることから、耕地化などに伴って先に見た黄灰色粘土層が削平されつつ各時代の遺構が形成されたと見るべきであろう。

また、第1巻で報告しているようにA2・B2東半部には、B1区から北へ続く縄文時代前期の旧河道が存在する。この旧河道は、遺構検出面である黄灰色シルトを切り込んで堆積しているため、A2区B2区東半部では、この旧河道（暗褐色粘質土・暗褐色砂泥シルト）上面において遺構を検出した。大変遺憾ながらA2・B2区では、この下面の旧河道の調査を行っていないことと、壁面図作成を行っていない十分な為、詳細な堆積状況を提示できない。

検出した主な遺構を時代別に列挙すると、縄文時代晩期・弥生時代後期終末・中世11c後半~12c前半・中世13後半~14c初頭の4時期が挙げられる。この内、遺構内容が充実し集落構成が把握できるのは弥生時代後期と中世の2期の3時期である。弥生時代後期終末期の集落はA2区において検出された。堅穴住居2棟・掘立柱建物6棟から構成され、出土土器から見て比較的短期間に形成されたものと見る。その出現と消滅についての要因は定かではないが、当該期の集落構成・単位を示す良好な資料となるだろう。中世11c後半~12c前半の集落はB2・C区において確認した。B2区のそれは条里地割に規制された1/4町程の「屋敷地」と呼べるもので、小規模ではあるが、溝によって周囲を方形に囲郭し内部には40m²の主屋を中心とした10棟程の建物群が見られた。C区の当期集落は、このような明確な形態は採らず、掘立柱建物が穢やかに集合するもので、B2区の屋敷地に付随するものと思われる。

13c後半~14c初頭にかけての集落は、A2・C区において検出した。いずれも1~3棟程の掘立柱建物が散在する形態を探り、その凝集度は低い。また、この段階には、ほぼ調査区全域において条里型地割溝が確認でき、耕地經營も活発化している状況である。これらの詳細な変遷過程については、第5章1節を参照していただきたい。

なお、本章で掲載する土器の実測図において口縁内面を破線で表現しているものについては、口径が1/8以下のものを示し、法量・傾きの点で検討の余地があることをお断りしておく。



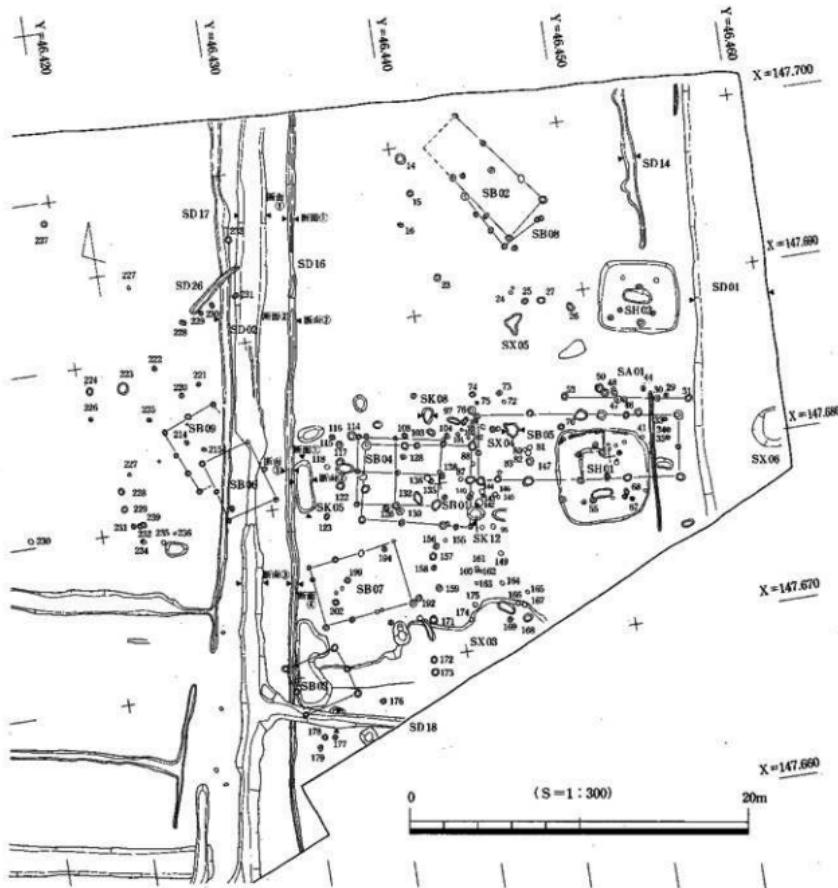
第71図 A2・B2・C区遺構配置

第2節 A2区の調査

1. 調査の概要（第72図）

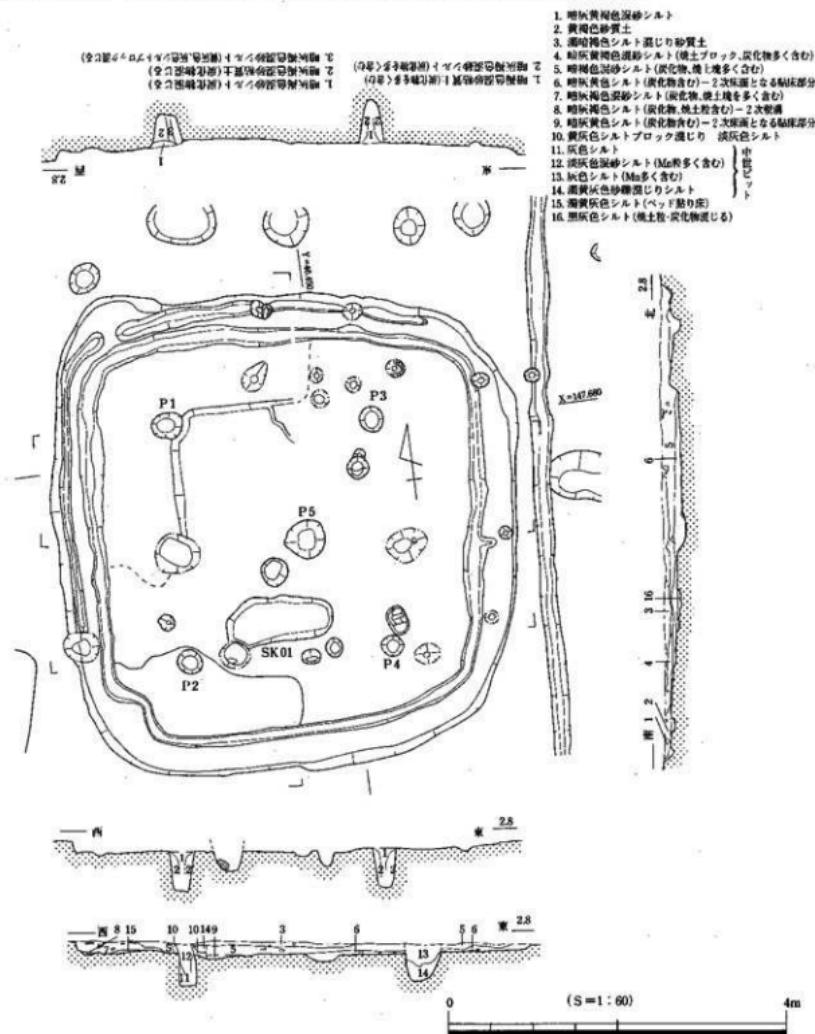
弥生時代後期終末の集落と中世13c後半～14c初頭代の集落を確認している。この弥生後期終末の集落は掘立柱建物6棟・堅穴住居2棟より構成され、出土土器の様相から短期間のものと推定される。また、堅穴住居数に対して掘立柱建物それが卓越することは注意されよう。

13c 後半～14c 初頭の集落は、調査区東側の条里坪界溝である SD02・16と、調査区東端において検出した SD01間で検出した。柱穴出土遺物で実測可能なものはすべて固化したが、殆どのものはこの13c 後半から14c 初頭のものであることから、本調査区の集落はこの時期に限られたものと考えたい。



第72図 A2区造構配置

調査区内で、掘立柱建物は合計9棟検出しているが、先に見た弥生時代後期終末期のものと中世期のものでは、埋没土の色調や主軸方位が異なる。中世13c後半~14c初頭の掘立柱建物は、座標北から10°乃至100°東偏する条里地割の方位に統一されるのに対して、遺物を伴う弥生時代後期の掘立柱建物(SB.03.06)は、主軸方位を座標北から17°乃至96°西偏する。これらと埋没土の特徴を考慮し、出土遺物の無い掘立柱建物に関しては弥生時代後期終末として時期決定を行った。



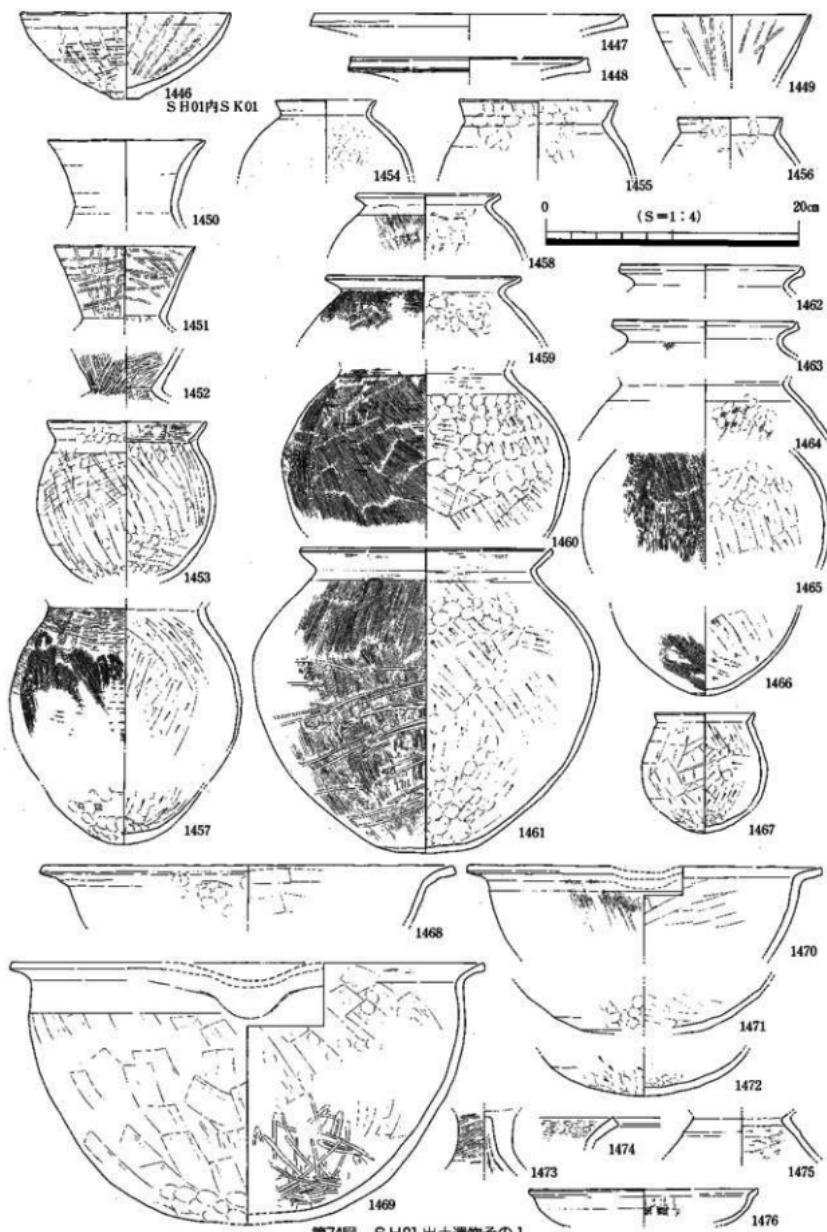
第73図 SH01平・断面

S H O I (第73~75回)

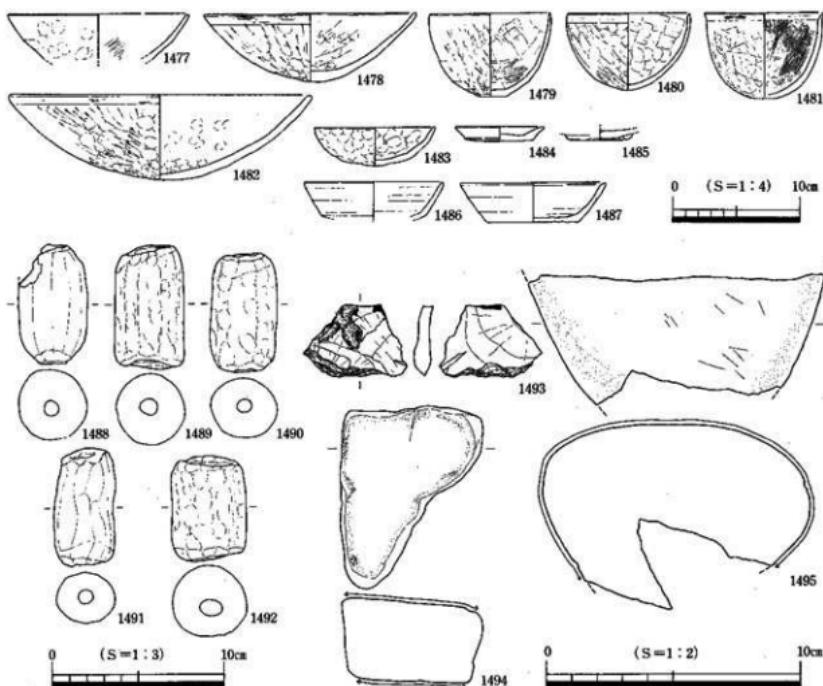
X=46.450 Y=147.680付近で検出した5.7×5.5mの隅丸長方形を呈する堅穴住居である。残存深は0.3m程を測る。住居外郭線は東半部がやや丸みを帯びるが、概ね直線的である。住居床面にて、壁溝を検出した。また、これらは住居北辺・西辺部には重複してみられることから立て替え等が想定されるが、土層観察では確認できていない。北西部の住居外郭線の乱れがこれらを反映する可能性があるが、定かではない。ほぼ住居中央に炉跡と考えられるP5を確認し、その周囲に主柱穴を4基検出した。構築ベース面の土層中には、多量の含礫を認めるが、張床層は確認していない。住居北西部から南西部部分にかけて、地山削り出しによる高さ0.1m程のベッド状遺構を辛うじて確認したが、東半部については調査ミスによって消失し、元来は全周していたものと思われる。また、住居中央部のやや南側において、長軸1.5m・短軸0.5m・深さ0.1m程の梢円形を呈する土坑(SK01)を検出した。土層観察や主軸が住居東西ラインと合致することから、住居に伴うものと判断する。埋没土は若干の焦土粒と炭化物が混入する黒灰色シルトである。

出土遺物は、主に覆土中より出土した。1446の鉢のみSK01より出土している他はすべて住居覆土中より出土した。また、胎土中に角閃石を多量に含む下川津B類は見られない。1446は内面に放射状のミガキをとどめる鉢である。1447・1448は広口壺の口縁部。1449~1452は直口壺である。口縁部がやや内傾する1449・1452や直立ないし外反する1450・1451があり、形態にややバラツキがある。1453~1467は甕である。全形が判明するものについては、すべてに内面ヘラケズリを認める。外面の調整方法は、板ナデ調整を主体とする1454・1456・1467、加えてタタキが明瞭なもの1453・1457、ハケ調整が顕著なもの1459~1461・1465が存在する。底部形態に平底は見られない。1459~1461・1465は頸部内面にヘラケズリ後の指オサエが明瞭に見られる。1468~1472は、大・中形の鉢である。1469・1470は片口鉢である。1473は高杯の脚部片である。1475は山陰系の鼓形器台脚部片である。小片の為、径・傾きに検討の余地を残す。内面に横方向のヘラケズリ、外面に段の部分が残存する。胎土は、遺構内の他の土器との明確な差違は見られないことから、同地域からの直接の搬入品ではない。1476~1483は小形鉢である。底部が確認できるものに関しては平底は見られない。1488~1492は、管状土錘である。すべてほぼ完形で、住居覆土中の北西コーナー部分より集中して出土した。詳細な法量は観察表を参照されたい。1484~1487は中世期の混入品である。1484は土師質土器皿である。1485は十瓶山窯産須恵器柄である。1486・1487は土師質土器杯である。これらは概ね13c後半~14c初頭に比定することができ、住居周辺の中世期の諸遺構の年代観と矛盾しない。1493~1495は住居覆土中から出土した石器である。1493はサヌカイト製のスクレイパーである。素材の風化がやや進行していることから、直接本住居に伴うものかどうかは分からぬ。1494は砂岩製の砥石である。1495は安山岩製の磨石で全面に使用痕を認める。また、本住居覆土層からは図示した以外に石器が出土しているが、住居構築面が、弥生前期以前の堆積層ということもあり、本住居に伴うものの抽出は十分にできなかった。詳細は第5章第2節を参照されたい。

甕・鉢における球脛化や明瞭な平底の底部の喪失、胎土中に角閃石が見られる下川津B類土器が見られない点などから後期終末期でも新しい段階の資料群と言える。中央炉出土の1446と他の埋土中出土のものを比較しても明瞭な時間差は看取されない。これらより、本住居の機能・廃絶時期を弥生後期終末期とする。



第74図 SH01出土遺物その1

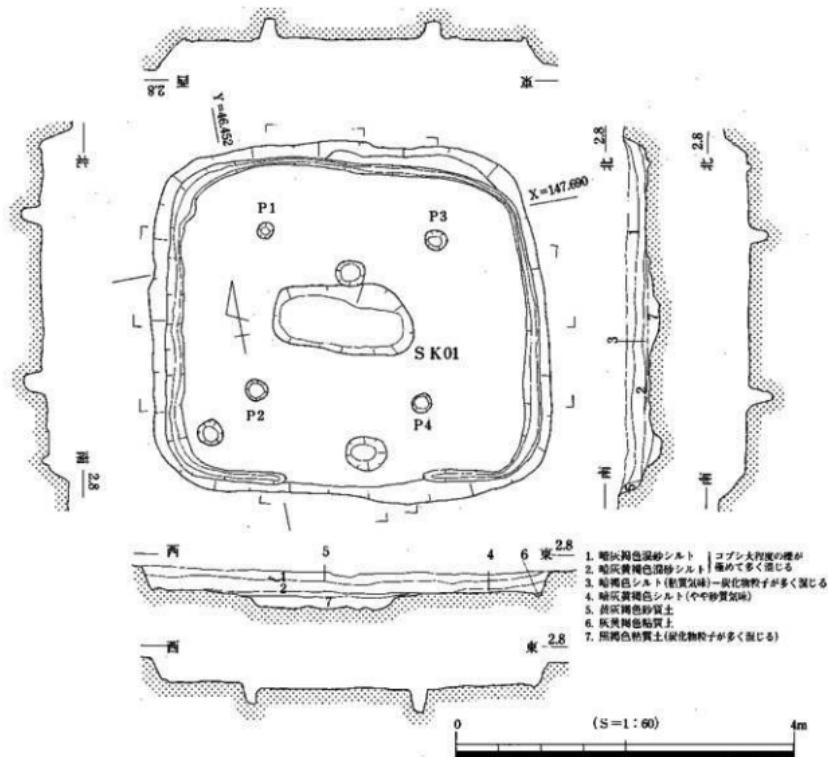


第75図 SH01出土遺物その2

SH02 (第76~79図)

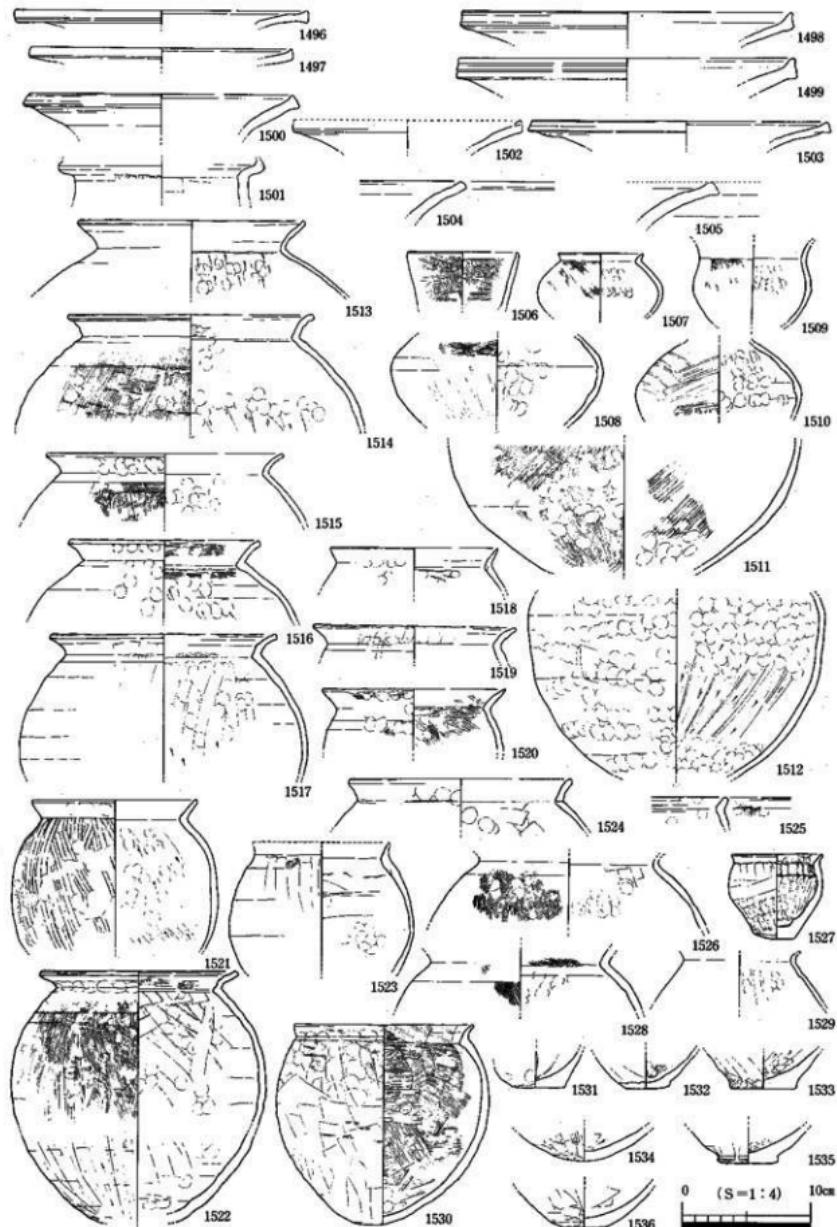
X = 147.690 Y = 46.452付近で検出した南北4.2m東西4.6mを測る隅丸方形の竪穴住居である。住居外郭線はほぼ直線的で、住居方位はSH01とほぼ揃う。残存深度は0.4m程と良好であり、埋没土は大きく2層に分かれて堆積する。住居主柱穴は、壁面より1~1.4m程離れた位置で4基検出し、その配置は住居外郭線にはほぼ揃う。中央部において、平面形が 1.1×0.9 m稍円を呈し深さ0.2m程の中央炉を検出した。埋土には炭化物が多量に含まれるが、比熱痕は明瞭ではない。壁溝は、住居南辺中央部で途切れる以外はほぼ全周する。この部分に土坑を1基検出した。断面観察より住居に伴うものである。住居覆土中からは、土器群が多数見られたが、明確な床面出土遺物は確認できなかった。1496~1609の土器群は、すべて埋土中からの出土遺物である。

1496~1500・1502~1505は広口壺の口縁部片である。いずれも口縁端部付近に強いヨコナデが見られ、1499はやや拡張した口縁端部に弦線を2条施す。1501は口縁部が内傾する複合口縁壺と思われる。1506・1508・1510は細頸壺である。1511・1512は壺の脇部最大径付近から底部付近と思われる。1511は内・外面にハケ調整が見られる。1512は内面にタテケズリ、外面をナデによって仕上げる。1513~1541は壺である。1513は内面の頸部付近までケズリが及ぶ。1514は肩部外面に密なタテハケが見られ、その下に平行タタキが僅かながら観察される。1516~1520は外面を板ナデしないナデによって仕上げるが、口縁部のヨコナデは緩い。1521は脇部外面にやや粗いタテハケを施し、内面の頸部付近までタテケズリが及

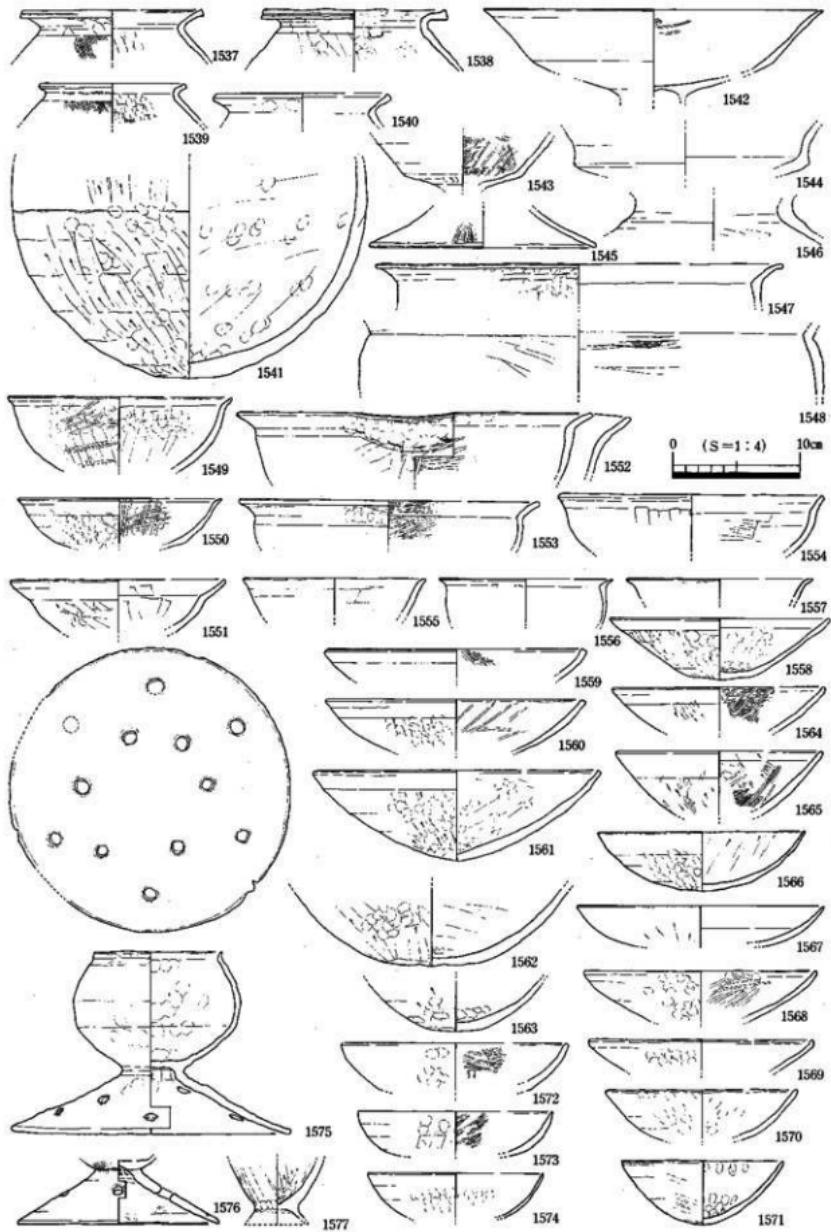


第76図 SH02平・断面

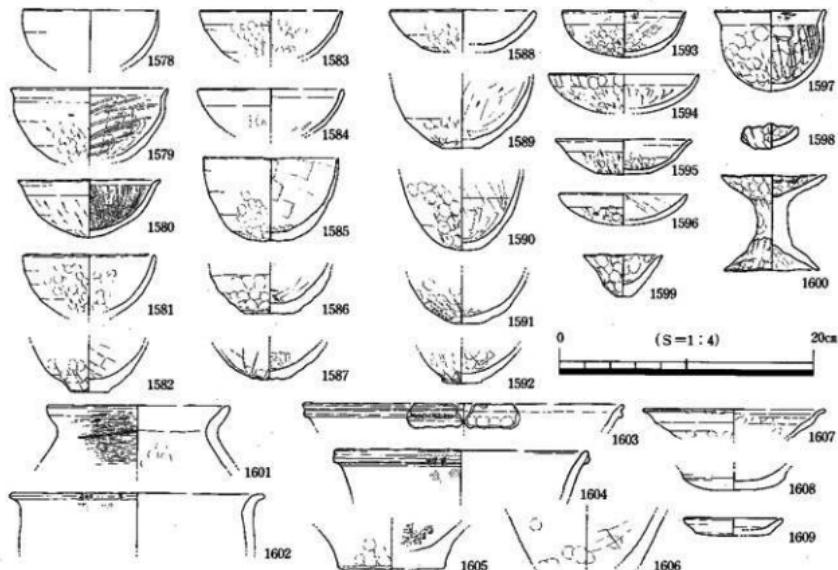
ぶ。1522は胎土から見て同一個体と判断した為、図上復元した。1523は他のものに比べて口縁が短く屈曲する。1530は内面に密なヨコハケ、外面に板ナデ痕を明瞭にとどめる完形の甕である。1537~1540は口縁部に強いヨコナデが施される一群の甕である。1538は口縁端部外面に凹線状の沈線を1条認める。1541は甕として図化したが、外面のケズリ調整や器壁が厚いことから見て大形鉢の可能性もある。1541~1544は高杯である。1542・1543は、杯部が口縁端部に向かって直線的に外反する形態のものである。1543内面には放射状のタテミガキが見られる。1544は口縁部が屈曲部を境に反転するものである。1547~1574・1578~1597は鉢である。口縁部に着目すると明瞭に外反する1547~1553とそのまま納める1558~1597、その中間的なもの1554~1557がある。1552は片口鉢である。外面にやや強い板ナデ痕、内面にヨコミガキが観察される。1558~1563は皿形の鉢である。外面を縱方向の板ナデないしケズリ調整を施し、内面はナデを基調とするがタテミガキ・ヨコハケが見られるものもある。また、内・外面に指オサエをとどめるものが殆どである。底部形態は丸底が大半で明瞭な平底をもつものは確認できない。1572~1574は椀形の鉢である。底部形態を見ると、1582・1586・1589が若干の平底をとどめるが明瞭ではなく、他のものはすべて丸底である。



第77図 SH02出土遺物 その1



第78図 SH02出土遺物 その2



第79図 SH02出土遺物 その3

1575はほぼ完形の台付鉢である。据部が脚部に合計12個の透かしを穿つ。1576は上半部を欠損するが、1575と同形の台付鉢の脚部片と思われる。1577は形態が製塙土器に類似するが、外面にタタキ痕が見られない為台付鉢とした。1660は支脚状の器台である。1598・1599は手づくね状の土製品である。

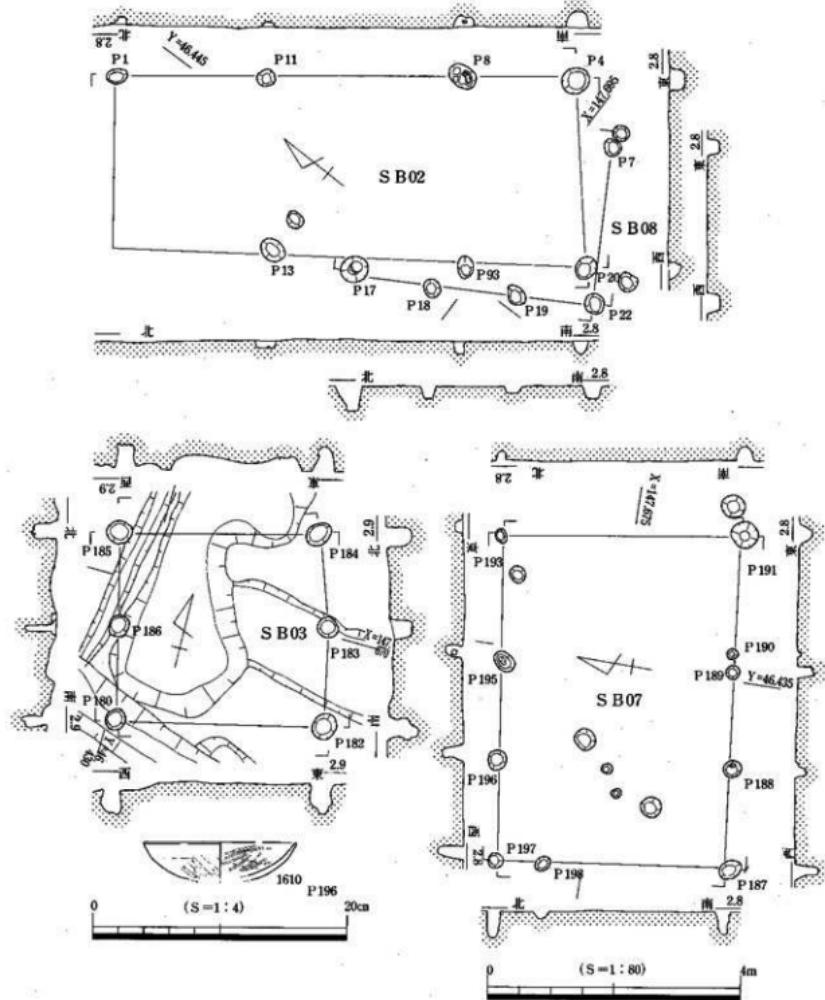
1601～1609は住居埋土中の混入品と思われる。1601～1606は弥生前期の土器群である。1601は壺口縁部片である。口頭部境にヘラ描沈線を1条施す。1602は如意形口縁壺である。胴部外面は若干磨滅が進行しているが、沈線は確認できず無文である。1603・1604は突帯文系の壺である。両者とも突帯上に刻目を認めるが、1603は口縁部が僅かに外反する。1605・1606は如意形口縁壺の底部片である。1607・1608は土師質土器杯である。1609は土師質土器Ⅲである。これらは13c後半～14c初頭に位置づけられる。

S B02 (第80図)

X = 147.695 Y = 46.455付近において検出したA2区の弥生後期終末期の遺構群の中で最も北側に位置する掘立柱建物である。北西隅柱1基のみ認められないが、1間×3間 ($3 \times 7\text{m} = 21\text{m}^2$) の規模を測り建物主軸は座標北から 37° 西偏する。出土遺物は確認できなかったが、建物主軸・埋土の特徴から見て弥生時代後期終末の所産と考えてよい。柱間は1～1.3mバラツキが見られるが、桁方向の対面する柱穴配置は概ね対応する。柱穴平面形は円形を基調とし、深度は一定ではない。

S B08 (第80図)

S B02に重複して南側の梁行と西側の桁行の柱列のみ検出した。建物規模は、1間×3間 ($2.4 \times 1.9\text{m}$

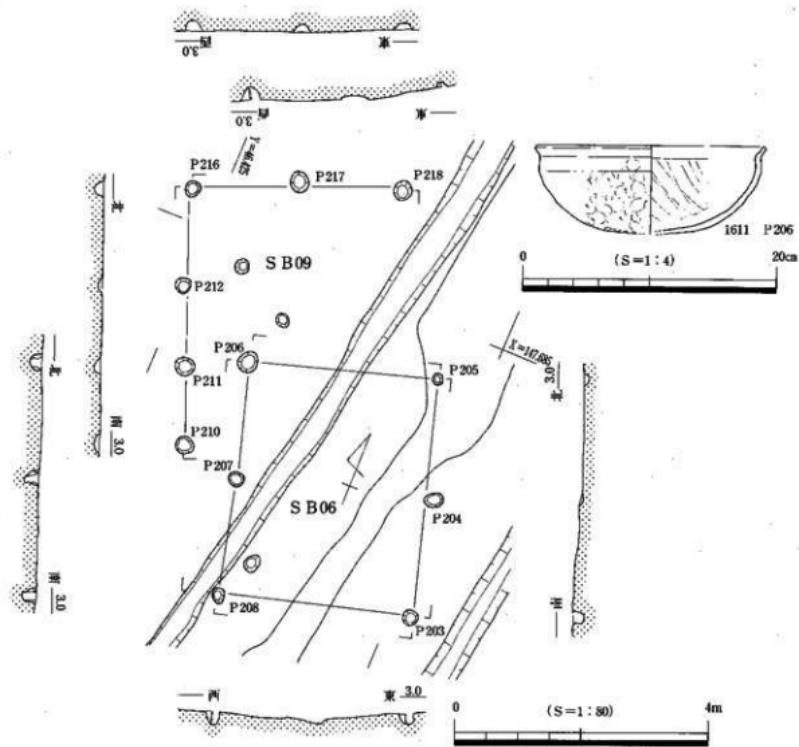


第80図 SB02・03・07・08 平・断面及び出土遺物

= $4.56m^2$) を測り建物主軸は座標北から 30° 西偏する。桁行の柱間は $0.8m$ とやや狭い。出土遺物はないが、主軸方位と埋没土の特徴より、弥生時代後期終末の所産とする。

SB03 (第80図)

A 2 区の南半部 X=147.670 Y=46.430付近において検出した 1 間×2 間 ($3.2 \times 3 m = 9.6m^2$) の規模を測る掘立柱建物である。遺物は出土しなかったが、建物主軸は座標北から 17° 西偏し、他の弥生時代



第81図 S B06・09 平・断面及び出土遺物

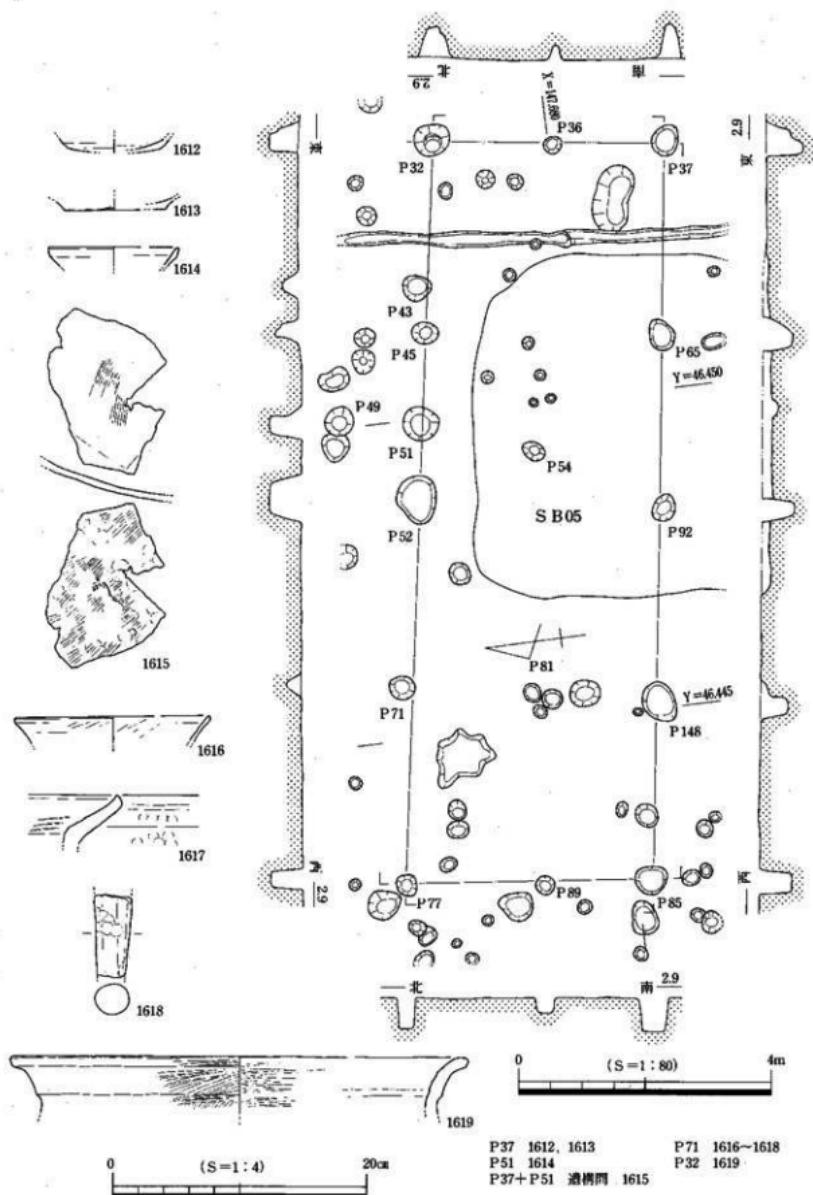
後期終末の所産と思われる建物とほぼ合致することや、埋没土の特徴から同時期のものとする。柱穴上面を中世造構によって削平されているが、深度は0.4m前後と他のものに比べて深い。

S B07 (第80図)

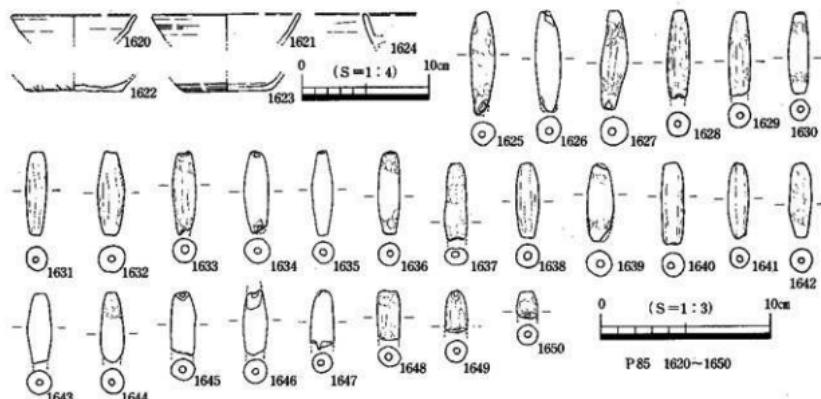
S B03の北側 X = 147.675 Y = 46.435付近において検出した掘立柱建物である。1間×3間 (3.6×5 m = 18m^2) 建物主軸は座標北から 98° 西偏させる唯一の東西棟を採用する。桁方向の柱間は $1.2 \sim 1.6$ m と一定しないが、柱通りはよい。P 196より1610の弥生時代後期終末の鉢が出土している。

S B06 (第81図)

X = 147.685 Y = 46.425付近で S B09と重複して検出した掘立柱建物である。1間×2間 (3×3.6 m = 10.8m^2) を測り、座標北から 17° 西偏する南北棟を探る。桁方向の柱間はほぼ 1.8 m に揃い柱通りもよい。北西隅柱である P 206より弥生時代後期終末に比定される鉢が出土している。



第82図 S B 05 平・断面及び出土遺物



第83図 SB05 内P85 出土遺物

SB09 (第81図)

$X = 147.685 \quad Y = 46.425$ 付近で検出した掘立柱建物である。桁方向の東側柱列は未確認だが、2間×3間 ($3.4 \times 4.2m = 14.28m^2$) の柱構造をもつものと思われる。建物主軸は座標北から 22° 西偏し、重複するSB09とは同一主軸である。出土遺物は無いが、建物主軸方向・埋没土からみて、弥生時代後期終末の所産と考える。

SB05 (第82・83図)

$X = 147.680 \quad Y = 46.450$ 付近で検出した掘立柱建物である。2間×4間 ($3.8 \times 11.6m = 44.8m^2$) の柱構造を採り、建物主軸は座標北から 99° 東へ振るもので条里地割に合致した東西棟である。桁方向の柱間は3m前後とやや長い。また、十分に検討できていないが、P54・P81は東柱の可能性がある。この $44.8m^2$ という床面積から、当期の集落の中心的な建物と考えられる。

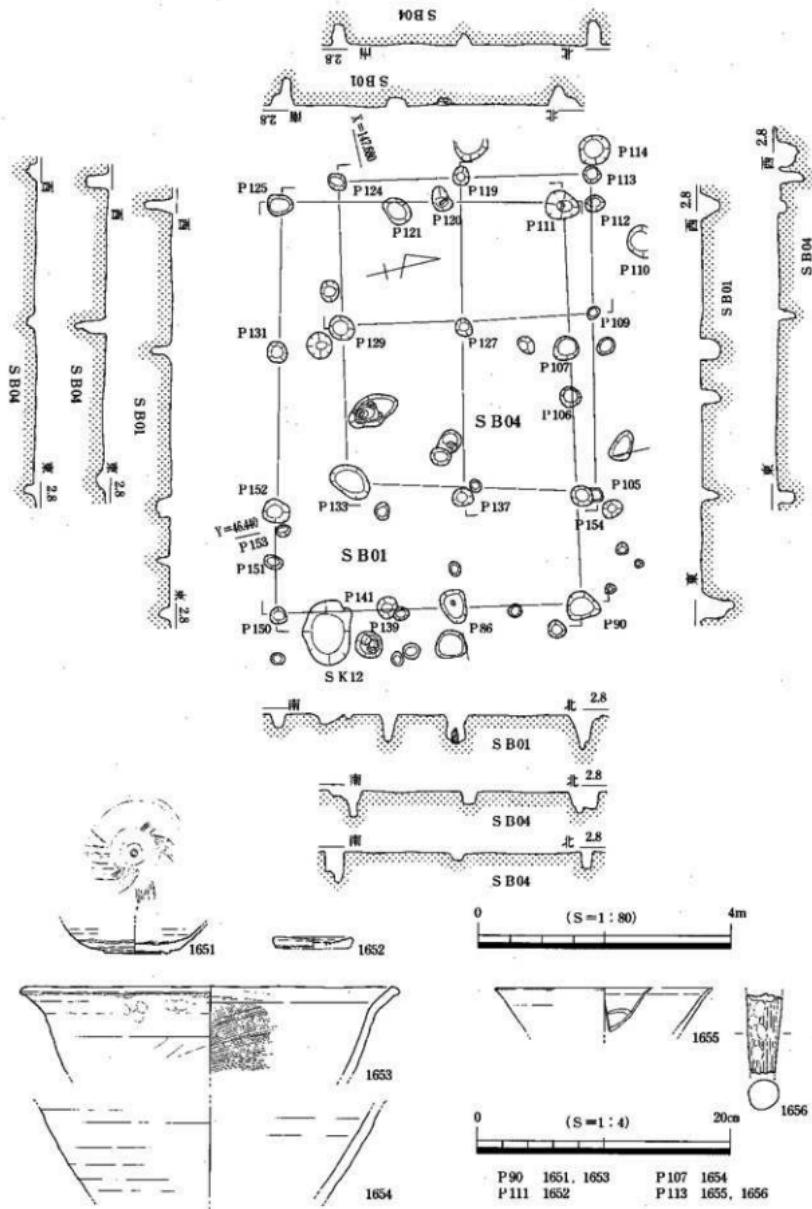
出土遺物は各ピットより出土したが、中でもP85からは1620～1623の土師質土器杯と1624の土師質土器足釜と、1625～1650の管状土錘が一括して出土している。1619は弥生前期壺の口縁部である。口頭部壺の段の部分が突堤状を呈するもので、弥生前期の中でも古相を示す属性を備える。当該期造構面下層よりの混入と考えられる。

これらの出土遺物から本建物の時期は、13c末に廃絶したものとする。

SB01 (第84図)

$X = 147.680 \quad Y = 46.440$ 付近において、SB04と重複して検出した2間×3間 ($4.8 \times 6.4m = 30.72m^2$) の柱構造をもつ掘立柱建物である。建物主軸は座標北から 103° 東へ振った東西棟で、条里型地割に合致するものである。

出土遺物はP90より1651の十瓶山窯産須恵器碗と1653の土師質土器鍋が、P107より1654東播系須恵器鉢が出土している。これら出土遺物より本造構の廃絶時期を13c末～14c初頭とするが、出土遺物を見る限り重複するSB04との明瞭な時間差は見られない。



第84図 SB01-04 平・断面及び出土遺物

S B04 (第84図)

S B05の西側のX=147.680 Y=46.440付近で検出した2間×2間(3.6×4.4m=15.84m²)の縦柱構造をもつ掘立柱建物である。建物主軸は座標北から100°東振ったもので、北側の桁行の柱間がバラツキを見せるものの、それ以外の柱間の間隔は揃っている。

出土遺物はP111から出土した1652の土師質土器皿とP113より出土した1655白磁Ⅳ類の碗がある。1652の土師質土器皿の諸属性より、本遺構の廃絶時期を13c末葉とする。

S D01 (第85・86図)

調査区東壁にはほぼ沿って南北に検出した溝である。東肩部分が調査区外に延びるが、上面幅5.2m以上・深さ0.4~0.5m程を測る。方位は条里坪界溝であるS D02・16とは平行し、座標北から10°前後東偏し直線的に延びる。埋没土は概ね4層に大別され、各層境は明瞭である。後述するように出土遺物の時間幅から、比較的長期間維持された可能性があることや先の条里坪界溝よりも大規模であることなどから、坪内の区画あるいは集落内の建物群の区画以外の機能を推定すべきであろう。

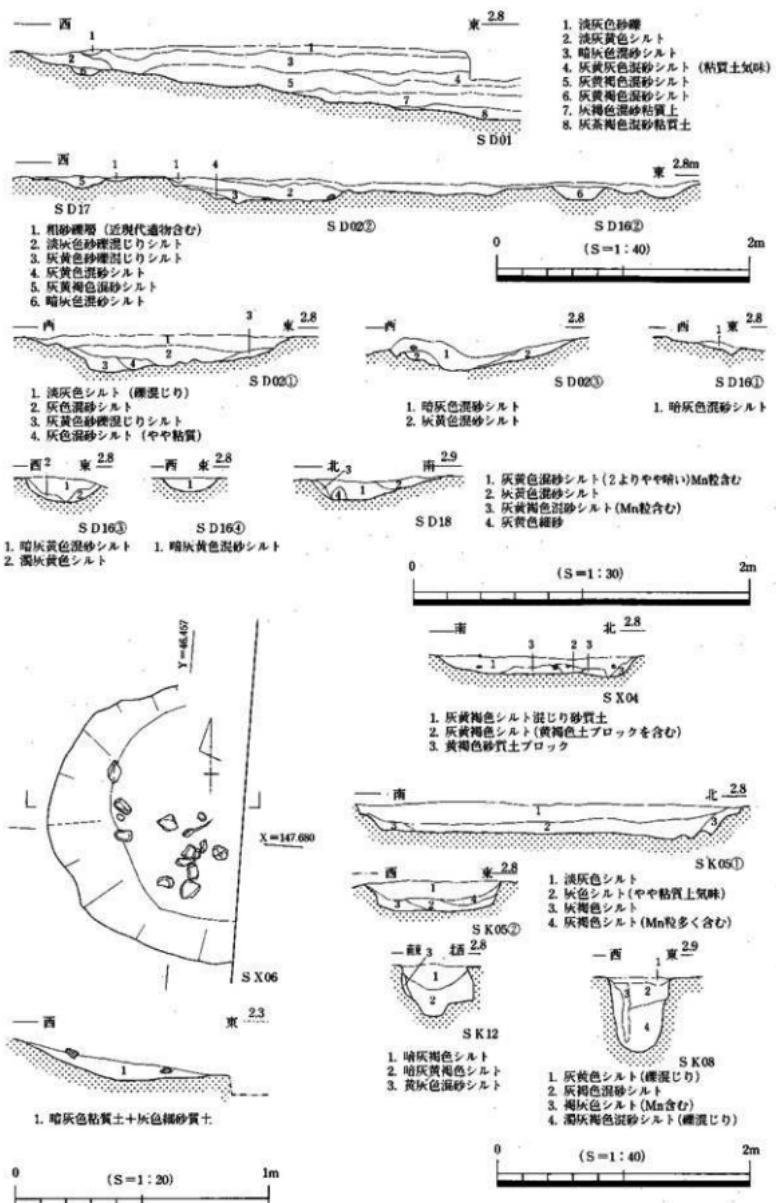
また、本遺構内の調査区南辺付近において円形の落ち込み(S X06)を検出した。このS X06は最下層に対応する層準を除去して検出されたが、掘り込まれた層準は明確ではない。また、東半部分は未確認であるが、円形ないし梢円形を呈するものと思われる。立ち上がりが緩やかなことと、埋没土の特徴が最下層の層準と概ね一致することから、人為的に掘り込まれたものではなく、溝底面の局所的な底面の落ち込みである可能性が高い。

出土遺物は基本的に大別した層位に基づいて取り上げている。最下層からは1675の12c後葉に比定される十瓶山窯産広口壺や、1671~1673の13c末葉~14c初頭の土師質土器杯が出土している。この内、前者を混入とし後者を本溝の掘開時期を示すものと見ておきたい。1674は白磁Ⅳ 1 a類の碗である。1678は十瓶山窯産須恵器壺の肩部片である。1676は口縁部の屈曲が甘く類例に乏しいが、土師質土器鍋とした。下層からの出土遺物はいずれも細片で固化に至っていない。中層からは1665の十瓶山窯産須恵器壺の胴部片、1667の備前焼大甕、1666は土師質土器足釜、1668・1669は東播系須恵器鉢、1670の管状土錘が出土した。1667の備前焼大甕は、口縁端部の形態から間壁編年Ⅲ期前半に比定される。1668・1669は森田編年Ⅱ期第1~2段階に比定される。上層からは1657の土師質土器杯や1658の龍泉窯系青磁碗、1659東播系須恵器鉢に混じって近世の遺物1660の灰釉陶器皿・1661の京焼風陶器碗・1662陶器徳利・1663陶器碗・1664備前焼擂鉢などが見られた。これら遺物は近世後半の18c後半の所産と思われる。出土層位不明の遺物として、1679陶器徳利・1680備前焼擂鉢・1681土師質土器鍋?・1682土師質土器捏鉢・1683管状土錘がある。

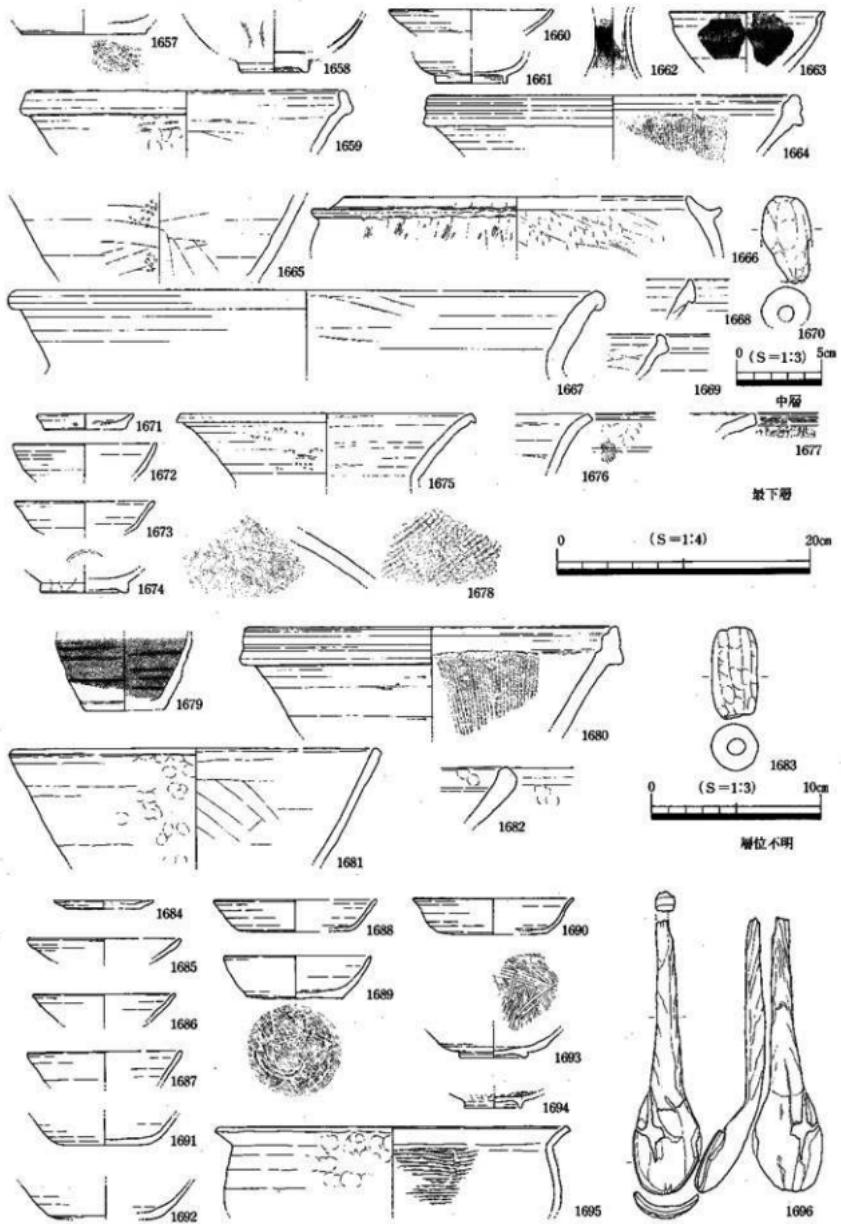
S X06からは1684~1690の土師質土器皿・杯、1693十瓶山窯産須恵器碗・1694吉備系土師器碗・1695土師質土器足鍋・木製杓が出土した。1696の木製杓は、基部が欠損しているもののほぼ完存している。これら遺物の特徴から13c末葉~14c初頭に位置づけられ、最下層で報告した遺物の時間幅に収まる。

S D02 (第85・87図)

S D16と平行し、B 2区との調査区境付近を南北に延びる条里坪界溝の一つである。近世以降の水田耕作によって、かなりの削平を受けているが上面幅1.1~1.5m・深さ0.2m程を測り断面が逆台形を呈する。また、調査区南半部ではS D18が本溝から東へ派生し、併走するS D16を切り込む。底面は平坦で



第85図 SDO1・02・16・17・18 SK05・06・12 SX04断面, SX06平・断面



第80圖 SD01-SX06 出土遺物

はなく凹凸が激しい。1697～1719までの遺物が出土した。

1697・1698は土師質土器皿である。底部は回転ヘラ切り。1699～1705は土師質土器杯である。1706は十瓶山窯産須恵器壺口縁である。1707は東播系須恵器鉢である。1708は十瓶山窯産須恵器鉢である。口縁端部欠損しているが、鈍いハネアゲ状の端部が想定されることから12c前葉まで遡り、先行するSD16からの混入品と考えられる。1709は土師質土器足釜であり、鉢部の形態や外面の調整方法から初現期のものである。1712は十瓶山窯産須恵器壺胴部片、1713・1714は、同窯産須恵器壺の肩部・底部片である。1715は土師器羽釜、1716は土師質土器口縁部であるが、1709よりは後出する形態のもので、14c代まで下る。1719は土師器壺の口縁部、1711は弥生時代前期の壺で下層よりの混入品である。

SD16 (第85・87図)

SD02の東側を並行する溝で、同溝とともに条里坪界溝に相当する。上面幅0.4m残存深0.1m程を測る。SD02と同じく後世の削平行行為を受け遺存状況は良くないものの、同溝よりは小規模と思われる。出土遺物は数点に留まつたが、SD02より古相を示すもので占められることと、SD02より派生するSD18に切られることを考慮すると、本溝が先行することは確実である。また、本調査区の13c末～14c初頭の集落が機能していた時期には廃絶していたものと思われる。

1718～1721は出土遺物である。1720は弥生後期の台付鉢で混入品である。1721は縁釉陶器の皿で口縁部を欠損するが法量・形態からみて伊藤分類2b類の耳皿である可能性がある。古代10c代の所産と思われる。1717は土師器羽釜の口縁部、1718は十瓶山窯産須恵器壺の副部片である。

SD18 (第85・87図)

X=147.668 Y=46.429付近でSD02より派生して東へ延びる溝である。上面幅0.8m残存深0.1mを測り、SD16を切り込む。1722～1729の遺物が出土した。1722は土師質土器皿である。1723は土師器碗の高台である。1724は龍泉窯系青磁碗である。1725～1727は東播系須恵器鉢の口縁部、1728は土師質土器足釜の脚部である。1729は土師質竈片である。

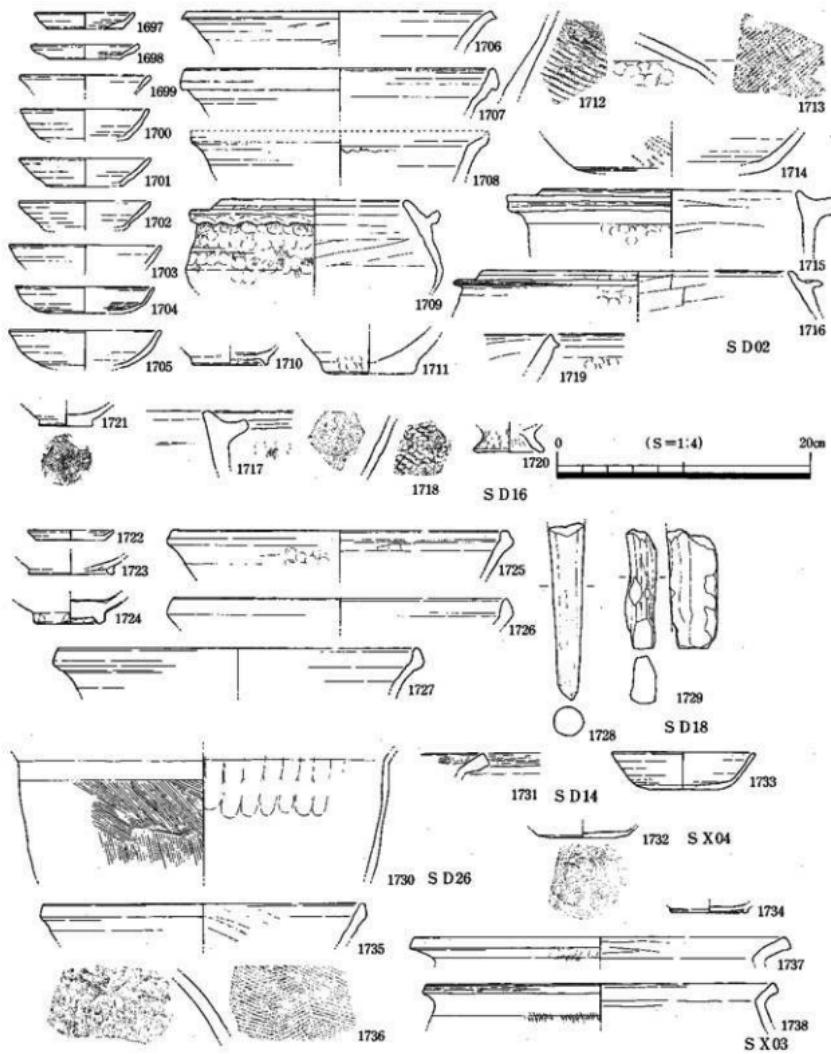
SD26 (第87図)

A2・B2区調査区境のX=147.692 Y=46.430付近で検出した上面幅0.2m・深さ0.1m程の小規模な溝である。先の条里坪界溝であるSD02・16、B2区SD17に切られる。埋没土の特徴や方位は弥生時代後期終末の掘立柱建物と類似する。1730の弥生前期如意形口縁壺が出土したが、造構面下位の包含層よりの混入と考えられ、本造構の時期を弥生時代後期終末とする。

SD14 (第87図)

調査区北東部のX=147.690～147.700 Y=46.454付近で検出した溝である。上面幅0.3m残存深0.1m程を測り、方位は座標北から10°前後東偏し条里型地割の方向に合致する。

1731の土師質土器鍋口縁が出土した。時期的に調査区南半部の集落と同時依存するが、周辺に建物を復元することのできるピット等の遺構はない。

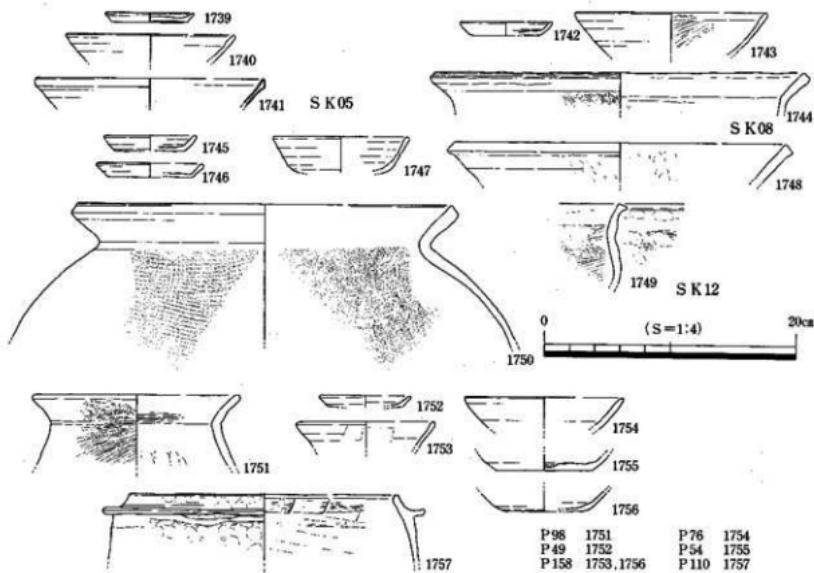


第87図 S D02・14・16・18・26 SX03・04出土遺物

S X03 (第87図)

調査区南辺部付近の落ち込み状の自然地形で人為的なものではなく、自然地形の落ち込みと捉えるのが妥当であろう。1732～1738の遺物が出土した。

1732は土師質土器杯である。1734は十瓶山窯産須恵器碗である。矮小な高台の形状から13末葉の所産



第88図 SK 05・08・12及び柱穴出土遺物

と思われる。1735は東播系須恵器鉢、1736は亀山焼壺の肩部片である。1737・1738は土師質土器鍋の口縁部であるが、1738は小片の為、傾きに検討の余地がある。

S X 04 (第85・87図)

S B 05内に位置する幅1.5m深さ0.1m程を測る不定形な落ち込みである。1732の土師質土器杯が出土した。

S K 05 (第85・88図)

X = 147.680 Y = 46.431付近のS B 01・04の西側で検出した楕円形の土坑である。長軸3m短軸1.1m深さ0.2mを測り断面形は逆台形を呈する。1739～1741の遺物出土している。1739は土師質土器皿、1740は土師質土器杯である。1741は白磁碗IV類の口縁部である。これら出土遺物の所属時期は13c末と思われ、屋敷地の建物群とはほぼ同時期であるがその性格は不明である。

S K 08 (第85・88図)

X = 147.684 Y = 46.439付近のS B 01・04の北側で検出した土坑である。長軸0.8m短軸0.5m(2深さ0.6m)断面形がU字形を呈する。1742～1744の遺物が出土した。1742は土師質土器皿である。1743は土師器椀である。磨滅が著しいが内面にミガキを認める。1744は土師質土器鍋の口縁部である。これら出土土器の時期から屋敷地の建物群と同時併存するが、性格は不明である。

S K12 (第85・88図)

X = 147.678 Y = 46.442付近の掘立柱建物のピット等の遺構が比較的密集する部分で検出した土坑である。長軸0.9m短軸0.5m深さ0.4mを測る。1748~1750の遺物が出土した。1748は瓦質の鉢としたが、近世期の混入と思われる。1749は土師質土器足鍋の小片、1750は十瓶山窯産須恵器壺である。

柱穴出土遺物 (第88図)

1751~1757は掘立柱建物に復元できなかったピットからの出土遺物である。1751は弥生前期土器の壺である。口縁部境に低い段を有し、口縁部は直線的に外反する。埋没土のパターンは中世期のものに類似することと、明確な弥生前期の遺構が見られないことから遺構面下層からの混入であろう。1752は土師質土器皿である。1753~1756は土師質土器杯である。1757は土師質土器足釜の口縁部である。これら出土遺物の帰属時期は、混入品である1751を除けば13c末~14c初頭の所産である。

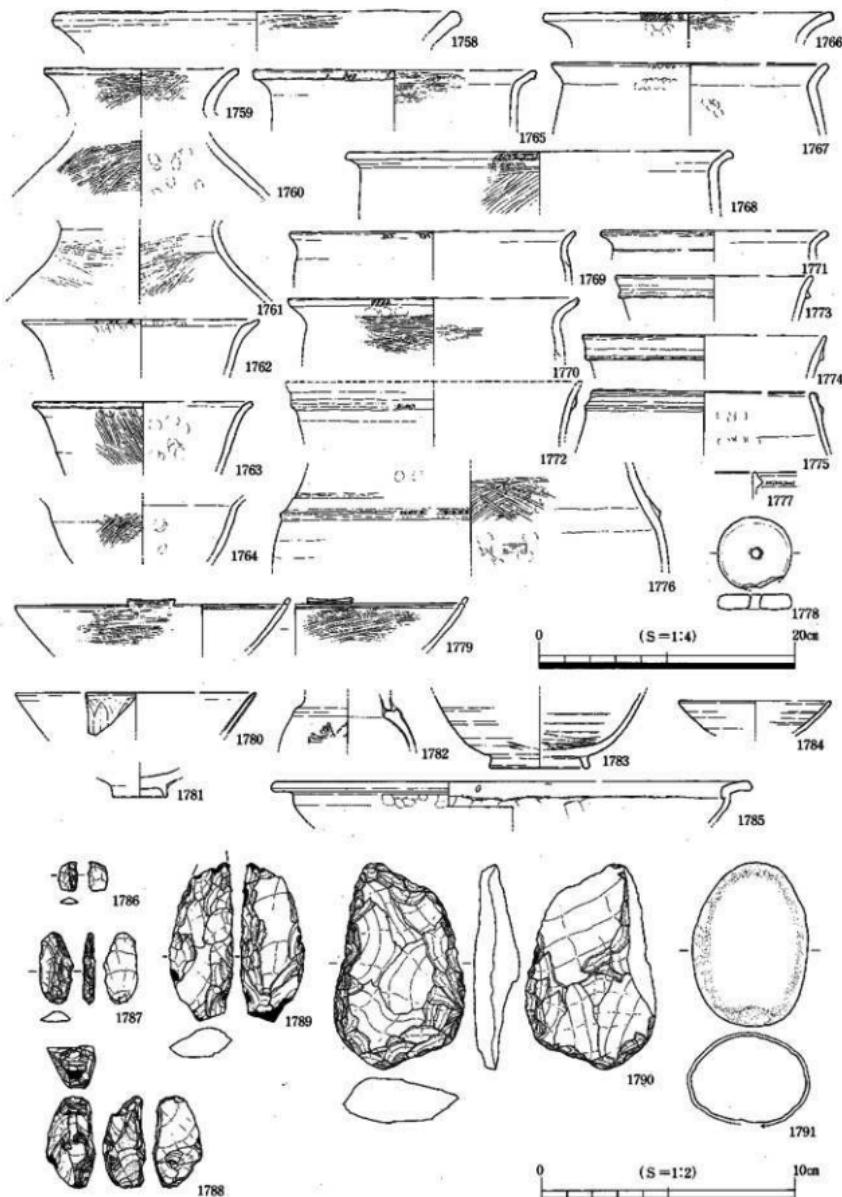
遺構外出土遺物 (第89図)

掲載する遺物は、遺構検出中に出土したもの、もしくは包含層とラベルに記載があったものである。しかし、包含層出土遺物に関しては断面図との対応ができなかった為ここで報告する。本調査区では、中世13c末~14c初頭の諸遺構を中心に検出している為、当然これらの時期の遺物が多く見られる。しかし、遺構面精査中に見られた出土遺物には弥生時代前期の土器が多く見られた。本節冒頭で述べた通り、これらの遺物は、中世遺構面下位の層準に包含されていた可能性が高いことから、弥生時代前期土器を中心に掲載した。

1758~1777は弥生前期土器である。全体的に器面が磨滅しているものの、断面のそれは顯著では無い。このことから、比較的近接して住居等の居住域を想定できるであろう。1758は大形乃至中形壺の口縁部で、直線的に外反し古相を示す。1759は中形壺の口縁部、1760・1761は壺頸部片である。1762~1764は口径と傾きから鉢としたが、高杯の可能性もある。1765~1771は如意形口縁壺である。頸部付近まで残存するものはすべて掲載したが、1771のみ1条沈線を認めるが、ヘラ描沈線をもつものは殆ど見られないと。1772~1777は突帯文系の壺である。いずれもやや扁平な低い突帯を施すものが多い。中でも垂れ下がり状の突帯をもつもの1772・1775も存在する。1773・1774は口径・傾きから壺の可能性もある。1775は口縁部がやや磨滅しているものの、内径する口縁端部とそのやや下がった位置に2状の突帯を施す。1776は2条突帯をもつ壺で内面にミガキ調整が見られる。高松平野でこの2条突帯は、突帯文土器と突帯文系壺合わせて初例である。1778は土製紡錘車である。全体的に磨滅しているものの、一部に加工痕があり転用品と思われる。1779は黒色磨研系の浅鉢である。繩文晩期中葉の土器群は他にD区下層包含層に波状口縁の浅鉢2点が見られるが、遺跡全体では少数である。

1780・1781は龍泉窯系青磁碗である。1782は青磁壺である。釉の特徴から見て、中世後半の所産と思われるが、類例に乏しく产地は推定できない。また、頸部境の素地間に釉が貫入するが、小片の為明らかではない。1783は土師器碗である。内面にコテ状の調整痕を残す。1784は土師質土器杯である。1785は瓦質の焼壺である。

1786~1791は石器であるが、明らかに弥生・中世期の遺構に混入したものであるのでここに掲載する。出土遺構については観察表を参照されたい。1786はハリ質安山岩製の細石刃である。1788はサヌカイト



第89図 遺構外出土遺物

製の細石刃核である。1787はナイフ形石器とした。1789はサスカイト製の尖頭器でやや肉厚で基部調整は粗く、さほど素材の風化が進んでいないことから弥生前期の可能性がある。1790は一部に弱い磨滅痕をとどめる箇所が存在することから打製石斧とした。1791は砂岩製の磨石である。全面に使用痕をとどめる。



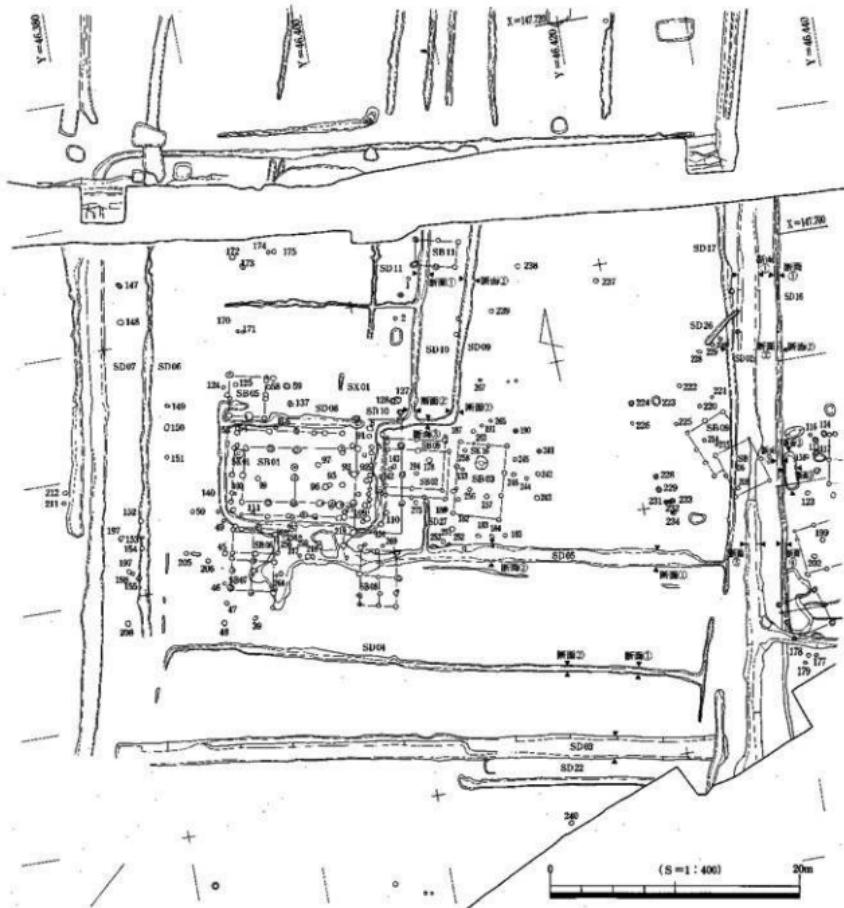
第90図 A2・B2区構造配置

第3節 B2区の調査

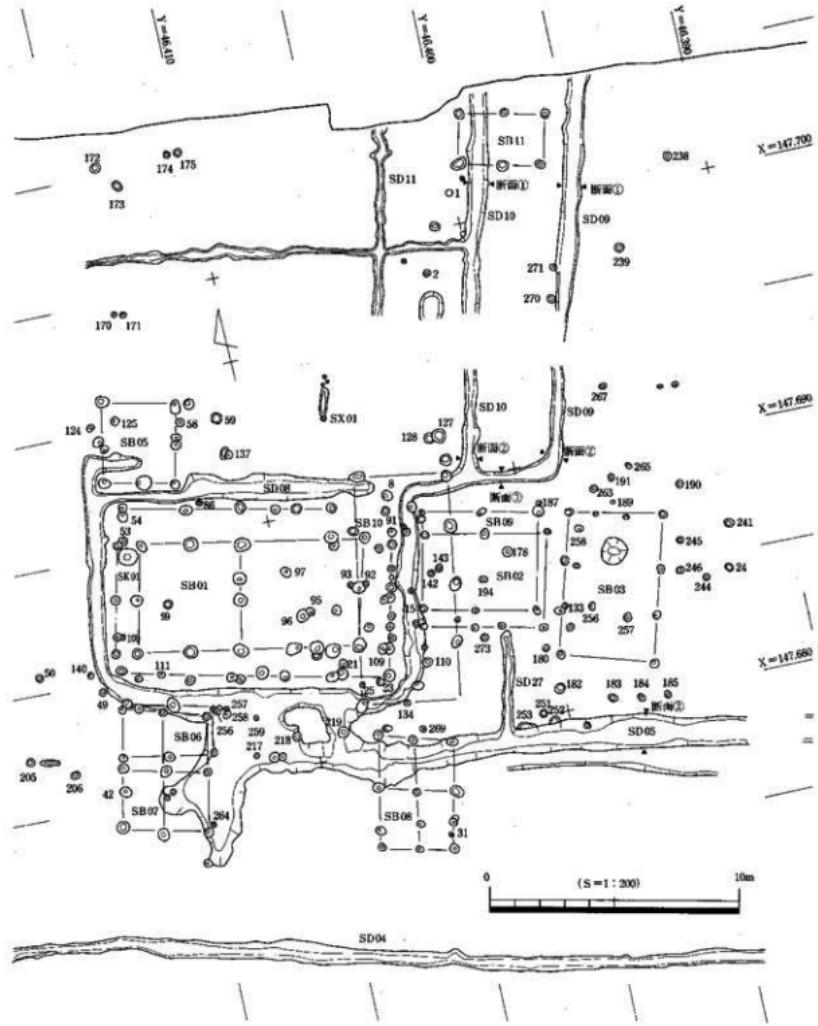
1. B2区東半分の調査の概要（第90・91・92図）

B 2 区は西打跡の調査区の中でも中央部に位置し、主に調査区北東部分で掘立柱建物を中心とした 11c 末から 12c 前半にかけての居住地を検出している。

地形の概略的な点を述べると、調査区の地形は東と南東方向に向かって傾斜する。また、調査区北西の予備調査12・24トレンチ（第1巻第3章第1節予備調査14～29頁参照）で南西から北西方向へ抜ける旧河道を検出していることから、屋敷地の部分は微高地部分と判断される。復元された掘立柱建物は10棟することが可能で、位置的に重複するものも含まれる。出土遺物を見る限り11c後半～12c前半の時間幅の中で形成された建物群と言えるが、遺物からは建物間の明瞭な時間差を抽出できない。また、主



第91図 B2区東半部遺構配置



第92図 SB01周辺構配圖

軸方位がすべて条里型地割の方向に統一されることから、建物群の細かな変遷は断念した。重複する建物群の数を見ると、主屋と考えられるSB01・10を中心として5棟前後の建物が付随していたものと推定される。屋敷地は4方を溝によって囲郭され、その範囲は東西58m、南北50の面積を有する。また、この中で北辺と東辺は条里坪界線に合致し、条里型地割に規制されたものとなっている。

S B01 (第93・94図)

$X = 147.685$ $Y = 46.395$ 付近で検出した掘立柱建物である。2間×4間 ($4.4 \times 9\text{m} = 39.6\text{m}^2$) の柱構造をもち、建物主軸は座標北から10°東へ振った東西棟である。梁間・桁行両方に小規模な柱穴列が巡り、そのさらに外側に溝 (S D08) が取り付く。この柱穴列は「底」とも考えられるが S D08との距離が近すぎることを考慮すると、四方の柱穴列を「縁」とし S D08を雨落溝と考えたい。また、S D08が唯一途切れる北東隅部分では、先の「縁」とえた柱穴列は途切れる。南側の桁行のP68に対面する北側桁行の柱穴が見られないが、元来存在していた可能性がある。建物内部中央のP78は東柱であることも考慮されよう。また、先の「縁」とした柱穴列の存在も合わせると床張りの建物であったことは、ほぼ確定的であろう。

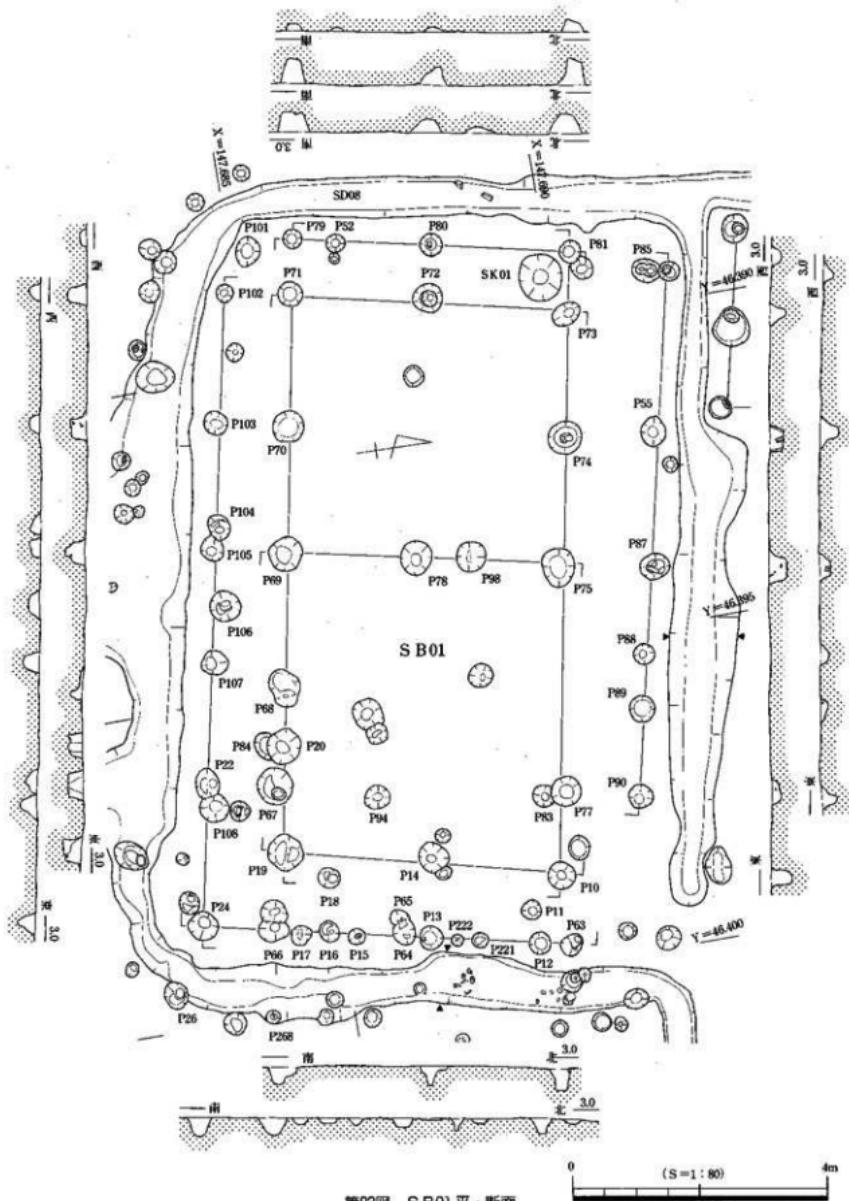
1792~1825は出土遺物である。実測図と出土遺構名は表1を参照していただくとして器種毎に一括して記述する。1792~1796は土師質土器皿である。1794は底部に回転ヘラ切り痕と板状圧痕が見られる。1796は立ち上がりが楕形を呈し、他の皿と異質である。1797~1802・1805~1808は土師質土器杯である。1805~1807は口縁部が直線的に外反する平底の杯である。1809~1820は内黒の椀である。1809はやや肉厚な口縁部をもち内外面に密な分割ミガキを施す。1814・1815~1820は外面に回転ミガキを認める西村型の内黒の椀である。1821・1822は両黒の桶葉型の椀である。小片の為、やや口径に不安があるが、1821は深椀で1822は小椀と思われる。両者とも口縁部内面に1条沈線、内外面に細かなヨコミガキが見られる。1823は両黒の小椀である。類例に乏しく産地等は不明である。1824は両黒の椀であるが、1821・1822等の桶葉型に比べミガキ自身の幅は広い。1825は回転糸切りの平底をもつ内黒の椀であり内面にはミガキが認められる。1826は小形の土師器質の甕である。弥生期の混入である可能性がある。1827は土師器羽釜である。1828は土師器甕である。1829は十瓶山窯須恵器甕、1831は亀山焼の体部片である。1832は土師質甕片であるが部位を特定できない。

遺構名	報文番号	遺構名	報文番号
P 10	1804	P 71	1819
P 12	1795.1796.1799.1813.1822	P 72	1792.1807.1811.1823
P 18+P 19遺構間	1803	P 73	1800.1805.1824
P 19	1825	P 75	1818.1826
P 55	1793.1808.1829	P 77	1828.1830.1831
P 63	1809.1815.1817	P 78	1820
P 64	1810.1812.1821	P 80	1794
P 65	1806.1832	P 83	1802.1827
P 68	1814	P 87	1797
P 70	1798	P 101	1816
P 70+P 71遺構間	1801		

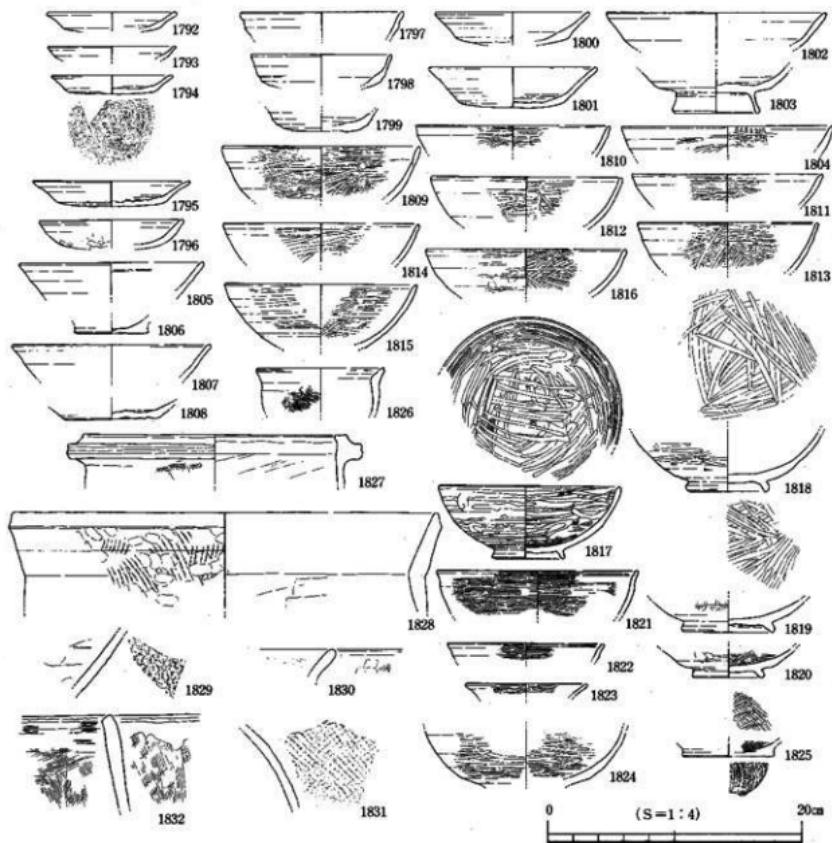
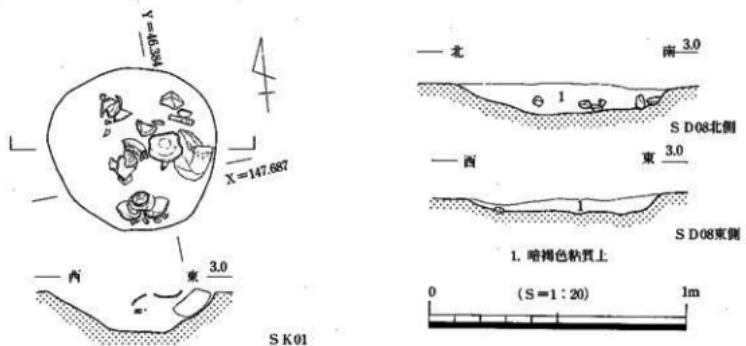
表1 S B01出土遺物に関する遺構名一覧

S K01 (第93・94・95図)

$X = 147.687$ $Y = 46.384$ 付近のS B01西側の梁間と縁とした柱穴列との間で検出した土坑である。直径6.5m深さ0.15m程の円形を呈する。1833~1854・1856の内黒・両黒の椀等の土器群、砂岩等の自然礫が出土した。S B01を取り巻くS D08の内側に位置するということと、時期的にS B01とはほぼ同時期であることを考慮し、ここで報告する。また、概報段階でこのS K01の自然礫とS D08のそれが接合したと報告があるが定かではない。これら出土遺物は、断面図の作成はされていないものの、小規模な土坑にまとまって廃棄されていること、遺物が完形に復元されるものが多いことなどから一括性の高い土器群と言える。



第93図 SB01平・断面



第94図 SK01 平・断面 SD08 出土遺物

1833～1835は土師質土器皿である。底部外面はすべて回転ヘラ切りされている。1837～1841・1843～1845は土師質土器杯である。1843は底部は欠損しているものの口縁部形態から平高台の杯と思われる。1842は土師器碗の高台である。1846～1850は土師質土器台付皿である。1846の外面にはコテ状の工具痕が見られる。1851は両黒の楠葉型の椀である。外面に横方向の細かいミガキと口縁部内面に沈線を認める。1852～1854は内黒の椀である。1852・1853は外面に回転ミガキが見られ西村型と思われる。1854は半底の内黒の椀である。底部には回転ヘラ切りと回転ヘラケズリが見られるが、高台貼り付け用の下地沈線等は施されていない。

また、1855のみ S K02出土の十瓶山窯産須恵器壺である。

S D08 (第93・95～97図)

S B01周辺を取り巻く雨落ち溝である。S B01北東部ではS D09・10と南部では中州状の掘り残し部をもちS D05と連続する。上面幅7.5～8.5m深さ0.1～0.3mを測り、埋没土は暗褐色粘質土の単層である。遺物はS B01南側を中心として出土した。これら規模やS B01との位置関係などから、同建物の雨落ち溝であることや、S D09・10・05と接続することを考慮すると、屋敷地内を区画する性格をもつことも想定されよう。

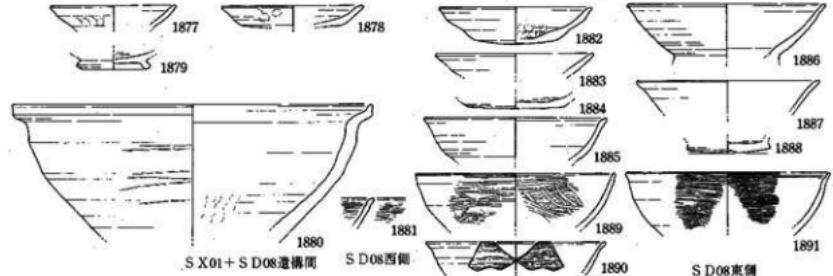
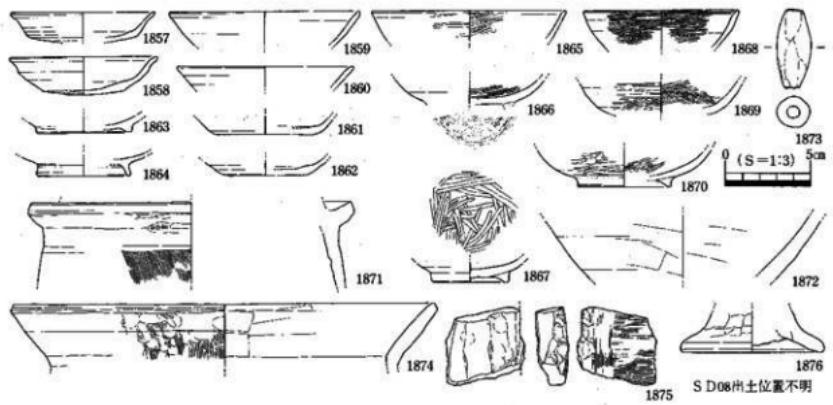
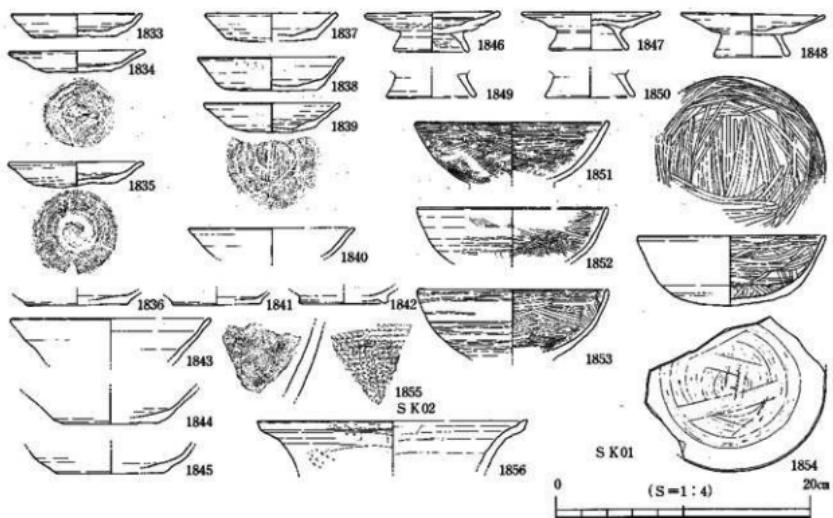
1857～1936は本溝出土遺物の中でも出土位置が記載されていない遺物である。1857は土師質土器皿1858～1862は土師質土器杯である。1863・1864は土師器碗の高台である。1865～1867は内黒の椀で、1866には高台貼り付け用の下地沈線が見られる。1868は楠葉型の両黒の椀である。外面の口縁部下には器形反転に伴う明瞭な稜線が見られる。1869・1870は両黒の椀である。1873は管状土錐である。1872は須恵器鉢の胴部片である。1871は土師器羽釜、1874は土師器壺である。1876は支脚として圓化したが、弥生期の混入品の可能性もある。1875は土師質壺片である。

1877～1881は本溝のS B01北側より出土した遺物である。1877・1878は土師質土器皿で1877は外面下半部に明瞭な指オサエが見られる。1879は内黒の椀である。

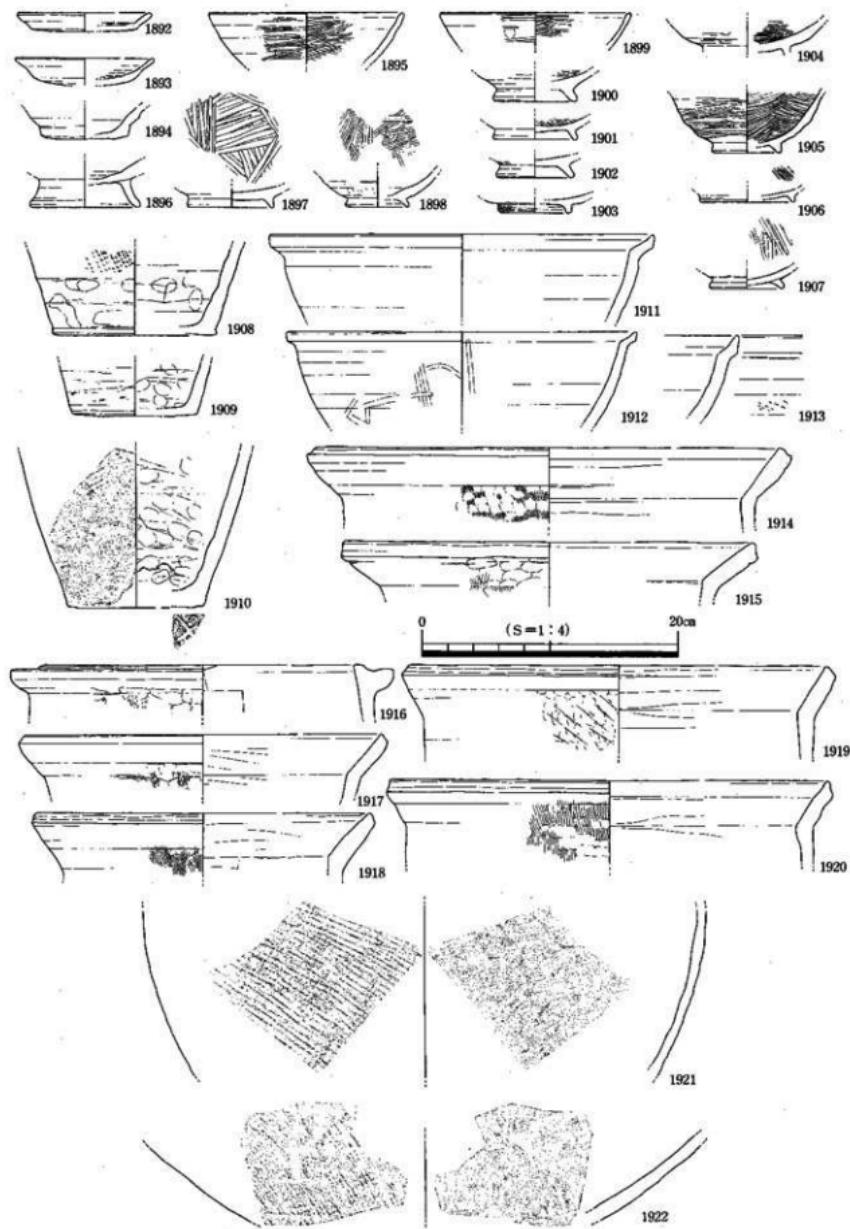
1880・1881はS B01西側から出土した。1880は十瓶山窯産須恵器鉢で本溝とS X01の遺構間で接合した。1881は内黒の椀で口縁部内面に沈線が認められる。

1882～1891はS B01東側からの出土遺物である。1882～1885は土師質土器杯である。1886～1888は平高台をもつ杯であろう。1886は口径にやや検討の余地がある。1889・1890は内黒の椀である。1890は口縁端部が短く外反し、外面には回転ミガキが認められる。1891は両黒の楠葉型の椀である。

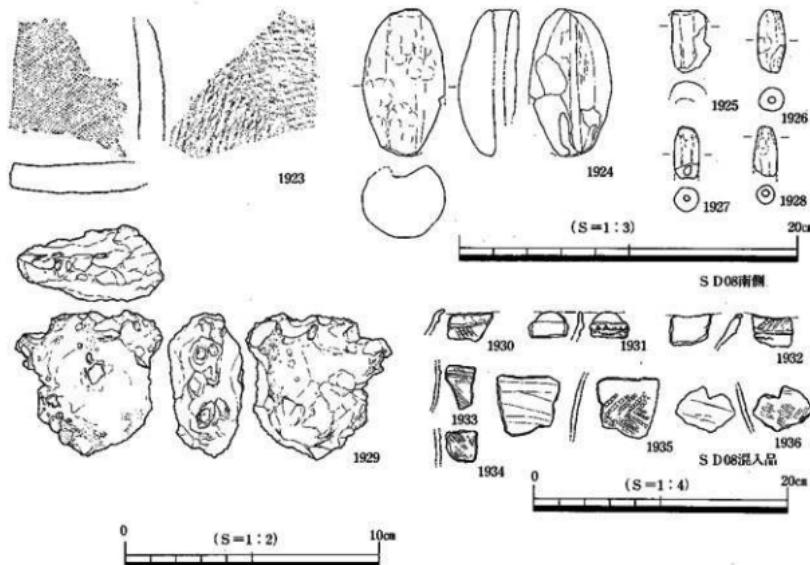
1892～1928はS B01南側から出土した。1892・1893は土師質土器皿である。1894は外面の形状から平高台をもつ土師質土器杯になると思われる。1895・1897は土師器碗で内外面にヨコミガキを認める。1896は土師質土器台付皿の脚部で、S K01出土の完形品1846～1848に比べてやや大形である。1898～1905は内黒の椀である。1905は外面に回転ミガキが見られないことや、その器形から非西村型の内黒の椀である。1906は見込み部の幅の細いミガキ調整や高台の形状から楠葉型の両黒の椀である。1907は須恵器碗の高台片。1908～1910は十瓶山窯産須恵器壺の脚部片である。1910は底部外面にヘラ記号？が見られ時間差を反映している可能性がある。1911～1913は十瓶山窯産須恵器鉢である。口縁端部のつまみ出しひにはバラツキが見られる。1916は土師器羽釜口縁部である。1914・1915・1917～1920は土師器壺の口縁である。いずれも口縁部内面に横方向の板ナデが見られる。1921・1922は十瓶山窯産須恵器脚部片で、两者とも小片の為、傾き・径に検討の余地を残す。1923は須恵質平瓦で内面に布目が見られる。1924は



第95図 S K01・02, S D08 出土遺物その1



第96図 SD08 出土遺物その2



第97図 SD08 出土遺物その3

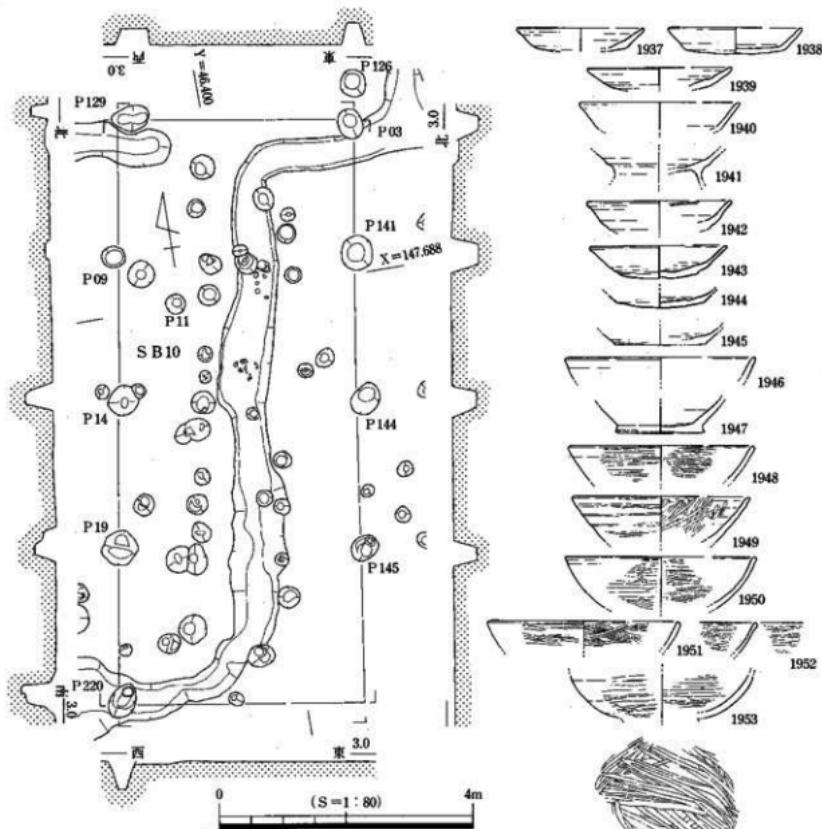
有溝土錐であり1925～1928は管状土錐である。いずれも欠損部が見られ完形品ではない。1929はSB01西側から出土した鉄滓である。鍛冶炉床に形成される椀形鍛冶滓と思われ、詳しい分析結果は第5章第4節を参照されたい。1930～1936は縄文時代前期の土器である。当該期遺構面の下層に存在する包含層からの混入品である。

SB10(第98図)

X=147.688 Y=46.400付近でSB01と重複して検出した1間×4間($3.72 \times 9.22m = 34.3m^2$)の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から 10° 西に振った南北棟であり、SB01に次ぐ床面積をもつ。西側の桁行の柱列P14・P19がSB01と完全に重複し、南東隅の桁行の柱穴が未検出である。また、SD08とも重複することからSB01との時期的な前後関係が想定されるが、遺構の切り合い関係でこれを検証できる材料はない。

出土遺物は各柱穴から出土し、最もP144から多く見られ1937～1957はその実測図である。1937～1940は土師質土器皿である。1941は口縁部・脚部を欠損するが台付皿と思われる。1942～1947は土師質土器杯である。1946・1947は同一個体ではないが、両者とも平高台の杯と思われる。1948～1954は内黒の碗である。いずれのものも外面に回転ミガキが見られ、西村型と思われる。1955は捕葉型の両黒の碗である。見込み部には格子状の細かいミガキが見られる。1956・1957は土師器臺である。

これらの出土遺物の所属時期は11c末から12c初頭にかけてのもので、SB01・SD08との明確な時間差は抽出することができない。



P144 1937, 1940~1942, 1945, 1946, 1948, 1949, 1951, 1952, 1957
 P126+P129遺構間 1938
 P220 1939, 1947

P145 1943, 1944, 1954~1956
 P141 1950
 P129 1953

第98図 S B10 平・断面及び出土遺物

S B03 (第99図)

$X = 147.685 \quad Y = 46.408$ 付近のS B01の東側において検出した1間(乃至3間)×3間($3.6 \times 5.88m = 21.7m^2$)の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から東へ 15° 振った南北棟である。北側の梁間には、P162・163が柱筋に合致するが、同南側には見られない。柱間が揃う点を考慮し、ここではこのP162・

163を含めた柱構造の復元をしておく。また、建物内部にS K16が検出された。本建物内の位置関係を見ると、ほぼ北半部中央に位置することから関連性があるものとし、ここで報告する。

1958～1962は本建物を構成する柱穴からの出土遺物である。1958・1959は土師質土器皿である。1960は土師質土器杯である。1961は東播系須恵器柄で底部外面には回転糸切り痕が見られる。僅かながら平高台を留める点から森田第I期第1段階に比定される。1962は内黒の椀である。1966はS K16出土の龍泉窯系青磁碗である。

S B02 (第99図)

X=141.685 Y=46.403付近でS B09と重複して検出した1間×2間 ($3.6 \times 4.8m = 17.28m^2$) の柱構造をもつ掘立柱建物である。建物主軸方位は座標北から101° 西へ振ったもので、桁方向の柱間は0.9～1.1mと一定しない。

1963～1965・1967～1999は出土遺物である。1967・1968は内黒の椀である。1969は土師質土器皿である。1963・1964は土師器皿である。1965は十瓶山窯産須恵器壺の胴部片である。

S B09 (第99図)

S B02と重複して検出した1間×2間 ($3.6 \times 4.6m = 16.56m^2$) の柱構造をもつ掘立柱建物である。建物主軸は、座標北から102° 東へ振った東西棟である。位置的にはほぼ完全にS B02重複することと、柱構造・床面積とともにS B02とほぼ同じであることから、両者間には立て替えによる前後関係をもつものと思われるが、柱穴の切り合い関係や出土遺物の明瞭な時間差は抽出できない。1970は両黒の楠葉型の椀である。1971は土師質土器皿である。

S B08 (第100図)

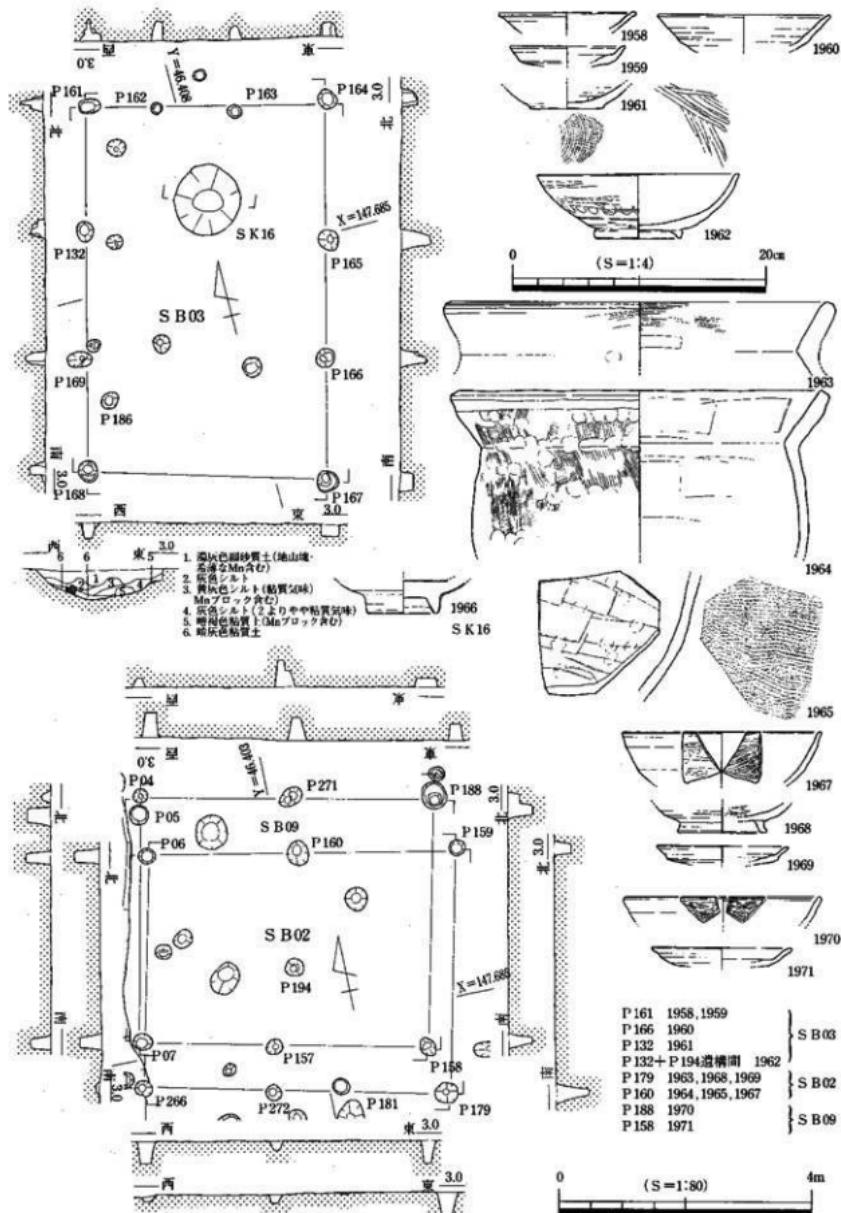
X=147.678 Y=46.399付近のS B01南側で検出した2間×2間乃至3間 ($2.96 \times 4.6m = 13.62m^2$) の柱構造をもち、屋敷地内では唯一の総柱建物である。建物主軸は座標北から10° 東へ振った南北棟で、東側の桁行はS B01の東側の梁間乃至縁の柱筋に概ね合致する。また、P34・30・130等の柱間が不規則な柱穴が存在するが各柱筋に概ね合致する為、ここではこれらを含めた建物復元をしておく。また、S D08から東へ派生するS D06と重複するが、先後関係は不明である。

1972は十瓶山窯産須恵器壺の口縁部である。1973は土師質土器台付皿である。1974は土師質土器杯である。

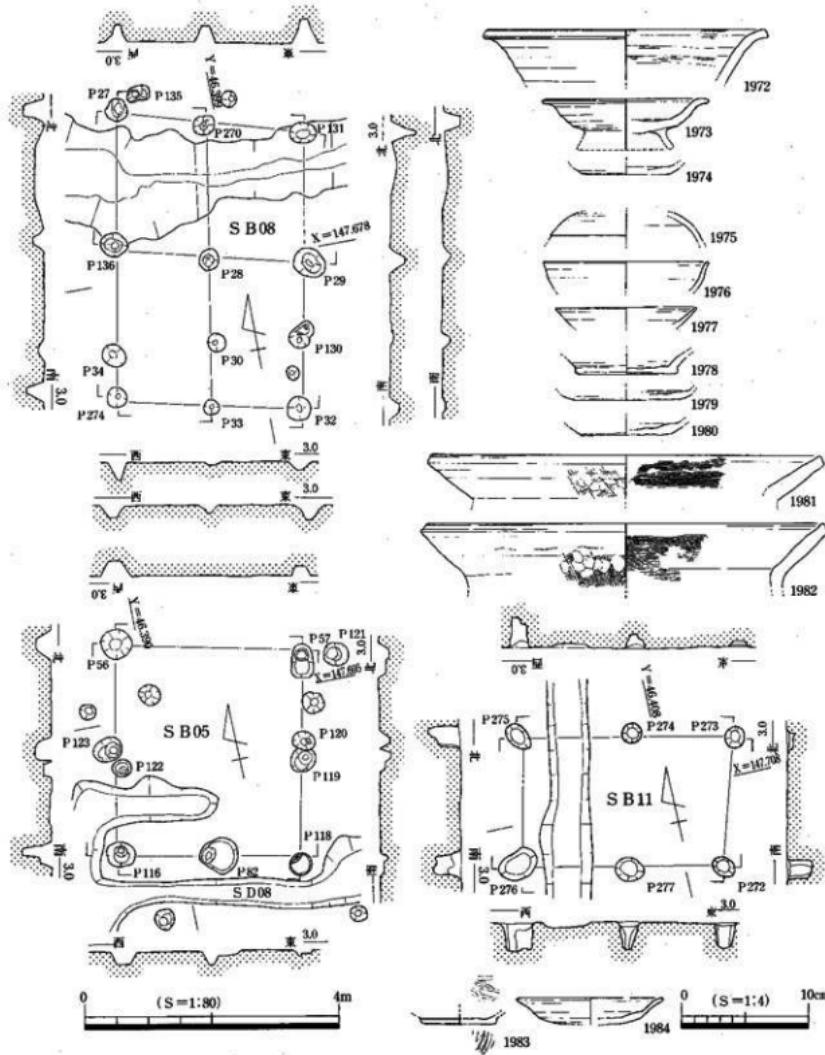
S B05 (第100図)

X=147.695 Y=46.390付近のS B01北側で検出した2間×2間 ($2.84 \times 3.24m = 9.2m^2$) の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から11° 東へ振った南北棟で、西側の桁行の柱筋がS B01西側の縁の柱筋に概ね合致する。柱穴の平面形は0.3～0.6m程の円形を基調とするが一様ではなく、検出面からの深度も0.1～0.4mまでのバラツキが見られるが、全体としての柱通りはよい。

1975～1982は出土遺物である。1975は須恵器杯蓋で古墳時代後期の混入品である。1977は土師質土器皿である。1978は土師質土器の平高台の杯と思われる。1981・1982は土師器壺の口縁部である。



第99図 SB02・03 平・断面及び出土遺物



第100図 SB05・08・11平・断面及び出土遺物

SB11 (第100図)

X = 147.708 Y = 46.408付近において検出した1間×2間 ($2 \times 3.2\text{m} = 6.4\text{m}^2$) の掘立柱建物である。

建物主軸は座標北から 102° 東へ振った東西棟で、B 2 区東半部の屋敷地の建物群の中では唯一孤立して存在する。建物の床面積が小規模にとどまるのに比べて、北側の桁行の 2 基の柱穴（P 274・273）を除いて各柱穴の残存深度は 0.4~0.5m と深い。また、S B01を取り巻く S D08から続く S D10と重複する。1983はP 274から出土した底部外面に回転糸切り痕を認める東播系須恵器碗である。また、内外面には火だすき痕が明瞭に見られる。1984は土師質土器皿である。

S B06 (第101図)

X = 141.682 Y = 46.389付近の S B01南側で S B07と重複して検出した 1 間 × 2 間 ($1.96 \times 3.4m = 6.66 m^2$) の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から 12° 東へ振った南北棟で、西側の梁間が S B01西側の縁の柱穴列に合致する。S D08とかなりの部分重複することから、前後関係があるものと思われるが、切り合い関係・出土遺物からは判断できない。

1985はP 138から出土した平高台の土師質土器杯である。

S B07 (第101図)

S B01南側で S B06と重複して検出した 2 間 × 2 間 ($3.4 \times 4.8m = 16.32 m^2$) の総柱建物である。建物主軸は座標北から 12° 東へ振った東西棟であり、S B06と同じく西側桁行が S B01西側の縁の柱穴列と合致する。柱間は桁行で 2.4m 前後、梁間で 8m 前後とほぼ揃うが、桁行の柱配置が対照となっていない為、平面形がやや歪む。東側の桁行が S D08と重複するが、前後関係は不明である。

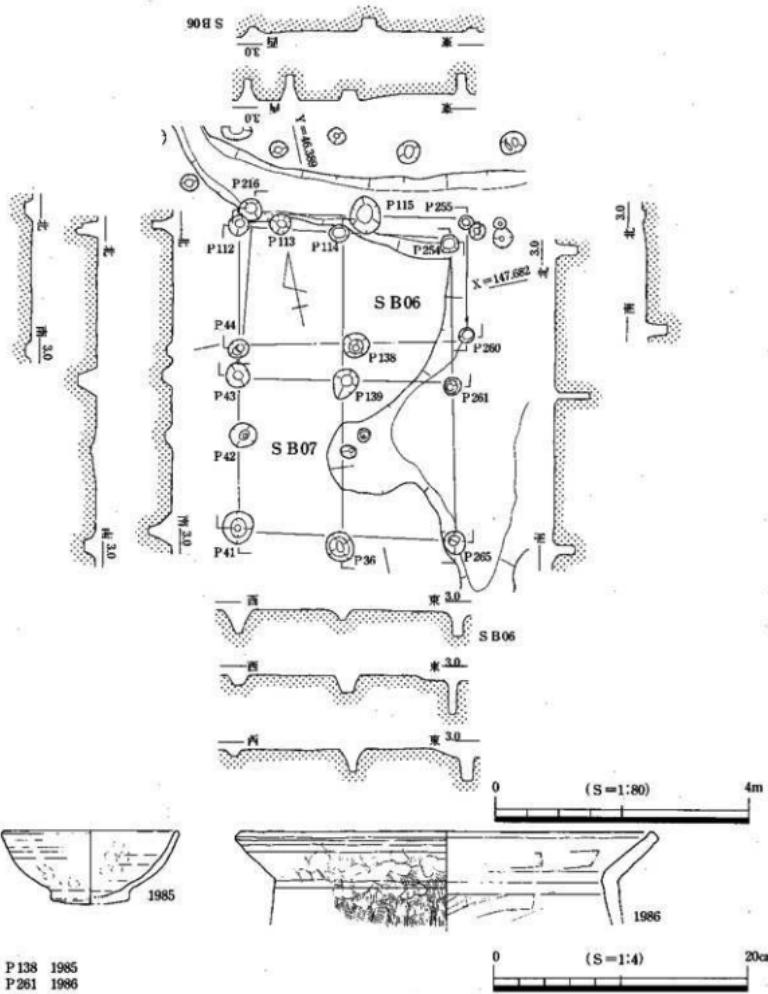
1986はP 261から出土した土師器壺である。

S D03 (第102・103図)

S D07と同様に、B 2 区の屋敷地を区画する最も外側の溝で南北方向で、総延長 47m にわたり検出された。東端部は、条里坪界溝である S D02・16 に交わることなく、その手前で終息する。検出面で上面幅 0.8m、残存深 0.15~0.2m を測り、屋敷地の建物周辺の溝に比べてやや規模が大きい。溝平面のレベル差は、東から西側へ向かって傾斜するほぼ平坦なもので、断面観察から帶水状況や恒常的な流水状態は想定できない。本溝と S D07によって一坪を $1/4$ に分割した範囲に屋敷地が収まるが、両者の交点部分である南西隅の部分は掘り残されており、屋敷地への出入り口等の機能が推定されるが、遺構面の削平が著しい為明確にできない。また、S D03の内側(北側)には S D04などの小規模な溝が見られることも、屋敷地の西側を区画する S D07と共に通している。外側(南側)に取り付く S D21は、埋没土の違いから、同時併存は無いと考えたい。

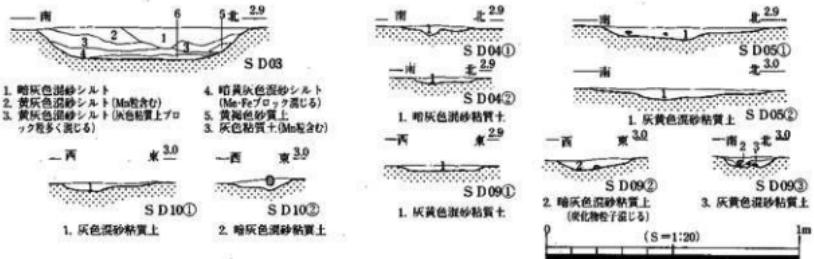
1987~1989は出土遺物である。これらの出土状況は、本溝内にまとめて出土することなく散発的に出土し、図示可能なものはすべて掲載したが全体として少量である。

1987~1989は土師質土器杯の底部である。1990は矮小な高台が付着する内黒の椀である。1991は東播系須恵器碗であり底部外面に回転糸切り痕が見られる。1992・1993は十瓶山窯産須恵器壺の底部片で、1994は機種不明の須恵器片である。1995は土師器羽釜の口縁部である。1996は十瓶山窯産須恵器壺の胴部片である。1999は片側の端部を欠損する管状土錐である。1997は弥生前期壺の口縁部、1998は弥生前期壺の底部片で当該期遺構面下層に存在する包含層からの混入品である。



第101図 S B06・07 平・断面及び出土遺物

これらの出土遺物の中で、1987～1989の土師質土器杯の小片を除けば大半がS B01等の屋敷地内部の建物と同時期（11c後半～12c前半）の所産である。この土師質土器杯は、13c後半以降に下る可能性があるが、ここでは屋敷地内部の建物群との位置関係を重視し11c後半～12c前半の掘開時期を想定し、屋敷地の南辺の区画溝として評価する。



第102図 SD03・04・05・09・10断面

SD04 (第102・103図)

SD03の北側で、総延長44mにわたって検出した溝である。検出面で上面幅0.25m深さ0.1mを測り、西端で小規模に屈曲する部分が見られ、東端はSD22に直交する。東半部でSD03との間隔は約5mを測りほぼ併走するが、西半部では7m前後とやや広い。また、このSD03との間の部分には一切の遺構を検出していない。

2000～2006は出土遺物である。図示可能なものはすべて掲載した。2000は土師器碗で内外面にミガキ調整が見られる。2001は内黒の椀である。2002は土師質器杯底部片である。2003は和泉型瓦器である。2004～2006は弥生前期の混入品。2004は弥生前期壺の蓋である。2005は如意形口縁壺の口縁部、2006は同底部片である。

SD22 (第103図)

SD04に直交する南北方向の上面幅0.15m深さ0.1m程を測る小規模な溝である。位置的に見て北側の延長部分に存在するSD17と同一のものと考えられる。2007は須恵器壺の胴部片である。2008は土師質器杯の底部片である。

SD21 (第103図)

本調査区南東部で検出した上面幅0.2m深さ0.1m程の溝でSD03を切り込む。埋没土の特徴や出土遺物から近世期の所産と思われ、周辺のSD03・04等との関連は無い。2009～2013は出土遺物である。大半が近世後半の所産と思われる。

SD05 (第102・103図)

本調査区の屋敷地のSB01を取り巻くSD08から東へ派生する溝である。上面幅1.5m深さ0.1～0.15mを測り、底面のレベルは概ね平坦である。西端はSD08の張出部と接し、東側は条里坪界溝であるSD02の西側を併走するSD17に交わる。遺物は主に屋敷地の建物周辺から出土した。

2014・2015は土師質器皿である。2014はコースター状のもので13c後半まで下る。2016・2017は土師質器杯である。2019・2020は土師器碗である。2018・2021～2024は内黒の椀である。2025は十瓶山窯産須恵器碗で退化した矮小な高台を貼り付ける。2026は十瓶山窯産須恵器鉢の口縁部である。2027・2028は土師器壺で口縁部内面にやや強い板ナゲが見られる。2029は管状土錐、2030は有溝土錐である。

いずれも若干の欠損部分を認めるが、ほぼ完存しているものである。

S D17 (第104図)

S D05に直交する部分から条里坪界溝であるA 2 区 S D02の西側を南北に併走する溝である。総延長33m（北端未確認）にわたって検出された。上面幅0.5m残存深0.1~0.15mを測り、底面のレベル差は殆ど見られない。

2031~2035は出土遺物である。図示できるものはすべて掲載した。2031は土師質土器杯の口縁部2032は平高台の土師質土器杯である。2033は須恵器鉢の底部片、2034は十瓶山窯産須恵器壺の胴部片である。2035は同窯産の壺胴部片である。

S D27 (第104図)

S D08から北へ派生する上面幅0.8m残存深0.4m程の小溝である。S D09・10等とともに屋敷地内を小区画に分割する。S D08と切り合い関係や出土遺物による前後関係はなく、屋敷地内の建物とも同時併存する。2036~2039の遺物が出土した。

2036は内黒の椀で2037は土師質土器杯である。2038は土師器壺の口縁部、2039は十瓶山窯産須恵器壺の底部片である。

S D07 (第104図)

S D03に対応して屋敷地の西側を区画する最も西側の溝である。また、本調査区では南北42m程にわたって検出され、南端部は予備調査15トレンチが存在する為不明であるが、S D03の東西ラインを越えて南へ延びる可能性は低い。また、南側のB 1 区で確認されたS D01との連絡関係は不明である。C区で、本溝と連続すると思われ、条里坪界部分で東へ屈折するS D26が検出されていることからS B01等の建物群と空閑地を含めた屋敷地の範囲が確定した。

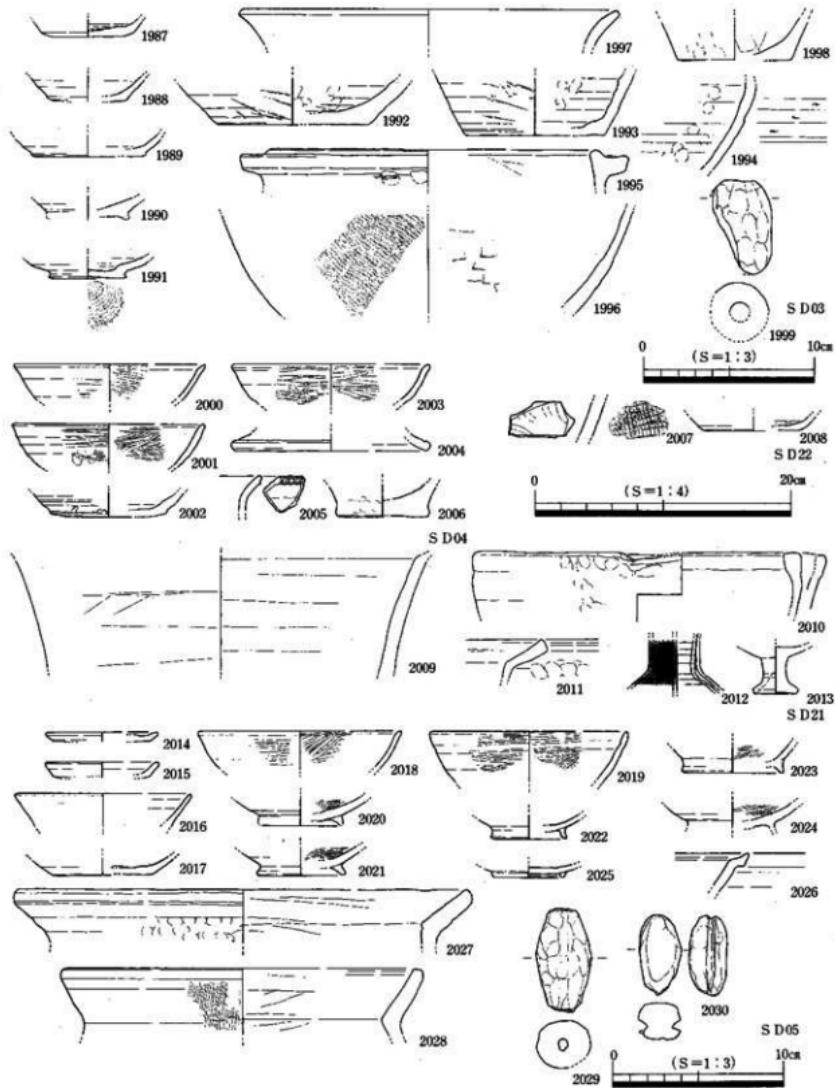
現場での土層断面の記録は作成されていないが掘り上げ時のレベルから復元すると、検出面で上面幅2~2.5m深さ0.1mの規模を測り、遺存状況は極めて悪い。本溝西側にはS D06が存在する。出土遺物が見られなかった為、本溝との時間的な共存関係は分からぬが、埋没土に明瞭な違いが認められる為、同時併存は無いとする。

2050・2051は土師質土器皿である。2052~2054は十瓶山窯産須恵器壺である。2052は古代末の混入片かもしれない。2055は土師質土器足釜であるが、この1点のみ13c後半まで下る。2056・2057は十瓶山窯産須恵器鉢である。2056は口縁端部を跳ね上げずに収める。

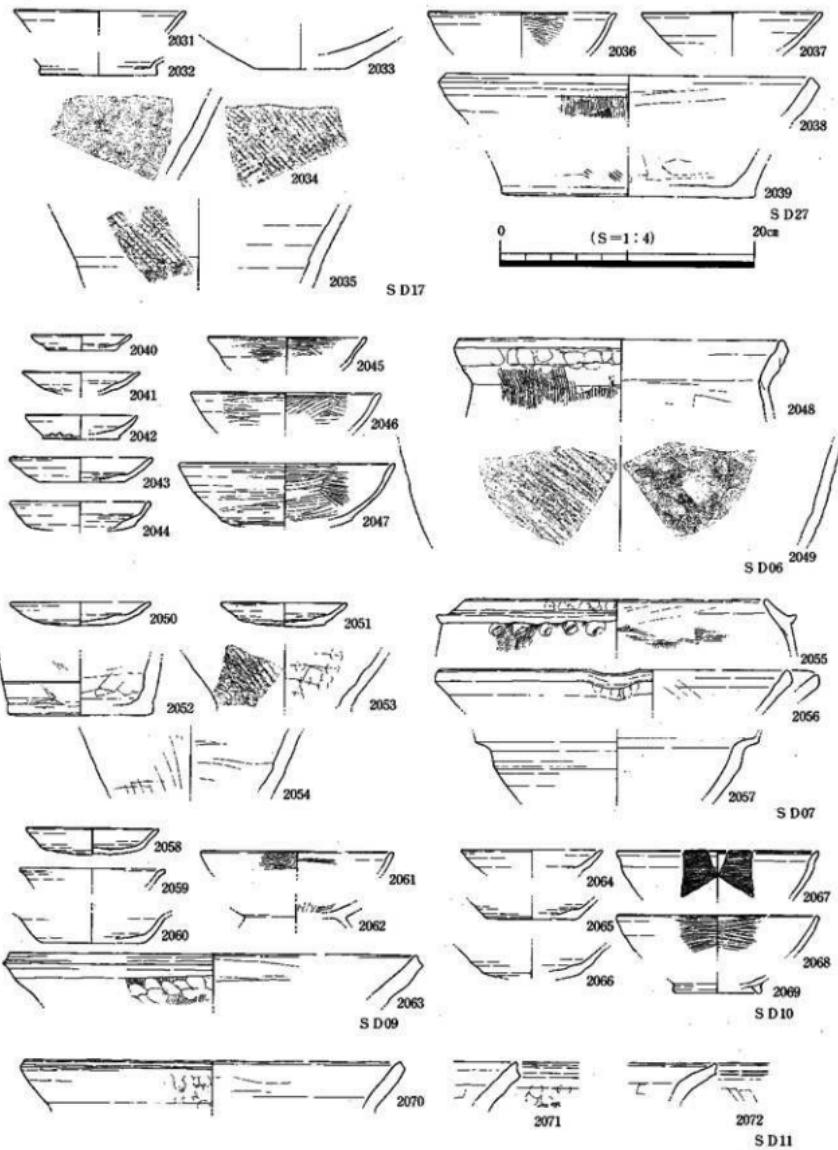
出土遺物を見てみると、本溝の遺存状態が悪いにもかかわらず、2055の土師質土器足釜や14c前半まで下るもののが見られるなど一定の時間幅がある。このノイズを排除することのできる断面図等の材料はないが、S D03と同じく屋敷地内部の建物との位置関係を重視し、11c後半~12c前半に掘開され屋敷地の西辺を区画するものと積極的に評価する。

S D06 (第104図)

S D07の東側に位置する上面幅0.5~0.6m残存深0.1m程を測る溝である。先に見た南辺のS D03・04



第103図 S D03・04・05・21・22出土遺物



第104図 SD 06・07・09・10・11・17・27出土遺物

に対応してSD07と共に屋敷地の西側を画する性格をもつ。総延長南北32mにわたって検出され南端部はSD04の東西ライン付近で途切れる。SD03と07の交点部分が開口していることに対応して、本溝とSD04も交わることがなく、幅1.5m程の部分が掘り残されている。陸橋部のような屋敷地への出入り口かそれに類する機能は想定されよう。SD07と併走し間隔は3~3.5m前後を測る。また、この間の部分に数基の柱穴を認めるが建物等の遺構は復元できない。

2040~2049は本溝出土遺物である。2040~2044は土師質土器小皿である。2045は土師器小椀である。2046・2047は内黒の椀である。2047は底部付近を欠損するが、高台貼り付け用の下地沈線が見られないことや体部形態から高台は施さないものと考えた。2048は土師器壺である。2049は十瓶山窯産須恵器壺の胴部片である。

SD09 (第102・104図)

屋敷地建物群の北側部分で検出し、SD10と共にSB01を取り巻くSD08から派生する溝である。検出面での上面幅0.25~0.3m深さ0.1m程を測る。SD08からSD10と分岐する東西部は明らかにSB02・09を意識していると考えられる。この部分でクランクした後、SD10と併走して北へ延びる。北端部については確認できていないがC区との調査区境部分に収まるものと考えられる。

2058~2063は本溝出土遺物である。2058・2059は土師質土器小皿である。2060は土師質土器杯で口縁部を欠損する。2061・2062は内黒の椀である。2063は土師器壺の口縁部である。

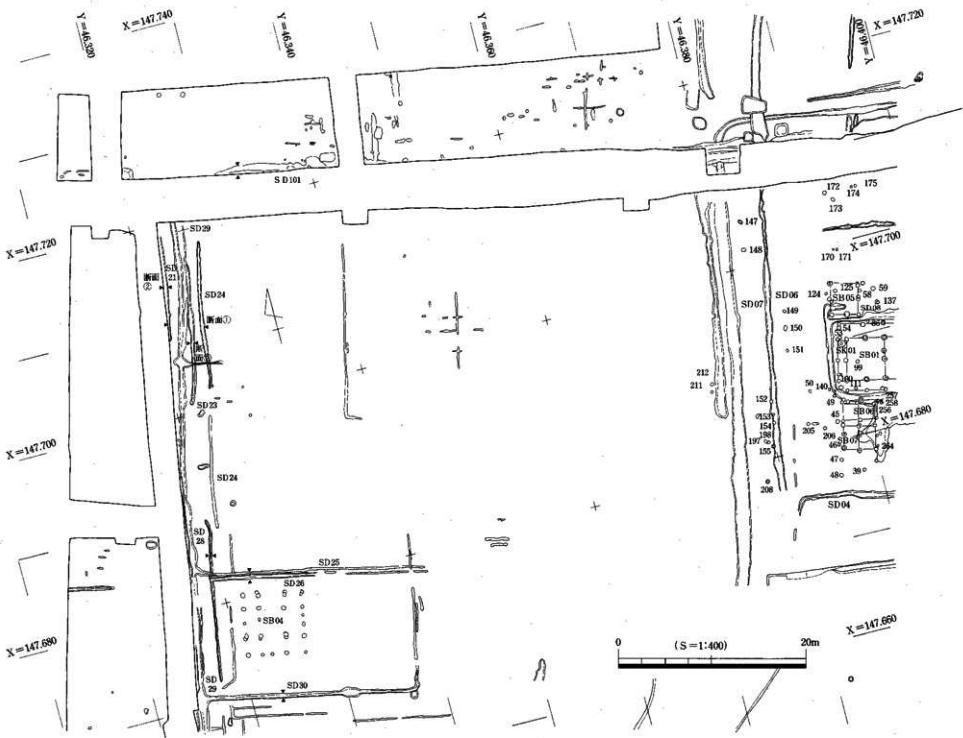
SD10 (第102・104図)

SD09と同じく、SD08から派生しする上面幅2.5~3.5m残存深0.1m程を測る小規模な溝である。SD09と切り合い関係はなく同時埋没している状況である。北端部についてはSD09と同じく確認できていない。

2064~2069は出土遺物である。2064は土師質土器皿、2065・2066は土師質土器杯である。2067は両黒の楕葉型の椀である。2068・2069は内黒の椀であり、2068は外面に分割ミガキが見られることから、非西村型である。

SD11 (第104図)

SD10から派生したSD12と直交する上面幅0.25~0.3m残存深0.1m程を測る溝である。出土遺物に2070~2072の土師器壺の口縁部がある。



第105図 B2西半部遺構配置

2. B 2 区西半部の概要（第105図）

B 2 区西半部では、S B07以外に建物を検出していない。条里溝関係では、調査区西壁のラインと北壁のラインが坪界線に相当し、概ねこれに対応して溝を検出した。また、これによって区画された内部には、小規模な耕作溝が広範囲に分布する。

S B04（第106図）

調査区南西部のX=147.675 Y=46.325付近で検出した南北3.2m東西3.0mを測り、平面形が正方形に近い掘立柱建物である。柱穴数が多いP 227~232・242~236間を桁行とすると、建物主軸は座標北から10° 東へ振ったものとなる。建物復元において問題となるのが、柱構造である。概報段階ではこれを1間×1間で周囲の柱穴列を庇に關係したものと捉えて建物復元を行っている。しかし、この周囲の柱穴列を「庇」と考える場合、内側の区画（P 247~P 253）との間隔が広すぎる。「縁」と考えた場合も同様であり、側柱構造の建物を想定した方がよかろう。

また、一部の柱穴に切り合う部分が多く存在する（P 227~P 241・242の東西列、P 230・231~P 251・252の東西列）ことから、2棟以上の建物が重複している可能性も否定できない。周囲にはS D25・26・27等の溝が存在する。

概報段階では本建物が北東部に存在する屋敷地との位置関係において、真西に孤立して建てられていることなどから村落内寺院の「堂」的なものとして捉えている。しかし、時期的に本建物の機能時期である13c後半代にはB 2 区東半部の屋敷地（11c後半~12c前半）は既に廃絶していることと、寺院関係の遺物は出土していないことから、本建物の位置付けに関しては未だ検討の余地があると言えよう。

2073~2080は出土遺物である。2073~2076は土師質土器杯である。2077は亀山焼甕の胴部片である。2078・2079・2080は土師質土器足釜の口縁部・底部片である。これらの出土遺物は2073等の土師質土器杯の特徴から13c末~14c初頭の所産と思われる。

S D21（第107図）

調査区北東隅で検出した上面幅0.2m以上残存深0.1m程の南北溝である。西肩部と本遺構の大半が未調査部分に延びるため、全体のプランは不明確である。位置的に条里型地割坪界線上に位置するが、出土遺物や断面図の埋没土の記載は無く、帰属時期は不明である。

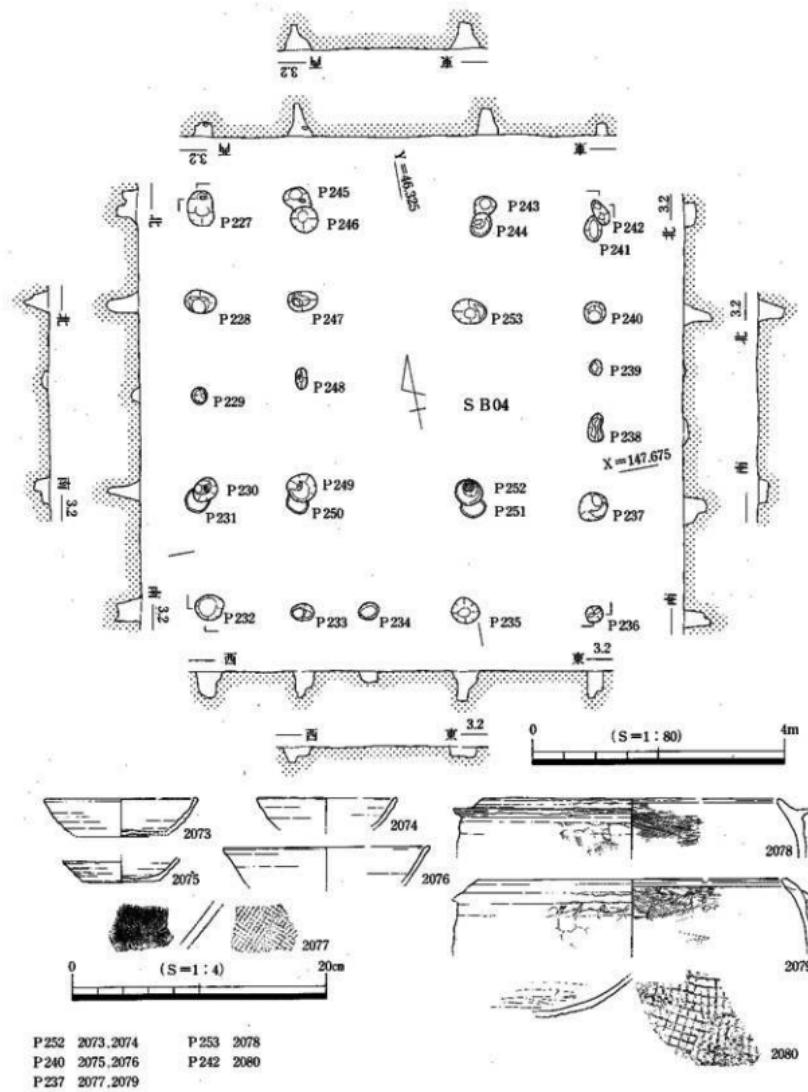
S D29（第107図）

調査区東壁沿いを南北に延びる上面幅0.3~0.4m残存深0.1~0.2m程の溝である。S B04付近では東へ派生するS D25・30に分岐する。切り合い関係があり、S D23・24・26・28より後出するものである。S D21と同じく、条里坪界推定線上に位置する。

出土遺物にはT K217型式併行と思われる2082の須恵器杯身、2083の須恵器甕の胴部片がある。これらの遺物は古墳時代終末期~古代期の所産と思われるが、埋没土の特徴やS B04を取り巻くS D25・27との関係から、13c末~14c初頭の時期を推定しておきたい。

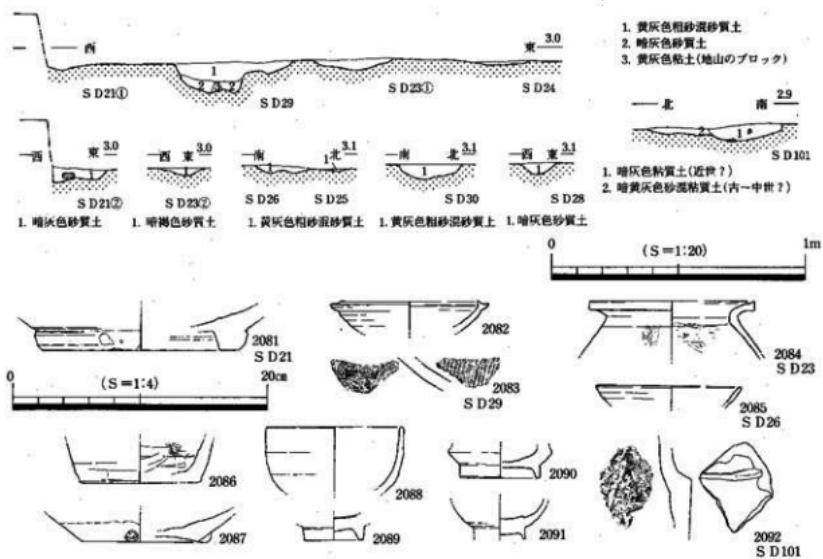
S D23（第107図）

S D22・24と並んで調査区北西隅で確認した上面幅0.3m残存深0.1mを測る溝である。切り合い関



第106図 SB04 平・断面及び出土遺物

係があり、SD22に先行する。出土遺物には2084の弥生後期窓が1点あるが、流下方向がほぼ条里型地割に合致することから混入品と思われ、正確な時期決定は難しい。



第107図 S D21~28・S D101 断面及び出土遺物

S D25・26・30 (第107図)

調査区南西部で検出したS B04を取り巻く溝群である。S D26はS D28から派生し、S D25・30はS D29から延びるが、切り合い関係がありS D28・26が先行しS D29・25・27が後出する。埋没土は両者とも灰色系のシルトを基調とし明瞭に区別されるものではないことと、同様にS B04を囲むように掘開されていることから、ほぼ同時期の所産と考えられる。出土遺物はS D26からS B04とはほぼ同時期と思われる2085の土師質土器杯が1点出土しているのみである。

S D101 (第107図)

調査区北西のトレーナー部分で検出した上面幅0.5m残存深0.1m程の東西に走る溝である。位置的には東西の条里界線線上に位置する。溝の大半は未調査部分へ延びるものと思われる。埋没土には、近世以降の所産と思われるものと中世以前と推定されるものの二者が存在し、出土遺物もこれを反映したものとなっている。

2086は十瓶山窯産須恵器壺の底部片である。2087・2088・2090～2092は近世期の遺物である。2088は京焼風陶器碗である。2089は龍泉用系青磁碗の高台である。

B 2 区柱穴出土遺物 (第108図)

ここで報告する遺物は、遺構から出土しながらも建物復元に至らなかった柱穴等より出土を見た遺物である。なお、2093～2095に関してはレイアウト上のミスでA 2 区の柱穴より出土した遺物であることをお断りしておく。

2093~2104は土師質土器皿である。2103の京都系「て」の字状口縁の皿を除いて、底部外面はすべて回転ヘラ切りされている。2105~2115は土師質土器杯である。2102は底部形態から平高台をもつものと思われる。2116は土師質の台付皿である。2117~2126は内黒の椀である。2125の外面には回転ミガキではなく分割ミガキが見られる。2127は両黒の椀の高台片である。2128は平高台をもつ十瓶山窯産須恵器椀であり、底部外面は回転ヘラ切りされている。2129は矮小な輪高台をもつ十瓶山窯産須恵器椀である。2130は胎土から吉備系土師器椀と思われ内外面にミガキ調整を認める。2131は土師器椀である。2134・2135は十瓶山窯産須恵器甕の胴部片である。2136・2137は土師器甕の口縁部で頸部外面に明瞭な指サエ、口縁部内面に強い板ナデ調整が見られる。2139は土師質土器足釜の脚部片である。2138は管状土錐である。

2141の内黒の椀と2142は土師質土器杯はS X01からの出土である。2143はS X02から出土した土師質土器杯の底部片である。2140は砂岩製の砥石である。

B 2区遺構外出土遺物（第109・110図）

遺構面精査中や出土遺構が特定できない出土遺物の一群である。グリッド別の取り上げを実施していないが、ラベルに記載されている日付と調査日誌を照合すると、その殆どは屋敷地中央部のS B01周辺より出土しているらしい。

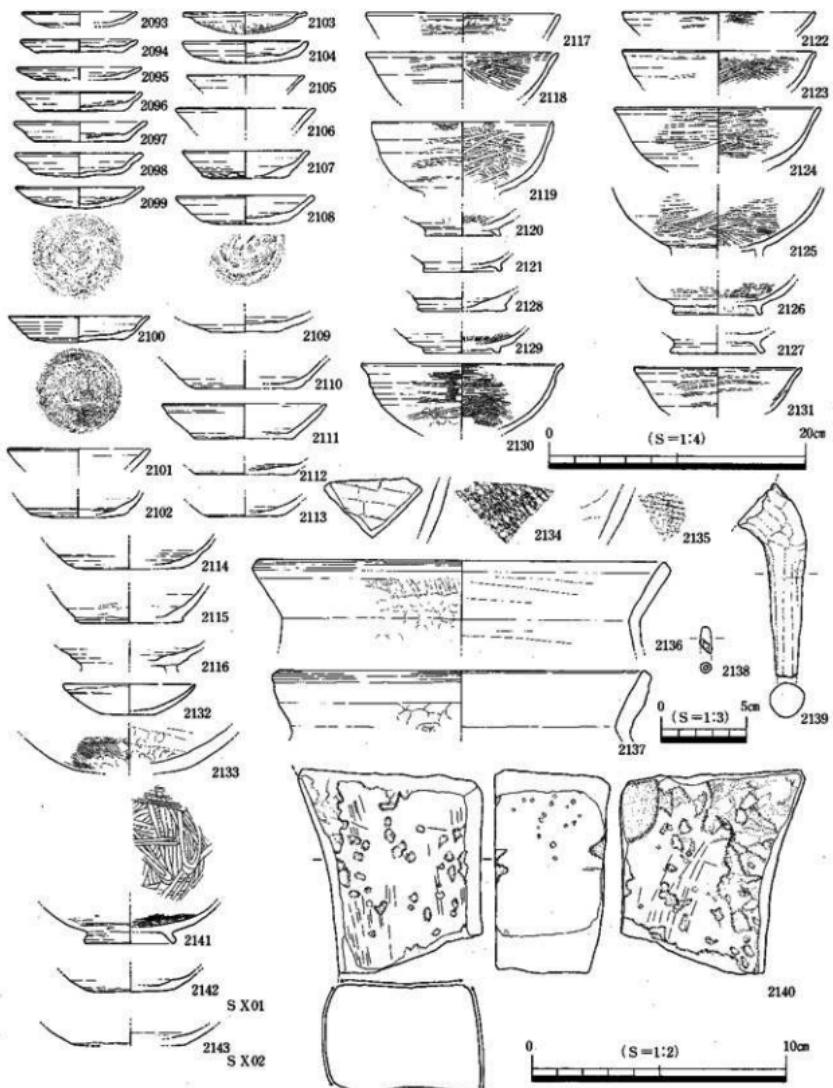
2144・2145は土師質土器皿、2146~2150は同杯である。2150のみ底部外面に回転糸切り痕を留める。2151~2154は平高台をもつ土師質土器杯である。2151は形態と精製な胎土から見て土師器椀の可能性もある。2155は土師質土器台付皿である。2156~2161は内黒の椀である。2156は外面の回転ミガキの欠落や口縁端部の形態などに西村型とは異なる属性をもつ。2162~2169は両黒の椀であり、口縁部内面の一条沈線、細く密なミガキ調整から楠葉型と思われる。2170は須恵器椀であり、他のものと比べて13c前半代まで下るものである。2171は綠釉陶器碗の高台片である。一定程度の高さのある貼り付けによる輪高台をもち、器壁の磨減が著しく「釉」は部分的にしか残存しない。下っても10c代の所産と推定され、在地の他の土器群と明瞭な時間差が見られる。

2172~2181は十瓶山窯産の須恵器類である。2172は甕の口縁部、2177は同須恵器壺胴部片である。2173~2175は須恵器甕口縁部である。2176は須恵器鉢の口縁部である。2178・2179は鉢の底部で壺の可能性もある。2180・2181は須恵器甕の胴部片である。

2182は土師器甕の胴部片と思われるが、外面に格子タタキが見られる異形品である。2183は須恵質の平瓦片である。2184~2189は土師器羽釜・甕の一群である。

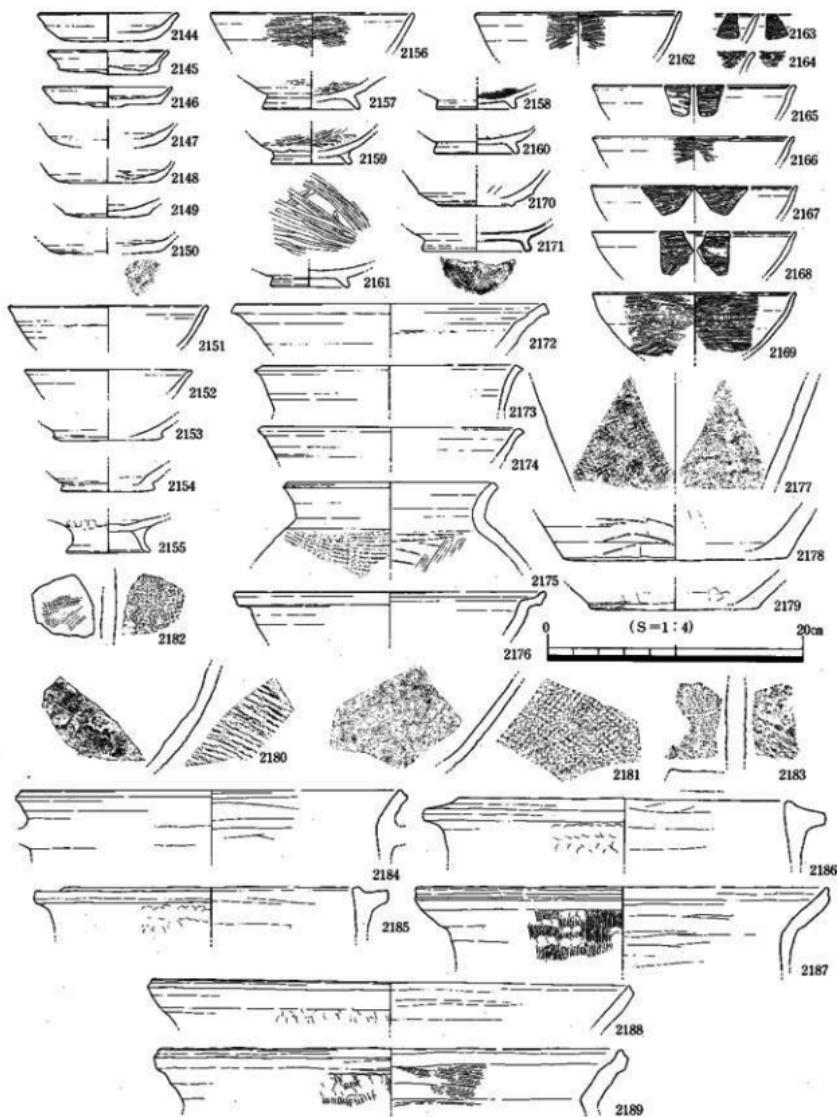
2190~2211は当該期遺構面下層からの出土と見られる一群である。2190・2191は弥生前期の突帯文系の甕である。2190はしっかりとした突帯を施すが口縁部外端に刻み目を施し、口縁端部の面取りがあまくなど、突帯文期にない属性を備えるものである。2193は弥生前期の如意形口縁甕である。2194~2196は同底部片である。2192は縄文前期の深鉢片？である。突帯間に僅かながら縱位の縄文が見られる。2197~2199は7c代の須恵器類で、2197はかえり付きの杯蓋である。2198・2199は須恵器杯身である。口沿から7c中葉から後葉にかけての所産と思われる。本時期の遺物は極めて少なく、調査範囲内では遺構としては捉えられていない。2200は口縁部外面に凹線文が見られる弥生中期後半の鉢である。2201は外面に密なミガキ調整が見られる弥生後期終末期の鉢である。

2202~2205はサヌカイト製の打製石鎌である。2202・2203は形態や厚さから弥生時代以前の所産と考

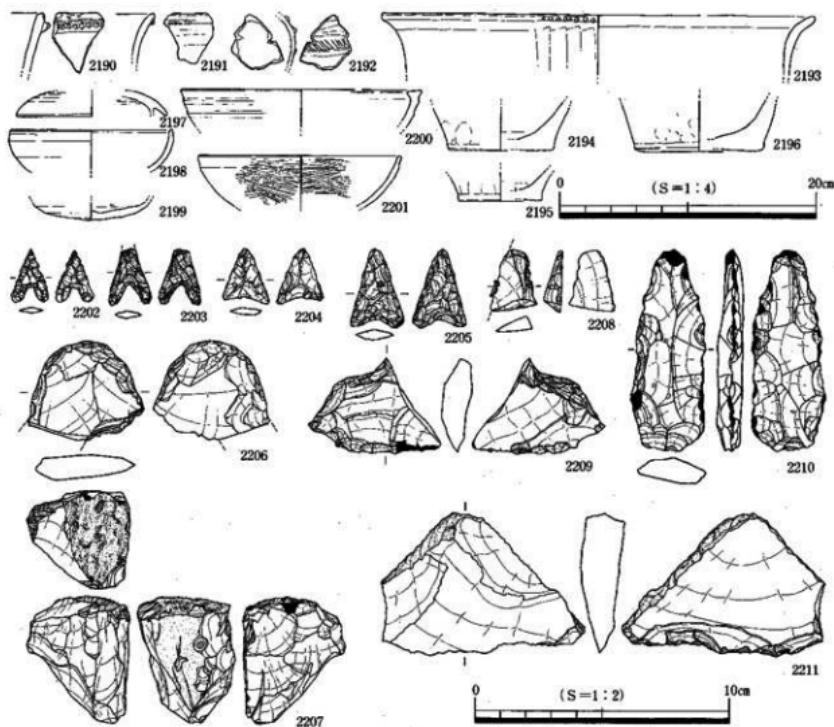


P11	2095	P113	2111
P154	2092, 2099, 2130	P121	2112
P154 + P154道構圖	2098	P125	2125
P155	2100	P268	2114
P48	2101	P194	2116, 2124
P182	2102, 2115	P26	2117
P20	2105, 2135	P135	2118
P153	2107, 2122, 2123, 2131	P84	2119
P42	2108	P192	2125

第108圖 柱穴出土遺物



第109図 遺構外出土遺物その1



第110図 遺構外出土遺物その2

えられる。2208はサヌカイト製のナイフ型石器とした。2207はサヌカイト製の縦長剥片石核である。2210はサヌカイト製の尖頭器で、弥生時代以前と見られる他のものに比べて石材の風化は顕著ではない。2206は打製石斧の基部片であろうか。2209・2211はサヌカイト製のスクレイパーである。

第4節 C区の調査

1. C区の調査の概要 (第111図)

本調査区は、南接するB2区から連続する微高地部分に相当し、B2区東半部の屋敷地の遺構面との標高差は0.1~0.15m程度でありほぼ平坦に連続する。調査区内で遺構面は、南から北、南西から北東へ緩やかに傾斜する。この内、調査区東半部のSD02が位置する部分には黒褐色系の包含層が存在し、且つこのSD02の埋没土やこの付近に掘り込まれた柱穴のそれが、この包含層と極めて類似することから遺構検出は難航を極めた。最終的な遺構検出は、この黒褐色の包含層を除去した黄灰色粘土層上面で実施した。また、表土剥ぎや遺構検出の段階から、サヌカイト剥片等の出土が多く見られた為、下層確認のトレンチを設定し断面観察を行ったが、B1区等で見られた旧河道やA2・B2で存在していた可能性がある弥生前期以前の包含層は見られなかったことから、C区の部分は、早い段階から微高地部であったと思われる。縄文晚期前葉の土坑(SK01)が中世期の遺構と同一面で検出されたこともこれを反映しているものと思われる。

検出された遺構の大半は11c後半から12c前半、13c末~14c初頭の堀立柱建物・溝・井戸を中心とした集落(建物群)である。堀立柱建物は大きく3群に別れて分布する。いずれも明瞭な区画施設をもたず、建物が穏やかに集合する形態を探り、まとまった単位を抽出することができない。

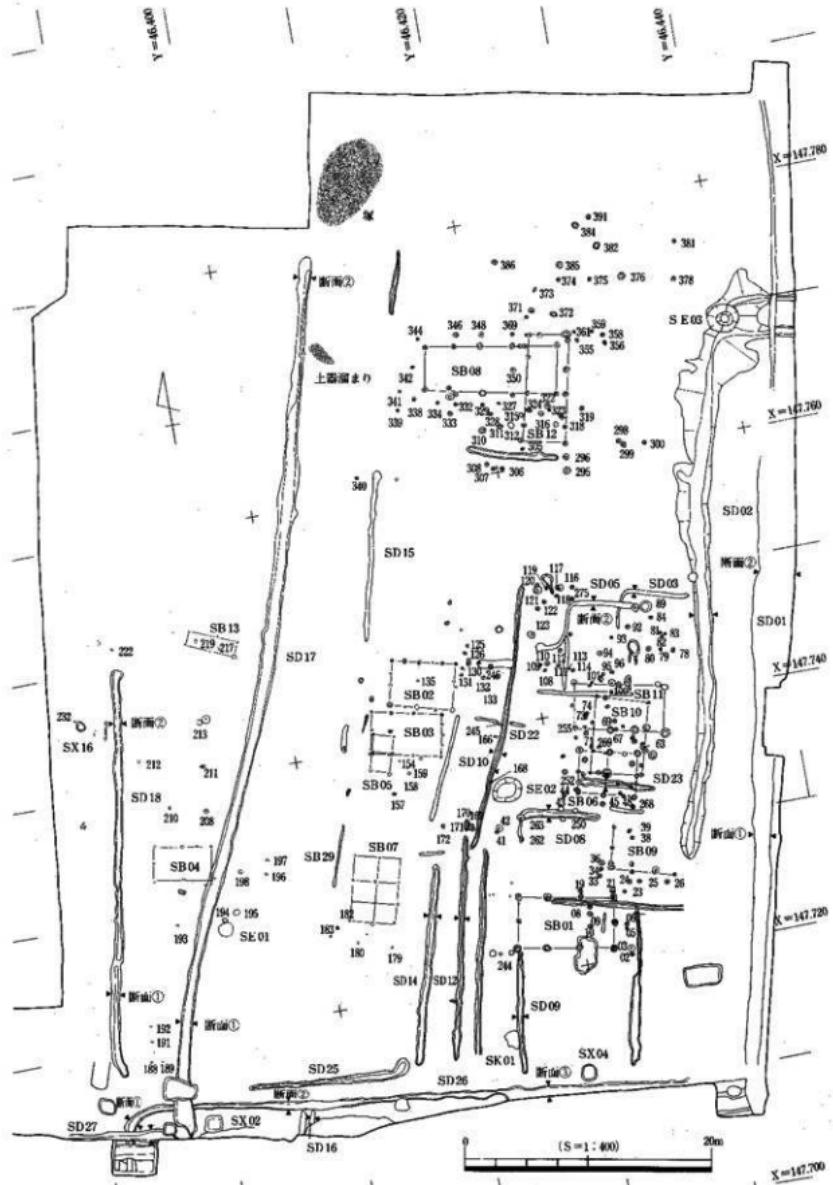
これらの時期別な変遷は第5章第1節を参照されたい。

SK01 (第112~116図)

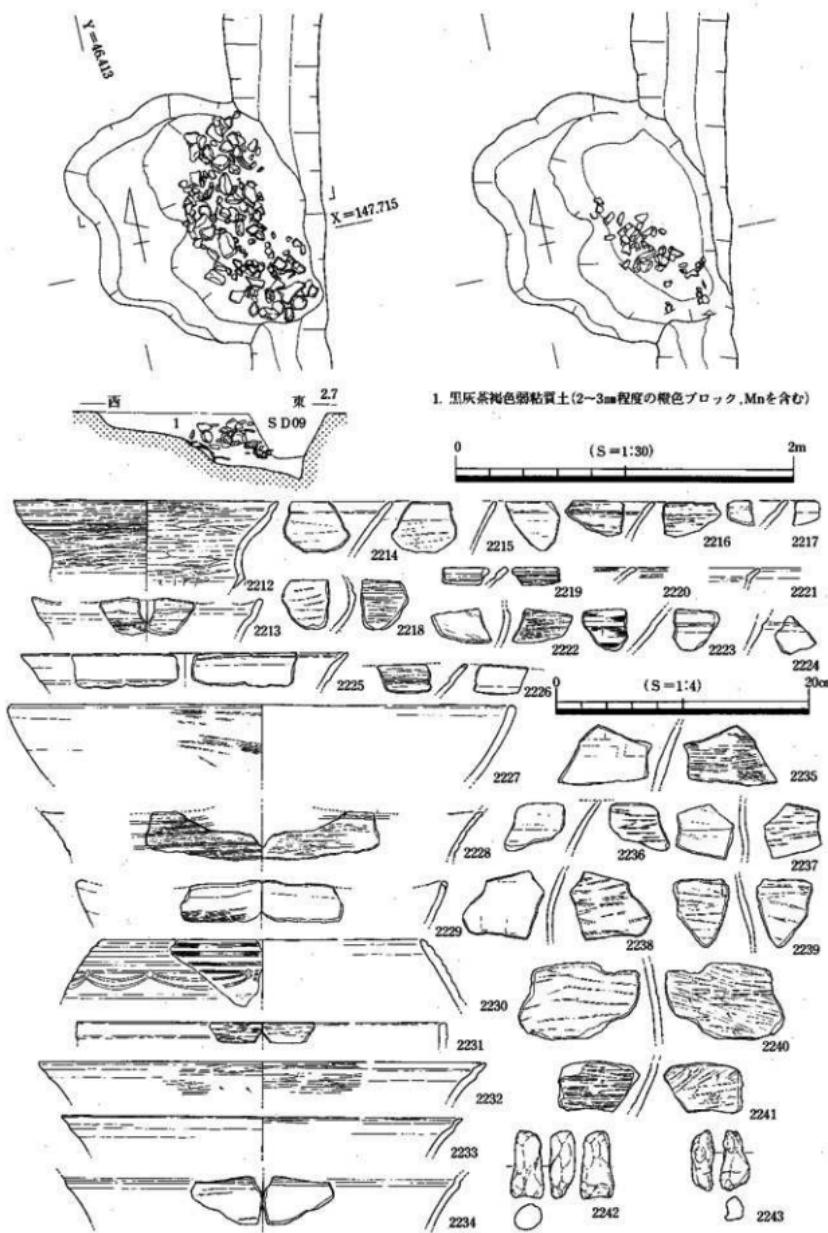
調査区南部のX=147.715 Y=46.413付近において検出した土坑である。13c後半代のSD09に東半部を切られるが、南北幅1.5m東西1.2m深さ0.35m程の不定形な土坑である。断面形状は東側が急峻に立ち上がり、西側はテラス状の平坦面がある。埋没土は黒灰茶褐色弱粘質土の單一層であり、地山塊が多く含まれることから、人為的に埋め戻されたものと推定される。遺構内からは縄文晚期土器・サヌカイト製楔形石器・同剥片・一部に二次的な比熱痕を留める砂岩と見られる礫群が出土した。先に見た埋没土の状況から、これらは一括廃棄されたものと見てよい。また、遺物の組成や出土状況から見て本遺構は、集落域内か、あるいはそれに近接した位置にあると想定されるが、遺構外出土遺物を除いて他に当該期の遺構を確認していない。

2212~2234は浅鉢である。2212はやや内傾しながら開口部をもち、口縁内面に沈線(あるいは段)外面に2条の平行沈線を施す。この内面の沈線あるいはこの沈線を施すことによって段状に仕上げる特徴は、本遺構の土器群の中では浅鉢に多く見られるだけではなく、異器種である深鉢にも認められる。これらの土器群の強い共時性を示す属性と考えられる。2213・2228・2229は口径の残存率が低い為、径・傾きに検討の余地を残すが、波状口縁の浅鉢と思われる。2218・2222は脇部最大径付近の破片で2218は1条沈線が見られる。2227はやや厚手の腕形の浅鉢である。2228は波状口縁と思われ、頸部外面に現存で3条一対の沈線文帯が2帯見られる。上3条は口縁部に沿って弧状を描く。2230は櫻原式文様を施すボール状浅鉢である。現存で上2条と下1条の横方向の沈線文帯間に櫻原式文様を充填する。また、トーン部分には赤色顔料が僅かながら見られ、器面が摩滅していることを考慮すれば元来は沈線部分だけではなく口縁部付近の外面全体に塗布されていた可能性が高い。分析の結果、この赤色顔料はベンガラであることが判明している。2212~2234は口縁部内面に段をもち、やや口径が広い浅鉢である。

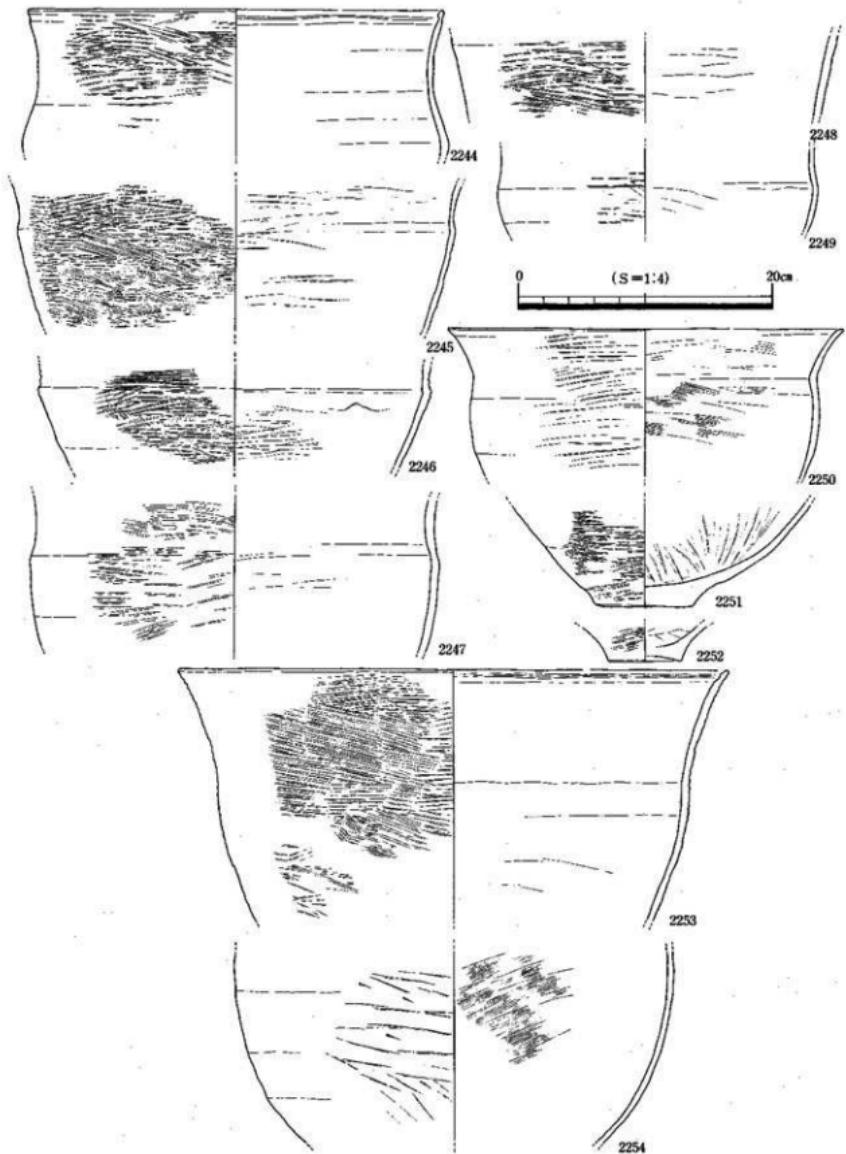
2235~2255は深鉢である。器面調整は横ないし斜め方向の2枚貝条痕を基調とし、巻貝による条痕調



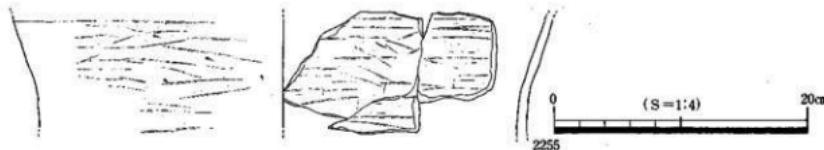
第111図 C区遺構配置



第112図 SK01 平・断面及び出土遺物その1



第113図 SK01 出土遺物その2



第114図 SK01出土遺物その3

整は見られない。部分的に2254・2255などには、原体不明の擦痕状の調整痕が見られる。形態はバリエーションがあり、頸部境に稜線状の屈曲が見られる2245～2249や比較的緩やかに屈曲し口縁部が外反するもの2244・2250がある。また、頸部境が不明瞭な2253や比較的薄手で球形の頸部をもつ2254も見られる。2255は破片間で明瞭に色調を違えることから、破片になった状態で2次的な熱変を受けた可能性がある。底部形態には明瞭な平底を呈する2250や若干の上げ底の2252がある。

2242・2243は土製品である。表面の磨減が著しいが、2242は下部に接合に関係すると思われる窪みがあり、土偶ないしその一部の可能性も考えられる。2243にはこのような箇所は見受けられないがこれに類するものと考えておきたい。

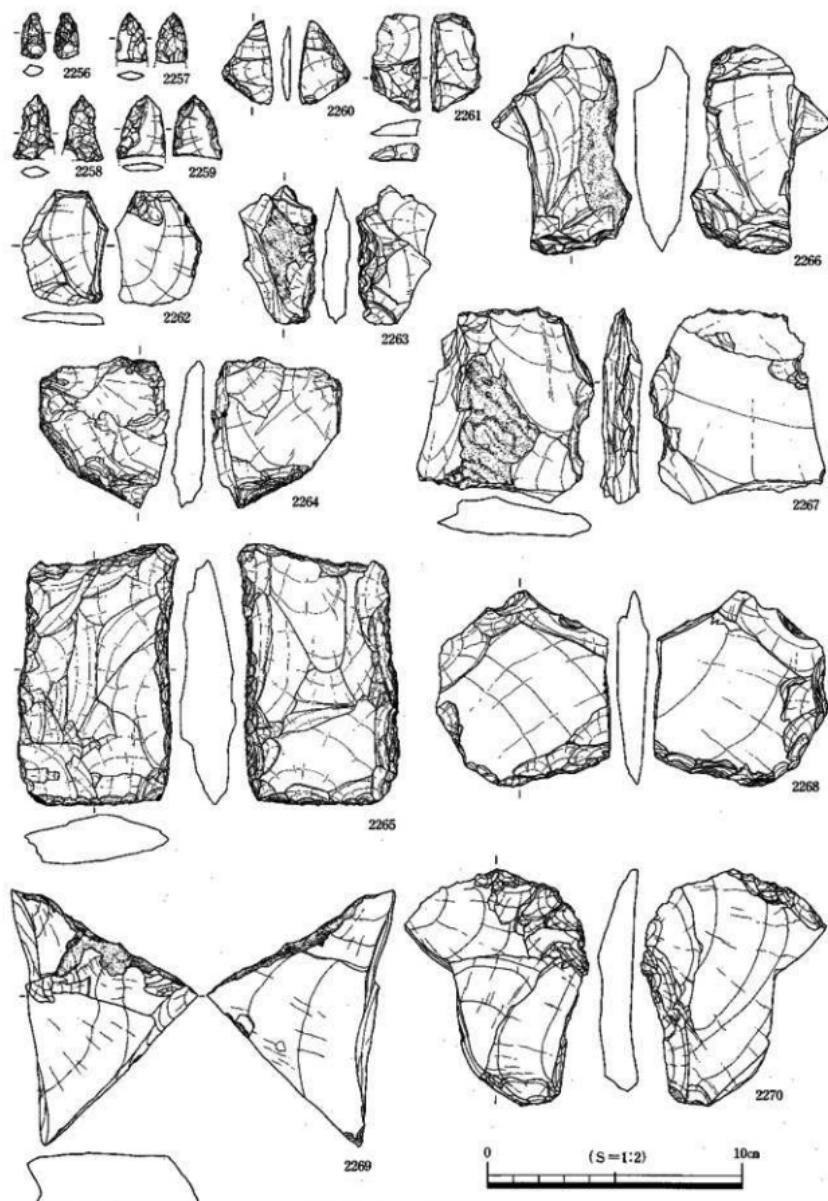
2256～2259はサヌカイト製の石器である。2257・2259は基部を欠損する。調整も不十分であることから製作途上で折損し、破棄されたものかもしれない。2262は主要剥離面側に微細な調整痕が見られるところから2次加工のある剥片とした。2264・2265・2267～2269は楔形石器である。2269はサヌカイト製の板状素材、2271は線状の敲打痕が見られる砂岩製の叩き石である。

このように、SK01からは一括廃棄された状態での土器群を抽出することができた。県内での既往の調査例の中でこのSK01出土資料に該当する例は、普通寺市所在の永井遺跡出土資料に求めることができる。中でも比較的晩期前半の土器群が多く見られたSR8501I・III・VII・IX層出土資料が該当する。この資料は一定程度の時間幅をもつものとされ、前段階の縄文後期の諸属性や上坑出土資料との差し引き関係から、永井X～XII式に分割して理解されている(渡部1990)。

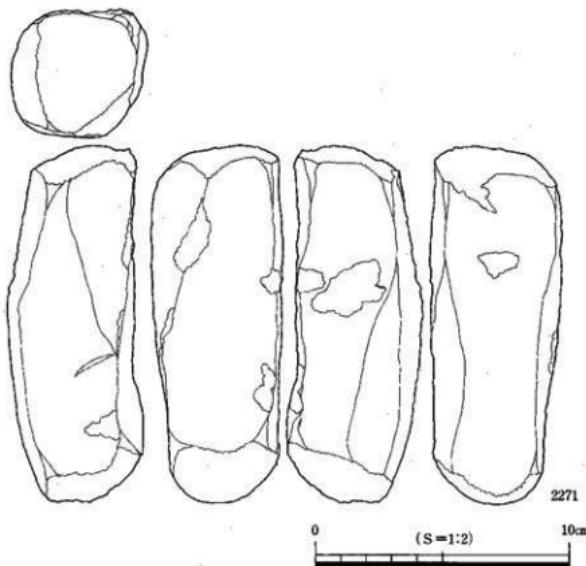
深鉢の頸部外面の2枚貝条痕調整や口縁部の外反度、口唇部への刻み目が見られない点や深鉢・浅鉢の口縁部内面が段状に処理される属性などから、SK01出土資料は渡部永井編年X式に併行する単純資料と思われる。しかし、この永井X式とされた浅鉢は、頸部最大径に比べて口縁部が著しく外反し、口縁端部を上方に拡張するもので、西打遺跡SK01出土資料には見られない。この浅鉢は、近年比較的資料が増加しつつある突帯文出現以前の晩期中葉の資料群である高松市所在居石遺跡SR03第5～7層出土資料などに見られることから、後出するものとして永井X式からは除外して捉えるべきであろう。

SB01(第117図)

本調査区南半部のX=147.725 Y=46.420付近において検出した2間×3間(3.92×7.64m=29.95m²)の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から100°東へ振った東西棟を探る。本調査区で検出した建物の中では、最も柱の平面配置や柱間(桁方向2.6m、梁間1.8m前後)が整ったもので、柱穴自体の規模もやや大きい。柱穴は底面において直径0.2m程の柱痕と思われる箇所を確認できるものが多く、根石あるいは詰石と思われる石材をもつものもある。



第115図 SK01 出土遺物その4



第116図 SK01出土遺物その5

遺物は各柱穴から出土した。2272～2275は土師質土器杯である。2276は内面に僅かながらミガキをビドメる須恵器碗の高台部片である。2277は内黒の椀である。2278は亀山焼窯の胴部片、2279は外面に明瞭なタテケズリが見られる備前焼窯の胴部片である。2280は土師質土器足釜の脚部片である。

これら出土遺物の内2277のみやや古相を示すが、全体として概ね13c後半～14c前半の所産と捉えられることから、本建物の帰属時期をこの時期に推定する。

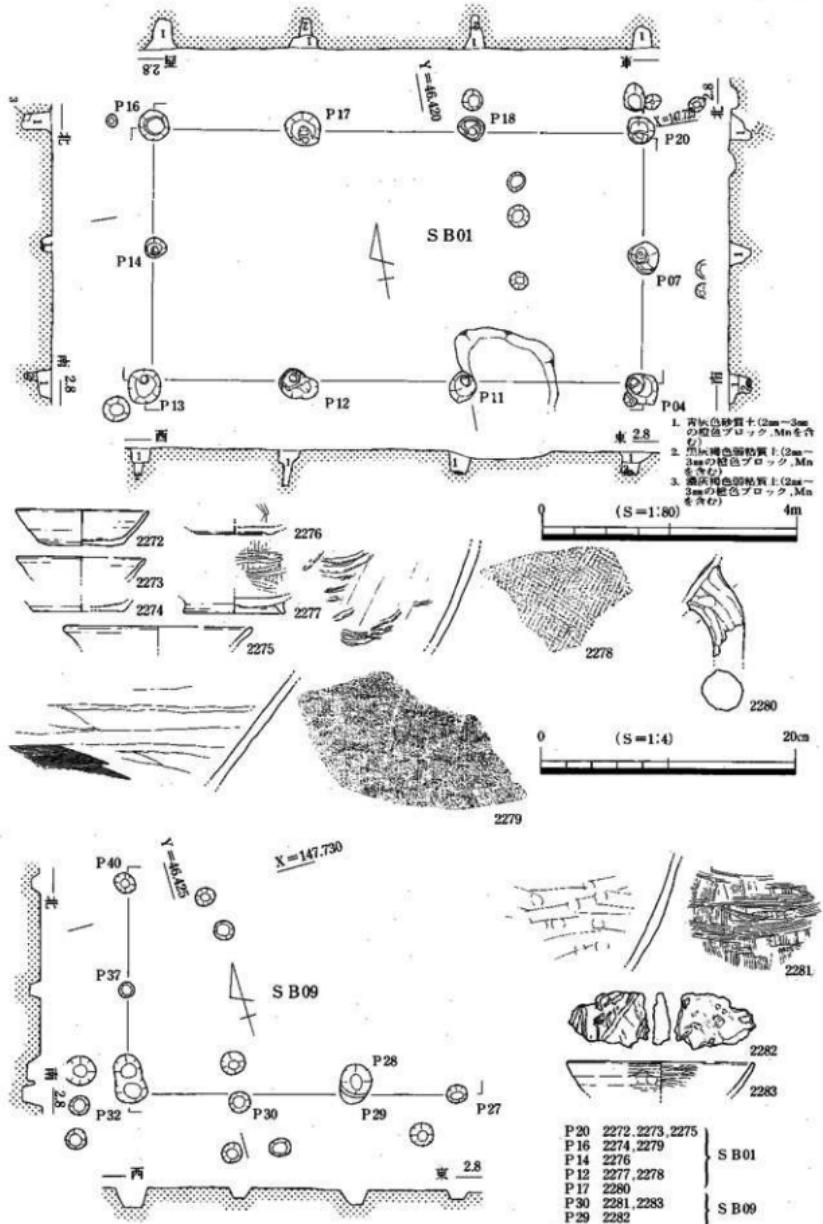
S B09 (第117図)

S B01の北側X=147.730 Y=46.425付近において検出した2間×3間($3.6 \times 5\text{m} = 18\text{m}^2$)の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から 105° 東へ振ったもので、北側の桁行・東側の梁間の柱穴列は未検出であるが、柱間の間隔が揃うことと埋没土の類似性を考慮し建物として復元した。

2281は土師器窯の胴部片、2283は内黒の椀の口縁部である。2282はスサ状の纖維質の混入が認められる粘土塊であり、壁土の可能性もある。出土遺物は少数であるが、2283の内黒の椀から本造構の時期を11c後半から12c前半に推定する。

S B06 (第118図)

比較的柱穴が密集するX=147.735 Y=46.425付近で検出した2間×2間($3.4 \times 4.6\text{m} = 15.64\text{m}^2$)の総柱構造の建物である。建物主軸は座標北から 103° 東へ振ったもので、S B10と重複する。また、この総柱構造は本調査区の中では唯一のものである。



第117図 S B01・09平・断面及び出土遺物

S P 50からややまとまって遺物が出土した。2284～2289は土師質土器皿である。2290～2295は土師質土器杯である。2295は底部と口縁部の立ち上がりが不明瞭なもので、高台貼り付け用の下地沈線が見られないことから、杯とした。2296～2304は内黒の椀である。外面に回転ミガキが見られる西村型の2297・2298・2300他、外面下半に分割ミガキを行う2301～2304非西村型の内黒の椀も一定量見られる。2305～2307は土師器壺の口縁部である。

これら出土遺物は11c後半～12c前半に比定されることから、本遺構の時期を同時期に比定する。

S B10 (第118図)

X = 147.738 Y = 46.428付近でS B06と重複して検出した1間×3間 ($3.6 \times 6 \text{ m} = 21.6 \text{ m}^2$) の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から14°東へ振った南北棟である。桁行の柱穴規模や柱通りはバラツキがあるが、柱配置は東・西の桁行で概ね対応したものとなっている。

2308・2309は土師質土器皿である。2310・2311は内黒の椀である。これら出土遺物の年代観は11c後半から12c前半の所産と思われ、重複するS B06との明瞭な時間差は想定しづらい。

S B11 (第119図)

X = 147.740 Y = 46.425付近で検出した2間×3間 ($3.8 \times 7.64 \text{ m} = 29.03 \text{ m}^2$) の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から102°東へ振った東西棟で、西側の梁間と北側の桁行の柱穴が未検出だが、埋土の類似性と柱穴規模等を参考にし建物として復元した。柱間は1.4～2.6m程と一定しないが、柱通りや平面形はほぼ揃うものとなっている。

2312は土師質土器皿である。2313・2314は土師質土器杯である。2315～2317は外面に回転ミガキが見られる西村型の内黒の椀である。2318は十瓶山窯産須恵器壺の胴部片である。2321は十瓶山窯産須恵器鉢の口縁部、2319・2320・2322は土師器壺の底部・口縁部片である。これらの遺物の所属時期から、本建物を11c後半～12c前半としておく。

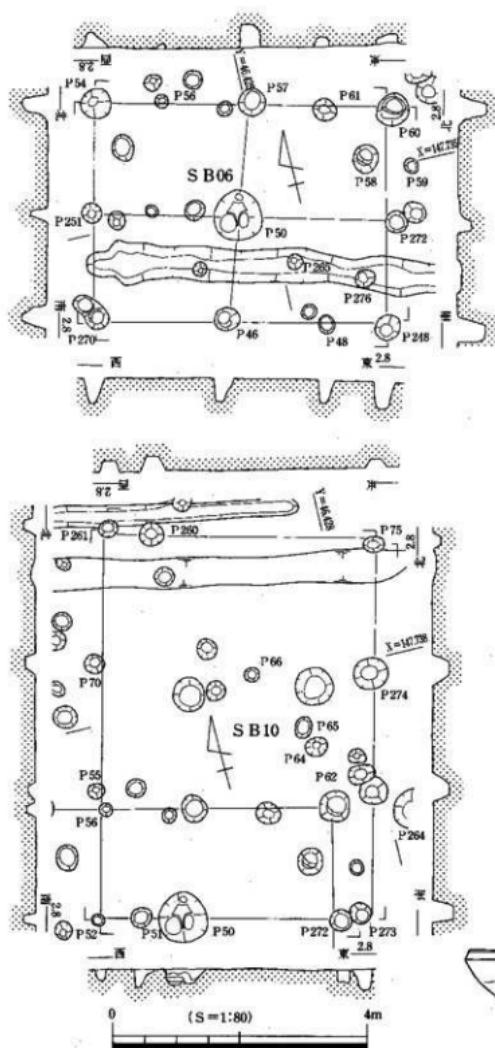
S B07 (第119図)

X = 147.730 Y = 46.405付近において検出した2間×3間 ($3.6 \times 5.2 \text{ m} = 18.72 \text{ m}^2$) の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から15°東へ振った南北棟であり、平面形はやや歪む。梁間中央の柱列P177とP178間の柱穴が見られないが、削平行行為によるものか建物の間取りに関連して欠落するものか判断できない。

図化に耐えうる遺物が見られなかったが、P234・235から土師質土器杯の小片が出土している。これらや建物主軸・周辺の建物群との位置関係から、11c後半から12c前半の所産の所産と考えられるが、厳密な時期決定は難しい。

S B02 (第120・121図)

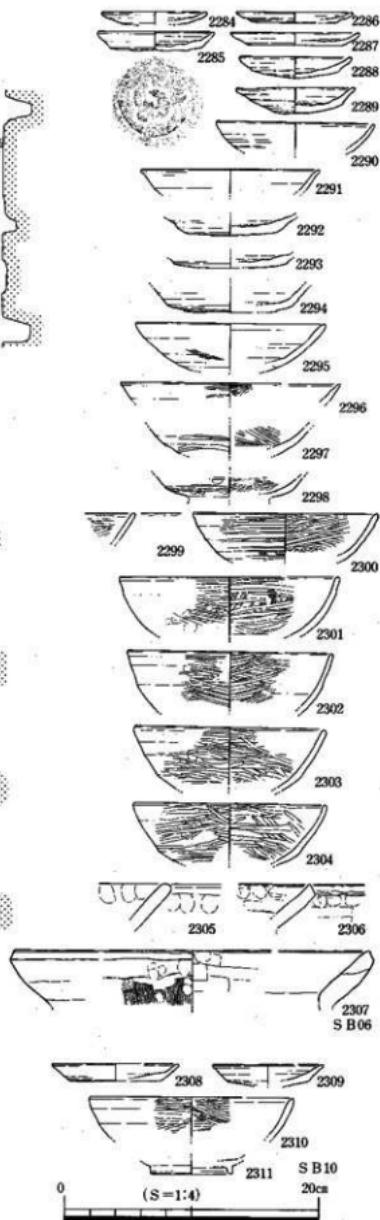
X = 147.745 Y = 46.410付近においてS B03に隣接して確認した2間×4間 ($3.8 \times 5.2 \text{ m} = 19.76 \text{ m}^2$) の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から103°東へ振った東西棟を探る側柱建物である。柱間は梁間で1.4～2m桁行で0.8～1.8mと一定しないが、両者ともに柱通りはよく、これに呼応して平面形も整ったものとなっている。P129・141・143には柱材が遺存していた。



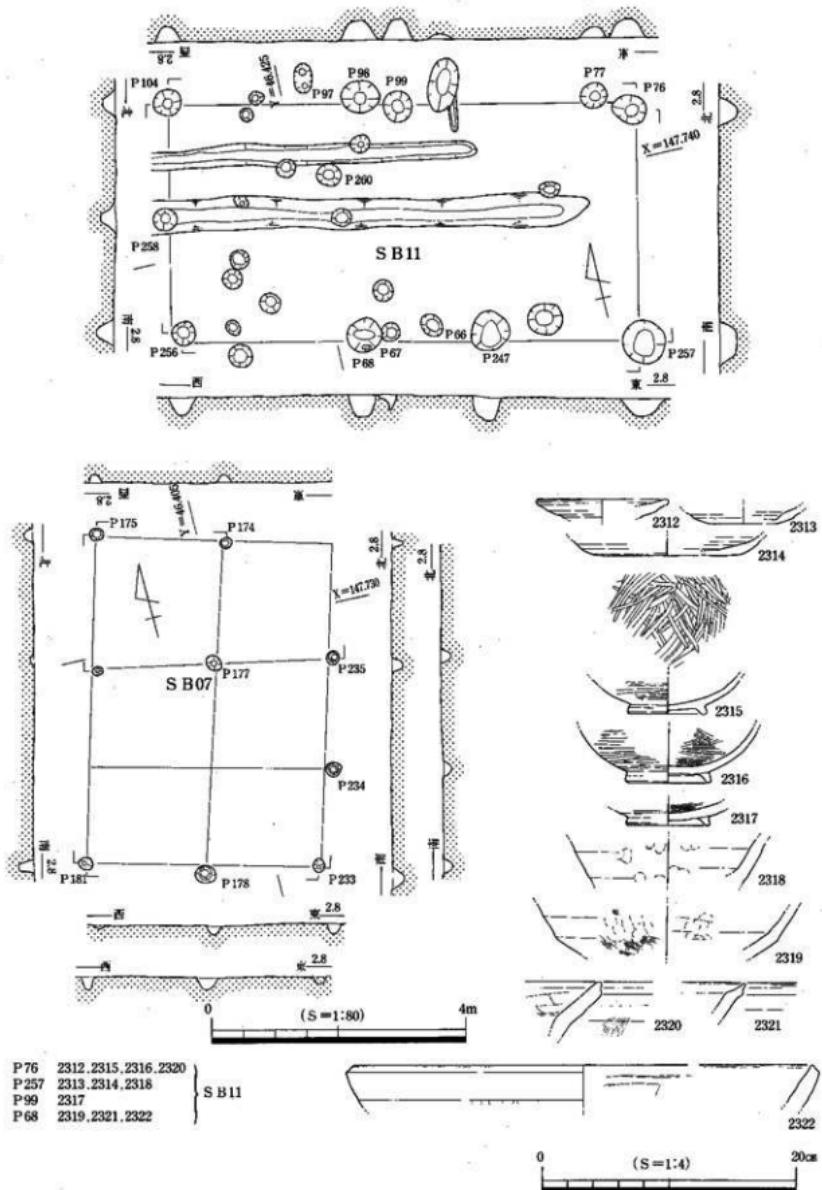
P50 2284, 2289, 2292, 2293, 2294, 2298, 2299, 2301, 2307
 P270 2285, 2290
 P272 2296, 2287, 2302, 2303, 2304, 2305, 2306
 P46 2288
 P60 2291, 2295, 2296, 2297
 P57 2300

P273 2308, 2310
 P70 2309
 P261 2311

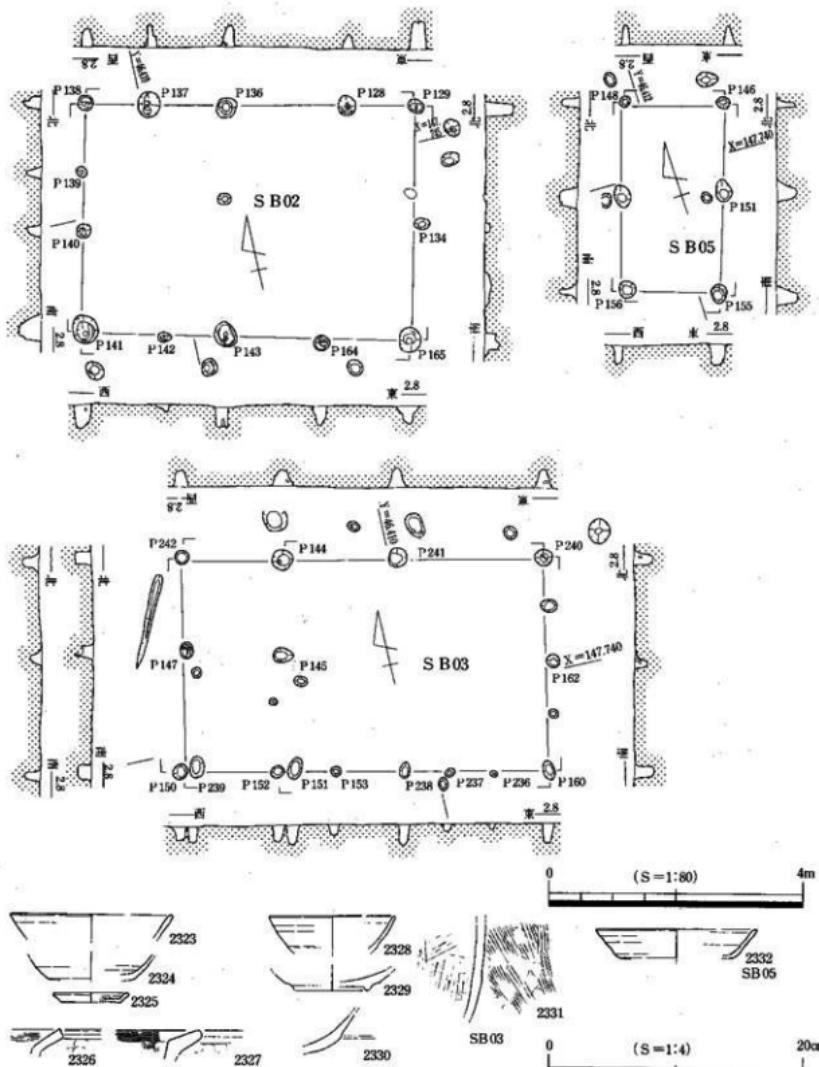
{ S B 06



第118図 SB 06・10平・断面及び出土遺物



第119図 SB07・11平・断面及び出土遺物

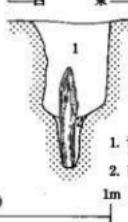
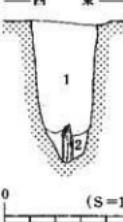


第120図 S B 02・03・05 平・断面及び出土遺物

2323~2327は出土遺物の実測図である。2323・2324は土師質土器杯である。2325は土師質土器皿である。2325・2327は土師質土器鍋の口縁部である。これら出土遺物から本建物の時期を13c末~14c初頭とする。

西 東 2.7

西 東 2.7



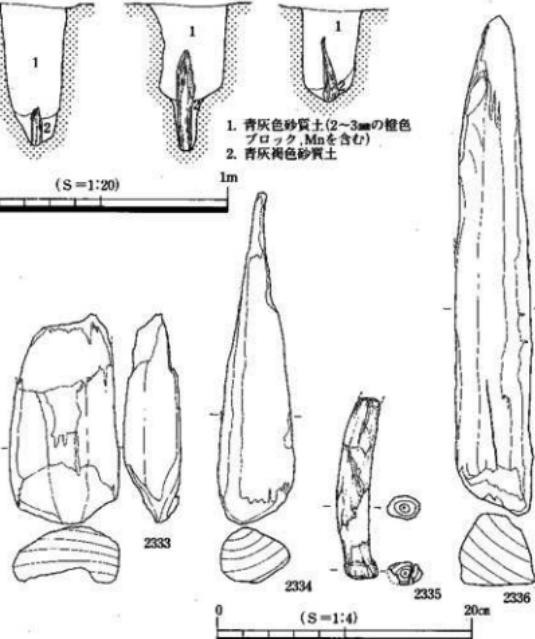
0 (S=1:20)

1. 青灰色砂質土(2~3mmの粒を含む)
2. 青灰褐色砂質土

S B03 (第120図)

X = 147.740 Y = 46.410付近のS B02に南接して検出した2間×3間($3.4 \times 5.8\text{m} = 19.72\text{m}^2$)の掘立柱建物である。

建物主軸は座標北から102°東へ振った東西棟の側柱建物で、建物寸法や床面積ともにS B02に類似するものである。出土遺物には2328・2330の土師質土器杯、2329の内黒の椀、土師器壺の胴部片?がある。2329の内黒の椀が時期的に古いものであるが、ここでは2328の土師質土器杯の特徴より本建物を13c末~



第121図 S B02 柱穴断面及び出土遺物

14c初頭とする。隣接するS B02もほぼ同時期のものと思われるが、同時併存とするには距離が近すぎると。先に見た建物規模等が類似することを考慮すれば、ほぼ同時期に立て替えられたものと想定できる。

S B05 (第120図)

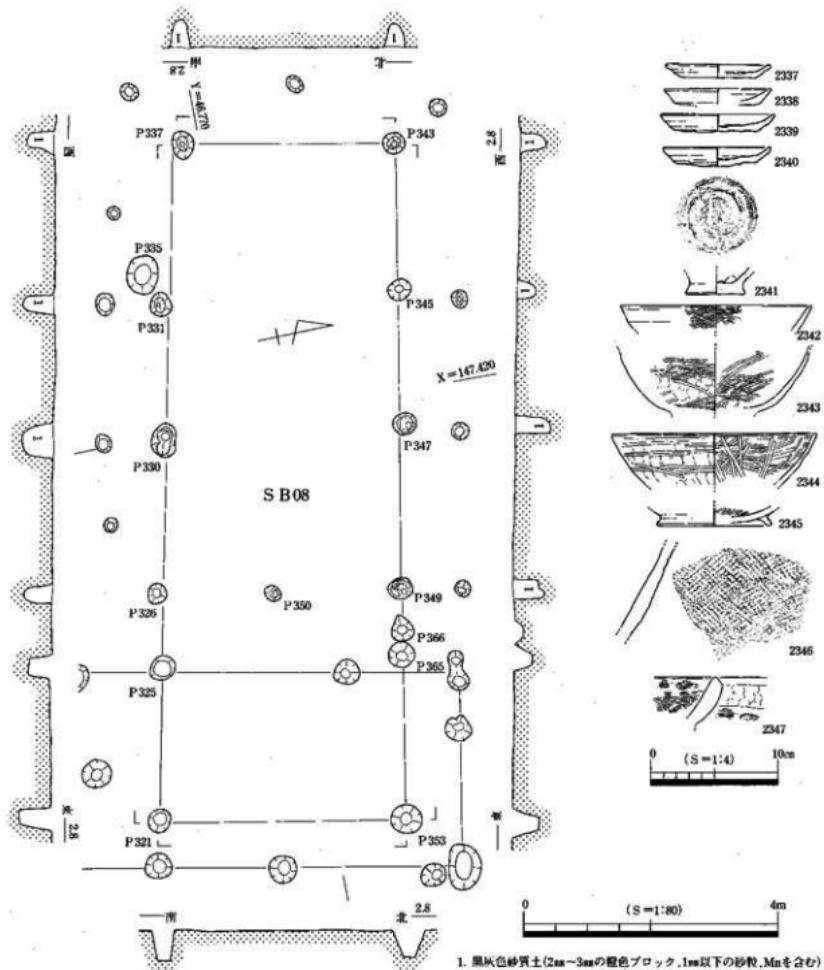
X = 147.740 Y = 46.412付近でS B03と重複して検出した1間×2間($1.5 \times 3\text{m} = 4.5\text{m}^2$)の小規模な掘立柱建物である。建物主軸は座標北から17°東へ振った南北棟である。

出土遺物にはP 148からの2332土師質土器杯があり、本建物の時期を13c末~14c初頭とする。

S B08 (第122図)

比較的柱穴が集中する調査区北東部のX = 147.420 Y = 46.770付近でS B12と重複して検出した1間×4間($3.6 \times 10.6\text{m} = 38.16\text{m}^2$)の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から102°東へ振った東西棟である。桁方向に庇と思われる柱穴列が一部確認できたが、全体として庇を復元することはできなかつた。

2337~2340は土師質土器皿である。2342・2343は和泉型瓦器碗である。2344は内黒の椀2345は器面の

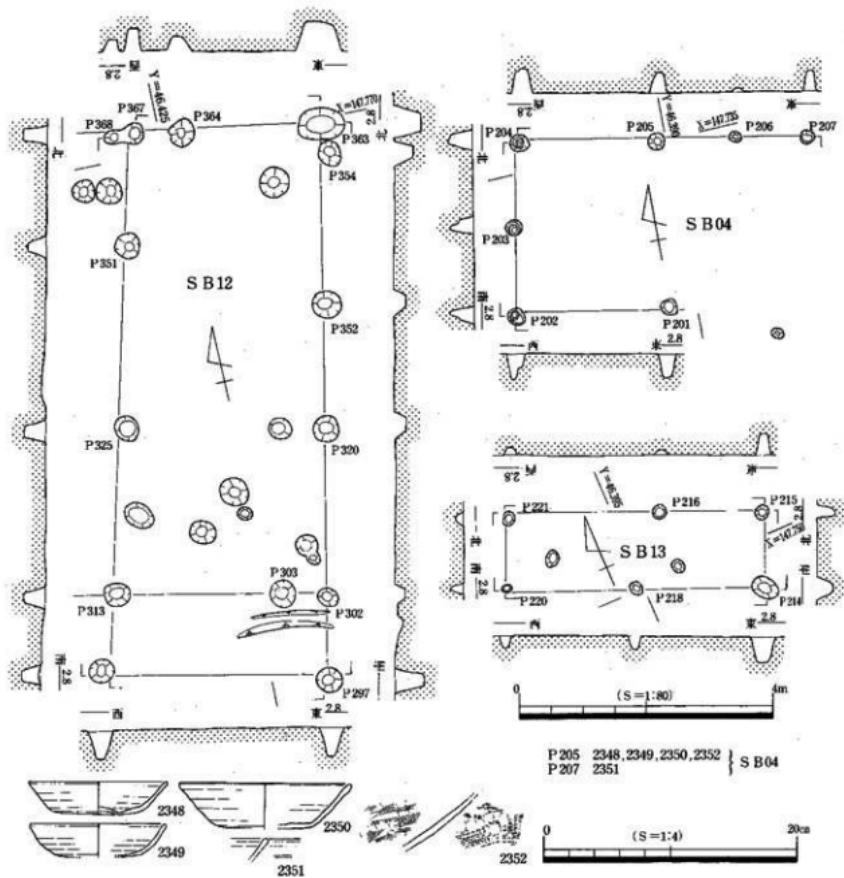


1. 黒灰色砂質土(2mm~3mmの粗粒ブロック、1mm以下の砂粒、Mnを含む)

P321 2337, 2343, 2345 P343 2339 P331 2341
 P330 2338, 2342, 2344, 2347 P347 2340 P350 2346

第122図 SB 08 平・断面及び出土遺物

磨滅が著しくカーボンの吸着が確認できないが、内黒の楕高台片と思われる。2346は亀山焼窯の割部片である。2347は土師器窯の口縁部片である。P350は位置的に見て東柱の可能性を考えたが、同遺構より出土した2346の亀山焼窯のみ13c代に時期的に下るものであることから、本建物には伴う東柱でないと考えられる。他の出土遺物より本建物の時期を11c後半~12c前半の所産とする。



第123図 S B04・12・13平・断面及び出土遺物

S B12 (第123図)

X = 147.770 Y = 46.425付近において検出した1間×3間 ($3.2 \times 7.4\text{m} = 23.7\text{m}^2$) の柱構造をもつ掘立柱建物で、南側の梁間に1間の庇が付随する。建物主軸は座標北から13° 東へ振った南北棟で、S B 08と重複しする。桁行の柱間一定しないが柱通り描うことと、埋没土が各柱穴に共通していることから、掘立柱建物として復元した。

出土遺物は見られないが、埋没土の特徴から13c後半～14c初頭の所産と推定しておく。

S B04 (第123図)

X = 147.735 Y = 46.390付近において検出した1間×2間 ($2.8 \times 4.6\text{m} = 12.9\text{m}^2$) の掘立柱建物であ

る。建物主軸は座標北から100° 東へ振った東西棟で、調査区南西部に孤立して存在する。南東の隅柱は近世期の溝である S D17に切られ欠損する。

2348～2350・2352は本建物を構成する P205より出土した遺物である。2348～2350は土師質土器杯である。口径や底部の器壁が薄く立ち上がりと差違が見られないことなどから、13c末～14c初頭の所産と思われる。2351は十瓶山窯産須恵器楕の口縁部、2352は土師質土器足釜の底部片である。

S B13 (第123図)

X = 147.750 Y = 46.395付近において検出した 1間×2間 ($1.4 \times 4.0\text{m} = 5.6\text{m}^2$) の掘立柱建物である。建物主軸は座標北から112° 東へ振った東西棟で、S B04の北側に単独で存在する。

出土遺物は見られなかつたが、S B04等の13c後半～14c初頭の建物と埋没土の特徴が類似することから、同時期に推定しておく。

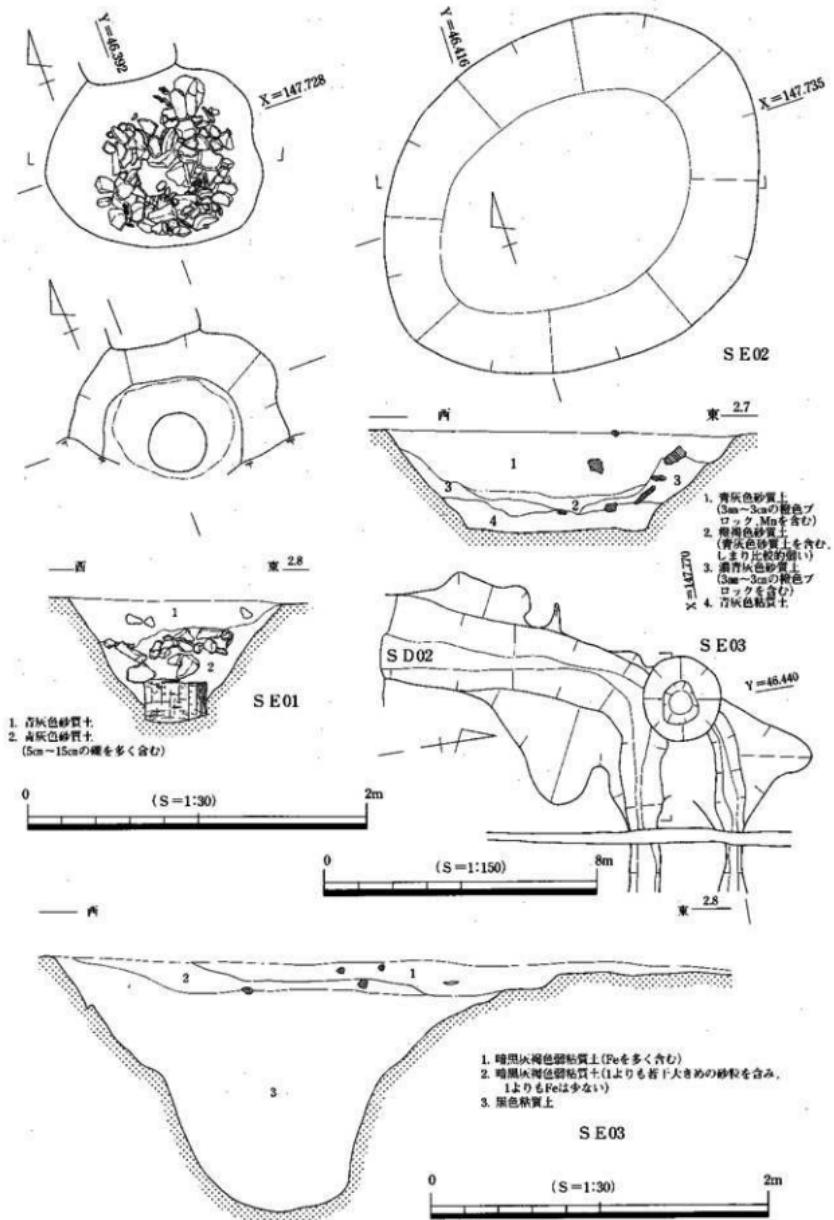
S E01 (第124～126図)

本調査区南西部のX = 147.728 Y = 46.392付近で検出した直径1.25m程の円形を呈し、深さが0.7mを測る井戸である。断面形は逆台形で底面に直径0.38m程の曲げ物による井戸枠を確認した。樹種同定を行っていない。埋没土は2層に細別され、井戸枠を覆う第2層中からは砂岩・安山岩礫と土器片が集中して見られた。出土遺物の大半は、この第2層中からの出土である。また、これら疊群は、亂雑に見られ意図的に配置された形跡はないことから、井戸枠として使用された定位を保つものではなく本遺構廃絶時に投棄されたか二次的に移動を受けたものと思われる。

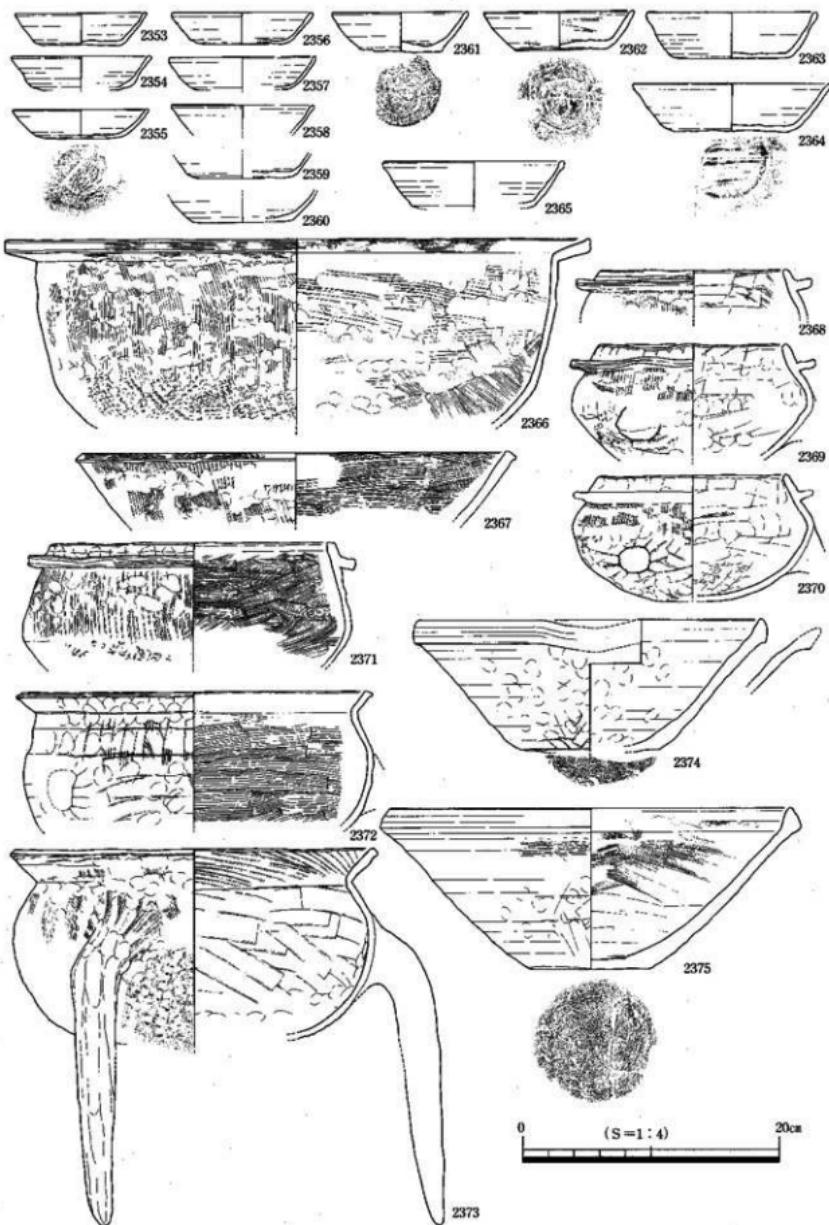
2353～2379は第2層中の疊群とともに出土した。これらは接合率も高いことや先に見た疊群の出土状況から、一括りの高い土器群と見てよからう。2353～2364は土師質土器杯である。底部外面はすべて時計回りの回転ヘラ切りがされており、板状圧痕が見られるもの(2355・2364)もある。口径はバラツキがあり10～11cm程のもの(2353～2362)、14～15cmのやや広いもの(2365～2364)がある。

2366は土師質土器鍋である。底部付近には明瞭な格子タタキが見られるが、頭部及び胴部にはやや密なタテハケが施されていることから、タタキ成形の範囲は明確ではない。口縁端部の外面はヨコハケによって面取りされている。2367は土師質土器鉢？である。類例に乏しいが、内外面に粗いハケ調整が見られ2366の鍋と同じく口縁端部外面をヨコハケによって面取りする。2368～2371は土師質土器足釜である。2368～2370は同一個体の可能性もあるが、接合箇所が見られないと口縁端部や鉢部の形態に若干差違が存在することから、別個体として図化した。これらは、口縁端部の形態、鉢部をハケ調整によって面取りすることや胴部外面に明瞭なタテハケによって調整する点などから、足釜現期の属性を備えている。2372・2373は土師質土器足鍋である。2372は口縁端部外面を足釜と同じくハケ調整によって面取りする。2373は脚部と胴部片が接合し3脚に復元される。土師質土器足釜と同じく底部付近を格子タタキ、後に胴部外面をタテハケによって調整する。

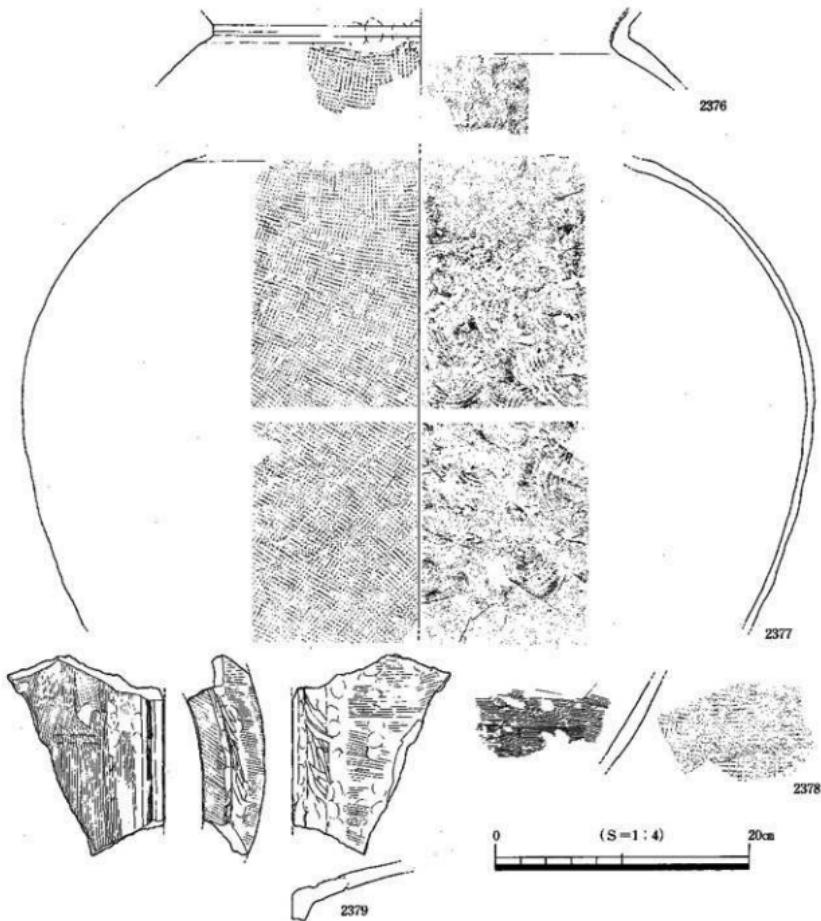
2374・2375は東播系須恵器捏鉢である。両者とも底部外面に回転糸切り痕をとどめる。2375は内面に使用痕と思われる擦痕をとどめ、且つ「焦げ」状の調理物と考えられるものが付着している。外面にも二次的な熱変を示唆する箇所も存在する。2376・2377・2378は龜山焼甕である。胴部外面に格子タタキ、頭部付近には強いヨコナデが見られる。2376・2377は内面に当て具痕をとどめるが、2378はやや密なヨコハケによってこれを消している。2379は土師質の甕片である。



第124図 S E01・02・03 平・断面



第125図 SE01出土遺物その1

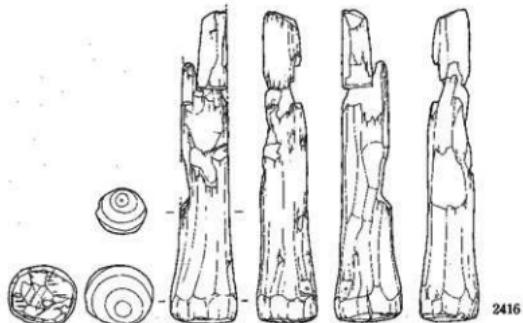
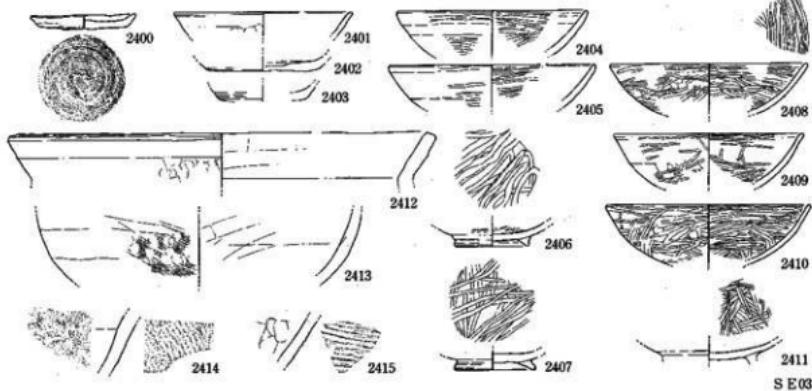
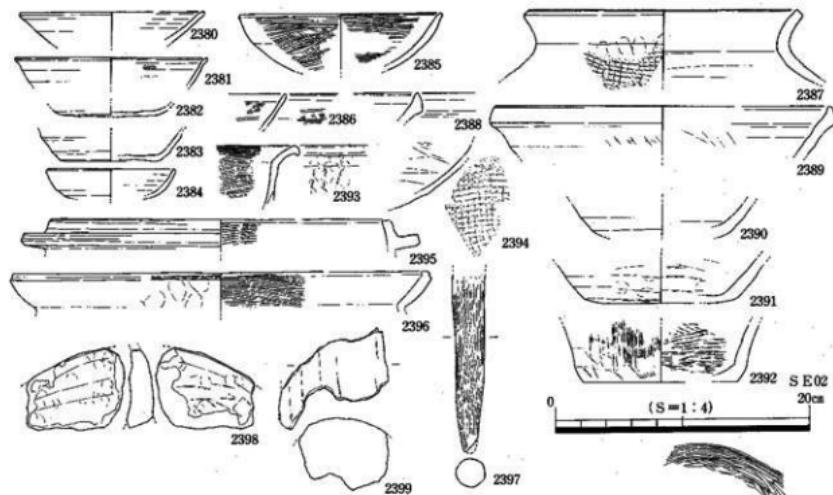


第126図 SE01出土遺物その2

SE02 (第124・127図)

本調査区の中でも比較的建物が集中するX=147.735 Y=46.416付近で検出した東西2.2m南北2m深さ0.6m程を測る素掘りの井戸である。断面観察や底面の形状からは井戸枠等の施設は確認できない。断面形は逆台形を呈し埋没土は大きく3層に区分される。下層より第4層は機能時乃至廃絶直後、第2・3層堆積時に自然埋没が進行し、第1層には地山塊多く見られることから完全に埋め戻されたものと思われる。層位別の遺物取り上げを実施していないが、堆積状況から一定期間の時間幅を想定させるものと言えよう。

2380~2383は土師質土器杯である。2384は土師質土器皿である。2385は楠葉型の瓦器椀である。内面



第127図 S E 02・03出土遺物

に1条沈線、内外面に細い分割ミガキを認める。2386は十瓶山窯産須恵器椀である。小片であるが外面に回転ミガキ痕をとどめる。2387は十瓶山窯産須恵器壺の口縁部である。2388・2389は東播系須恵器鉢である。2390・2391は小片であるが須恵器捏鉢の底部片と思われる。2393・2396は土師質土器足鍋の口縁部で、2396は口縁端部外面をヨコハケにより面取りする。2395は同足釜の口縁部でS E 01出土の2368～2371と同じく口縁端部・鉢部に初現期の特徴を備える。2394は足釜？の底部片2397は脚部片である。2392は土師質の鉢？であろうか。類例に乏しく器種を特定できない。2398は土師質の竈片、2399は一部に凹面をとどめる粘土塊で建物等の壁材であろうか。

これらの遺物は2385の捕葉型瓦器椀を除いてS E 01と同じく概ね13c後半に位置づけられるものと考えられる。出土層位等が確認できていないが、これらの遺物が本遺構の機能時乃至廃絶時のものとし、本遺構の時期を推定する。

S E 03 (第124・127図)

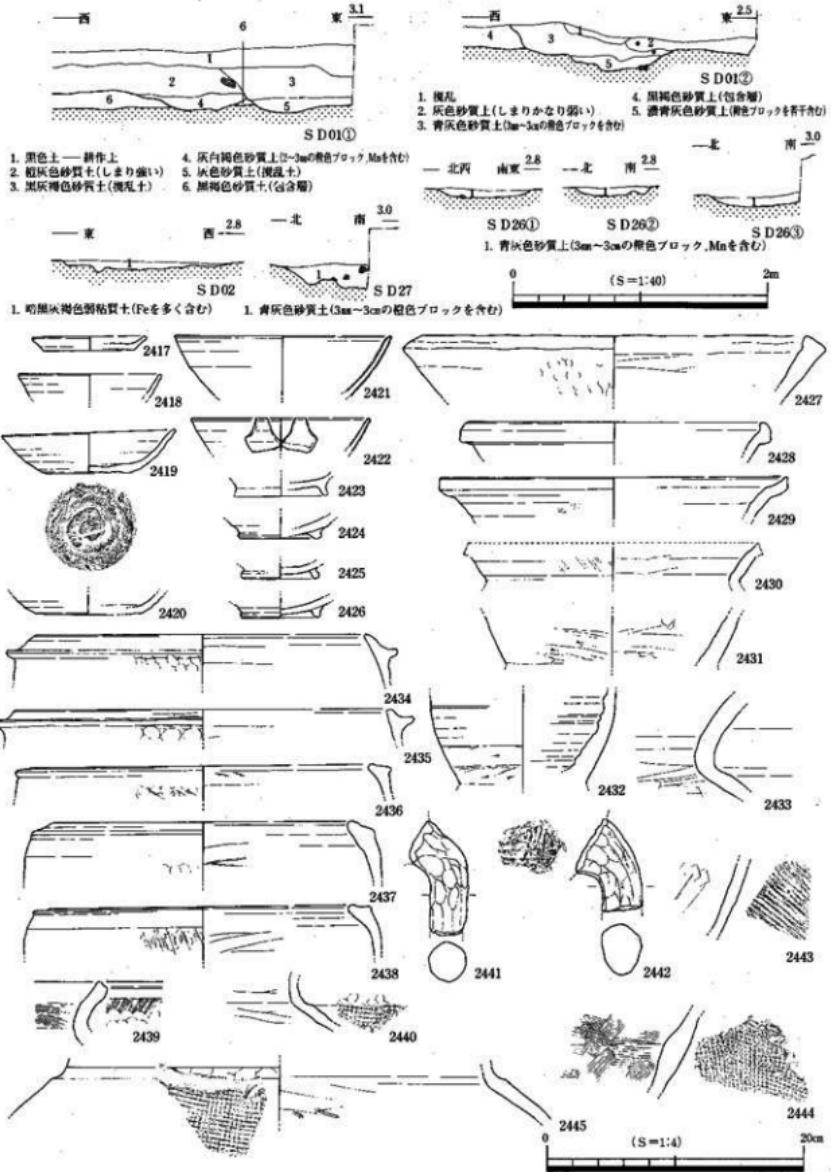
調査区東部のS D 02が東へ屈曲するコーナー部分において検出した直径2.6mの円形を呈し深さ1.5m程を測る素掘の井戸である。断面観察からは、平面プランが重複するS D 02と先後関係は無く、両者がほぼ同時埋没している状況が見られた。この同時併存することを考慮すると、日常生活に關係した井戸ではなく、S D 02の性格を耕地經營に伴うものと仮定すれば、これに伴う湧水施設とするべきものであろう。

2400は完形の土師質土器皿である。2401～2403は土師質土器杯である。2403は同底部片であるが、小片の為、径・傾きに検討の余地がある。土師器椀の口縁で内外面にやや密なヨコミガキが看取される。2405～2407は西村型の内黒椀である。2408～2410は和泉型瓦器椀である。2411のみ十瓶山窯産須恵器碗である。2412・2413は土師器壺で口縁部・胴部片である。2402・2415は十瓶山窯産須恵器壺の胴部片である。木製品では器種不明の2416がある。これらの出土遺物は11c後半～12c前半の所産と思われ、S D 02出土遺物の様相との明瞭な時間差は見られない。

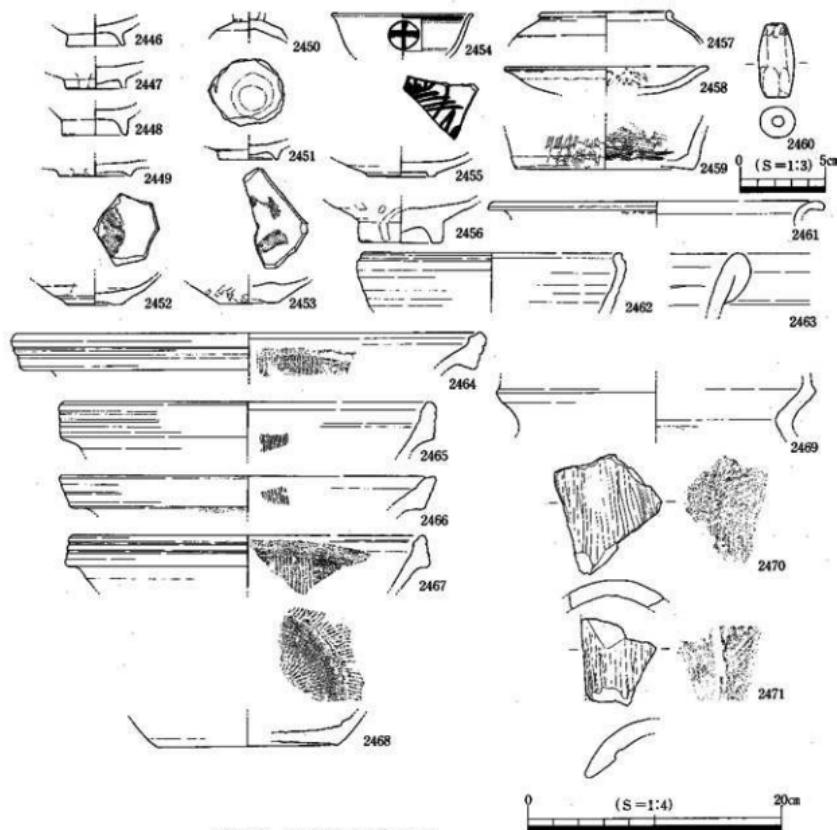
S D 01 (第128・129図)

調査区東壁に沿って南北に延びる条里坪界溝である。位置的にはA 2区S D 02・16を北へ延長した部分となる。後述する出土遺物の時間幅からも掘開されてから複数時期の再掘削を受けているものと思われる。上面幅0.1～0.2m深さ0.2～0.3mを測り、S D 02を切り込む部分より北側では幅0.4m程の小溝となるが、遺構検出時に掘削しすぎた結果であり、元来は南半部と同様の規模をもつ。断面観察から大きく掘削時期は2時期に分かれ。断面①とした南側、断面②とした北側のセクションベルトとともに、S D 02付近を覆い調査区東半部に見られる焦褐色の包含層を切り込んで開削されている状況が見られる。次に断面①では更に上層より掘開している様子（土層名3・5層）が看取された。断面②の部分では遺構検出面より上層の層位が記録できなかったが、堆積状況が不整合で層境が明瞭な1・2層についても断面①と同様であると思われる。近世期の遺物はおそらくこの段階で遺構内に混入したものと思われる。

2417は土師質土器皿である。2418～2420は土師質土器杯、2421は白磁VI a類の碗である。2422は青磁碗と思われる小片である。2423～2426は内黒椀の高台部である。2427は土師質の捏鉢、2428は東播系須恵器捏鉢である。2429は十瓶山窯産須恵器鉢の口縁部2430は同窯産須恵器壺である。2431・2432は同窯



第126図 SD01・02・26・27断面 SD01出土遺物その1



第129図 SD01出土遺物その2

産須恵器壺の胴部片であり2433は須恵器壺頸部片であるが、形態や焼成から判断して古代後半～末の所産であると思われる。

2434・2435・2441・2442は土師質土器足釜の口縁部・脚部片である。2435～2438は中世末期～近世初期まで下る土師質土器把手付鍋である。2439～2445は亀山焼窯である。

先に見た複数回に及ぶ再掘削や包含層上面から掘り込まれていることから、これらの出土遺物から本溝の掘開時期を想定するのは難しい。内黒の椀等の11c後半～12c前半代の遺物は包含層からの混入とし、これより時期的に後に出する2419の土師質土器杯や2434・2435の土師質土器足釜等の遺物から、本溝の掘開時期を13c後半とする。2437・2438等の中世末期に更に下る遺物は、断面観察で確認された通り、維持管理に伴う再掘削時に上層より混入したものと考える。2446～2468は近世期の遺物である。2446～2453・2458の陶器碗・皿類の他に2454・2455等の磁器碗も見られる。2461は瓦質の焰塔2462～2468は備前焼の壺・擂鉢である。2469は弥生後期複合口縁壺で混入品である。

S D02 (第128・130~133図)

S B01東側付近から調査区東半部を南北に延びる上面幅1.3~2.5m深さ0.1m程の溝であり、S E03の部分で幅1m程の2条の小溝に分岐し東へ約90°屈曲する。位置的にはS D01と同じく南北方向の条里坪界線上に位置する。先に述べたとおり、このS D02が位置する調査区東半部は包含層である黒褐色粘土が広く分布し、この包含層を除去した段階で本溝の平面プランを確認した。しかし、残存深が0.1m程度という点を考慮するとより上位よりの掘開が想定されるが、先の包含層と埋没土の識別が困難であった。この包含層上面での検出作業中にも、後に検出した本溝の位置より遺物がまとめて出したことも、これを傍証するものと考えられる。

本調査区の中で最も多く遺物が見られ、S B01・06・10等の建物群東側から最も多く出土した。2472~2615は先の包含層を除去し、平面プランを確認した後、出土した遺物である。2616~2662は遺構検出作業中に本溝の位置で出土したもので、元来伴っていた可能性が極めて高い遺物である。また、図化可能な口縁端部等はすべて掲載した。

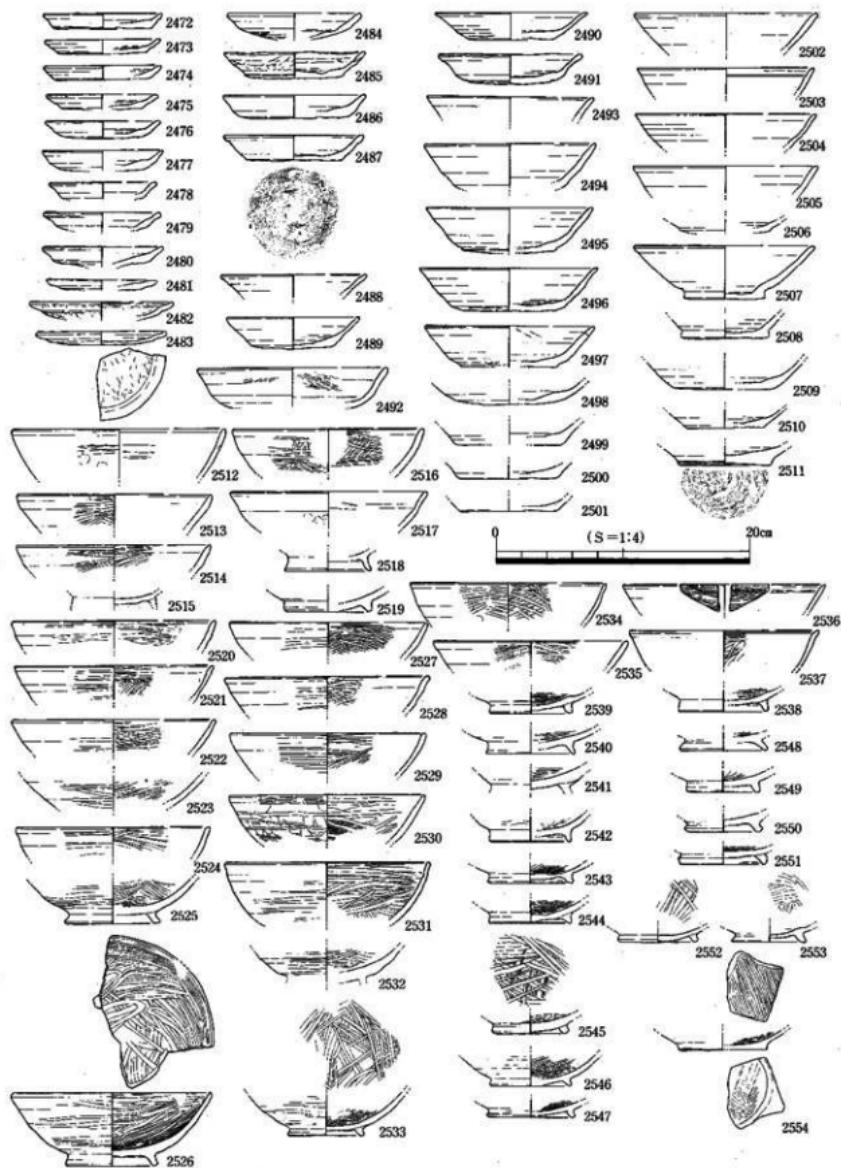
2472~2489は土師質土器皿である。2482・2483は内外面に顯著な指オサエが見られ「て」の字状口縁をもつ京都系（2481は近畿系？）の皿で他地域のものである。2492~2511は土師質土器杯である。2502~2508は平高台の杯であろう。底部調整は確認できるものすべてヘラ切りであった。

椀類は内黒のものが主体で土師器椀や両黒の楠葉型、和泉型の瓦器椀が一定量存在する。2512~2519は土師器椀である。2520~2553は内黒の椀である。大半を占めるのが外面に回転ミガキを行う西村型2520~2533・2542・2545であり、産地不明の外面に分割ミガキを行うもの2534・2535や口縁内面に沈線を施すもの2536・2537も存在する。2544は底部外面に回転糸切り痕、内面にミガキ調整を認める内黒の平高台椀であり、おそらく他地域產と思われるが産地等は不明である。

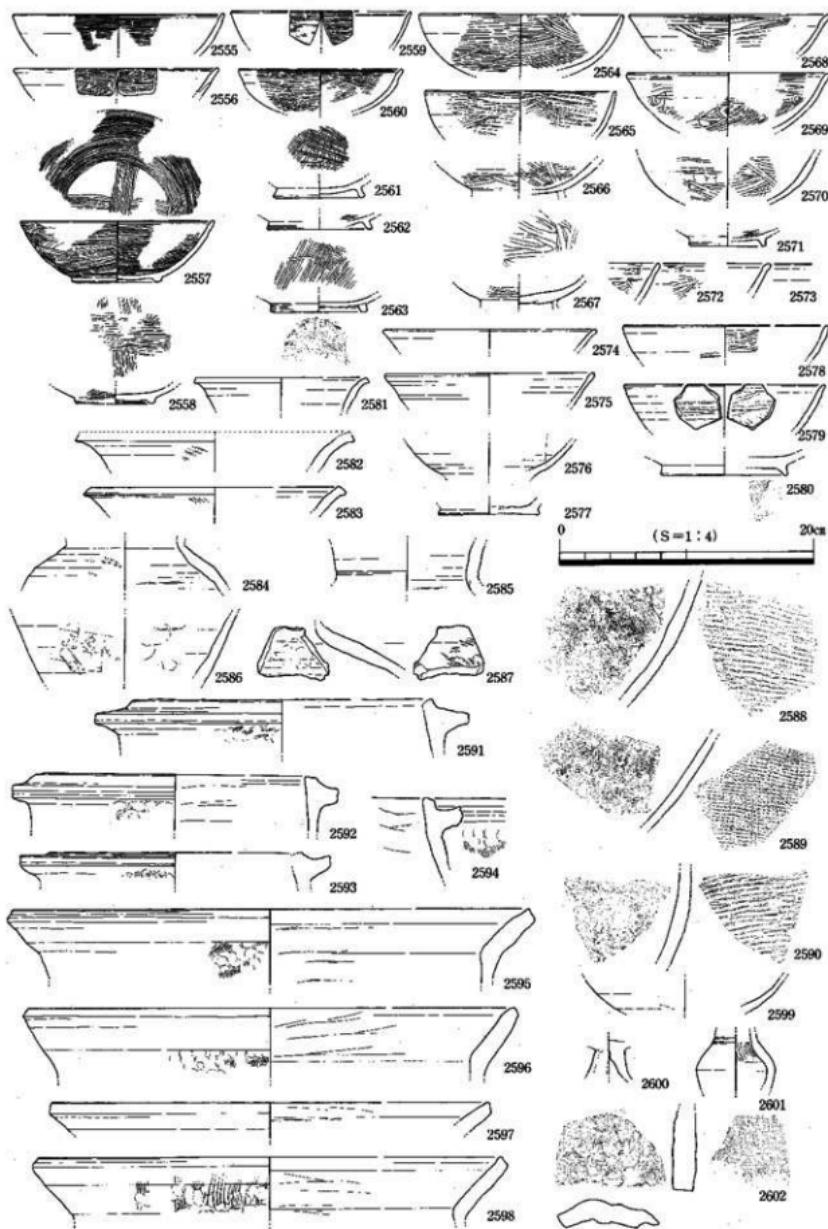
2555~2560・2562・2563は楠葉型の両黒の椀である。口縁部内面に沈線をもち、細かなミガキ調整を行いうもので、本溝中より上位層出土分を含めて9点確認した。見込み部はミガキが「十」字状のもの2557・2558や格子状乃至平行のもの2563がある。2560は口径の残存率にやや不安を残すが、同型の小形の椀と思われる。2561・2564~2567は両黒の椀である。外面に回転台を利用しない密なミガキを施す。

2568~2572は和泉型瓦器椀である。2573~2577は平高台の須恵器椀である。2578・2579は外面に回転ミガキを認める十瓶山窯産須恵器椀である。2580は底部に回転糸切り痕をとどめる東海地方の須恵器山茶椀で高台部の形態から尾張型と見られる。山下編年3型式に収まるものと思われ在地土器群の編年觀と矛盾しない。2581~2586は十瓶山窯産須恵器壺である。2587~2590は同窯産須恵器壺である。煮沸具は古代から連続する壺・羽釜類のみ確認できる。2591~2594は土師器羽釜の口縁部である。2595~2613は土師器壺の口縁部である。外面にタテハケ調整と頸胴部境付近を中心として連続する指オサエが、内面には横方向の板ナデが見られる。2614・2615は器種不明の鉄器片である。

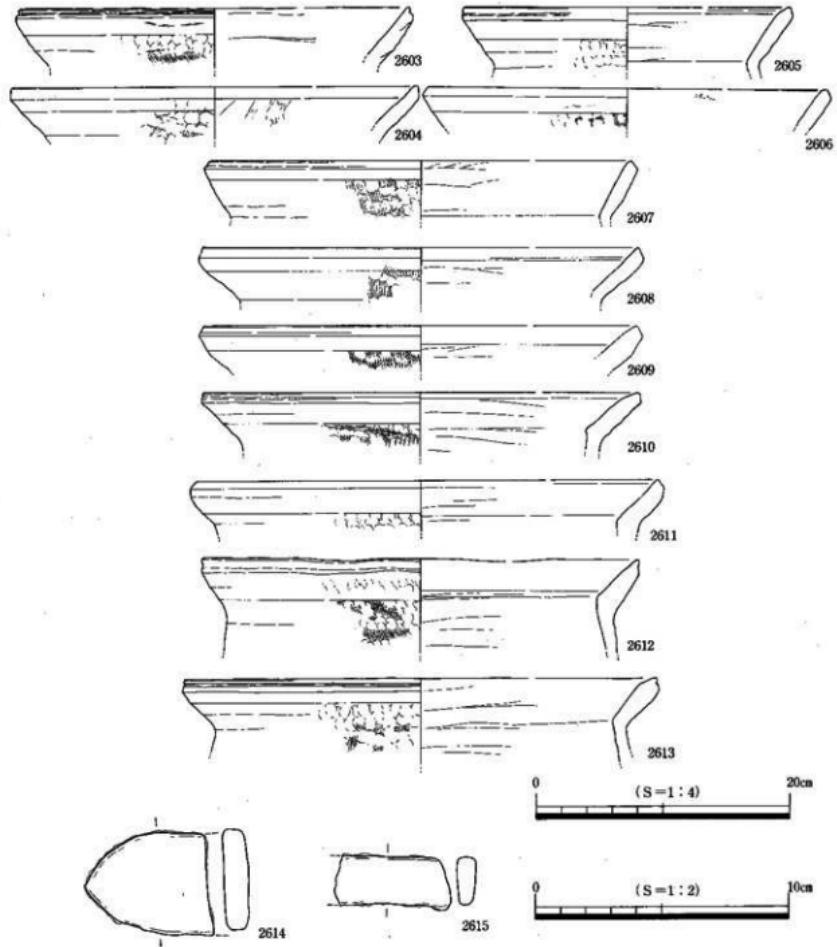
2616~2662は本遺構検出中に出土した遺物である。2616~2624は土師質土器皿である。2621は外面に指オサエが顯著に見られる「て」の字状口縁の京都系の皿と思われる。2625~2627は土師質土器杯である。2628は内外面に密なヨコミガキを施す土師器椀である。2630は胎土の特徴から見て吉備系土器器椀と思われる。2650は平高台をもつ東播系須恵器椀である。2654は小片であるが須恵器椀の口縁部である。2631~2642・2644・2645は内黒の椀である。2644は高台部の形状や外面の分割ミガキが見られる非西村型の内黒の椀である。2646は両黒の椀の高台片である。2647・2648は両黒の椀と同じく口縁部内面



第130図 SD02 下位出土遺物その1



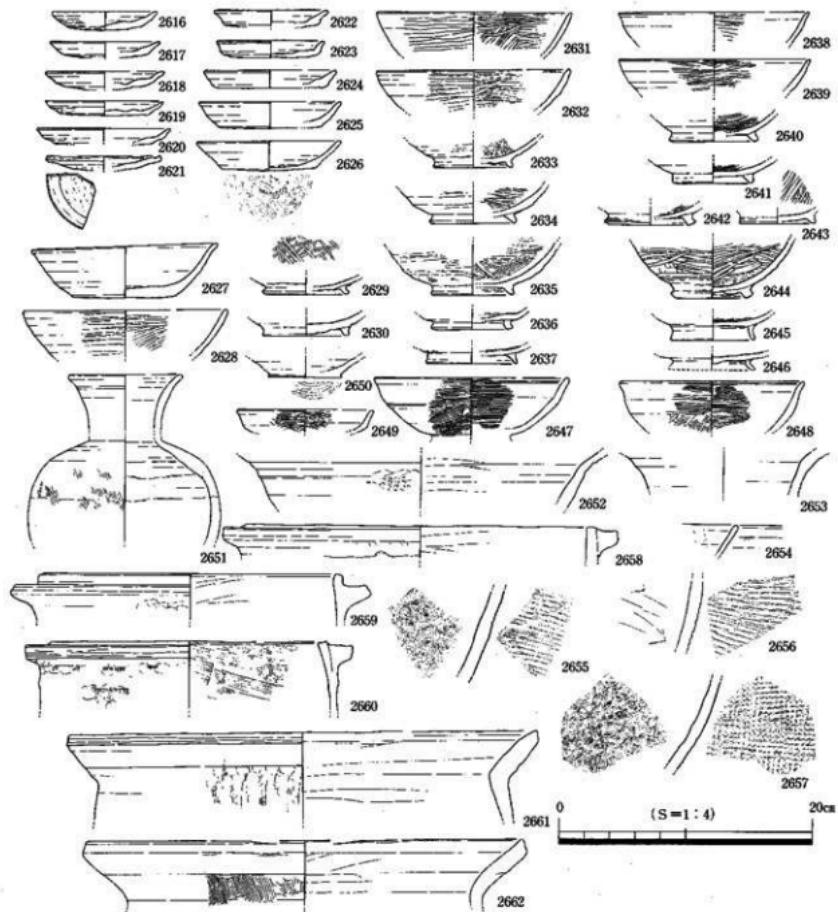
第131図 SD02 下位出土遺物その2



第132図 S D02 下位出土遺物その3

に沈線をもつ楠葉型の瓦器碗である。2649は本遺跡中1のみ確認された内外面をミガキ絞める瓦器皿である。

2651は須恵器壺である。他のものに比べて胎土・焼成から見て、時期的に遅るものかも知れない。2653は十瓶山窯産須恵器壺の頸部片、2652は同窯産須恵器鉢の頸部片である。2658～2660は土師器羽釜の口縁部である。鈴部の位置が口縁端部に接するものが多い。2661・2662は土師器甕の口縁部である。2655～2667は十瓶山窯産須恵器甕の胴部片である。



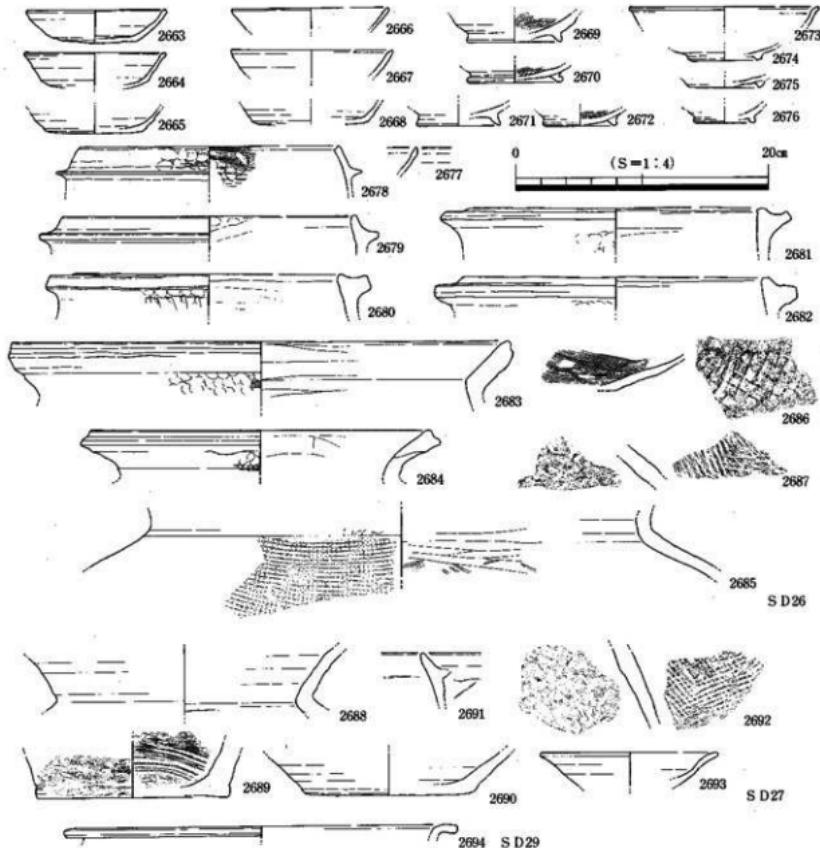
第133図 S D02 上位出土遺物

S D26 (第128・134図)

B 2 区 S D07から連続する上面幅0.6~0.7m残存深0.1~0.15mを測る溝である。条里坪界線であるB 2・C区調査区部分で東へ直角に折れ、S D27・28に切られる。この屈曲する平面プランは位置的にB 2区の屋敷地の区画を意図したものと思われる。

出土遺物も本溝と一連のS D06と同時期の11c末~12c初頭のものと、一部13c~14c代まで下るものを含むのも事実である。しかし、B 2区の屋敷地との位置関係を積極的に評価し、屋敷地の北辺を区画するものとし掘開時期を11c後半~12c前半と想定する。

2663~2668・2677は土師質土器杯である。2667は精緻な胎土をもつことから椀の可能性もある。2669

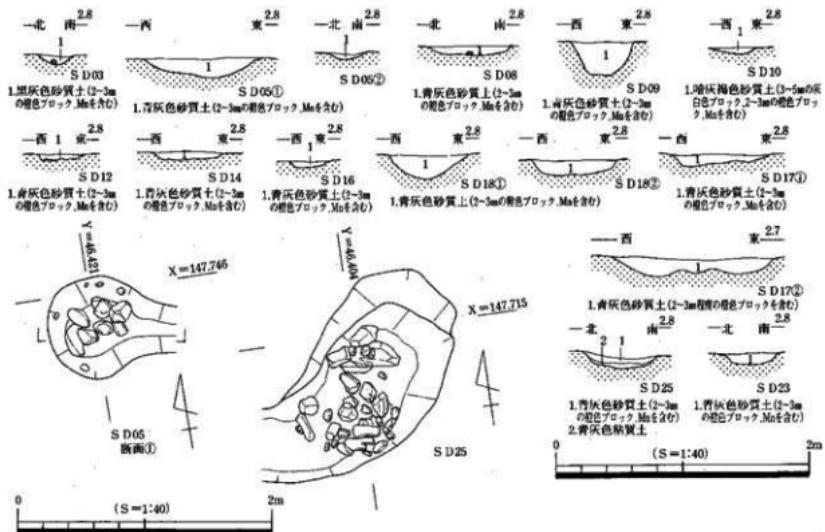


第134図 S D 26・27・28出土遺物

~2672は内底の椀である。2673は須恵器椀の口縁部で形態的に平高台をもつものと思われる。2674~2676は須恵器椀の矮小な高台片である。2678・2679は土師質土器足釜である。2686は土師質土器足釜の脚部片である。2679は口縁端部・鉤部を面取りするもので2678より古く位置づけられる。2680~2682は土師器羽釜の口縁部である。2683は土師器壺の口縁部である。2684・2685は龜山焼の壺である。2684は口径に検討の余地を残す。2687は十瓶山窯産須恵器壺の肩部片である。

S D 27 (第128・134図)

条里押界線のラインである調査区南壁を拡張して検出した上面幅0.8m残存深0.2m程の溝である。先に見たS D 26を切り込む。本溝南側の溝状の落ちは現代水路の擾乱部分である。出土遺物を見ると、S D 26とほぼ同時期の遺物2689~2692と近世期後半の2693がある。図化した以外にも一定量の近世遺物が



第135図 SD 03・05・08~10・12・14・16~18・23・25 平・断面

あることから、2689~2692を切り合い関係から混入したとものとし、本溝の機能時期は近世後半とする。2688は十瓶山窯産須恵器壺である。形態から古代後半~末に遡る混入品である。2689は内面に横方向の強い板ナデ?痕をとどめる同窯産須恵器壺の底部片である。2690は須恵器鉢の底部片である。2693は近世期の陶器皿である。

SD 03 (第135・136図)

S B10の北側においてSD 05と重複して検出した上面幅0.3m残存深0.1m程の溝である。3m程北に延びた後、東へほぼ直角に折れ曲がる。また、SD 05と切り合い関係があり、本溝が先行する。規模からや平面形から見て建物等に伴うものである可能性もあるが、内部に建物等は復元できなかった。

2695~2697は土師質器杯である。2698は内黒の碗の高台片である。2699は土師質器鉢?であろうか。2699は時期的に下る可能性もあるが、切り合い関係からSD 05に先行する点を重視し、本溝を11c後半~12c前半の所産とする。

SD 05 (第135・136図)

先に見たSD 03と切り合い関係をもつ上面幅0.3m深さ0.1m程を測る溝である。SD 03より後出し同じようにL字状にクランクするが、西端部に直径0.8mm深さ0.2m程の円形の張出部を伴い、この部分には安山岩礫の集積が見られた。

2700は東播系須恵器鉢、2701は土師質器杯である。共に13c後半まで下るもので、これら遺物の年代観も遺構の切り合い関係を支持する。

S D08 (第135・136図)

調査区南東部のS B06・09等建物等が集中する部分において検出した上面幅0.6m残存深0.15m程度を測る東西方向の小溝である。

出土遺物には2702土師質土器皿、2703の内黒の椀がある。埋土の特徴と2702の土師質土器皿の年代観から13c末～14c初頭に廃絶したものとする。

S D09 (第135・136図)

S B01南側で検出した上面幅0.48m残存深0.26m程を測り、断面形が緩い逆台形を呈する南北方向溝で両端部は他の溝と交わることは無く収束する。本溝西側にはS D12・14等の同様の溝が存在する併走するように存在するが、耕作溝とするには規模や断面形態から疑義があり性格等は不明である。

2704～2712は出土遺物である。2704は底部外面に回転ヘラ切り痕を留める土師質土器皿である。2705・2709は土師質土器杯である。2706は土師器碗である。2707・2708は須恵器碗である。2707は外面に横方向の2条沈線が見られ西村型とは趣を異にする。2710は十瓶山窯産須恵器壺の胴部片、2711は土師質土器鍋の底部片である。これら出土遺物の内、2706や2710など古相を示す遺物もあるが、土師質土器杯・皿の特徴から本遺構を13c末～14c初頭に廃絶したものとする。

S D10 (第135・136図)

本調査区中央部のS E 02付近から条里地割の方向よりやや東へ振れながら南北方向へ延びる上面幅0.3m残存深0.1m程の溝である。出土遺物には2713の土師質土器杯の口縁部小片があるので極めて少ない。後述する近世期のS D17とは併走することから、この時期まで下る可能性がある。

S D12 (第135・136図)

本調査区南半部においてS D14と並んで検出した上面幅0.3m残存深0.1m程の小溝である。出土遺物には2714の土師質土器杯2715の十瓶山窯産須恵器壺に加えて近世期の2716の京焼風陶器碗がある。2716の京焼風陶器碗から本溝の年代が推測されるが、隣接して同様の方向性をもつ中世13c末～14c初頭のS D09やS D14と埋没土に差違は見られない。

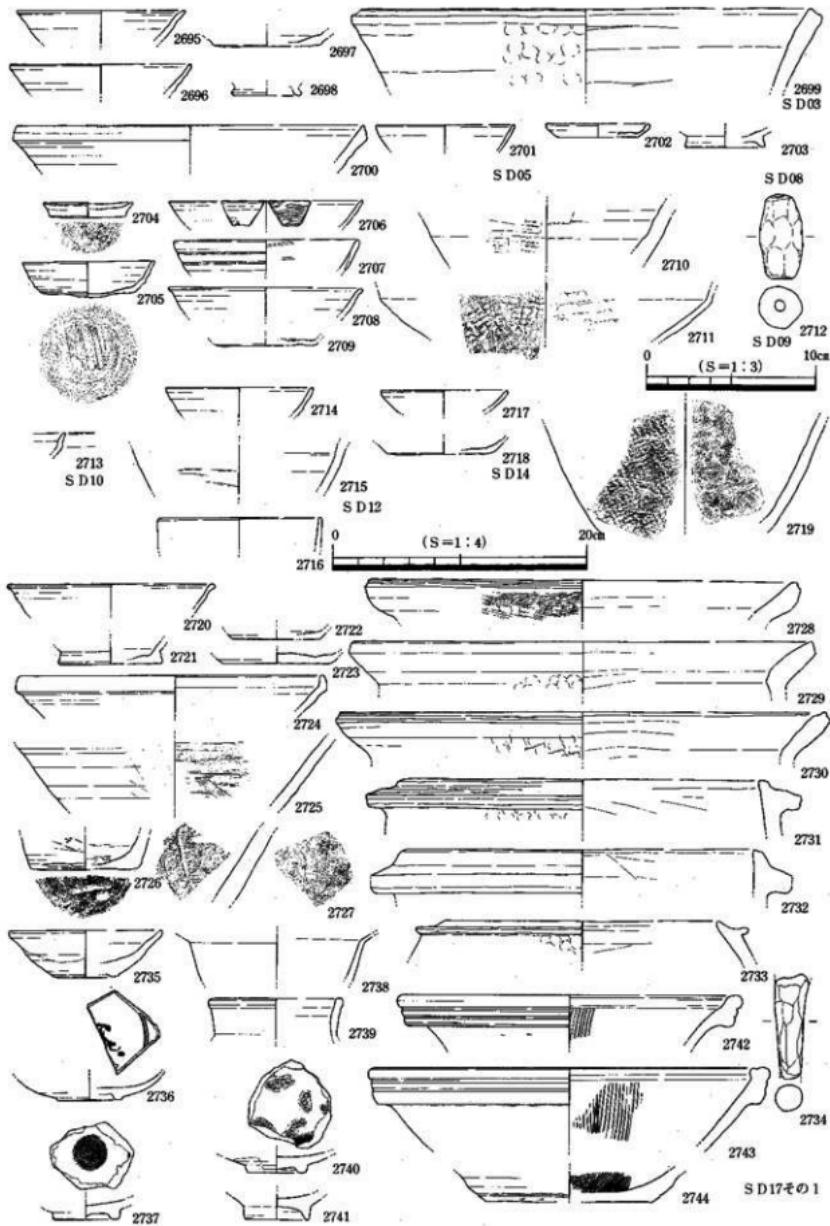
S D14 (第135・136図)

S D09の西側で検出した上面幅0.5残存深0.1m程の小溝である。前述した様に近世期のS D12と共に通した青灰色砂質土を埋土にもつが、出土遺物には中世前半の遺物が見られ時期決定が難しい。ここでは、この埋土の特徴より併出遺物の年代観を重視し、本遺構を13c後半に廃絶したものとする。

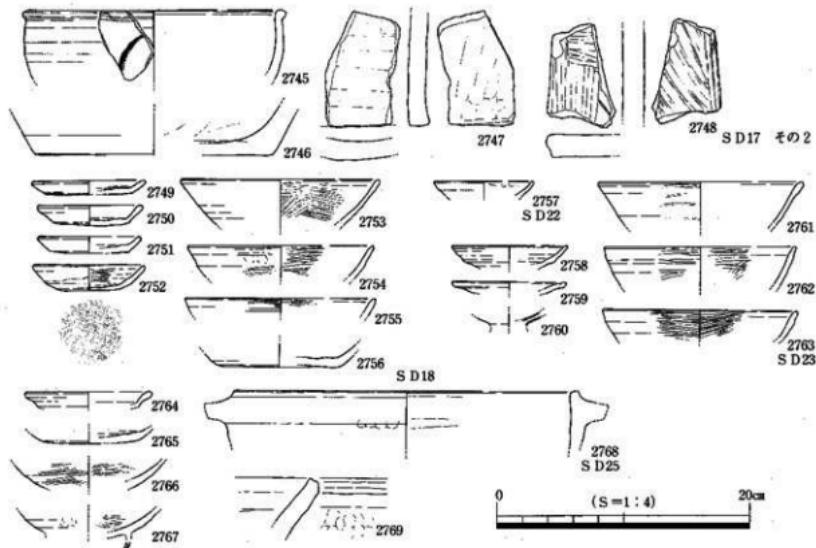
2717は土師質土器皿2718は土師質土器杯である。ともに13c後半の所産と思われる。2719は十瓶山窯産須恵器壺であり11c後半から12c前半に比定される。

S D17 (第135～137図)

調査区西半部を条里地割からやや東へ振れながら南北に延びる上面幅0.7～1.3m残存深0.1～0.15m程の溝である。北端部は調査区北壁に接することなく途切れ、埋没土にも恒常的な流水状態が見られないことから、本溝の性格等については不明である。



第136図 S D 03・05・08~10・12・14・16・17出土遺物



第137図 SD 17・18・22・23・25 出土遺物

出土遺物には中世期の2720～2734と近世期の2735～2748がある。この内、前者は混入品と思われる。2720～2723は土師質土器杯で2720・2721は平高台をもつものと思われる。2724・2725は東播系系須恵器鉢である。2727は備前焼の鉢で外面にケズリ調整が看取される。2726は十瓶山窯産須恵器壺である。2728～2730は土師器壺の口縁部、2731・2732は土師器羽釜の口縁部である。2733は土師質土器足釜であるが、鉢部の形態や位置・調整などに初現期の属性は無く、14c 初頭以降に下るものであろう。2734は同脚部片である。

SD 18 (第135・137図)

調査区南西部において検出した上面幅0.6m 残存深0.1～0.2m程の溝である。方位は座標北から100° 東へ振る条里型地割に合致し、B 2 区 S D 06・07を北に延長させた部分に存在し、東西に坪を2分する位置にある。埋没土は13c 後半以降のものと考えられる青灰色砂質土であるが、出土遺物はすべて11c 後半～12c 前半のもので占められることから、この時期に含めて考える。

2749～2751は土師質土器皿で底部外側はすべてヘラ切り。2752・2756は土師質土器杯である。2753・2754は内黒の椀であるが、2753は口縁部に向かって直線的に外反する形態のもので、西村型の椀とはやや異質である。2755は十瓶山窯産須恵器椀の口縁部で、口縁下まで回転ミガキが及ぶ。

SD 23 (第135・136図)

S B 06・10・11等の11c 後半から12c 前半代の掘立柱建物が集中する調査区東半部で検出した上面幅0.4m 残存深0.1m程の小溝である。延長東西6m程検出し、その方向・位置関係から見てS B 10の南辺

に伴う雨落溝とができるであろう。

2758～2763は本溝出土遺物である。2758は土師質土器皿である。2759は京都系「て」の字状口縁の土師質土器皿である。2760は青磁小碗であるが小片の為、型式を認定できない。2761は土師器椀で、2762・2763は内黒の椀である。これら出土遺物の帰属時期は11c後半～12c前半と想定され、先に見たSB10と同時期である。

SD25 (第135・137図)

調査区南辺部中央で検出した条里地割よりやや北へ振れるが、ほぼ東西方向の上面幅0.6m残存深0.1～0.2m程の溝である。延長12m程にわたって検出されたが、溝の東西両端部は他の溝等に連結することなく途切れ、東側には長軸1.5m短軸1.0m程の土坑状に突出する部分があり、内部には砂岩を主体とした礫群が見られた。この集石部分の下部のレベルは本溝の他の部分と変わらず、想定されがちな湧水点に位置する訳ではない。何らかの意圖をもってこの礫群は配されたのであろうが、それを検証する材料はない。遺物は主にこの礫群に伴って出土している。

2764～2769は出土遺物である。2764は土師質土器皿である。2765は土師質土器杯底部片である。2757・2767は内黒の椀で、2767底部付近には高台貼り付け用の下地沈線が明瞭に見られる。2768は土師器羽釜口縁、2769は土師器甕の口縁部である。これら出土遺物から本遺構を11c後半～12c前半に廃絶したものとする。

SD22 (第137図)

調査区中央部のSB02・03東側部分において検出した上面幅0.2m残存深0.1m程の小溝である。2557は本溝出土の土師質土器皿である。口径から見て13c後半代の所産と思われる。

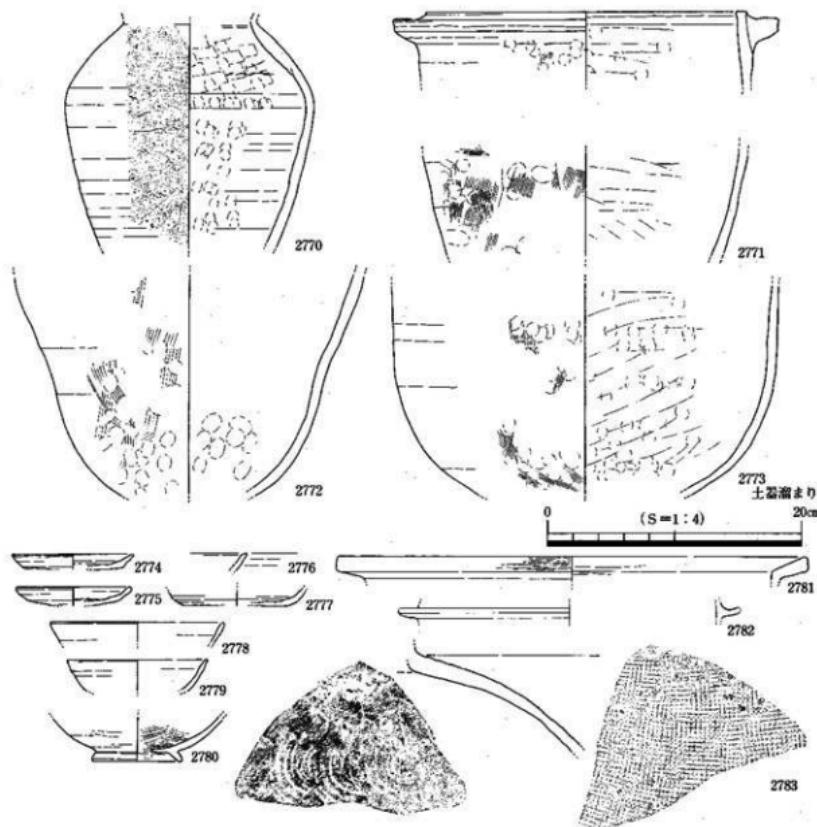
土器溜り (第138図)

X=147.770 Y=46.415付近において土器溜り状の遺構である。埋没土は遺構面を形成する黄灰色系の粘質土とほぼ同一で厳密な平面プランは定かではない。土器の分布状況から推測すると、長軸1m・短軸0.5m程の範囲に収まる見られ、残存深も0.2m程を測るに過ぎない。先に見た埋土の状況や平面プランの不安定な点から、自然落ち込みに類するものと捉える。2770～2773は出土遺物である。

2773は十瓶山窯産須恵器壺である。胴部外面に連続する格子状のタタキを認める。2771～2773は土師器羽釜である。頸部形態や胎土による識別から3個体に分けて図示した。これら出土遺物は11c後半から12c前半である。

柱穴出土遺物 (第139図)

ここで報告する遺物は、掘立柱建物等に復元することが困難であったピットより出土を見たものである。また、このピットの分布が掘立柱建物の分布状況とはほぼ一致することを考慮し、その平面分布を3群に分けて報告することとする。1群はSB01～03・SB05・06・10・11が位置する調査区南東の集中するピットから出土したものである。2群はSB08・12が位置する調査区北東部にまとまって分布するピットから出土した遺物である。3群は調査区南西部SB04周辺のピットより出土した遺物である。正確な出土位置は第111図を参照していただきたい。

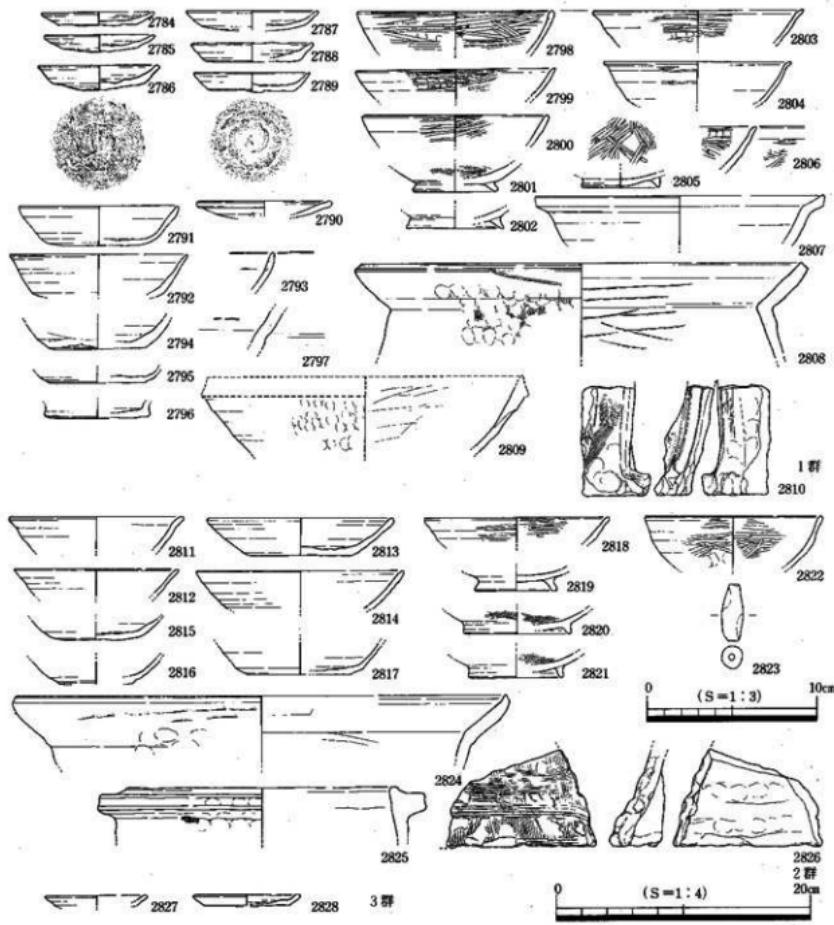


第138図 土器窯り SX02・04・16出土遺物

これら遺物全体の時期別のまとめは、掘立柱建物の時期と同様に11c後半から12c前半にかけてのものと、13c後半から14c初頭に分かれ、その分布自体も掘立柱建物の変遷と合致する。

2784～2810は1群としたピットからの出土遺物である。2784～2789は底部はすべて回転ヘラ切りされた土師質土器皿である。2790は京都系の「て」の字状口縁の土師質土器皿である。2792～2796は土師質土器杯である。2796は平高台をもつものと思われる。2798～2805は内黒の椀である。多くのものに回転ミガキを認めるが、2804は薄手で口縁部が短く屈曲し、他に比べて違和感がある。2806は和泉型瓦器椀である。2807は十瓶山窯産須恵器鉢で、口縁端部のハネアゲは顕著ではない。2808は土師器甕の口縁部、2809は土師質土器の挂鉢、2810は土師質の窓片である。

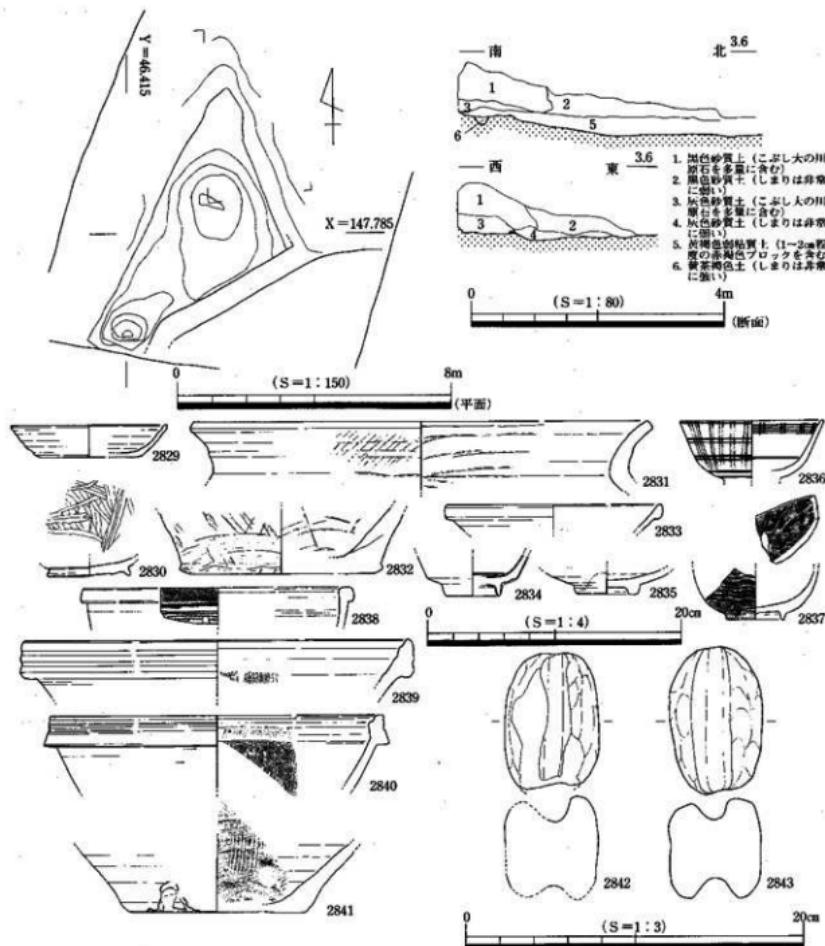
2811～2826は2群としたピットよりの出土遺物である。2811～2817は土師質土器杯である。2811・28



第139図 柱穴出土遺物

12は口縁部の形態から平高台の杯の可能性がある。2818~2822は内黒の椀である。2824は土師器壺の口縁部、2825は土師器羽釜の口縁部である。2826は土師質の甕片である。2823は管状土錐である。

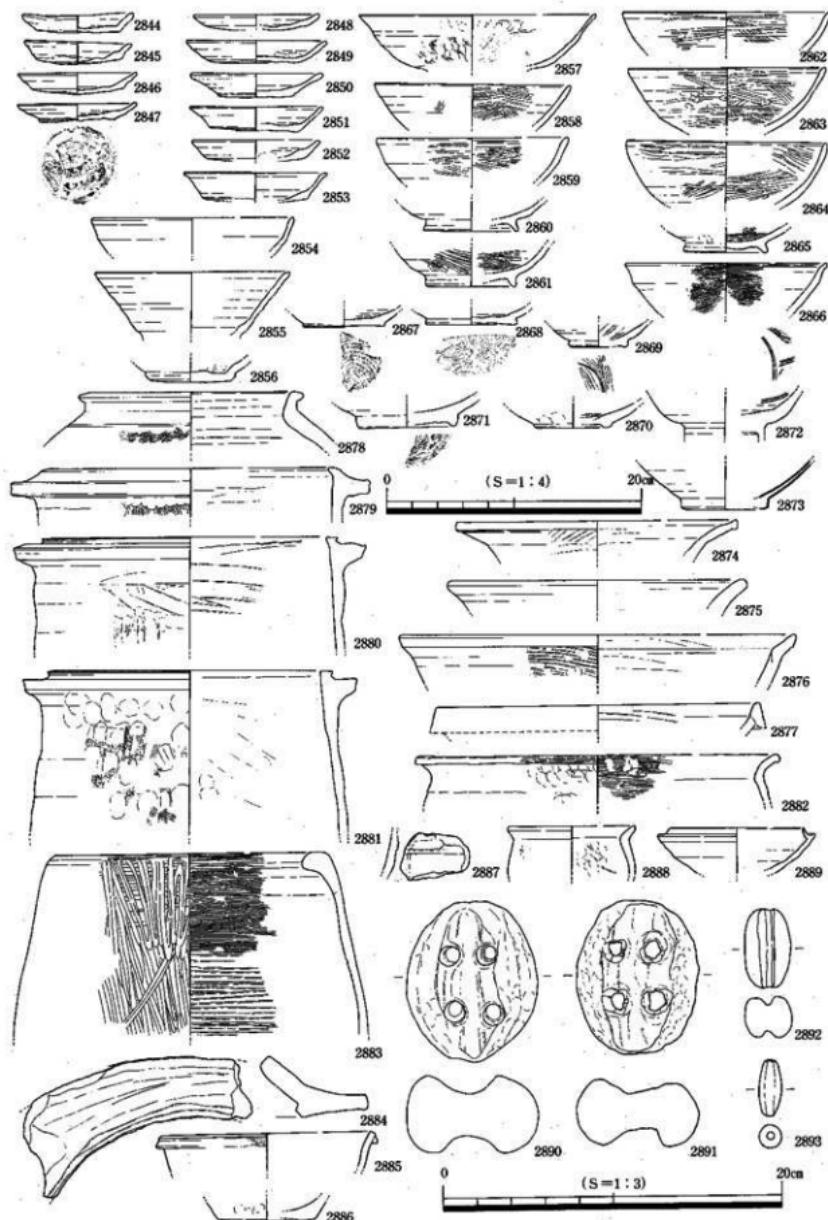
2827・2828は3群としたピット出土遺物である。2827・2828は土師質土器皿で、2828の底部は回転糸切りされている。



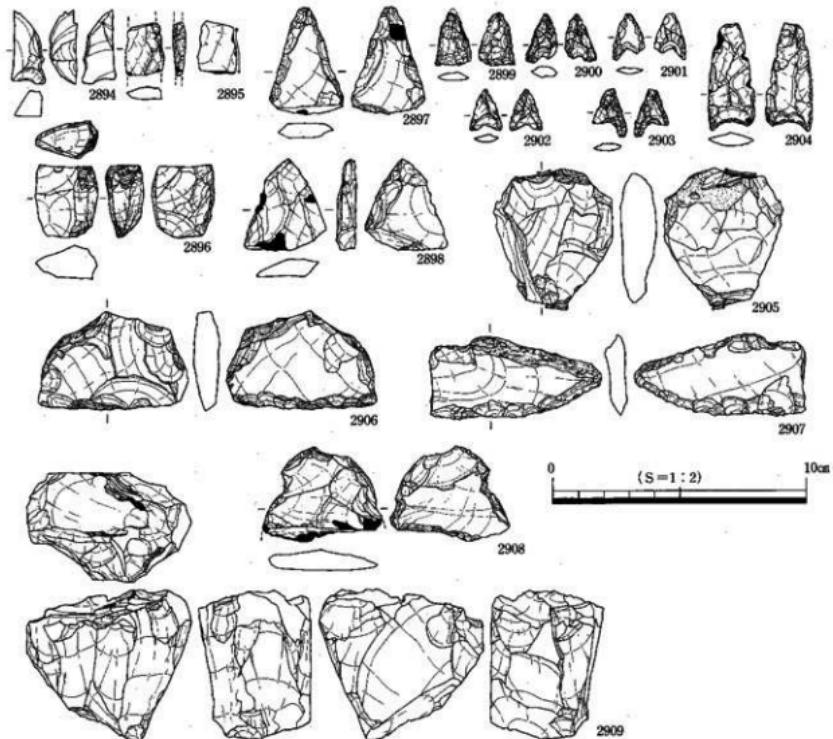
第140図 塚平・断面及び出土遺物

塚（第140図）

調査区北西部のX = 147.785 Y = 46.415付近で確認した現存する塚である。現状で東西8m南北6m程の楕円形の範囲に0.3m程の高まりが観察でき、表面には砂岩礫などの川原石が散乱している状態であった。調査の結果、土壤化の進んだ現耕作土と変わらない黒褐色砂質土とこの下層に現耕作土に伴う床土層に近似する黄褐色弱粘質土から、封土が構成されていることから比較的近年の所産と推定する。出土遺物が中世期・近世期・近現代の遺物が混在して出土したこともこれを補強するものと思われる。おそらく耕地經營に伴って比較的頻繁に移動を繰り返し、現位置に存在するものと思われる。



第141図 遺構外出土遺物その1



第142図 遺構外出土遺物その2

出土遺物は中世・近世期のものを選択して掲載した。2829は土師質土器杯である。2830は内黒の椀の高台部分、2832は十瓶山窯産須恵器甕の口縁部である。2833は白磁IV類の口縁部である。

2834～2841は近世期の出土遺物である。

遺構外出土遺物（第141・142図）

ここで掲載する遺物は、遺構検出中に出土したものと元来の出土位置が判明しないものである。2844～2853は土師質土器皿である。2854～2856は土師質土器杯で2855・2856は平高台をもつものと思われる。2857は土師器碗で口径・傾きに検討の余地を残す。2858～2865は内黒の椀である。2866は楠葉型の瓦器椀である。2867は底部外面に回転糸切り痕が見られる東播系須恵器碗である。2868も須恵器碗であるが、底部外面は回転ヘラ切りされていることから十瓶山窯産と見られる。2869・2870は矮小な高台部をもつ須恵器碗である。2871は東海地域の山茶碗の高台片と思われる。SD02出土の2580に比べてやや高台低いものであるが、尾張型の山茶碗で山下編年3型式乃至4型式前半に収まる資料と、2873は白磁碗IV類の底部片である。2872は龍泉窯系青磁碗の森田分類I 2 a類である。

2874・2875は十瓶山窯産須恵器壺の口縁部片で2874は口縁端部下までタタキが及ぶ。2876は十瓶山窯産須恵器鉢、2877は東播系須恵器鉢である。2878は備前焼甕で問壁編年Ⅲ期に比定される。2879～2881は土師器羽釜である。いずれも明瞭なハケ調整ではなく、板ナデによって仕上げられている。2882は土師質土器足鍋で、口縁端部・内面に明瞭なヨコハケが見られる。2883は瓦質の鉢で近世期の所産である。2884は土師質の甕片である。

2885は弥生前期の突帯文系壺2886は弥生前期壺の底部片である。2888は弥生後期甕である。2889は須恵器杯身でT K209型式併行期の所産と思われる。2887は細かな砂粒を多く含む縄文深鉢片である。2890・2891は有溝穿孔土錘で両者とも溝内に円孔を4基穿つ。2892は有溝土錘、2893は管状土錘である。

2894・2895はサヌカイト製のナイフ型石器である。2897・2898はサヌカイト製の尖頭器である。2896はサヌカイト製の細石核である。側面には作業面以外に先行する不定方向の剥離が多く見られる。2905は楔形石器である。2909はサヌカイト製の縦長剥片石核である。

第5章 総括 西打遺跡周辺の歴史的変遷

第1節 西打遺跡の主要遺構の変遷

ここでは、西打遺跡の中でも通事的に遺構の変遷を把握することができるA 1・2区、B 1・2区、C区D区を中心に11c後半～12c前半、13c後半～14c初頭の2時期を対象として、その特質について検討する。また、ここで使用する掘立柱建物等の遺構のまとまり（単位）についての呼称は、暫定的に以下のようなものとする。区画溝を採用し建物分布以外に範囲を明確にするものを「屋敷地」、区画施設を持たず建物分布が一定程度集中するものに関して「集落」の名称を与え記述する。

1. 11c後半～12c前半

条里型地割に伴う溝が確認されはじめる。A 2区 S D16などがこれに相当するが、東西方向の坪界線に相当する部分では確認できない。また、この条里坪界溝の出現と同時にB 2区では条里地割に規制された屋敷地がC区では区画施設をもたない小規模な集落が出現する。

B 2区の屋敷地はS B01とした主屋を中心にして東西58m南北50m（約1/4町四方）の範囲に屋敷地が広がる。S B01は2間×5間（4.4×9m=39.6m²）の柱構造をもち、周囲に「縁」と考えられる柱穴列・雨落ち溝が取り付く。内部に部分的ではあるが内部に東柱的な柱穴が見られることと、「縁」をもつ可能性が高いことなどから床張建物であることが想定される。このS B01と重複して東側には1間×4間（3.7×9.2m=35.9m²）のS B10が重複しS B01と時間差が想定されるが、出土遺物・切り合い関係から明確な前後関係が検証できない。S B01南側には2間×2間の総柱建物S B07・08が、西側には小型の側柱建物S B02・09・03が付随する。

遺構名	柱構造	規模	備考
S B01	2間×5間	4.4×9.0m=39.6m ²	4面に縁、床張り 主屋
S B10	1間×4間	3.7×9.2m=35.9m ²	S B01と重複 主屋
S B03	1間×3間	3.6×5.9m=21.2m ²	
S B02	1間×2間	3.6×4.8m=17.3m ²	
S B09	1間×2間	3.6×4.6m=16.6m ²	
S B07	2間×2間	3.4×4.8m=16.3m ²	総柱建物
S B08	2間×2間	3.0×4.6m=13.8m ²	総柱建物
S B05	2間×2間	2.8×3.2m=9.0m ²	
S B11	1間×2間	2.0×3.2m=6.4m ²	

表2 B 2区屋敷地建物一覧 (11c後半～12c前半)

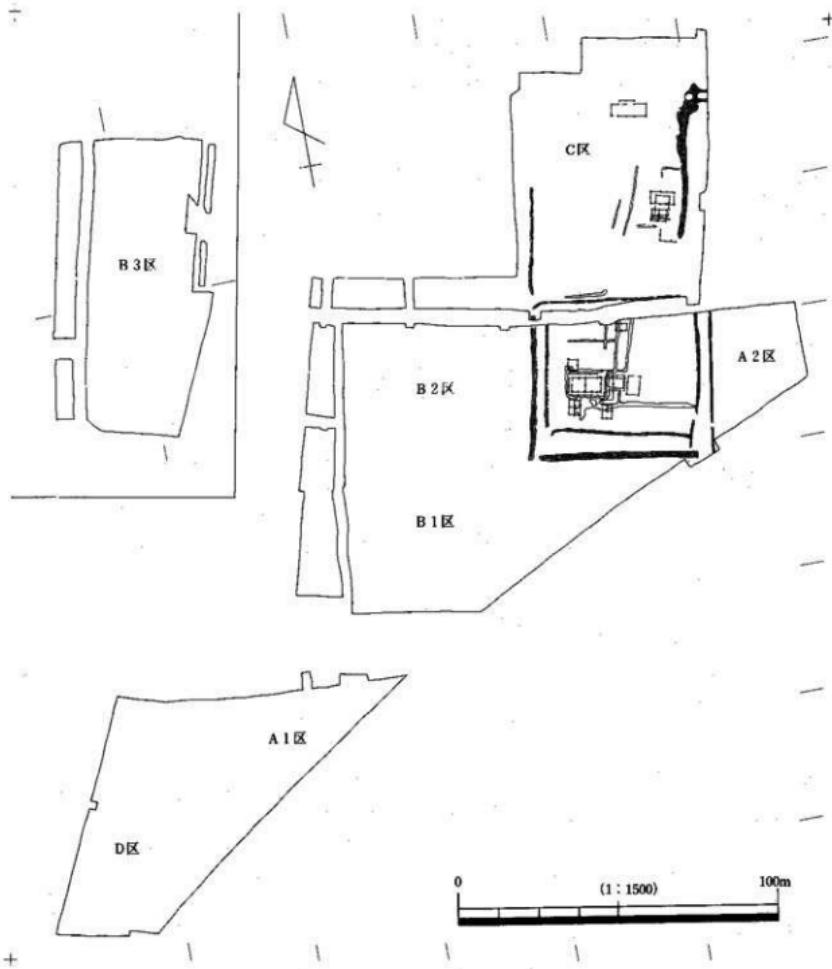
床面積からはS B01・10が他建物より傑出した規模を誇ることから、屋敷地内の主屋と思われる。

区画施設としては屋敷地南辺を区画するS D03、西辺を区画するS D07北辺を区画するが挙げられる。東辺に関しては条里坪界溝であるS D16がその役割を果たしているものと思われる。

遺構名	幅/深さ (m)	時期	備考
S D03	0.8/0.15~0.2	11c後半～12c前半	南辺溝
S D07	2.0~2.5/0.1	11c後半～12c前半, 14c前半	西辺溝
S D26	0.6~0.7/0.1~0.15	11c後半～12c前半, 14c前半	北辺溝
S D16	0.4~0.5/0.2~0.3	11c後半～12c前半	東辺溝 条里坪界溝

表3 B 2区屋敷地の区画溝一覧 (11c後半～12c前半)

南辺区画溝であるS D03は東西両端部分は他の溝と交わることがなく、断面観察においても流水状態が確認できることから、明らかに屋敷地の区画を意図して掘開されたものとすることができる。西辺区画溝であるS D07と北辺S D26に関しては、一部に屋敷地の時期よりも後出する遺物を包含する為、検討の余地は残るが屋敷地の建物群や南辺のS D03との位置関係を考慮し、本屋敷地に伴う区画施設と積極的に評価する。



第143図 遺構配圖 I (11c後半～12c前半)

C区においても、散在的な建物群が確認されている。B2の屋敷地の様に、主屋を中心として明確な形で建物群が展開してせずの中・小規模な建物が概ね2箇所に分かれて分布する

遺構名	柱構造	規模	備考
S B09	2間×3間	3.6×5.0m=18m ²	
S B06	2間×2間	3.4×4.6m=15.6m ²	
S B10	1間×3間	3.6×6.0m=21.6m ²	
S B08	1間×4間	3.6×10.6m=38.2m ²	総柱建物

表4 C区集落建物一覧(11c後半～12c前半)

掘立柱建物以外の構成施設(例えば井戸)は、B2区屋敷地と同様に確認できない。C区S E03はSD02と一連のもので、日常生活関連した施設を想定するよりも、耕地経営に伴う取水施設とするのが妥当であろう。

B2区屋敷地のSB01を取り巻くSD08やC区屋敷地東側の条里坪界溝からは多くの他地域の遺物が見られた。表5・6・7はその一覧である。

土師質土器		土師器椀		黒色土器椀			須恵器椀		国産陶器		山茶椀
皿	杯	内黒	両黒	楠葉型	産地不明						東海
16	33	4	32	4	6	1	1	1	0	1	

表5 B2区屋敷地SB01・SD08・SK01の供膳具の組成表5(遺構外含む)

土師質土器		土師器椀		黒色土器椀			須恵器椀		瓦器椀		国産陶器
皿	杯	京都系	吉備系	内黒	両黒	楠葉型	産地不明	東幡系	和泉	緑釉	
38	72	1	5	1	38	1	11	4	2	1	2

表6 B2区屋敷地その他遺構の供膳具の組成

土師質土器		土師器椀		黒色土器椀			須恵器椀		瓦器椀		国産陶器
皿	杯	京都系	吉備系	内黒	両黒	楠葉型	産地不明	東幡系	和泉	緑釉	東海
54	105	1	9	1	70	5	17	1	5	2	1

表7 B2区屋敷地全体の供膳具の組成(表4+表5)

土師質土器		土師器椀		黒色土器椀			須恵器椀		瓦器椀		山茶椀
皿	杯	京都系	吉備系	内黒	両黒	楠葉型	産地不明	東幡系	和泉	緑釉	東海
8	31	3	9	51	5	9	1	7	2	5	1

表8 C区SD02の供膳具の組成

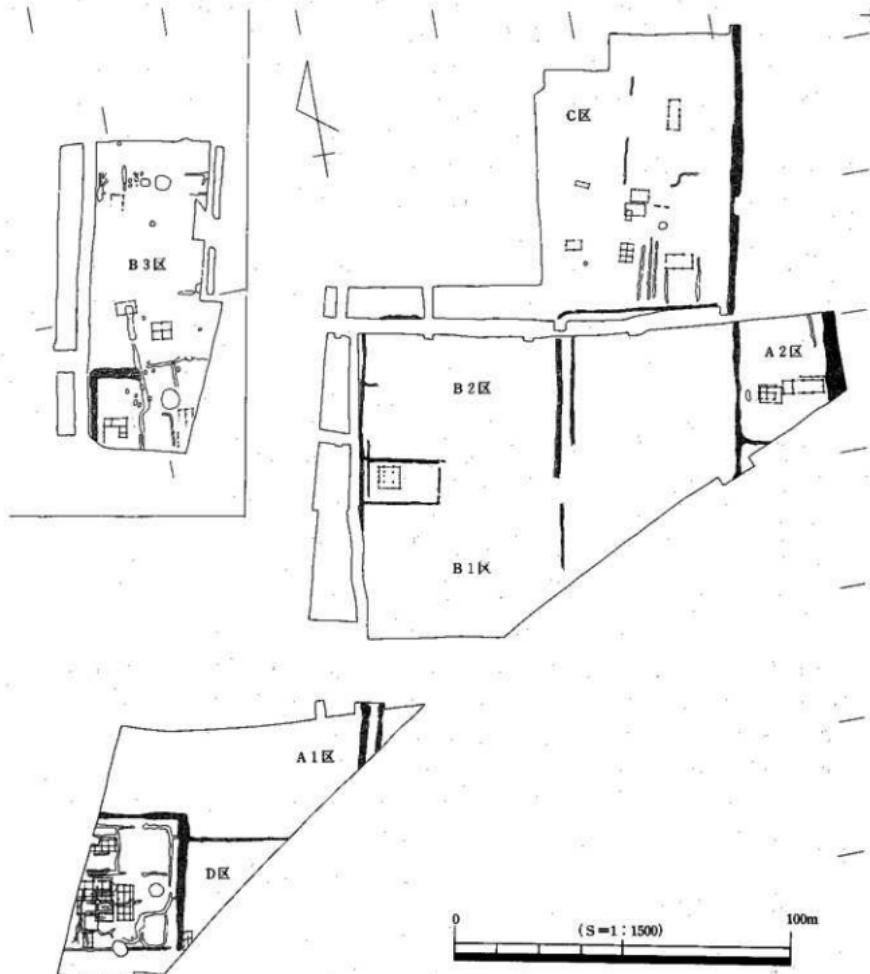
供膳具の主体は土師質土器皿・杯類が主体を占める。椀では内黒が主体であり、中には楠葉型の両黒や吉備系土師器椀や和泉型瓦器椀などの他地域産のものが見られる。国産陶器の緑釉は2点確認し、輸入陶磁器は基本的に確認できない。全体的には東方地域からの流入が多いものと見られる。特に楠葉型黒色土器椀の搬入量は、他の一般集落に比べて多いものとなっていると言える。

B2区屋敷地とC区集落では、建物規模やその分布、区画施設から見える格差は明瞭であるが、椀を中心とした供膳具ではその組成に殆ど差違が見られないことは注意される。

他にB2区屋敷地内からは、主屋であるSB01西側のSD08からは楕形鍛冶溝が1点出土している。継続的な操業を疑わしめる出土量ではあるが、屋敷地内での生産関係の遺物として注目される。

2. 13c後半～14c前半

実態不明な12c後半から13c前半を経て、13c後半には再び屋敷地及び条里地割溝が営まれる。南端のD区では周囲を明確な溝によって囲むする屋敷地が出現し、条里地割に対応する部分ではほぼすべて



第144図 遺構配図2 (13c末~14c初)

の地点で溝を確認した。この地割溝内部に耕作痕跡と考えられる多くの小規模な溝を確認しているが、遺物を伴出するものが少なく時期決定しづらい。しかし、条里型地割溝がこの段階になって広範囲に見られる事実は、これら耕作痕跡が本時期であるとも想定できよう。

屋敷地はD区において、集落はA2区・C区やより北方に位置するB3区の少なくとも4箇所に分かれ、確認されている。D区屋敷地は、溝による明確な区画施設をもち、40m²前後の建物と10m²~20m²程の中・小規模建物が密集する。A2区集落では40m²程の建物に2棟の中・小規模の建物が付随するが、D区程の密集状況は確認できない。また、区画施設は条里界とそこから派生する溝によって少なくとも3方を区画される形を探るが、区画内の建物分布からみると意図的に建物を区画するものではない。C区集落ではA2区以上に建物が散在し、建物等の構成単位を抽出することが困難である。

D区屋敷地建物群 屋敷地を全観した訳ではないが、本報告第1巻で詳述しているように、屋敷地を開郭する溝と内部の建物は、条里地割の影響を受けていることから東西55m南北40mの規模が推定される。調査範囲からは合計11棟の建物が検出された。表9はその建物の一覧である。

造構名	柱構造	規 模	備 考
S B01	2間×3間	3.4×6.0m=20.4m ²	総柱建物 建物西端未確認。
S B02	2間×3間	4.5×7.4m=33.1m ²	建物西端部未確認。
S B03	2間×2間	4.0×4.2m=16.8m ²	
S B04	2間×5間	4.6×10.2m=46.9m ²	総柱建物 主屋?
S B05	2間×5間	4.0×10.2m=40.8m ²	主屋?
S B06	2間×2間	2.8×4.3m=12.0m ²	総柱建物 区画外
S B07	1間×3間	2.7×4.4m=11.9m ²	
S B08	2間×3間	5.5×6.5m=35.8m ²	
S B09	3間×3間	5.1×7.8m=39.8m ²	
S B10	1間×4間	2.4×5.9m=14.2m ²	
S B11	1間×3間	1.5×7.0m=10.5m ²	

表9 D区屋敷地の建物一覧

これらの建物の内、床面積や柱構造からS B04・05は屋敷地内の中心的な建物と見られる。しかし、屋敷地内の建物配置には重複を伴い、建物自身の連続性は見られない点は注意すべきであろう。

区画溝 調査範囲では北辺溝であるSD01と東辺溝SD55を明確な区画溝とすることができますが、南辺に関しては造構分布が途切れることから、やや小規模であるがSD41が該当するが、調査区外の南側にSD01やSD55と同様規模の区画溝が存在する可能性もある。西辺は調査範囲外であり不明である。

造構名	幅/深さ (m)	備 考
SD01	2.2/0.4	SD55と接続 北辺溝
SD55	3.1/0.4~0.5	SD01と接続 東辺溝
SD41	0.3~0.9/0.15~0.2	

表10 D区屋敷地区区画溝一覧

区画溝と内部の建物群との間には、造構が見られない帯状の余剰帶が巡り、この部分は、土壌状の施設が想定されている。しかし、復元される規模は幅3m前後・高さ1m程のものであり、防御的な色彩は薄いと言える。井戸は屋敷地内で2基確認しているが、井戸枠等の施設は見られない。他に北東部分には建物等の柱穴が存在せず、方位を揃えた小規模な溝群が分布する。これらは耕地部分の痕跡と見られ「屋敷地畠」と捉えることができる。

遺物について総数をカウントした訳ではないが報告分を見る限り、輸入陶磁器である龍泉窯系青磁碗(山本分類I 5 a類)が6点・白磁碗1点が見られるが、他の集落と比較してそれほど多い量とは言え

ない。他屋敷地内で生産関連遺物は見られない。

A 2 区屋敷地は前段に建物等が一切見られなかった部分であり、本段階に新たに集落が確認される。C 区は一定期間の空白期を挟み再び集落が見られる。建物群は集合することなく散在し、区画溝等の施設は伴わないので特徴的である。S B 05 は床面積が 44.8 m^2 を測るが、周囲には同時併存で S B 01 や S B 04 等の小規模な建物が付随するのみであり、明確な建物配置が見られる訳ではない。しかし、C 区集落との比較においては、建物構成がコンパクトにまとまった配置を示しており、小規模な集落の中にも差違が存在する。

遺構名	柱構造	規 模	備 考
S B 05	2 間 × 4 間	$3.8 \times 11.6 \text{ m} = 44.8 \text{ m}^2$	
S B 01	2 間 × 3 間	$4.8 \times 6.4 \text{ m} = 30.72 \text{ m}^2$	
S B 04	2 間 × 2 間	$3.6 \times 4.4 \text{ m} = 15.8 \text{ m}^2$	総柱建物

表11 A 2 区集落建物一覧 (13c 末～14c 初頭)

C 区においては、更に A 2 区よりも密集度は低く建物が散在している。明確な区画施設がない為、集落構成単位を把握することが困難であるが、確認された 2 基の井戸から、同程度の単位を想定できよう。建物床面積は S B 01 の 29.6 m^2 が最大であるが、この中では傑出した規模とは言い難い。建物群周囲には、耕作痕跡とも考えられる小溝が分布するが、A 2 区集落と同様に、明確な区画施設は確認できない。表11はその建物一覧である。

遺構名	柱構造	規 模	備 考
S B 01	2 間 × 3 間	$3.9 \times 7.6 \text{ m} = 29.6 \text{ m}^2$	
S B 07	2 間 × 3 間	$3.6 \times 5.2 \text{ m} = 18.7 \text{ m}^2$	総柱建物？
S B 02	2 間 × 4 間	$3.8 \times 5.2 \text{ m} = 19.8 \text{ m}^2$	
S B 03	2 間 × 3 間	$3.4 \times 5.8 \text{ m} = 19.7 \text{ m}^2$	
S B 05	1 間 × 2 間	$1.5 \times 3.0 \text{ m} = 4.5 \text{ m}^2$	
S B 12	1 間 × 3 間	$3.2 \times 7.4 \text{ m} = 23.7 \text{ m}^2$	
S B 04	1 間 × 2 間	$2.6 \times 4.6 \text{ m} = 12.0 \text{ m}^2$	
S B 13	1 間 × 2 間	$1.2 \times 4.0 \text{ m} = 4.8 \text{ m}^2$	

表12 C 区集落建物一覧 (13c 末～14c 前半)

広範囲に遺構が確認できる本段階には、確実に 3 つの類型が存在し、それらは坪内に集合することなく、建物構成や区画施設に差違を見せながら各坪に分散して存在する。未調査部分も存在するが、D 区屋敷地の周囲に A 2 ・ C 区集落のような遺構が見られないことは注意される。C 区集落は、複数の単位が集合しているように見えるが、区画施設は持たず遺構の密集度も弱い。

3. 14c 初頭以降

D 区屋敷地・A 2 集落・C 区集落は 14c 前半をもって廃絶し、継続的な居住は確認できない。条里坪界溝である A 2 区 S D 02 ・ C 区 S D 01 等は維持され耕作地として利用されるが、調査範囲内では建物等の遺構は一切見られない。

B 3 区では継続して区画溝内に建物遺構見られ、16c 後半には高松平野の他の集落と同じく廃絶する (佐藤 2000)。

第2節 西打遺跡出土サヌカイト製石器類の集計

西打遺跡では、包含層や後世の遺構から、旧石器時代から弥生時代までの多量のサヌカイト製石器類が出土している。ここでは、この石器類を石材毎に分類して、その点数及び重量を報告しておく。集計は、当報告が対象としている地区のほか、『西打遺跡Ⅰ』で報告済みの地区についても行った。なお、『西打遺跡Ⅰ』では、石器類の取り上げにばらつきがあるとされているおり、石器類の集計には一定の限界がある。

1 サヌカイトの分類

サヌカイトを肉眼で大きく3つに区別した。一つは、縞状の構造をもつあるいは白色風化が著しいなどの特徴をもつ金山産と考えられるもの（金山），一つは表面に小さな白色斑が多くみられるもの（H），そしてこの2つ以外のもの（O）である。

2 石器類の集計

第13表は、すべてのサヌカイト製品の重量及び点数を調査区毎に、集計したものである。表14は製品の重量及び点数を調査区毎に集計したものである。第3表は剥片の重量と点数を調査区毎に集計したものである。第16表は製品の重量と点数を器種毎に集計したものである。このうち素刃はナイフ形石器の用に調整しない刃部をもつものである。石核分割は、石核が割れているものである。素材は石核等の素材となる可能性をもつものである。素材分割は、素材が割れているものである。素材のうち、板状を呈するものを板状素材とした。盤状剥片は、素材の内でも特に大きな板状の素材とした。「二次加工」・「使用痕」・「小剥離」・「摩滅」はそれぞれの属性をもつ剥片である。楔形は楔形石器である。なお、表16には、サヌカイト以外の石材の集計も掲載した。「ハリ質」は、ハリ賀安山岩を指す（表24でも同様）。表17～23表は、各調査区における製品の重量と点数を、器種毎に集計したものである。表24は、旧石器の一覧表である。

3 石器類の出土傾向

第1表では、縄文時代前期末の遺物が出土したB1区から石器類全体の約半分が出土していることがわかる。また、石材については、A2・B3区で金山の比率が高いことが指摘できる。これは、表14・15の製品及び剥片別集計でも同様である。この調査区では、弥生時代前期の遺物の出土が多く、縄文時代の遺物は殆ど出土していない。また表17～23からは、A2・B3区は石核及び石核分割をあわせた比率が最も低く、一方楔形石器は最も高い比率であることがわかる。また、表16からは、石核及び石核分割においては石材Oがやや多く、楔形石器においては金山の比率が高いことがわかる。つまり、縄文時代の遺物が主体となる調査区と弥生時代の遺物が主体となる調査区では、石器の出土傾向に差があることが考えられる。

調査区		石材	点数	材積(%)	重量(g)	材積(%)	重量(g)	材積(%)	重量(g)	材積(%)	重量(g)	材積(%)	重量(g)	材積(%)	重量(g)		
金山	972	45.5%	69688.8	42.4%													
A1	O	1118	52.1%	8861.59	54.4%	0	183	52.89%	5526.71	56.2%	A1	O	935	52.3%	3434.88	51.6%	
A1	H	44	2.1%	536.18	3.3%	H	5	1.45%	290.05	2.9%	H	H	39	2.2%	246.13	3.7%	
	計	2134	17.6%	16486.57	17.2%		計	346	17.64%	9896.01	18.65%		計	1788	17.6%	6650.56	15.4%
金山	750	66.0%	4010.06	53.6%	金山	123	59.13%	2083.5	48.8%	金山	627	67.6%	1926.56	60.1%			
A2	O	353	31.1%	2953.78	39.5%	0	72	34.62%	1815.15	42.5%	A2	O	281	30.3%	1138.63	35.5%	
A2	H	33	2.9%	515.74	6.9%	H	13	6.25%	373.2	8.7%	H	H	20	2.2%	142.54	4.4%	
	計	1136	9.4%	7479.58	7.8%		計	208	10.60%	4271.85	8.10%		計	928	9.2%	3207.73	7.4%
金山	3018	48.8%	19863.23	44.9%	金山	419	44.34%	9798.4	43.4%	金山	2599	49.6%	10064.83	46.4%			
B1	O	3039	49.2%	22003.68	49.7%	B1	O	485	51.32%	16966.85	48.7%	B1	O	2554	48.8%	11016.83	50.8%
B1	H	125	2.0%	2767.18	5.4%	H	H	41	4.34%	1766.75	7.8%	H	H	84	6.7%	699.43	2.8%
	計	6182	51.1%	44243.09	46.2%		計	945	48.17%	22552	42.77%		計	5237	51.7%	21691.09	50.3%
金山	420	48.6%	2731.97	36.7%	金山	65	43.62%	1333.81	30.1%	金山	355	49.7%	1388.16	45.8%			
B2	O	392	45.4%	4483.11	60.2%	B2	O	79	53.02%	2900.2	66.0%	B2	O	313	43.8%	1582.91	51.9%
B2	H	32	6.0%	228.73	3.1%	B2	H	5	3.36%	159.48	3.6%	B2	H	47	6.6%	89.25	2.3%
	計	864	7.1%	7443.81	7.8%		計	149	7.59%	4393.49	8.33%		計	715	7.1%	3650.32	7.1%
金山	256	73.8%	2643.19	66.9%	金山	58	86.55%	1068.61	78.5%	金山	198	70.7%	1574.58	60.8%			
B3	O	87	25.1%	1263.98	32.0%	B3	O	7	10.45%	283.23	20.8%	B3	O	80	28.6%	980.75	37.9%
B3	H	4	1.2%	44.97	1.1%	B3	H	2	2.99%	9.74	0.1%	B3	H	2	0.7%	35.23	1.4%
	計	347	2.9%	3962.14	4.1%		計	67	3.41%	1361.58	2.58%		計	280	2.8%	2590.56	6.0%
金山	594	49.7%	3203.8	28.0%	金山	75	55.15%	1867.76	25.5%	金山	429	48.8%	1386.04	58.3%			
C	O	462	45.5%	5049.62	44.1%	C	O	51	37.50%	2457.96	33.6%	C	O	411	46.5%	2591.66	62.6%
C	H	49	4.8%	3205.6	28.0%	C	H	10	7.35%	2892.82	40.9%	C	H	39	4.4%	212.68	5.1%
	計	1015	8.4%	11458.92	12.0%		計	136	6.93%	7318.54	13.88%		計	879	8.2%	4140.38	9.6%
金山	205	48.5%	2532.52	53.1%	金山	69	62.16%	1813.7	60.5%	金山	136	43.6%	718.82	40.5%			
D	O	208	49.2%	1980.16	41.5%	D	O	36	32.43%	946.59	31.6%	D	O	172	55.1%	1033.57	58.3%
D	H	10	2.4%	259.82	5.4%	D	H	6	5.41%	239.23	8.0%	D	H	4	1.3%	20.59	1.2%
	計	423	3.5%	4772.5	5.0%		計	111	5.66%	2599.52	5.69%		計	312	3.1%	1772.98	4.1%
金山	6125	50.6%	41973.57	48.3%	金山	967	49.29%	21965.03	41.7%	金山	5158	50.9%	19985.54	46.4%			
全体	O	5659	46.8%	46869.82	48.7%	全体	O	913	46.53%	24916.69	47.3%	全体	O	4746	46.8%	21779.23	50.5%
全体	H	317	2.6%	7167.12	7.5%	全体	H	82	4.18%	5881.27	11.1%	全体	H	235	2.3%	1335.85	3.1%
	計	12101	55836.61				計	1962	52732.99			計	10139	43103.62			

割合の%は、全体に対する各調査区の割合
計画の%は、全体に対する各調査区の割合

第14表 製造集計表

第13表 全七器類計表

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
石鑿	金山	170	46.58%	272.31	47.84%
	O	187	51.23%	283.51	49.77%
	H	8	2.19%	13.56	2.38%
	計	365	18.60%	569.17	1.08%
石錐	金山	8	66.67%	34.41	79.71%
	O	4	33.33%	8.76	20.29%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	12	0.61%	43.17	0.08%
石槍	金山	0	0.00%	0	0.00%
	O	1	100.00%	18.53	100.00%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	1	0.05%	18.53	0.04%
尖頭器	金山	10	47.62%	70.41	34.07%
	O	11	52.38%	136.26	65.93%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	21	1.07%	206.67	0.39%
有舌尖頭器	金山	0	0.00%	0	0.00%
	O	1	100.00%	15.85	100.00%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	1	0.05%	15.85	0.03%
石磨子	金山	1	100.00%	43.87	100.00%
	O	0	0.00%	0	0.00%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	1	0.05%	43.87	0.08%
石匙	金山	32	53.33%	498.81	54.48%
	O	25	41.67%	378.38	41.33%
	H	3	5.00%	38.32	4.19%
	計	60	3.06%	915.51	1.74%
スクレイパー	金山	119	46.48%	2502.69	42.60%
	O	122	47.66%	2913.49	49.60%
	H	15	5.86%	458.11	7.80%
	計	256	13.05%	5874.29	11.14%
素刃	金山	3	100.00%	48.23	100.00%
	O	0	0.00%	0	0.00%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	3	0.15%	48.23	0.09%
石斧	金山	36	61.02%	962.2	63.40%
	O	21	35.59%	529.42	34.88%
	H	2	3.39%	26.16	1.72%
	計	59	3.01%	1517.78	2.88%
石核	金山	93	40.97%	6576.28	39.36%
	O	120	52.86%	8978.65	53.74%
	H	14	6.17%	1153.51	6.90%
	計	227	11.57%	16708.44	31.68%
右核分割	金山	69	48.59%	2285.15	46.47%
	O	69	48.59%	2378.42	48.37%
	H	4	2.82%	254.07	5.17%
	計	142	7.24%	4917.64	9.33%
素材	金山	4	40.00%	366.12	27.90%
	O	6	60.00%	946.17	72.10%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	10	0.51%	1312.29	2.49%
素材分割	金山	43	44.79%	1434.6	36.62%
	O	45	46.88%	2096.38	53.51%
	H	8	8.33%	386.83	9.87%
	計	96	4.89%	3917.81	7.43%
板状素材	金山	1	25.00%	126.58	17.61%
	O	1	25.00%	482.51	67.15%
	H	2	50.00%	109.51	15.24%
	計	4	0.20%	718.6	1.36%

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
盤状片剝	金山	1	33.33%	242.61	6.94%
	O	1	33.33%	482.51	13.81%
	H	1	33.33%	2768.4	79.24%
	計	3	0.15%	3493.52	6.62%
原石	金山	0	0.00%	0	0.00%
	O	1	100.00%	91.33	100.00%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	1	0.05%	91.33	0.17%
二次加工	金山	13	25.00%	91.52	10.64%
	O	39	75.00%	768.86	89.36%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	52	2.65%	860.38	1.63%
使用痕	金山	1	50.00%	8.9	18.54%
	O	1	50.00%	39.1	81.46%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	2	0.10%	48	0.09%
小剥離	金山	18	42.86%	298.67	38.77%
	O	22	52.38%	419.19	54.41%
	H	2	4.76%	52.5	6.81%
	計	42	2.14%	770.36	1.46%
摩滅	金山	9	50.00%	189.74	50.42%
	O	7	38.89%	180.8	48.04%
	H	2	11.11%	5.79	1.54%
	計	18	0.92%	376.33	0.71%
敲き石	金山	3	50.00%	124.32	27.47%
	O	3	50.00%	328.17	72.53%
	H	0	0.00%	0	0.00%
	計	6	0.31%	452.49	0.86%
楔形	金山	333	57.61%	5807.61	57.08%
	O	223	38.58%	3801.52	37.36%
	H	22	3.81%	565.51	5.56%
	計	578	29.46%	10174.64	19.29%

第16表 製品器種別集計表

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
石鐵	金山	18	33.33%	23.24	39.49%
	O	35	64.81%	34.61	58.81%
	H	1	1.85%	1	1.70%
	計	54	15.61%	58.85	0.60%
	ハリ質	1		0.75	
石錐	O	1	100.00%	1.05	100.00%
	計	1	0.29%	1.05	0.01%
	金山	1	50.00%	3.01	33.97%
尖頭器	O	1	50.00%	5.85	66.03%
	計	2	0.58%	8.86	0.09%
	金山	10	66.67%	211.1	64.97%
	O	4	26.67%	93.69	28.84%
石匙	H	1	6.67%	20.11	6.19%
	計	15	4.34%	324.9	3.30%
	金山	24	40.68%	529.32	35.35%
	O	35	59.32%	967.9	64.65%
スクレイパー	計	59	17.05%	1497.22	15.22%
	金山	2	100.00%	11.31	100.00%
	計	2	0.58%	11.31	0.11%
石斧	金山	28	49.12%	1634.34	42.00%
	O	27	47.37%	2015.83	51.80%
	H	2	20.00%	241.05	6.19%
	計	57	16.47%	3891.22	39.56%
石核分割	金山	10	41.67%	239.15	30.22%
	O	14	58.33%	552.33	69.78%
	計	24	6.94%	791.48	8.05%
	金山	1	33.33%	84.88	12.44%
素材	O	2	66.67%	597.18	87.56%
	計	3	0.87%	682.06	6.93%
	金山	4	40.00%	118.56	20.81%
素材分割	O	5	50.00%	423.21	74.29%
	H	1	10.00%	27.89	4.90%
	計	10	2.89%	569.66	5.79%
	金山	3	21.43%	9.32	5.70%
二次加工	O	11	78.57%	154.25	94.30%
	計	14	4.05%	163.57	1.66%
	金山	4	36.36%	55.67	43.08%
	O	7	63.64%	73.56	56.92%
小剝離	計	11	3.18%	129.23	3.1%
	金山	1	50.00%	15.24	18.72%
	O	1	50.00%	66.17	81.28%
摩滅	計	2	0.58%	81.41	0.83%
	金山	52	56.52%	1084.11	66.71%
	O	40	43.48%	541.08	33.29%
楔形	計	92	26.59%	1625.19	16.52%
	ハリ質	2		41.14	

計欄の%は、全体に対する各器種の割合

第17表 A1区製品集計表

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
石錐	金山	20	64.52%	29.02	80.68%
	O	10	32.26%	6.62	18.40%
	H	1	3.23%	0.33	0.92%
	計	31	14.90%	35.97	0.84%
	金山	2	66.67%	9.13	64.89%
石錐	O	1	33.33%	4.94	35.11%
	計	3	1.44%	14.07	0.33%
	金山	1	100.00%	18.53	100.00%
石槍	O	1	0.48%	18.53	0.43%
	計	1	0.48%	8.74	0.20%
	金山	1	100.00%	8.74	100.00%
スクレイパー	金山	10	52.63%	213.41	42.93%
	O	7	36.84%	199.52	40.13%
	H	2	10.53%	84.22	16.94%
	計	19	9.13%	497.15	11.64%
	金山	2	100.00%	31.74	100.00%
素刃	計	2	0.96%	31.74	0.74%
	金山	12	57.14%	263.03	73.31%
	O	8	38.10%	75.99	21.18%
石斧	H	1	4.76%	19.75	5.50%
	計	21	10.10%	358.77	8.40%
	金山	8	42.11%	420.69	33.69%
石核	O	8	42.11%	713.97	57.18%
	H	3	15.79%	114	9.13%
	計	19	9.13%	1248.66	29.23%
石核分割	金山	6	66.67%	358.87	69.29%
	O	2	22.22%	74.25	14.34%
	H	1	11.11%	84.83	16.38%
	計	9	4.33%	517.95	12.12%
素材分割	O	1	100.00%	50.15	100.00%
	計	1	0.48%	50.15	1.17%
	金山	2	28.57%	8.55	14.36%
二次加工	O	5	71.43%	50.97	85.64%
	計	7	3.37%	59.52	1.39%
	O	1	100.00%	39.1	100.00%
使用痕	計	1	0.48%	39.1	0.92%
	金山	1	100.00%	21.13	100.00%
	計	1	0.48%	21.13	0.49%
小剥離	H	1	100.00%	4.97	100.00%
	計	1	0.48%	4.97	0.12%
	金山	59	64.84%	719.19	52.67%
楔形	O	28	30.77%	581.11	42.56%
	H	4	4.40%	65.1	4.77%
	計	91	43.75%	1365.4	31.96%
	ハリ質	1		7.1	

計欄の%は、全体に対する各器種の割合

第18表 A2区製品集計表

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
石巖	金山	80	43.48%	151.15	42.94%
	O	100	54.35%	190.94	54.24%
	H	4	2.17%	9.95	2.83%
	計	184	19.47%	352.04	1.56%
	ハリ質	1		1.24	
石錐	金山	5	83.33%	22.06	93.95%
	O	1	16.67%	1.42	6.05%
	計	6	0.63%	23.48	0.10%
	ハリ質	1		0.22	
	金山	7	50.00%	38.03	30.26%
尖頭器	O	7	50.00%	87.63	69.74%
	計	14	1.48%	125.66	0.56%
	金山	1	100.00%	43.87	100.00%
石塵	計	1	0.11%	43.87	0.19%
	金山	20	50.00%	255.4	51.13%
	O	19	47.50%	234.96	47.04%
	H	1	2.50%	9.17	1.84%
	計	40	4.23%	499.53	2.22%
スクレイパー	金山	48	38.40%	985.05	36.18%
	O	67	53.60%	1432.07	52.60%
	H	10	8.00%	305.29	11.21%
	計	125	13.23%	2722.41	12.07%
	金山	10	62.50%	258.3	59.65%
石斧	O	5	31.25%	168.29	38.87%
	H	1	6.25%	6.41	1.48%
	計	16	1.69%	433	1.92%
	金山	37	37.37%	2964.95	42.01%
石核	O	55	55.56%	3362.66	47.65%
	H	7	7.07%	729.58	10.34%
	計	99	10.48%	7057.19	31.29%
	ハリ質	1		13.06	
石核分割	金山	39	45.88%	1240.74	46.23%
	O	45	52.94%	1393.38	51.92%
	H	1	1.18%	49.79	1.86%
	計	85	8.99%	2683.91	11.90%
	素材	2	40.00%	136.55	32.57%
素材分割	O	3	60.00%	282.66	67.43%
	計	5	0.53%	419.21	1.86%
	金山	34	46.58%	1082.79	40.77%
	O	34	46.58%	1319.38	49.68%
盤状	H	5	6.85%	253.75	9.55%
	計	73	7.72%	2655.92	11.78%
	金山	1	100.00%	242.61	100.00%
	計	1	0.11%	242.61	1.08%
二次加工	金山	5	19.23%	47.02	8.59%
	O	21	80.77%	500.09	91.41%
	計	26	2.75%	547.11	2.43%
	小剝離	金山	10	41.67%	141.97
摩滅	O	13	54.17%	295.71	60.45%
	H	1	4.17%	51.5	10.53%
	計	24	2.54%	489.18	2.17%
	金山	2	25.00%	92.7	46.22%
櫻形	O	5	62.50%	107.05	53.37%
	H	1	12.50%	0.82	0.41%
	計	8	0.85%	200.57	0.89%
	金山	118	49.58%	2095.21	51.65%
ハリ質	O	110	46.22%	1610.61	39.71%
	H	10	4.20%	350.49	8.64%
	計	238	25.19%	4056.31	17.99%
	ハリ質	3		26.46	

計欄の%は、全体に対する各器種の割合

第19表 B 1区製品集計表

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
石錐	金山	16	40.00%	20.92	42.00%
	O	23	57.50%	27.58	55.37%
	H	1	2.50%	1.31	2.63%
	計	40	26.85%	49.81	1.13%
	金山	1	100.00%	3.22	100.00%
石錐	計	1	0.67%	3.22	0.07%
	金山	1	50.00%	20.98	45.40%
	O	1	50.00%	25.23	54.60%
	計	2	1.34%	46.21	1.05%
	金山	10	62.50%	126.83	45.67%
スクレイバー	O	5	31.25%	125.67	45.25%
	H	1	6.25%	25.21	9.08%
	計	16	10.74%	277.71	6.32%
	石斧	0	100.00%	19.71	100.00%
	計	1	0.67%	19.71	0.45%
石核	金山	7	35.00%	584.16	26.60%
	O	13	65.00%	1612	73.40%
	計	20	13.42%	2196.16	49.99%
	金山	2	22.22%	114.16	22.51%
	O	6	66.67%	321.56	63.40%
石核分割	H	1	11.11%	71.44	14.09%
	計	9	6.04%	507.16	11.54%
	O	1	100.00%	66.33	100.00%
	計	1	0.67%	66.33	1.51%
	金山	1	25.00%	42.2	16.25%
素材分割	O	3	75.00%	217.51	83.75%
	計	4	2.68%	259.71	5.91%
	金山	2	40.00%	9.67	23.44%
	O	3	60.00%	31.59	76.56%
	計	5	3.36%	41.26	0.94%
摩滅	金山	1	100.00%	12.75	100.00%
	計	1	0.67%	12.75	0.29%
	金山	24	48.98%	398.92	43.67%
	O	23	46.94%	453.02	49.59%
	H	2	4.08%	61.52	6.73%
櫻形	計	49	32.89%	913.46	20.79%
	ハリ質	1		6.11	

計欄の%は、全体に対する各器種の割合

第20表 B 2区製品集計表

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
石鎌	金山	9	90.00%	12.36	90.88%
	O	1	10.00%	1.24	9.12%
	計	10	14.9%	13.6	1.00%
有舌尖頭器	O	1	100.00%	15.85	100.00%
	計	1	1.49%	15.85	1.16%
スクレイパー	金山	5	83.33%	192.91	96.88%
	H	1	16.67%	6.22	3.12%
	計	6	8.96%	199.13	14.62%
石核	金山	1	100.00%	24.43	100.00%
	計	1	1.49%	24.43	1.79%
石核分割	金山	3	100.00%	53.28	100.00%
	計	3	4.48%	53.28	3.91%
素材	金山	1	100.00%	144.69	100.00%
	計	1	1.49%	144.69	10.63%
素材分割	金山	1	100.00%	48.51	100.00%
	計	1	1.49%	48.51	3.56%
原石	O	1	100.00%	91.33	100.00%
	計	1	1.49%	91.33	6.71%
敲き石	金山	3	75.00%	124.32	50.49%
	O	1	25.00%	121.93	49.51%
	計	4	5.97%	246.25	18.09%
楔形	金山	35	89.74%	468.11	89.25%
	O	3	7.69%	52.88	10.08%
	H	1	2.56%	3.52	0.67%
	計	39	58.21%	524.51	38.52%

計欄の%は、全体に対する各器種の割合

第21表 B 3区製品集計表

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
石鎌	金山	19	59.38%	24.51	62.45%
	O	12	37.50%	13.77	35.08%
	H	1	3.13%	0.97	2.47%
石錐	計	32	23.53%	39.25	0.44%
	O	1	100.00%	1.35	100.00%
尖頭器	計	1	0.74%	1.35	0.01%
	金山	1	50.00%	8.39	51.22%
スクレイパー	O	1	50.00%	7.99	48.78%
	計	2	1.47%	16.38	0.03%
	金山	6	60.00%	90.26	60.49%
石斧	O	4	40.00%	58.96	39.51%
	計	10	7.35%	149.22	2.04%
	金山	3	50.00%	3.93	3.29%
石斧	O	3	50.00%	115.54	96.71%
	計	6	4.41%	119.47	1.63%
石核	金山	10	38.46%	738.65	39.22%
	O	15	57.69%	1115.82	59.24%
	H	1	3.85%	29.06	1.54%
他石材	計	26	19.12%	1883.53	25.74%
	金山	1	—	15.9	—
板状素材	金山	1	25.00%	126.58	38.82%
	O	1	25.00%	90.01	27.60%
	H	2	50.00%	109.51	33.58%
	計	4	2.94%	326.1	4.46%
管状剥片	O	1	50.00%	482.51	14.84%
	H	1	50.00%	2768.4	85.16%
二次加工	計	2	1.47%	3250.91	44.42%
	金山	1	100.00%	16.96	100.00%
使用痕	計	1	0.74%	16.96	0.23%
	金山	1	100.00%	8.9	100.00%
小剝離	計	1	0.74%	8.9	0.12%
	金山	1	100.00%	26.93	100.00%
摩滅	計	1	0.74%	26.93	0.37%
	金山	1	100.00%	22.72	100.00%
敲き石	計	1	0.74%	22.72	0.31%
	O	2	100.00%	206.24	100.00%
他石材	計	2	1.47%	206.24	2.82%
	金山	1	—	568.95	—
楔形	金山	31	65.96%	799.93	63.96%
	O	11	23.40%	365.77	29.25%
	H	5	10.64%	84.88	6.79%
	計	47	34.56%	1250.58	17.09%

計欄の%は、全体に対する各器種の割合

第22表 C区製品集計表

器種	石材	点数	(%)	重量(g)	(%)
石器	金山	8	57.14%	11.11	56.54%
	O	6	42.86%	8.54	43.46%
	計	14	12.61%	19.65	0.66%
	ハリ質	1		0.68	
トロトロ石器	メノウ	1		5.3	
尖頭器	O	1	100.00%	9.56	100.00%
	計	1	0.90%	9.56	0.32%
石器	金山	1	25.00%	23.57	28.63%
	O	2	50.00%	49.73	60.40%
	H	1	25.00%	9.04	10.98%
	計	4	3.60%	82.34	2.75%
スクレイパー	金山	16	76.19%	364.91	68.66%
	O	4	19.05%	129.37	24.34%
	H	1	4.76%	37.17	6.99%
	計	21	18.92%	531.45	17.72%
素刀	金山	1	100.00%	16.49	100.00%
	計	1	0.90%	16.49	0.55%
石斧	金山	9	69.23%	425.63	73.96%
	O	4	30.77%	149.89	26.04%
	計	13	11.71%	575.52	19.19%
	他石材	1		259.82	
石核	金山	2	40.00%	209.06	51.33%
	O	2	40.00%	158.37	38.89%
	H	1	20.00%	39.82	9.78%
	計	5	4.50%	407.25	13.58%
石材分割	他石材	1			
	金山	9	75.00%	278.95	76.66%
	O	2	16.67%	36.9	10.14%
	H	1	8.33%	48.01	13.19%
素材分割	計	12	10.81%	363.86	12.13%
	金山	3	42.86%	142.54	42.69%
	O	2	28.57%	86.13	25.80%
	H	2	28.57%	105.19	31.51%
次加工	計	7	6.31%	333.86	11.13%
	O	2	100.00%	63.55	100.00%
	計	2	1.80%	63.55	2.12%
小剥離	金山	2	50.00%	52.97	51.48%
	O	2	50.00%	49.92	48.52%
	計	4	3.60%	102.89	3.43%
摩滅	金山	4	80.00%	46.33	85.94%
	O	1	20.00%	7.58	14.06%
	計	5	4.50%	53.91	1.80%
楔形	金山	14	63.64%	242.14	55.13%
	O	8	36.36%	197.05	44.87%
	計	22	19.82%	439.19	14.64%

計欄の%は、全体に対する各器種の割合

第23表 D区製品集計表

調査区	器種	重量(g)	石材
A 2	細石刃	0.19	ハリ質
A 2	細石刃核	10.77	ハリ質
A 2	「次加工」(ナイフ状)	1.54	O
B 1	ナイフ形石器	2.68	O
B 1	ナイフ形石器	8.03	O
B 1	細石刃核	28.41	O
B 2	ナイフ形石器	1.9	金山
B 3	ナイフ形石器	11.63	金山
B 3	ナイフ形石器	20.79	O
B 3	ナイフ形石器	48.12	金山
B 3	打面調整	3.93	O
B 3	打面調整	9.86	金山
B 3	打面調整	3.77	O
B 3	打面調整	10.38	金山
B 3	打面調整	6.43	金山
C	ナイフ形石器	3.39	O
C	ナイフ形石器	1.91	O
C	細石刃核	10.99	O
D	翼状剥片	7.72	金山

第24表 旧石器一覽表

第3節 時期別の遺構・遺物の変遷と周辺の微地形

今回の発掘調査では旧石器時代から近世にかけての多くの時期の遺構・遺物が見られた。主に本節では、今回の調査成果に合わせて周辺の既往の調査例を参考し、縄文時代晚期から中世後半に至るまでの遺構の通時的な変遷を地形環境の変化を念頭に置きつつ概観する。

第145~148図は、西打遺跡と周辺の香西西打遺跡・鬼無藤井遺跡の発掘調査成果や、先に見た地割の状況から見た、弥生時代前期から中世14c初頭にかけての地形概念図である。

1. 縄文時代晚期～弥生時代前期の遺構分布状況

周辺の調査で幾つか旧河道が確認され、埋没時期が判明するものと現状でその存在が想定されるものを第145図に示した。そしてこれらに1~10のナンバーを付与し、現状で想定される埋没時期や所見を述べる。図中の南西部に位置し、東の五色台山地から派生する尾根状の明瞭な微高地を境にして南北で旧河道が大きく2つに区分することができる。それは旧河道1~6としたばんは南西方向から北東方向の現本津川氾濫原面へ流下する一群と、旧河道7~11としたばんは同様の流下方向を示す一群である。

旧河道名	時期	備考
旧河道1	上限不明	古代期(9~10c代)の遺構に切られる。
旧河道2	弥生前期土器	古代期(9~10c代)の遺構に切られる。
旧河道3	上限不明	古代期(9~10c代)の遺構に切られる。
旧河道4	上限不明	最上層に古代(8.9c代)の包含層
旧河道5	上限不明	
旧河道6	上限不明	予備調査トレンチで確認。遺物無し
旧河道7	縄文前期・晚期・弥生前期土器	西打B1区S R01及び下層包含層が該当
旧河道8	縄文晚期土器	最上層に古代期の水田跡
旧河道9	弥生中期後半~後期土器・古代須恵器	
旧河道10	上限不明	古代期(9~10c代)の遺構に切られる。
旧河道11	上限不明	

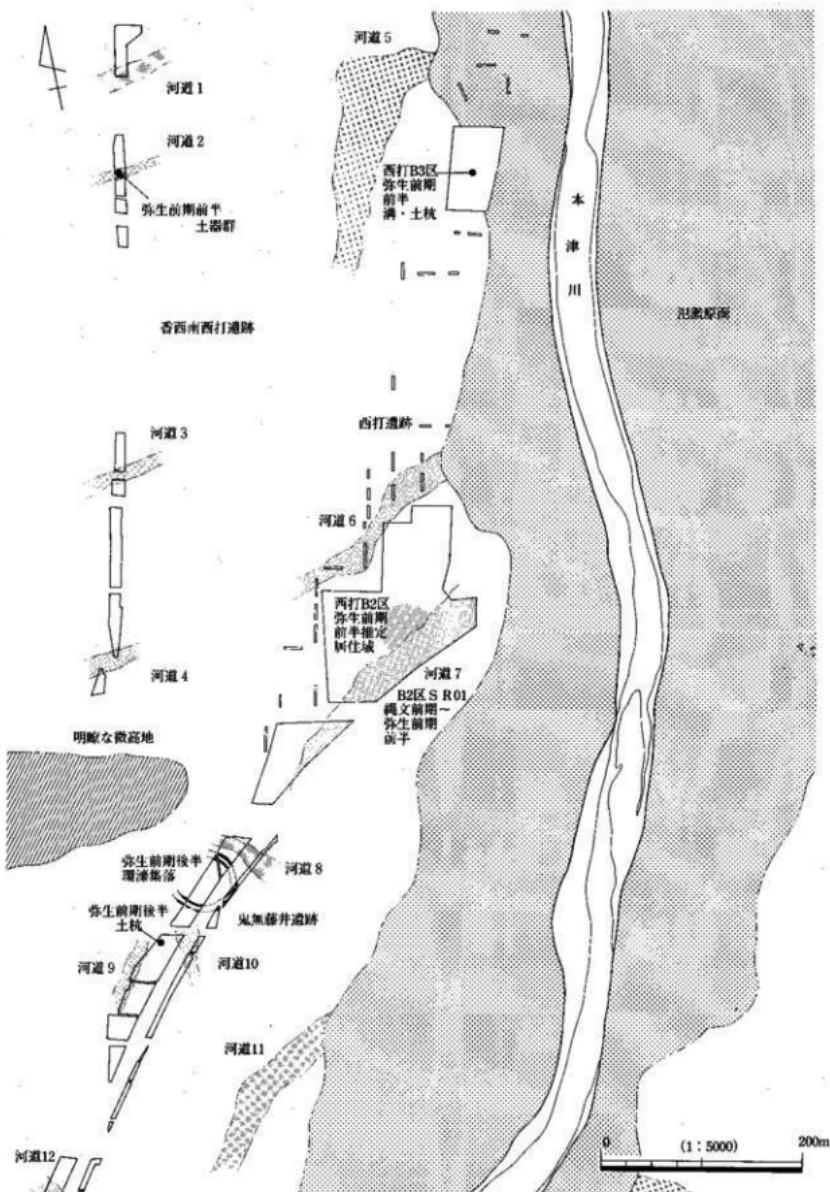
表25 周辺の埋没旧河道一覧

これらの旧河道の内、時期的に最も遡るのは、西打遺跡B1区で確認した旧河道7であり、縄文時代前期の遺物を含む。旧河道2.8は、縄文時代晚期から弥生時代前期には機能しており、先に見た旧河道7にも当該期の遺物が見られる。旧河道9では弥生時代中期後半の土器が確認されている。時期決定可能な旧河道の多くは、弥生時代前期までには形成され機能している事が分かる。他の発掘調査が実施されている旧河道は、遺物を交えないものの、最上層から古代の遺構が掘り込まれているものが多いことから、それ以前との推測は可能である。ここでは、発掘調査が実施されていない旧河道を含めて、上記旧河道と同様に弥生時代前期には機能し、古代には埋没したと仮定して論を進める。すなわち、古代以前には多くの旧河道とそれに挟まれた微高地が多く点在している状況を推定する。

現氾濫原面に関しては、氾濫面の中に位置する高松市教委調査西打遺跡ポンプ場調査区の旧河道(小川・山元2000)が概ね古代末頃には埋没していることや、段丘面と氾濫原面に跨って存在する西打遺跡B3区の遺構群が、主に13c以降に確認されることを踏まえると、この期間に形成されているものと推測する。それ以前の状況は定かではないが、一括して氾濫原面として取り扱うものとする。

1. 縄文時代晚期

旧河道6と旧河道7に挟まれた微高地である西打遺跡C区において晚期前葉の土坑を1基のみ検出された。詳しくは本書報告文を参照していただくとして、出土状況からは近接する居住域の存在示唆す



第145図 周辺の地形変遷1

るものであった。鬼無藤井遺跡の旧河道8からは晩期中葉の深鉢・浅鉢片が見られる。数点にとどまつたが、近接して位置に居住域を想定できるだろう。

弥生前期前半 筆者の編年案（拙稿2000a）に従い、弥生時代前期を突帯文系土器の残存の有無によって前半と後半に2区分する。前期前半の遺構・遺物の分布は、尾根状の明瞭な微高地を境にして北側に分散して見られる。主な地点を列挙しよう。西打遺跡B3区では密度が希薄なもの、溝・土坑が数基程度確認された。旧河道5や氾濫原面に挟まれた微高地上にやや散漫な居住域を想定する。同遺跡B2区・A2区においては、河道7と後世の遺構に混じて弥生前期土器及び突帯文系土器が多く見られた。これらの出土地点と地形的な点を考慮すると、旧河道7と旧河道6に挟まれた微高地上に居住域を推定することも可能であろう。香西西打遺跡では旧河道2より、比較的完形に近い状態で弥生前期土器が出土している。同じくかなり近接した位置の微高地上に居住域の存在を暗示させる。

弥生前期後半は、明瞭な微高地の南方に遺構分布が移動する。鬼無藤井遺跡では2重環濠をもつ集落が見られる（川部・小川2001）。また、これと同時期の遺構分布は環濠内部に留まらず、旧河道9と旧河道10に挟まれた微高地でも土坑・溝が確認され、散発的ながら南方へ延びる様相を見せる。環濠内部は東西60m南北50mの範囲が復元される。

弥生前期を通しての遺構分布の変遷を見てみると、縄文晩期から弥生前期後半の環濠集落出現まで、同一微高地上を安定的に居住域として利用している状況にはない。調査対象と成り得ていない微高地も存在するが、遺構密度や遺物量から判断すると、小規模な集団が各微高地に散在している様である。

換言すれば一定地域内を頻繁に移動している状況も想定することもできよう。

また、ここで注意すべき点は遠賀川式土器の出現と環濠集落の出現が必ずしも一致しないことである。弥生前期前半の特徴的な突帯文系土器が出土する地点は尾根状の明瞭な微高地の北側であり、同南側の鬼無藤井遺跡の環濠集落付近ではない。西打遺跡B2区で推定した居住域は、様相が不明確ながらも、同遺跡B3区や香西西打遺跡の状況を踏まえると、環濠集落の形態は採用していない可能性が高い。

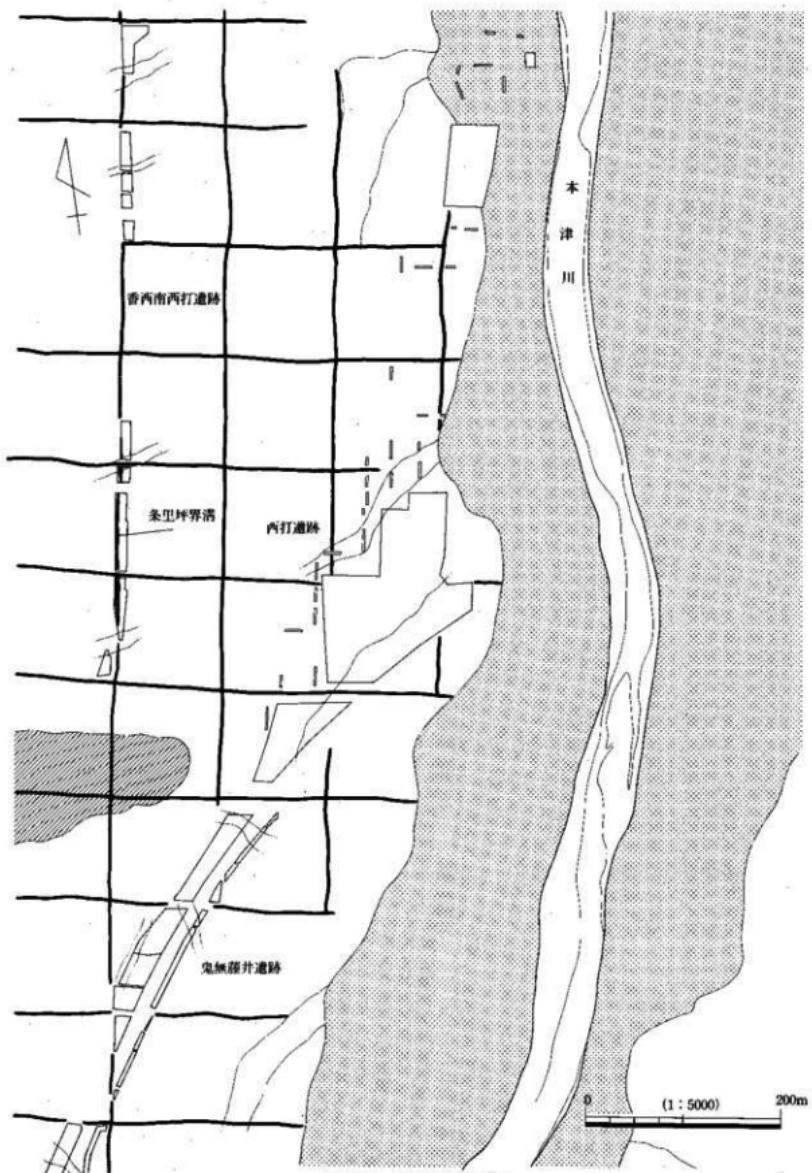
2. 弥生後期終末

弥生前期の各集落が消滅し、弥生後期前半まで遺構は見られない。西打遺跡B2区・鬼無藤井遺跡の旧河道9において凹線文系土器群が見られるが居住域を推定できる程のものではない。後期前半・後半に至っても香西南西打遺跡I区を中心に少数の溝が見られるが、集落の動向は以前低調である。後期終末には西打遺跡A2区部分に竪穴住居2棟・掘立柱建物6棟を中心とした集落が見られるが、その継続期間は短く大きく1型式の幅を超えるものではない。掘立柱建物は6棟確認できるが、先後関係をもつものが存在することから、同時併存で最大4棟となる。また、同一水系で南方に位置する中間西井坪遺跡においても、本時期に竪穴住居が欠落し、掘立柱建物主体で構成される集落が確認されており。讃岐西部の丸龜平野では、この時期に掘立柱建物は殆ど見られないことから、掘立柱建物の卓越に本地域の特質かどうか検討する必要がある。

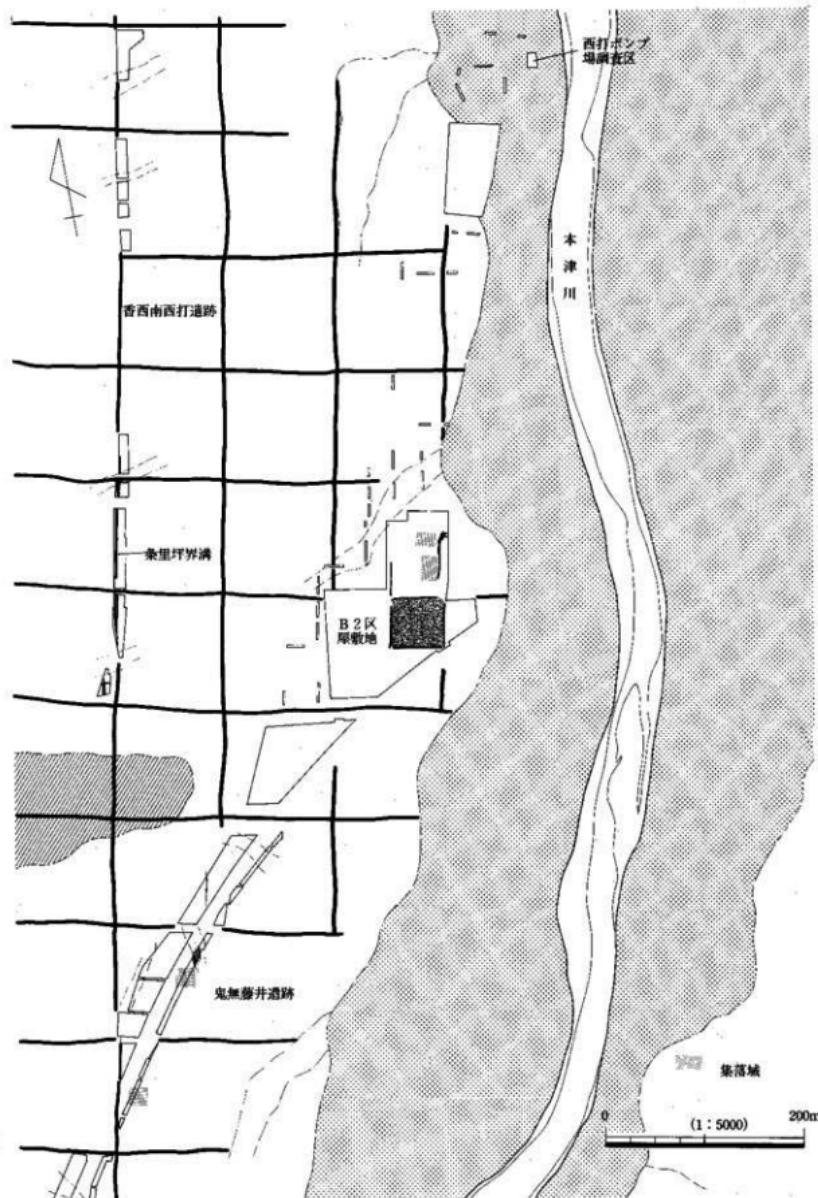
3. 古代

実態不明な古墳時代を経て古代には条里型地割溝が開削され、耕地開発の画期を迎える。香西南西打遺跡では、周辺に遺存するN-10°前後の条里型地割に合致する溝が部分的に確認され始める。

この地割溝は、西打遺跡南西方向に存在する明瞭な微高地を南北に横断するものと思われ、前代までの香西南西打遺跡において検出された弥生後期終末の溝が、ほぼ旧河道に沿う形で南北から北東方向で自然地形に合わせて開削されていたのに対して、基本的には自然地形の制約を受けない。また、縄文晩



第146図 周辺の地形変遷2



第147図 周辺の地形変遷 3

期・弥生時代以降の各旧河道の埋没がほぼ完了し、地形が平坦化していることも関係している。発掘調査では南北の坪界線の溝のみ確認されている状況であり、東西の坪界線は明確な検出・調査例は無い。この条里地割の施行により、西方向の五色台東麓から東方向の現本津川へ傾斜する自然地形に規制された従来の灌溉網を克服し、南の本津川から取水し明瞭な微高地を南北に横断させる溝を開削することによって、灌溉網をより充実させることに成功している。

段丘面と氾濫原面との境界付近に位置する西打遺跡では確實に古代期まで遡り得る遺構（条里型地割溝）は存在しないことから、未だ不安定な土地条件下にあったことが想定される。

4. 中世Ⅰ

11c後半から12c前半になると、西打遺跡B2・C区において南北方向の条里坪界溝と、それに規制された屋敷地を確認している。西打遺跡では、古代の段階に積極的な耕地開発や集落としての土地利用がなされておらず、本津川の河床面の低下による地形環境の安定化に伴って、香西南西打遺跡等で確認された条里型地割が東へ延伸されたと見るべきであろう。

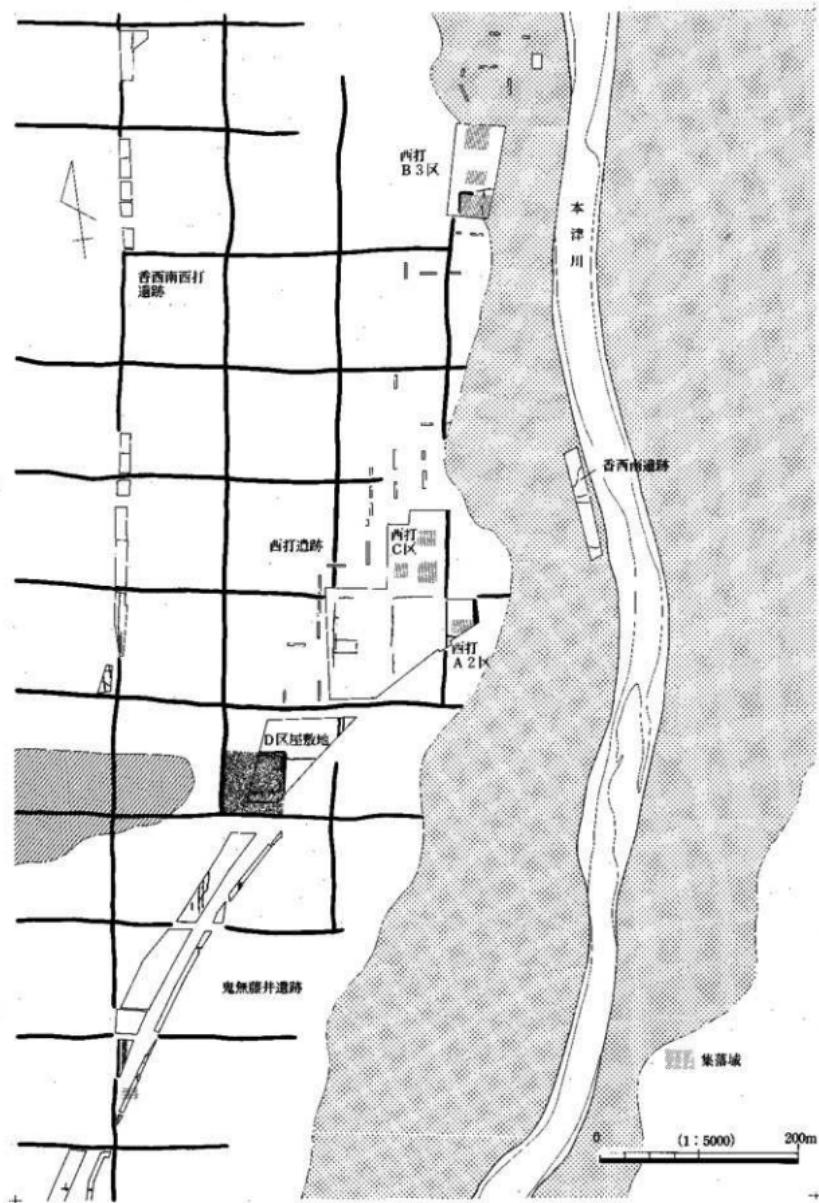
本段階の西打遺跡B2区の屋敷地は、ほぼ1/4町四方の規模を誇り北辺と東辺を条里坪界線に合致させている。また、屋敷地と条里坪界溝の開削が同時期に出現していることから、屋敷地の經營主体が周辺の土地開発に関係したものと推測される。主屋となるSB01の面積や構造、屋敷地の占有面積から見て、同時期の集落の中でも上位層のものと思われる。また、出土遺物では楠葉型の黒色土器・瓦器碗や東海系山茶碗など、遠隔地から搬入されたものも多く見られた。本遺跡が、比較的海浜部に立地することも合わせて考えると屋敷地の經營主体が耕地開発のみならず、当該期の物資流通にも関与しているものと思われる。

5. 中世Ⅱ

西打遺跡では、12c後半～13c前半の遺構は確認できない。西打遺跡のB2・C区の屋敷地・集落は一端廃絶するとともに、条里坪界溝も一端放棄される。香西南西打遺跡や鬼無藤井遺跡では、当該期の遺物が見られることから、集落域が未調査範囲に移動しているものと思われるが、不正確である。

13c末～14c初頭になると、西打遺跡では、ほぼすべての坪界線に相当する箇所で溝を確認し、屋敷地・集落が再び出現するが、先に見たように明確な断絶期を介する為、前代の屋敷地・集落と同一系譜と理解できない。本報告第1巻で詳述しているように、D区屋敷地は周囲の区画溝や内部の建物等が条里型地割坪界線によって規格的割り付けられていることや、その内部の空間利用から「居館」とも評価される（木下2000）。本時期あるいは中世後半の高松平野では、溝によって囲郭された屋敷地が多く見られる（森下・戸賀1992、佐藤2000、信里2000、川畑2000）。これら報告された「居館」の分類規準は様々だけれども、現状では居館そのものの遺構だけではなく、居館周囲の集落配置・景観まで目配りした經營主体の地域内での位置づけが必要となってきた。D区屋敷地の西方500mの同一地形上とも言える尾根筋には、中世後半の高松平野で最も有力な国人領主であった香西氏の居館である佐料城が位置する。現状では立地以外に関連性を窺わせる遺構・遺物は見られないが、これを念頭に置いた上で発掘調査を実施する必要があろう。

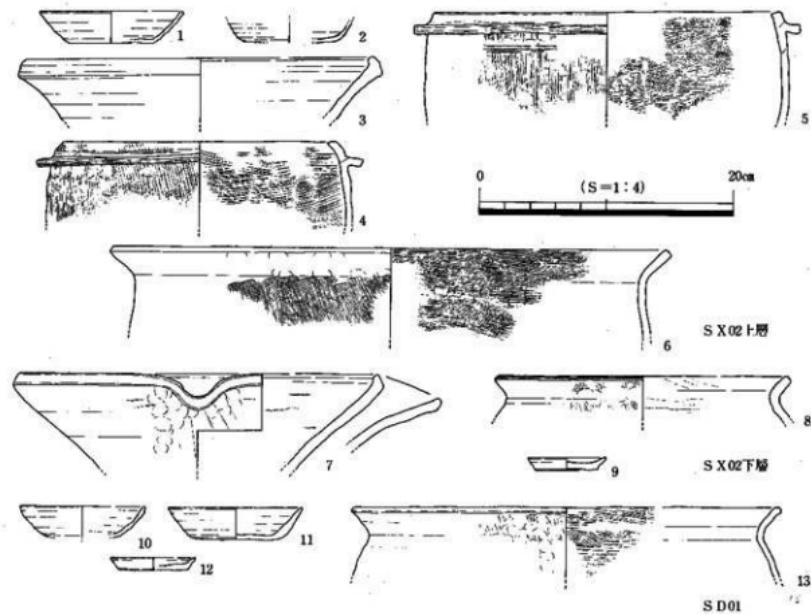
段丘面と氾濫原面の境に位置する西打遺跡B3区では、明確な条里坪界溝は見られないが、それに一部影響を受けた区画溝・建物群が出現する。前段階の段丘上の地形環境の安定化に伴い、安定的に集落が営まれ始めたと見られる。



第148図 周辺の地形変遷 4

現本津川際の西打遺跡東方の番西南遺跡では、当該期に埋没した旧河道を多く確認している（北山1997）。第149図には、これら旧河道より出土した土器を掲載した。これらの遺物は殆ど磨滅を受けていないことから、比較的近接した位置から投棄されたと見られ、不安定な現氾濫原面の部分も集落・耕地として利用され始めたと考えられる。

1～6は旧河道上層より出土した一群である。1・2は土師質土器杯である。3は東播系須恵器鉢、4、5・6は土師質土器足釜・鍋である。7～9は下層より出土した。7は東播系須恵器鉢で8は土師質土器足鍋である。9は底部外面に回転糸切りが見られる土師質土器皿である。10～13は溝として調査された遺構から出土しているが、旧河道の一部と捉えて過誤なかろう。10・11・12は土師質土器杯・皿である。13は土師質土器足鍋である。



第149図 番西南遺跡出土遺物

第4節 西打遺跡出土椀形鍛冶滓の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TACセンター

大澤正己・鈴木瑞穂

1 いきさつ

西打遺跡は高松市に所在する。B2区の12世紀前半に比定される掘立柱建物跡（SD08）の周囲を巡る雨落ち溝より椀形鍛冶滓が1点出土した。遺跡全体で他に鍛冶関連遺物は認められない。当試料の性格を詳細に検討するため金属学的調査を行う運びとなった。

2 調査方法

2-1 供試材

Table.1に示す。椀形鍛冶滓1点の調査を行なった。

2-2 調査項目

(1)肉眼観察

遺物の肉眼観察所見。これらの所見をもとに分析試料採取位置を決定する。

(2)顕微鏡組織

切り出した試料をベークライト樹脂に埋込み、エメリーワイヤード研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンド粒子の 3μ と 1μ で仕上げて光学顕微鏡観察を行なった。

(3)ビッカース断面硬度

鍛滓の鉱物組成と、金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行なった。試験は鏡面研磨した試料に 136° の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

(4)化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（SiO₂）、酸化アルミニウム（Al₂O₃）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K₂O）、酸化ナトリウム（Na₂O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO₂）、酸化クロム（Cr₂O₃）、五酸化磷（P₂O₅）、バナジウム（V）、銅（Cu）、：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

3 調査結果

TKM-1 梗形鍛冶滓

(1) 肉眼観察：鍛冶炉の炉底で堆積形成された小型でやや厚手の梗形鍛冶滓である。上下面是生きており、側面は隣り合う3辺が破面。滓の色調は黒灰色。上面には長さ1cm以下の細かい木炭痕を密に残す。側面から下面周縁部にかけても細かい木炭痕による凹凸がみられるが、中央部は比較的滑らかで、

この部分は炉底に接するように堆積形成された可能性がある。また下面中央には小さな錆化鉄部が認められる。

② 顕微鏡組織: Photo. 1 ①~⑨に示す。①~⑦は滓部で、素地の暗黒色ガラス質滓中に白色粒状結晶ウスタイト (Wustite : FeO) 、淡灰色木ずれ状結晶ファイアライト (Fayalite : 2FeO · SiO₂) が晶出する。なお底部では⑥⑦に示すようにファイアライト (Fayalite : 2FeO · SiO₂) の結晶が発達する。鉄素材の繰返し折り曲げ鍛接の高温作業で排出された鍛錬鍛冶滓の晶癖である。⑧⑨は滓中の錆化鉄である。

③ ピッカース断面硬度: Photo. 1 ①に白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は435 Hvであった。ウスタイトの文献硬度値450~500 Hv (日刊工業新聞社1968) の下限を僅かに下回る値となつたが、測定時の亀裂による影響が考えられる。ウスタイト (Wustite : FeO) といえよう。

④ 化学組成分析: Table. 2 に示す。全鉄分 (Total Fe) 51.80%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.10%、酸化第1鉄 (FeO) 50.38%、酸化第2鉄 (Fe₂O₃) 17.93%の割合であった。ガラス質成分 (SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O) 28.00%で、このうちに塩基性成分 (CaO+MgO) 1.96%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO₂) 0.19%、バナジウム (V) は0.01%と低く、酸化マンガン (MnO) も0.18%と低値であった。銅 (Cu) は<0.01%であった。鉄分高く、脈石成分 (TiO₂, V, MnO) の低減した値から鍛錬鍛冶滓に分類される。鍛冶に供された鉄素材は純度のよい砂鉄系の可能性を提示しておく。その理由は脈石成分のチタン (Ti) 、バナジウム (V) 、マンガン (Mn) などと共にクロム (Cr) を若干量含むからである。

4まとめ

調査試料は鍛冶炉の炉底に堆積形成された楕形鍛冶滓で、鉄器製作の鍛打鍛錬工程での派生物であることが明らかになった。1点のみの出土であるが、鉄滓という遺物の性格から近傍で鉄器生産が行われていた可能性は考えられる。

香川県下では鉄滓の金属学的調査事例は未だ少ない (大澤1999・大澤・鈴木1999・2001a) ので、当地域における該期の鉄器生産の実態を検討するために、更なる試料の蓄積が望まれる。参考までに表27には既報告の分析例を7点挙げておく。なお、四国での砂鉄成分の特質としてクロム (Cr) 含有量の高い傾向にあることは別途報告してあるので参照して頂ければ幸いである (大澤・鈴木2001b)。

引用文献

- 日刊工業新聞社「焼結鉱組織写真および識別法」1968 磁鉄鉱は530~600Hv、ウスタイトは450~500Hv、マグネタイトは500~600Hv、ファイアライトは600~700Hvの範囲が提示されている。
- 大澤正己 1999 「中間西井坪遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三十二号 中間西井坪遺跡Ⅱ」香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター 日本道路公團
- 大澤正己・鈴木理徳 1999 「川津川西遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三十三号 川津川西遺跡・飯山1本松遺跡」香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター 日本道路公團
- 大澤正己・鈴木理徳 2001a 「川津東山田遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第38号 川津東山田I区」香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター 日本道路公團
- 大澤正己・鈴木理徳 2001b 「矢野遺跡出土鉄製品・砂鉄等の金属学的調査」「矢野遺跡(I)~徳島南環状道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告~(徳島県埋蔵文化財センター調査報告 第33集)徳島県教育委員会 (財)徳島県埋蔵文化財センター・建設省四国地方建設局 2001

表26 供試材の履歴と調査項目

番号	通称名	遺構名	遺物名稱	推定年代	古測定	大きさ(mm)	重り(g)	メタル度	マクロ 組織	微細 組織	ピカズ 表面	CMA 分析	熱凍	カロリー	備考
TKM-1	高松西打	B11ESD98	精耕鉄鋤	12C	60×58×2	114.9		なし	○	○	○	○	○	○	

表27 供試材の組成

符号	通称名	出土位置	遺物名稱	推定年代	全組成										# : 1 g loss												
					全鐵	全錫	全銅	全錫 (Feo) (Fe)																			
TKM-1	高松西打遺構	B11ESD98	精耕鉄鋤	12C	51.80	0.10	50.36	17.93	21.03	3.50	1.52	0.44	0.97	0.54	0.18	0.19	0.20	0.02	0.25	0.08	0.01	0.01	28.00	0.34	0.004	①	
NNT-1	中間西井下	D03SK II 26	精耕鉄鋤	7C 中世	48.18	0.30	41.97	21.81	21.87	4.01	1.79	0.52	1.11	0.67	0.15	0.17	0.02	0.06	0.41	0.10	0.003	0.052	29.97	0.32	0.004	②	
NNT-2	中間西井下	D05SK II 30	精耕鉄鋤	15C代	59.23	0.05	55.62	22.80	11.22	2.47	0.61	0.30	0.43	0.21	0.20	0.02	0.02	0.21	0.10	0.030	0.065	15.24	0.257	0.034	②		
NNT-3	中間西井下	D04SK II 02	精耕鉄鋤	16C代	6.87	0.14	1.17	8.32	53.03	22.61	0.69	0.94	1.50	0.41	0.09	0.77	0.04	0.01	0.78	# 0.38	0.006	0.002	78.18	11.526	0.112	②	
KWT-1	川津川西	SN20上層	精耕鉄鋤	16C後半-2C代	63.62	0.10	27.38	60.59	8.22	1.77	0.20	0.31	0.67	0.21	0.04	0.33	0.06	0.04	0.25	0.19	0.01	0.007	11.38	0.179	0.005	③	
KWT-1	川津東山	D0044	抜口	MC後半-中期	4.61	0.21	0.77	5.44	61.34	15.60	0.91	0.57	2.10	1.48	0.22	0.63	0.03	0.01	0.52	# 4.45	0.01	0.002	10.90	82.00	17.787	0.137	①
KWT-2	川津東山	D0066	精耕鉄(大)	MC後半-中期	40.63	0.04	41.36	12.07	30.61	5.44	1.78	0.48	1.27	0.92	0.13	0.29	0.03	0.01	0.37	0.11	0.01	0.002	40.50	0.397	0.007	①	
KWT-3	川津東山	R0082	精耕鉄(中)	MC後半-中期	51.64	0.19	45.34	23.17	18.02	3.86	1.14	0.37	0.74	0.53	0.33	0.32	0.02	0.01	0.59	0.11	0.02	0.002	24.66	0.478	0.010	④	
KWT-4	川津東山	R0090	精耕鉄(小)	MC後半-中期	52.54	0.14	46.56	23.18	16.98	3.90	1.46	0.56	0.66	0.75	0.12	0.63	0.02	0.02	0.31	0.07	0.02	0.007	24.31	0.463	0.012	④	

① 人選石(?) 精耕鉄鋤(?) 本松西打遺構出土、繩形治作の金箔字の墨跡(?)

② 大澤正己「中間西井井干槽排水土管治作物の金属学的検査」「四国地方古墳群に伴う繩文文化財発掘調査報告 第三十一回」1999 川津川西遺跡調査会

日本道路会社

③ 人選正己・鈴木和也「川津川西遺跡出土精耕鉄鋤の金属学的検査」「四国新石器時代遺物研究会報」第十一回 1999 川津川西遺跡調査会

④ 人選正己・鈴木和也「川津東山田遺跡出土精耕鉄鋤の金属学的検査」「四国新石器時代遺物研究会報」第38回 2001 川津東山田区

第5節 高松市西打遺跡出土赤彩土器の調査

志賀智史（別府大学）
本田光子（別府大学）

1. はじめに

香川県高松市西打遺跡出土赤彩土器について表面・断面観察及び赤色顔料の同定を行ったので、その方法と結果を報告したい。

2. 資 料

C区南西部の土坑SK01（南北1.4×東西1.3×深さ0.4m）より出土した、櫛原式文様を有するポール状浅鉢の口縁部破片である（第151図）。文様は珠点と沈線で構成されており、これらのなかには部分的ではあるが、肉眼ではっきり赤色顔料が認められる。所属時期は、その型式学的特徴と共に伴遺物から縄文時代晚期前葉と考えられている。資料表面右側には二次的な受熱痕が顯著に認められ、おそらく全面が受熱している可能性が高いが、その程度ははっきりしない。器面は荒れ摩滅しているものの、試料作成時の感覚では内部はかなり硬質であり、本来は精製土器であったものが二次的な受熱によって劣化が進行し、このような状態になったと考えた。なお同遺構からの出土資料には焼薙や左右で色調の異なる土器が接合した例も確認されており、当資料の由来を含めて土坑の性格を考える上で非常に興味深い。

3. 方 法

表面観察では、資料の表面を裸眼と实体顕微鏡で観察し、器形や顔料の塗布範囲等を確認した。断面観察では、資料から直接採取した赤色物を含む破片をエポキシ樹脂に包埋し、厚さ数μmになるまで研磨する。完成した試料を透過光及び反射光により光学顕微鏡で観察し、赤色顔料の種類や付着状況、膠着物の有無を確認し、膠着物がある場合は、下地の状況、塗りの回数、その厚さ等をあわせて確認した。赤色顔料についてはその形状から朱かベンガラかを経験的に判別した。

赤色顔料の分析は断面観察時の判別に加え、資料から針先に付く程度の顔料を直接採取し、光学顕微鏡を用いて観察した。蛍光X線分析では、別府大学に設置の傍堀場製作所製エネルギー分散型蛍光X線分析装置MESA500を用いて資料を直接測定した（条件：15kV-440μA；50秒、50kV-20μA；50秒、大気）。赤色の由来となる主成分元素として水銀が検出されたものは朱、鉄が検出され水銀や鉛が検出されなかったものはベンガラと考える。

4. 結果と考察

赤色顔料は土器器面との密着性が低く、また珠点や沈線であっても部分的に赤色顔料が認められない箇所があるので焼成後塗彩と考えた。

赤色顔料の塗布範囲は珠点や沈線等の凹み内のみに認められ、その他の部分には認められなかった。一般的に言って肉眼では顔料が確認しづらい場合であっても、検鏡下ではハッキリとその存在が確認できる場合が多く、比較的の判断は容易ではあるが、今回の資料では器面の風化を十分考慮する必要がある。現状では凹み内のみに顔料を塗布したのか、口縁外面全体に塗布したのかははっきりしない（第

153図)。

赤色顔料の構成は $1\text{ }\mu\text{m}$ 前後の微粒子であり(第157図)、透明中空のパイプ状柱状粒子は認められなかった。層厚は最大 $160\text{ }\mu\text{m}$ 以上で沈線最深部がもっとも厚く、周辺部になるにつれて徐々に薄くなっている(第154図)。粒子間には黄色透明の漆と思われる膠着物が確認できたが、下地や塗り重ねられた痕跡はない。膠着物自体の残存状態は悪く、遺存していない部分が市松状に認められた(第155・156図)

赤色顔料の種類については、蛍光X線分析の結果鉄が検出され水銀や鉛が検出されなかつたこと、及び上記の観察所見からベンガラと判断した。

5. おわりに

以上のことから、土器焼成後、珠点・沈線内ないしは口縁外面全体へ漆と思われる膠着剤にベンガラを混和して塗布するという工程が予想される。ただし、先に指摘した二次的な受熱が漆やベンガラ、土器にどの程度、どのような影響を与える、また埋蔵環境がそれらにどのような影響を与えたかについてはなお検討が必要であろう(註1)。

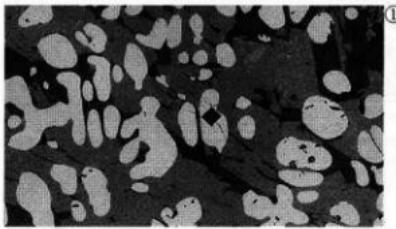
出土土器に、装飾を目的にした赤色塗彩のための赤色顔料が残存している場合、その塗彩は大きく焼成前に行われたか焼成後に行われたものとに分かれる。本例は後者の例であり、埋蔵環境により膠着剤が劣化しているものであろう。

調査の機会をいただきました香川県教育委員会および同信里芳紀氏に感謝いたします。

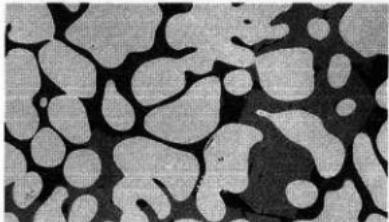
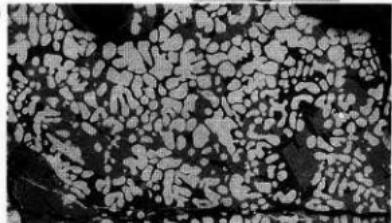
註1：実際、受熱痕がはっきり認められる資料表面右側から顔料のサンプルを採取したが、写真8にみられるような黄色透明の膠着物らしきものが確認された。しかし、二次的な受熱後の漆の塗布は考え難い。

TKM-1 楠形鍛冶

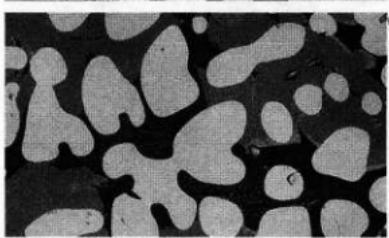
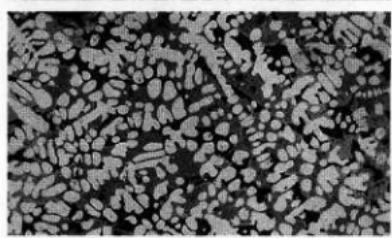
①×200
硬度圧痕 435Hv
②×100 ③×400
ガスタイト・ファイライト
④×100 ⑤×400
同上
⑥×100 ⑦×400
底部：ファイライト
⑧×100 ⑨×400
錆化鉄部



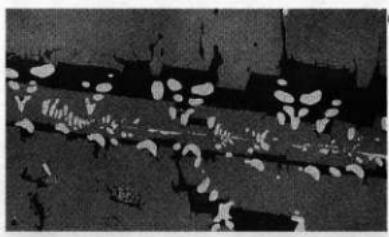
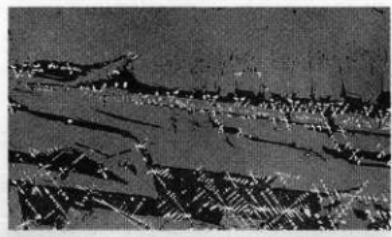
②



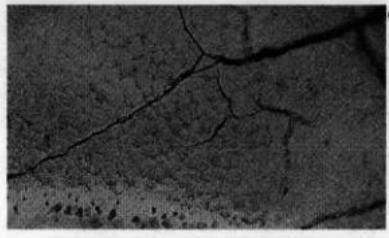
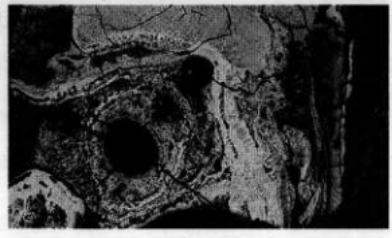
④



⑥



⑧

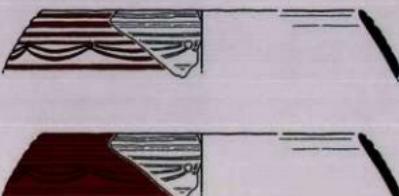


第150図 楠形鍛冶洋の顕微鏡組織

高松市西打遺跡出土赤彩土器の顕微鏡写真



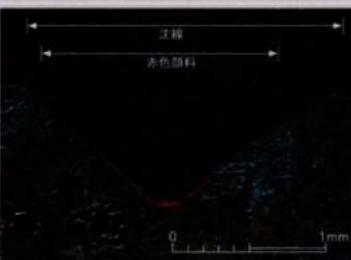
第151図 分析資料 ($\times 1/2$)



第152図 赤彩土器の復元 ($\times 1/4$)



第153図 表面写真 ($\times 40$)



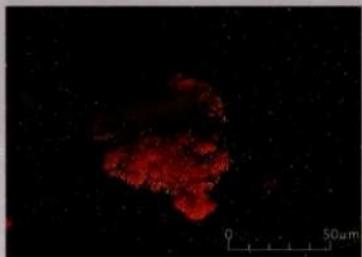
第154図 断面写真 (落射光 $\times 30$)



第155図 断面写真 (落射光+透過光 $\times 200$)



第156図 断面写真 (落射光+透過光 $\times 400$)



第157図 赤色顔料 (落射光 $\times 400$)



第158図 赤色顔料 (落射光+透過光 $\times 400$)

引用・参考文献一覧

- 池澤俊幸 2000 「土佐における古代前期の建物群」「古代文化 第52卷第6号」
- 2000 「土佐から見た平安時代の土器」「中世土器の基礎研究XV」日本中世土器研究会
- 石尾和仁 1993 「中世低地集落の形成と展開」「ヒストリア 第138号」大阪歴史学会
- 1996 「中世低地集落の変容」「鳴門史学 第10集」
- 1999 「中世低地集落の歴史的位置」「中浜集落と瀧瀧」シンポジウム「中世集落と瀧瀧」実行委員会
- 石井清司 1995 「Ⅲ土器・陶磁器 5. 篠窯須恵器」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会
- 小川 賢・山元敏裕 2001 「高松港頭地区再開発関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 香西南西打跡」高松市教育委員会
- 川部浩二・小川 賢 2001 「高松港頭地区再開発関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 鬼無藤井遺跡」高松市教育委員会
- 片桐孝浩 1992 「古代から中世にかけての土器様相」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財報告第1冊 川津元結木遺跡」香川県教育委員会 (助)香川県埋蔵文化財調査センター
- 片桐孝浩 1995 「Ⅱ各地の土器様相 (2) 讀岐」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会
- 木下晴一 1991 「条里型地割施工以後の微地形変化」「香川県地理学会会報No.11」
- 1995 「第2章 遺跡の立地と環境」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財報告第16冊 川津二代取遺跡」香川県教育委員会 (助)香川県埋蔵文化財調査センター
- 2000 「サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 西打遺跡I」香川県教育委員会 (助)香川県埋蔵文化財調査センター
- 北山健一郎 1997 「香西南遺跡」「財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成8年度」(助)香川県埋蔵文化財調査センター
- 藏本晋司 1999 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財報告第32冊 中間西井坪遺跡II」香川県教育委員会 (助)香川県埋蔵文化財調査センター
- 佐藤亞聖 2000 「集団と耕地開発」「叡尊・忍性と律宗系集団」シンポジウム「叡尊・忍性と律宗系集団」 実行委員会
- 佐藤竜馬 1998 「讀岐地方における官衙関連遺跡と集落動向」「律令国家における地方官衙遺構の研究の現状と課題」古代学協会四国支部第12回発表資料
- 佐藤竜馬 2000 a 「空港跡地総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 空港跡地遺跡IV」香川県教育委員会 (助)香川県埋蔵文化財調査センター
- 2000 b 「讀岐における平安期の土器研究」「中近世土器基礎研究XV」日本中世土器研究会
- 2000 c 「西村型土器椀の系譜」「財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅴ」(助)香川県埋蔵文化財調査センター
- 鍋柄俊夫 1999 「中世村落と地域性の考古学的検討」
- 高橋照彦 1995 「Ⅲ土器・陶磁器 3. 緑釉陶器」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会
- 拙稿 2000 a 「北四国における弥生文化の成立」「第47回 埋蔵文化財研究集会 弥生文化の成立—各地域における弥生文化成立期の具体像—」

- 2001 b 「讃岐地域の初期遠賀川式土器」「突帯文と遠賀川」土器持ち寄り会
- 広瀬和雄 1988 「中世村落の形成と展開」「物質文化 50」
- 1999 「中世村落の考古学的研究－西日本を中心として－」「中世集落と灌溉」シンポジウム
「中世集落と灌溉」実行委員会
- 平川教治「奈良時代以降の漁業」「考古学による日本歴史2 産業I」雄山閣
- 間壁忠彦「備前焼」「考古学ライブラリー-60」ニューサイエンス社
- 森 格也 1993 「瀬戸内地方の中世集落の展開－讃岐を中心として－」「財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要I」
- 森 隆 2000 「楠葉型黒色土器B類椀と初期楠葉型瓦器椀」「中世土器の基礎研究XV」日本中世土器研究会
- 森島康男 1995 「Ⅲ土器・陶磁器 6.瓦器椀」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会
- 森下友子・藏本晋司「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 東山崎・水田遺跡」香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 森田 稔 1995 「Ⅲ土器・陶磁器 8.中世須恵器」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会
- 山下峰司 1995 「Ⅲ土器・陶磁器 4.灰釉陶器・山茶椀」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会
- 山本信夫 1995 「Ⅲ土器・陶磁器 11.貿易陶磁器（中世前期の貿易陶磁器）」「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会
- 横田賢次郎・森田 勉 1978 「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」「九州歴史資料館研究論文集4」
- 渡部明夫 1990 「第V章まとめ 繩文後・晩期の土器について」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財報告第9冊 永井遺跡」香川県教育委員会 (財)香川県埋蔵文化財調査センター

報告番号	番 号	地名	測線名	粒径・石英	費時	角閃石	その他	色 調	緑青質	内面調査	外面調査	備 考
1	純文土器 淵林	B3	SP1310	粗砂多				2.5YR7/3赤褐色	1/8	ヘミガキ	ヘミガキ	7
2	純文土器 淵林	B3	SP1456			粗砂多	5Y3/1オーバー褐色	1/8	ナメツ	不明	ヘミガキ	7
3	学生土器 底部	B3	ST14			粗砂多	10Y5/6赤色	3/8	マツツ	ヘミガキ	ヘミガキ	
4	学生土器 薄	B3	SD25			粗砂多	2.5YR7/3赤褐色	2/8	マツツ	マツツ	マツツ	7
5	学生土器 壁	B3	SD25	粗砂多			10YR5/4赤褐色	7/8	マツツ	マツツ	マツツ	
6	学生土器 瓶	B3	SD25	粗砂多			5YR5/6赤褐色	2/8	マツツ	マツツ	マツツ	4の底層か
7	学生土器 瓶	B3	SX12付近	粗砂多			5YR7/4赤褐色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	
8	学生土器 瓶	B3	SX12付近	粗砂多			10YR5/3赤褐色	6/8	マツツ	マツツ	マツツ	7
9	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			5YR5/6褐色	1/8	黒ヘミガキ	ヘミガキ	ヘミガキ	7
10	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			2.5YR7/1赤白色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	
11	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			10YR5/3赤褐色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	8
12	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			2.5YR4/4赤褐色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	
13	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			7.5YR7/4赤褐色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	12と同一個体か
14	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			10YR5/6褐色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	8
15	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			5YR7/4赤褐色	1/8	板ナメツ	ヨコナメツ?	ヨコナメツ?	8
16	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			7.5YR8/2灰褐色	7/8	マツツ	マツツ	マツツ	
17	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			10YR5/6赤褐色	2/8	マツツ	マツツ	マツツ	
18	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			10YR8/2赤褐色	2/8	マツツ	マツツ	マツツ	
19	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			5YR7/6褐色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	
20	学生土器 瓶	B3	SX13	粗砂多			2.5YR7/1赤白色	1/8	マツツ	一箇所ナメツ	ヨコナメツ	8
21	純文土器 淵林	B3	SZ20	粗砂合	粗砂少		5YR6/6褐色	1/8	マツツ	ヨコナメツ	ヨコナメツ	
22	学生土器 瓶	B3	SZ20	粗砂合			10YR7/3赤褐色	1/8	ヨコナメツ	ヨコナメツ	ヨコナメツ	
23	学生土器 瓶	B3	SZ20	粗砂合			10YR6/6赤褐色	1/8	ナメツ	ヘミガキ?	ヘミガキ?	
24	学生土器 瓶	B3	SZ20	粗砂多	粗砂合		5YR6/4赤褐色	1/8	マツツ	ナメツ	ナメツ	
25	学生土器 瓶	B3	SZ20	粗砂多			5YR8/4赤褐色	1/8	マツツ	不明	不明	
26	学生土器 壁	B3	SP1687	粗砂合			2.5Y7/2赤褐色	1/8	ナメツ	横おさえ	横おさえ	
27	学生土器 瓶	B3	SP1687	粗砂多			10YR7/3赤褐色	1/8	ナメツ	ヘミガキ?	ヘミガキ?	
28	学生土器 瓶	B3	SP1115	粗砂多			2.5Y7/2赤褐色	3/8	ナメツ	ヨコナメツ	ヨコナメツ	8
29	土師質土器 瓶	B3	SB01			粗砂合	2.5Y7/1赤白色	2/8	ナメツ	ナメツ	ナメツ	
30	土師質土器 瓶	B3	SB01			粗砂少	2.5Y8/1赤白色	1/8	ナメツ	ナメツ	ナメツ	
31	土師質土器 瓶	B3	SB01			粗砂少	2.5Y7/1赤白色	1/8	ナメツ	ナメツ	ナメツ	
32	土師質土器 瓶	B3	SB01			粗砂合	2.5Y7/1赤白色	1/8	ナメツ	ナメツ	ナメツ	
33	土師質土器 瓶	B3	SB01			粗砂少	5Y8/1赤褐色	1/8	ナメツ	ナメツ	ナメツ	
34	土師質土器 瓶	B3	SB01			粗砂少	5Y8/2赤褐色	1/8	ナメツ	ナメツ	ナメツ	

編番	品種	地名	通称名	長径・台形	葉形	葉肉	その他の特徴	粗糲度合	色調	発育性質	外観概要	備考	備考
35	土海賀土器	杯	B3	SB01				粗糲	2.5YR/10K白色	6/8	暗紅色	体回転ナシ, 体横走ナシ, 壁厚ナシ, 頭部丸み, 壁面滑らか, 壁面薄	8
36	土海賀土器	杯	B3	SE01				粗糲	2.5YR/10K白色	1/8	1種ヨコナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 頭部丸み, 壁面滑らか, 壁面薄	8
37	土海賀土器	杯	B3	SE01				粗糲	2.5YR/20K白色	3/8	輪郭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 頭部丸み, 壁面滑らか, 壁面薄	8
38	土海賀土器	杯	B3	SE01				粗糲	10YR/20K白色	6/8	円筒ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 頭部丸み, 壁面滑らか, 壁面薄	8
39	土海賀土器	杯	B3	SB01				粗糲	2.5YR/30K黄色	1/8	輪郭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 壁面滑らか, 壁面薄	8
40	土海賀土器	杯	B3	SB01				粗糲	10YR/20K白色	1/8	輪郭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 壁面滑らか, 壁面薄	8
41	土海賀土器	杯	B3	SP01				粗糲	2.5YR/10K白色	1/8	輪郭ナデ, 頭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 壁面滑らか, 壁面薄	8
42	土海賀土器	杯	B3	SE01				粗糲	5YR/20K白色	2/8	輪郭ナデ, 頭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 壁面滑らか, 壁面薄	8
43	土海賀土器	杯	B3	SB01				粗糲	7.5YR/40K黄色	1/8	マツコ	アメツ	
44	土海賀土器	杯	B3	SE01				粗糲	5YR/10K白色	7/8	輪郭ナデ, 頭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 壁面滑らか, 壁面薄	8
45	土海賀土器	杯	B3	SE01				粗糲	2.5YR/30K黄色	1/8	輪郭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 壁面滑らか, 壁面薄	8
46	土海賀土器	杯	B3	SE01				粗糲	2.5YR/40K白色	1/8	輪郭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 壁面滑らか, 壁面薄	8
47	土海賀土器	杯	B3	SE01				粗糲	5YR/10K白色	3/8	輪郭ナデ, 頭ナデ	体回転ナシ, 壁厚ナシ, 壁面滑らか, 壁面薄	8
48	土海賀土器	足金	B3	SB01				粗糲	2.5YR/20K黄色	1/8	輪郭ナデ	「輪郭ナシ, 頭ナシ」模様	
49	土海賀土器	足金	B3	SE01				粗糲	2.5YR/30K黄色	1/8	板ナデ	輪郭ナシ, 色あざやか, コード外延ナナ付着	8
50	須磨器	杯	B3	SE01				粗糲	NS/00K白色	1/8	圓筒ナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
51	龜山燒	光	B3	SE01				粗糲	NS/00K白色	2/8	ハリメヘ上ヨナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
52	東福寺須磨器	杯	B3	SE01				粗糲	10RG/40K黄色	3/8	ナフ	輪郭ナシ, 頭厚ナシ	内面使用痕
53	土海賀土器	皿	B3	SK02				粗糲	5YR/40K白色	1/8	輪郭ナデ	外延ナシ, 壁厚ナシ	8
54	土海賀土器	杯	B3	SK02				粗糲	7.5YR/60K黄色	1/8	輪郭ナデ	須磨ナシ	8
55	土海賀土器	盤	B3	SK02				粗糲	2.5YR/30K黄色	1/8	口輪ヨコナデ, 頭ナケメ	須磨ナシ, 頭厚ナシ, 壁厚ナシ	8
61	土海賀土器	杯	B3	SK03				粗糲	7.5YR/40K黄色	1/8	輪郭ナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
62	土海賀土器	杯	B3	SK03				粗糲	10YR/30K黄色	1/8	輪郭ナデ	須磨ナシ	8
64	土海賀土器	小皿	B3	SK04				粗糲	2.5YR/20K白色	1/8	輪郭ナデ	須磨ナシ	8
65	土海賀土器	杯	B3	SK04				粗糲	2.5YR/30K黄色	1/8	輪郭ナデ	須磨ナシ	8
66	土海賀土器	すり鉢	B3	SK04				粗糲	5YR/10K白色	1/8	ヨコナデ	須磨ナシ	8
67	東福寺須磨器	盤	B3	SK04				粗糲	5YR/20K黄色	1/8	1種ヨコナデ, 体割れナシ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
70	土海賀土器	皿	B3	SK07				粗糲	5YR/60K白色	1/8	輪郭ナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
71	土海賀土器	皿	B3	SK07				粗糲	7.5YR/60K白色	6/8	輪郭ナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
72	土海賀土器	杯	B3	SK07				粗糲	10YR/30K黄色	1/8	輪郭ナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
73	土海賀土器	杯	B3	SK07				粗糲	10YR/30K黄色	2/8	輪郭ナデ, 頭ナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
74	土海賀土器	皿	B3	SK08				粗糲	5YR/60K白色	1/8	輪郭ナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8
75	土海賀土器	杯	B3	SK08				粗糲	10YR/20K白色	1/8	輪郭ナデ, 頭ナデ	須磨ナシ, 壁厚ナシ	8

觀 察 表

剖面番号	番	層	層名	地層名	長石	石英	漂砾	角閃石	その他の 鉱物	塊状岩	塊状岩	内面観察	備考	箇
76	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX09					粗砂少	7.5Y7/31-51.板色	2/8	上・下ナメ	井下調査	9
77	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX10					粗砂少	2.5Y7/31.板色	1/8	固結ナメ	井下調査	9
78	中国産青白磁	不明	B3	SX10					砂壳含	10R8/7/19.青白色	1/8	上半岩縫	地熱	9
79	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX01					粗砂少	5YR7/6.板色	6/8	体回転ナメ、底ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
80	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX01					粗砂少	5YR7/6.板色	2/8	体回転ナメ、底ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
81	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX01					粗砂含	2.5Y8/6.板色	1/8	固結ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
83	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX05					粗砂含	7.5Y5/31-51.板色	1/8	1.5mm×1.5mm板ナメ、底ナメ	1.5mm×1.5mm板ナメ、底ナメ	9
84	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂含	10Y8/1.板色	1/8	固結ナメ	固結ナメ	9
86	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX08					粗砂少	7.5Y8/6.板色	1/8	固結ナメ	固結ナメ	9
87	東港系豆富岩	鉄	B3	SX02					粗砂多	N7/0.板色	1/8	固結ナメ	固結ナメ	9
88	細粒砂	透	B3	SX02					粗砂少	5P8/1.板色	1/8	板ナメ、層板ナメ	板ナメ、層板ナメ	9
89	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX05					粗砂含	7.5Y8/4/1-51.板色	1/8	アメツ	粘結ナメ、ナメ	9
90	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX05					粗砂少	10Y8/2.板色	1/8	固結ナメ	体回転ナメ	9
91	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX05					粗砂多	5YR7/6.板色	1/8	アメツ	アメツ	9
92	土海賀土層	透	B3	SX05					粗砂多	5YR8/2.板色	1/8	アメツ	アメツ	9
93	土海賀土層	透	B3	SX05					粗砂少	5YR7/6.板色	1/8	アメツ	アメツ	9
94	土海賀土層	鉄	B3	SX05					粗砂少	2.5Y8/2.板色	1/8	ヘタニガキ	1.5mm×1.5mm板ナメ、体回転ナメ	9
95	土海賀土層	鉄	B3	SX05					粗砂少	7.5Y8/1.板色	2/8	ナメ	ナメ	9
96	龜山灰	透	B3	SX05					粗砂含	N6/0.板色	4/8	板ナメ	體積ナメ、底面ナメ	9
97	中國産骨碌	透	B3	SX05					砂壳含	7.5Y4/2.オーブ色	1/8	施物	体回転ナメ、底面ナメ	9
98	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	3.5Y8/4.板色	1/8	固結ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
99	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	2.5Y8/3.板色	1/8	固結ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
100	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂含	10Y8/44-51.黄褐色	1/8	固結ナメ	体回転ナメ	9
101	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂含	10Y8/2.白色	1/8	固結ナメ	固結ナメ	9
102	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂多	10Y8/2.白色	1/8	固結ナメ	固結ナメ	9
103	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂含	5YR7/4/1-51.板色	1/8	体回転ナメ、底ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
104	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	10Y8/3.板色	1/8	固結ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
105	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂含	2.5Y8/1.白色	2/8	体回転ナメ、底ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
106	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	10Y8/4.板色	3/8	固結ナメ	体回転ナメ、底面ナメ	9
107	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	2.5Y8/2.板色	3/8	体回転ナメ、底ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
108	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	7.5Y8/3/4.板色	2/8	固結ナメ	体回転ナメ、底面ナメ	9
109	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	10Y8/2.白色	2/8	固結ナメ	体回転ナメ、底ナメ	9
110	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	10Y8/2.板色	1/8	固結ナメ	固結ナメ	9
111	土海賀土層	Ⅲ	B3	SX06					粗砂少	10Y8/1.板色	1/8	固結ナメ	固結ナメ	9

試験番号	品種	地名	通称名	長石・石灰	紫母	鈍閃石	その他	色調	純存灰	内部測定	外観測定	備考	添付
112	土師質小器	杯	B3	SX06			粗砂少	2.5YR/3/6淡黄色	1/8	中性ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		
113	土師質土器	杯	B3	SX06			粗砂少	7.5YR/4/1-5/1褐色	1/8	中性ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		
114	土師質土器	足釜	B3	SX06			粗砂少	2.5YR/2/6淡黄色	1/8	ハタメ後ナデ	體回転ナデ、底面回転ナデ		9
115	土師質土器	足釜	B3	SX06			粗砂少	10YR/2/6に5/1黄褐色	1/8	ヨコナデ	體回転ナデ、底面回転ナデ		9
116	輪廻火	燒	B3	SX06			粗砂含	N7/0灰白色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ		9
117	東洋新作器	外	B3	SX06			粗砂含	SYR/1灰白色	1/8	「横ヨコナデ」体ナデ	口縁ヨコナデ、体ナデ		9
131	土師質土器	圓	B3	SX07			粗砂少	SYR/7/6褐色	2/8	「横ヨコナデ」体ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
132	土師質土器	杯	B3	SX07			粗砂含	SYR/7/3に5/1褐色	1/8	輪廻ナデ	回転ナデ		9
133	土師質土器	杯	B3	SX07			粗砂少	10YR/4/1-5/1黄褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
134	土師質土器	杯	B3	SX07			粗砂含	SYR/8/3淡褐色	3/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
135	土師質土器	杯	B3	SX07			粗砂含	7.5YR/2/6淡褐色	1/8	輪廻ナデ、底ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
136	土師質土器	圓	B3	SX07			粗砂少	N8/0灰白色	6/8	輪廻ナデ、底ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
137	土師質土器	杯	B3	SX07			粗砂少	SYR/2/6白色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ		9
139	土師質土器	圓	B3	SX10			粗砂少	7.5YR/7/29暗褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
140	土師質土器	圓	B3	SX10			粗砂少	SYR/7/4に5/1褐色	1/8	ナデ	生目立ナデ、底面回転ナデ		9
141	土師質土器	圓	B3	SX10			粗砂少	2.5YR/1灰白色	4/8	輪廻ナデ、底ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
142	土師質土器	圓	B3	SX10			粗砂多	2.5YR/2/6白色	2/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
143	土師質土器	小圓	B3	SX10			粗砂少	SYR/7/6褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
144	土師質土器	小圓	B3	SX10			粗砂少	10YR/3/6淡褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
145	土師質土器	小圓	B3	SX10			粗砂含	SYR/7/6褐色	1/8	ナデ	生目立ナデ、底面回転ナデ		9
146	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	7.5YR/8/3淡褐色	2/8	輪廻ナデ	回転ナデ		9
147	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	SYR/7/6褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ		9
148	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	7.5YR/2灰白色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底ナデ		9
149	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	2.5YR/3/6淡褐色	4/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
150	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	3.5YR/4に5/1褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ		9
151	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂含	SYR/7/6褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ		9
152	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	SYR/7/6褐色	7/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底ナデ		9
153	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	7.5YR/8/4淡褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
154	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	10YR/8/3/6淡褐色	1/8	輪廻ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		9
155	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	10YR/8/2灰白色	1/8	回ナデ	体回転ナデ		10
156	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	SYR/8/3灰白色	3/8	輪廻ナデ、底ナデ	体回転ナデ、底面回転ナデ		10
157	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	7.5YR/8/2灰白色	1/8	輪廻ナデ	回転ナデ		10
158	土師質土器	杯	B3	SX10			粗砂少	7.5YR/8/2灰白色	7/8	輪廻ナデ、底面回転ナデ	回転ナデ		10
159	土師質土器	瓶	B3	SX10			粗砂少	2.5YR/8/6淡褐色	1/8	ハタメ後ナデ	内壁ナデ、体回転ナデ		10

施設番号	品種	地区名	通称名	長石・石英	閃石	鈍閃石	その他	相合	色調	保存量	内面顕微鏡	外面顕微鏡	備考	
160	土海賀土器 瓶	B3	SX10					2.5YR 7/26(暗)褐色	1/8	上緑・ハメ・体コナデ・体ナデ	「門」字模様	外西ササ付着	10	
161	土海賀 瓶	B3	SX10					2.5YR 7/26(暗)褐色	1/8	マツ	「門」字模様	外西ササ付着	10	
162	土海賀土器 足等	B3	SX10					10YR5/28(深)褐色	1/8	板ナデ	「門」字模様	外西ササ付着	10	
163	土海賀土器 尾盤	B3	SX10					相合	7.5YR5/41(深)褐色	1/8	板ナデ	「門」字模様	外西ササ付着	10
164	十勝賀土器 足等	B3	SX10					10YR5/21-24(暗)褐色	1/8	10YR5/21-24(暗)褐色	「門」字模様	外西ササ付着	10	
165	土海賀土器 定差	B3	SX10					10YR5/31-34(黄)褐色	1/8	ヨコナデ・斜ナデ	「門」字模様	外西ササ付着	10	
166	土海賀土器 鋼	B3	SX10					5RA4/9(青)褐色	1/8	ヨコナデ・斜ナデ	「門」字模様	外西ササ付着	10	
167	土海賀土器 鋼	B3	SX10					7.5YR7/1(灰)白色	1/8	10YR5/24(暗)褐色	「門」字模様	外西ササ付着	10	
168	東國青磁尾盤 外	B3	SX10					5Y7/1(灰)白色	2/8	ナデ	「門」字模様	内面地刷毛	10	
169	輪削丸 手すり	B3	SX10					5YR3/2(暗)褐色	1/8	ヨコナデ	「門」字模様	高さは手すり	10	
170	輪削丸 手すり	B3	SX10					10YR4/1(暗)褐色	1/8	ヨコナデ	「門」字模様	自然釉	10	
171	中間青磁尾盤 海	B3	SX10					7.5YR7/2(暗)白色	1/8	焼物	「門」字模様	自然釉	10	
172	中間青磁尾盤 海	B3	SX10					10YR5/2(オ)ー(灰)色	1/8	焼物	「門」字模様	自然釉	10	
189	生土器 旗等	B3	SX12	斜砂多				10YR5/28(紅)色	7/8	マツ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
190	土海賀土器 小瓶	B3	SX12					5YR7/6(暗)色	1/8	マツ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
191	土海賀土器 小瓶	B3	SX12					5YR7/4(暗)褐色	1/8	マツ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
192	土海賀土器 杯	B3	SX12					10YR5/3(暗)褐色	3/8	体コナデ・底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
193	土海賀土器 杯	B3	SX12					10YR5/3(暗)褐色	7/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
194	土海賀土器 杯	B3	SX12	斜砂多				5YR6/4(暗)褐色	1/8	マツ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
195	土海賀土器 杯	B3	SX12					5YR7/6(暗)色	1/8	マツ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
196	土海賀土器 杯	B3	SX12					10YR5/28(白)色	1/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
197	土海賀土器 杯	B3	SX12					2.5YR7/2(暗)褐色	1/8	体コナデ・底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
198	土海賀土器 杯	B3	SX12					相合	7.5YR5/3(暗)褐色	3/8	体コナデ・底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10
199	土海賀土器 杯	B3	SX12					相合	10YR5/28(白)色	5/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10
200	土海賀土器 杯	B3	SX12					2.5YR7/2(暗)褐色	7/8	体コナデ・底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
201	土海賀土器 杯	B3	SX12					5YR6/4(暗)褐色	3/8	マツ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
202	土海賀土器 杯	B3	SX12					5YR6/5(暗)褐色	1/8	体コナデ・底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
203	土海賀土器 杯	B3	SX12					10YR5/2(灰)色	1/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
204	土海賀土器 杯	B3	SX12					相合	10YR5/28(白)色	3/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10
205	土海賀土器 杯	B3	SX12					相合	10YR5/28(白)色	1/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10
206	土海賀土器 杯	B3	SX12					相合	10YR7/1(暗)褐色	1/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10
207	土海賀土器 杯	B3	SX12					5YR7/4(暗)褐色	3/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10	
208	土海賀土器 杯	B3	SX12					相合	2.5YR5/2(白)色	3/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10
209	土海賀土器 杯	B3	SX12					相合	2.5YR5/2(白)色	2/8	底ナデ	「門」字模様	燒成木の難日焼	10

試験番号	種	種	地名	固有名	長径/短径	葉形	葉肉	葉の施	葉の質	内面葉質	備考
210	土師質土器	杯	B3	SX12			粗砂少	2.5YR7/2灰黄色	3/8	体積ナメ、網状毛	外面部質 表面毛ナメ、網状毛。
211	須恵器	杯	B3	SX12			粗砂少	N6/0灰色	1/8	回転ナメ	ヨコナメ
212	土師質土器	足盤	B3	SX12			粗砂多	2.5YR6/8黄色	1/8	マメリ	脚端ナメ、脚ナメ
213	土師質土器	足盤	B3	SX12			粗砂多	10YR7/6灰黄色	1/8	ハケメ	口縁ナメ後ヨコナメ
214	土師質土器	かさど	B3	SX12			粗砂多	7.5YR6/6褐色	1/8	ナメ	ナメ
215	東晉系須恵器	甕	B3	SX12			粗砂少	N6/0灰色	—	—	底無地
216	中國系白陶	甕	B3	SX12			砂粒含ナメ	7.5YR7/1灰白色	1/8	施物	底無地
217	土師質土器	皿	B3	SX14			粗砂少	10YR8/3灰黄色	1/8	回転ナメ	体回転ナメ
218	土師質土器	杯	B3	SX14			粗砂少	10YR8/4灰黄色	1/8	回転ナメ	回転ナメ
219	土師質土器	杯	B3	SX14			粗砂少	10YR8/3灰黄色	1/8	回転ナメ	底無地
220	土師質土器	杯	B3	SX14			粗砂少	10YR7/4灰褐色	1/8	回転ナメ	体回転ナメ
221	土師質土器	杯	B3	SX14			粗砂少	5YR7/4灰褐色	1/8	回転ナメ	回転ナメ
222	土師質土器	杯	B3	SX14			粗砂少	7.5YR8/4灰黄色	2/8	回転ナメ	ヘタキリ
223	土師質土器	足盤	B3	SX14			粗砂含	10YR7/4灰褐色	2/8	ハケメ	ハケメ、脚ナメ
224	土師質土器	足盤	B3	SX14			粗砂含	7.5YR7/2灰褐色	1/8	口縁ナメ、網状毛	口縁ヨコナメ、網状毛
225	土師質土器	足盤	B3	SX14			粗砂含	7.5YR7/3灰褐色	2/8	ハケメ	ハケメ、脚ナメ
226	偏筒燒	壺	B3	SX14			砂粒含ナメ	5R5/1暗灰色	7/8	施物	口縁ヨコナメ、脚ナメ
228	土師質土器	小皿	B3	SX15			粗砂含	5YR7/6褐色	2/8	回転ナメ	口縁ヨコナメ、底無地。
229	土師質土器	杯	B3	SX15			粗砂少	7.5YR7/1灰白色	1/8	回転ナメ	一等ヨコナメ
230	土師質土器	杯	B3	SX15			粗砂少	7.5YR8/6灰黄色	1/8	回転ナメ	ヨコナメ
231	土師質土器	杯	B3	SX15			粗砂少	2.5YR7/3淡黄色	1/8	回転ナメ	回転ナメ
232	土師質土器	杯	B3	SX15			粗砂少	5YR7/6褐色	1/8	回転ナメ	体回転ナメ、底無地
234	土師質土器	皿	B3	SX16			粗砂少	2.5YR6/8褐色	1/8	マメリ	マメリ
235	土師質土器	杯	B3	SX16			粗砂少	5YR7/4灰褐色	1/8	マメリ	口縁ヨコナメ、施物
236	土師質土器	足盤	B3	SX16			粗砂少	5YR6/6褐色	1/8	ナメ	ナメ
237	土師質土器	足盤	B3	SX16			粗砂含	2.5YR7/2灰黄色	1/8	ナメ	ヨコナメ、脚ナメ
238	偏前燒	皿	B3	SX16			粗砂含	5P8/1暗灰色	1/8	施物ナメ	板ナメ
239	各式土器	杯	B3	S008			粗砂多	5YR7/6褐色	4/8	不明	ナメ
241	土師質土器	小皿	B3	S008			粗砂含	7.5YR7/4灰褐色	1/8	施物ナメ	底無地
243	土師質土器	小皿	B3	S010			粗砂含	2.5YR7/2灰白色	1/8	マメリ	マメリ
244	土師質土器	小皿	B3	S013			粗砂含	2.5YR7/4灰褐色	8/8	体回転ナメ、底ナメ	2.5YR7/4灰褐色
245	土師質土器	杯	B3	S013			粗砂含	7.5YR7/4灰褐色	4/8	回転ナメ	ヘタキリ、底無地

組合番号	岩種	地区名	通称名	長石・石英	漂母	角閃石	その他	色調	現行名	外山測量	備考	測量年
246	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	3SYR8/4K乳白色	6/6	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	11
247	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂少	7SYR8/4K乳白色	5/8	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	11
248	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂少	2SYR8/2K白色	2/8	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	11
249	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	2SYR8/1K淡黄色	5/8	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	11
250	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	7SYR8/4K乳白色	5/8	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	11
251	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂少	2SYR8/2K白色	7/8	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	11
252	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	2SYR8/3K淡黄色	3/8	同ナデ	体田ナデ、乳白色	11
253	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	10YR8/1K白色	7/8	同ナデ	体田ナデ、乳白色	11
254	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	2SYR8/2K白色	1/8	同ナデ	アメツ	
255	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	2SYR8/2K白色	8/8	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	11
256	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂少	10YR8/2K白色	1/8	同ナデ	体田ナデ、乳白色	11
257	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	7SYR8/4K乳白色	3/8	同ナデ	体田ナデ、乳白色	11
258	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	3YR8/2K白色	5/8	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	11
259	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	10YR8/4K乳白色	5/8	アメツ		12
260	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂多	10YR8/4K乳白色	7/8	アメツ	アメツ、乳白色	12
261	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	7SYR8/6K乳白色	4/8	同ナデ	体田ナデ、乳白色	12
262	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂少	5YR8/1K白色	5/8	同ナデ	体田ナデ、乳白色	12
263	土師質土器	杯	B3	SD13			粗砂含	7SYR8/6K乳白色	1/8	同ナデ	体田ナデ、乳白色	12
264	土師質土器	足笠	B3	SD13			粗砂多	10YR7/31/-51黄白色	1/8	板ナデ	門柱コナデ、閣道石	12
265	龜山焼	壺	B3	SD13			粗砂含	N7/0K白色	1/8	板ナデ	強灰ナデ、鋼鐵子タキ	12
266	土師質土器	小皿	B3	SD22			赤色斑多	7SYR8/3K乳白色	2/8	アメツ		
268	土師質土器	小皿	B3	SD22			粗砂含	2SYR8/1K淡黄色	5/8	体田ナデ、高ナデ	体田ナデ、乳白色	12
269	土師質土器	足笠	B3	SD22			粗砂含	5YR8/3K淡黄色	1/8	アメツ	アメツ、乳白色	12
270	土師質土器	壺	B3	SD22			粗砂含	SYR8/2K白色	1/8	アメツ	アメツ、乳白色	12
271	土師質土器	壺	B3	SD22			粗砂多	SYR8/6K白色	1/8	アメツ	アメツ、乳白色	12
272	土師質土器	足笠	B3	SD22			粗砂多	SYR8/6K白色	1/8	アメツ	アメツ、乳白色	12
273	土師質土器	杯	B3	SD22			粗砂含	7SYR8/2K白色	3/8	同ナデ	同ナデコナデ	12
274	土師質土器	足笠	B3	SD22			粗砂含	7SYR8/4K乳白色	1/8	ハサワ	「門柱おなえ給ハサケ」	12
275	土師質土器	足笠	B3	SD22			粗砂多	10YR8/3K乳白色	1/8	ハサワ	「門柱おなえ給ハサケ」	12
276	土師質土器	足笠	B3	SD22			粗砂多	2SYR8/6K白色	2/8	ハサワ	「門柱おなえ給ハサケ」	12
277	土師質土器	足笠	B3	SD22			粗砂多	7SYR8/3K白色	1/8	アメツ	「門柱おなえ給ハサケ」	12
278	須恵器	壺	B3	SD22			粗砂含	N7/0K白色	1/8	小瓶片	須恵ナデ	12
279	備前焼	壺	B3	SD22			粗砂少	7SYR8/31/-51褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ、輪胎ナデ	12
280	備前焼	壺	B3	SD22			粗砂多	3SYR8/0K白色	1/8	板ナデ	口張ヨコナデ、輪胎ナデ	12
281	中国窯白磁	皿	B3	SD22			砂質含	3SYR7/7K褐色	2/8	無	無	12

岩石番号	岩種	地図名	地図名	長さ・代表	断面	岩種	判別石	その他	色・調	保存量	外面調査	備考
285	土師質灰岩	杯	B3	SD29			粗粒多	10YR5/29K灰褐色	3/6	粗粒ナメ	保有ナメ	12
286	土師質灰岩	杯	B3	SD29			粗粒少	7.5YR8/24K灰褐色	4/8	粗粒ナメ	保有ナメ	12
287	西村灰岩十層	杯	B3	SD29			粗粒少	2.5YR4/1灰褐色	1/8	リコナデ	「一」印標示に所附物 付	12
288	土師質灰岩	杯	B3	SD29			粗粒多	5YR7/6灰褐色	2/8	ナツメ	粗粒ナメ	12
289	西村灰岩十層	器	B3	SD29			粗粒多	7.5YR8/24K灰褐色	1/8	リコナデ	「一」印標示ナメ	12
290	土師質灰岩	枕形	B3	SD29			粗粒少	7.5YR8/24K灰白色	2/6	マツツ	粗粒ナメ	12
291	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒少	7.5YR8/41-51灰褐色	1/8	ナツメ	「一」印標示ナメ	12
292	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒多	5YR6/6灰色	7/8	ナツメ	「一」印標示ナメ	12
293	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒少	7.5YR8/6灰褐色	5/8	ナツメ	「一」印標示ナメ	12
294	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒多	7.5YR8/6灰褐色	1/8	ナツメ	「一」印標示ナメ	12
295	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒多	7.5YR8/24K灰褐色	2/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
296	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒少	2.5YR8/24K灰褐色	1/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
297	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒多	10YR7/6灰褐色	2/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
298	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒多	2.5YR8/14K灰褐色	4/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
299	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒少	10YR8/3灰褐色	2/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
300	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒多	10YR8/6灰褐色	1/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
301	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒多	2.5YR7/3灰褐色	2/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
302	土師質灰岩	足跡	B3	SD29			粗粒多	5YR7/4/1灰褐色	4/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
303	輪削灰岩		B3	SD29			粗粒少	5P8A/1灰褐色	1/8	リコナデ	「一」印標示ナメ	13
304	中田原白堺	皿	B3	SD29			砂粒含まず	10Y7/14K灰白色	3/8	粗粒無	116.4kg	13
305	土師質灰岩	皿	B3	SD29			粗粒少	7.5YR8/4灰褐色	2/8	マツツ	「一」印標示ナメ	13
306	土師質灰岩	皿	B3	SD29			粗粒少	10YR8/1灰白色	2/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
307	土師質灰岩	小皿	B3	SK01			粗粒多	5YR8/6灰褐色	1/8	リコナデ	「一」印標示ナメ	13
308	土師質灰岩	皿	B3	SK01			粗粒少	2.5YR8/6灰褐色	1/8	リコナデ	「一」印標示ナメ	13
309	瓦質	ナガ井	B3	SK01			粗粒多	N3/9灰褐色	1/8	ナツメ	「一」印標示ナメ	13
310	土師質灰岩	皿	B3	SK01			粗粒少	2.5YR8/6灰褐色	1/8	リコナデ	「一」印標示ナメ	13
311	土師質灰岩	尼釜	B3	SK01			粗粒合	10YR8/3灰褐色	1/8	リコナデ	「一」印標示ナメ	13
312	東造糞頭灰岩	鉢	B3	SK01			粗粒少	5P8A/1灰褐色	1/8	リコナデ	「一」印標示ナメ	13
313	中田原白堺	皿	B3	SK01			砂粒含まず	10Y7/1灰白色	1/8	粗粒無	116.4kg	13
314	中国窯跡付	瓶	B3	SK01			砂粒含	10Y6G/7/19灰褐色	1/8	ナツメ	「一」印標示ナメ	13
315	土師質灰岩	皿	B3	SK03			粗粒少	2.5YR8/8灰褐色	1/8	ナツメ	外曲ナメ付	13
316	土師質灰岩	皿	B3	SK03			粗粒少	5YR7/6灰褐色	8/8	ナツメ	外曲ナメ付	13

管行番号	番	種	地名	通称名	長打・打撲	轟時	拘凶石	その他	色 製	積荷量	内面測定	外面測定	備考
317	1	土瓶質十器	杯	B3	SX03			相砂少	2,377/51/51淡灰色	7/8	体面ナメ	体面ナメ	13 ヨコナデ
318	1	土瓶質十器	杯	B3	SX03			相砂多	NS/0/0灰黑色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	14 ヨコナデ
319	土瓶質十器	すり棒	B3	SX03				相砂多	10YR5/1/10灰黑色	1/8	口縁ヨコナメ	口縁ヨコナメ	14 ヨコナデ
320	1	土瓶質十器	棒	B3	SX03			相砂多	10YR5/3/1-51淡黄色	1/8	板ナメ	板ナメ	14 ヨコナデ
321	土瓶質十器	足釜	B3	SX03				相砂多	5YR8/1/褐色	1/8	板ナメ	板ナメ	14 ヨコナデ
322	土瓶質十器	足釜	B3	SX03				相砂含	5YR8/4/1-51小陶色	1/8	板ナメ	板ナメ	14 ヨコナデ
323	土瓶質十器	足釜	B3	SX03				相砂少	5YR8/1/褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	14 ヨコナデ
324	海戸焼	半瓶	B3	SX03				相光合まで	7.5YR8/5/オーリー黄色	1/8	施釉	施釉	14 ヨコナデ
325	土瓶質十器	小皿	B3	SX04				相砂合	7.5YR8/3/淡黄色	2/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	14 ヨコナデ
326	土瓶質上器	杯	B3	SX04				相砂合	5YR7/3/1-51-51白色	2/8	横筋ナメ	横筋ナメ	14 ヨコナデ
327	土瓶質十器	杯	B3	SX04				相砂合	5YR8/4/淡褐色	1/8	板ナメ	板ナメ	14 ヨコナデ
328	瓦質	井物	B3	SX04				相砂多	10YR8/1/褐色	1/8	ナメ	ナメ	14 ヨコナデ
329	瓦質	半瓶	B3	SX04				相砂合	NS/0/0白色	1/8	板ナメ	板ナメ	14 ヨコナデ
330	瓦質	すり棒	B3	SX04				相砂合	5YR3/1/アーピー褐色	1/8	ナメ	ナメ	14 ヨコナデ
331	瓦質	すり棒	B3	SX04				相砂合	NS/0/0灰黑色	2/8	ナメ	ナメ	14 ヨコナデ
332	瓦質	すり棒	B3	SX04				相砂合	NS/0/0灰黑色	1/8	板ナメ	板ナメ	14 ヨコナデ
333	土瓶質十器	すり棒	B3	SX04				相砂多	7.5YR5/3/1-51-51褐色	1/8	マツツ	マツツ	14 ヨコナデ
334	土瓶質上器	鍋	B3	SX04				相砂合	7.5YR8/1/褐色	1/8	上縁ナメ	上縁ナメ	14 ヨコナデ
335	土瓶質十器	鍋	B3	SX04				相砂多	5YR8/4/1-51小陶色	1/8	ヨコナメ	ヨコナメ	14 ヨコナデ
336	土瓶質上器	足釜	B3	SX04				相砂合	10YR5/2/5灰褐色	1/8	板ナメ	板ナメ	14 ヨコナデ
337	土瓶質十器	足釜	B3	SX04				相砂多	2.5YR5/1/褐色	1/8	板ナメ	板ナメ	14 ヨコナデ
338	土瓶質十器	焼	B3	SX04				相砂合	5YR8/4/1-51小陶色	1/8	ナメ	ナメ	14 ヨコナデ
339	瓦質	焼	B3	SX04				相砂少	NS/0/0白色	1/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ
340	陶前焼	壺	B3	SX04				相砂少	2.5YR5/2/6灰褐色	1/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ
344	土瓶質十器	壺	B3	SX08				相砂少	5YR7/4/1-51-51白色	1/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ
345	土瓶質上器	壺	B3	SX08				相砂少	10YR8/2/5白色	1/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ
346	須恵器	壺	B3	SX08				相砂少	NA/0/0白色	1/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ
347	瓦質	壺	B3	SX08				相砂少	2.5YR5/1/灰白色	1/8	ハゲメ	ハゲメ	15 ヨコナデ
348	土瓶質十器	ナリ棒	B3	SX08				相砂合	5YR7/4/1-51-51白色	1/8	板ナメ	板ナメ	15 ヨコナデ
349	燒		B3	SX08				相砂多	2.5YR7/6褐色	—	マツツ	マツツ	15 ヨコナデ
351	土瓶質上器	壺	B3	SD01				相砂少	10YR8/3/淡黄色	2/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ
352	土瓶質十器	壺	B3	SD01				相砂多	10YR8/2/6白色	1/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ
353	土瓶質十器	壺	B3	SD01				相砂少	10YR8/2/6白色	2/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ
354	土瓶質上器	壺	B3	SD01				相砂合	2.5YR4/1/黃灰色	3/8	圓孔ナメ	圓孔ナメ	15 ヨコナデ

絶对番号	図 種	地名	地質名	長 谷	石英	雲母	角閃石	その他	相 合	色 調	風化性	内面調査	外見調査	備 考	測定番号
355	土師質土器	皿	B3	SD01					粗砂合	7.5YR8/2K6白色	1/8	同上	同上	同上	
356	土師質土器	皿	B3	SD01					粗砂合	5YR6/6褐色	3/8	マメツ	ヘタリ	ヘタリ	15
357	土師質土器	皿	B3	SD01					粗砂少	SYR7/8褐色	3/8	同上	同上	同上	15
358	土師質土器	皿	B3	SD01					粗砂合	5YR6/6褐色	2/6	マメツ	マメツ	マメツ	15
359	土師質土器	皿	B3	SD01					粗砂合	10YR8/4K1褐色	1/8	同上	同上	同上	
360	土師質土器	皿	B3	SD01					粗砂少	7.5YR7/4K1褐色	1/8	同上	同上	同上	
361	土師質土器	皿	B3	SD01					粗砂合	5YR6/6褐色	3/8	同上	同上	同上	15
362	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂多	10YR8/1K6褐色	1/8	マメツ	マメツ	マメツ	
363	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	10YR8/1K6褐色	1/8	同上	同上	同上	
364	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂多	10YR8/1K6白色	2/8	マメツ	マメツ	マメツ	
365	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	10YR8/2K6白色	1/8	同上	同上	同上	
366	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	10YR8/2K6白色	1/8	同上	同上	同上	
367	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	2.5YR8/2K6白色	1/8	同上	同上	同上	
368	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	5YR8/1K6白色	1/8	同上	同上	同上	
369	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	2.5YR8/2K6白色	2/8	同上	同上	同上	
370	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	2.5YR8/1K6白色	3/8	同上	同上	同上	
371	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	10YR8/1K6褐色	1/8	同上	同上	同上	
372	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	7.5YR8/4K6褐色	3/8	同上	同上	同上	
373	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	7.5YR8/4K6褐色	3/8	同上	同上	同上	
374	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	10YR8/2K6白色	1/8	同上	同上	同上	
375	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	2.5YR8/2K6白色	4/8	同上	同上	同上	
376	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	10YR8/1K6白色	1/8	同上	同上	同上	
377	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	10YR8/2K6白色	1/8	同上	同上	同上	
378	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	SYR7/6褐色	7/8	同上	同上	同上	15
379	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	5YR7/1K6褐色	1/8	同上	同上	同上	15
380	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂少	7.5YR8/3K6褐色	2/8	同上	同上	同上	
381	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	10YR8/2K6褐色	3/8	同上	同上	同上	
382	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	7.5YR7/4K1褐色	2/8	同上	同上	同上	
383	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	10YR8/2K6白色	3/8	同上	同上	同上	15
384	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	2.5YR6/6褐色	1/8	同上	同上	同上	15
385	土師質土器	杯	B3	SD01					粗砂合	2.5YR7/4K6褐色	1/8	同上	同上	同上	

観察番号	岩種	地名	通称名	長石・石英 漂浮	角閃石 漂浮	その他の 鉱物	色・調 査	保存量 1/8	内面調査 1/8	外面調査 1/8	備考	説明番号
386	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂多	10YR7/1赤白色	1/8 マツツ		マツツ	は不燃灰	
387	瓦質 灰	B3	SD001			粗砂合	2.5Y6/4黄灰色	1/8 ナデ	板ナデ	ヘラミガナ		15
388	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂合	7.5Y5/4灰白色	2/8 板ナデ		マツツ		15
389	土師質 すり糸	B3	SD001			粗砂多	NA/0灰色	1/8 ヨコナデ	118ヨコナデ 体触れさえ			15
390	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂合	5Y5/6灰白色	1/8 板ナデ	口觸ヨコナデ 体シケタ			15
391	土師質土器 すり糸	B3	SD001			粗砂少	2.5Y6/4黄灰色	1/8 ハケメ	口觸ヨコナデ 体シケタ			15
392	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂合	2.5Y6/2赤白色	1/8 ハケメ	口觸ヨコナデ 体触れさえ			15
393	瓦質 すり糸	B3	SD001			粗砂合	NS/0灰色	1/8 板ナデ	口觸ヨコナデ 体触れさえ			15
394	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂多	10YR8/4淡黄褐色	1/8 マツツ		マツツ		15
395	土師質土器 すり糸	B3	SD001			粗砂多	2.5YR2/2極弱青褐色	1/8 不規	板ナデ			
396	土師質土器 すり糸	B3	SD001			粗砂多	7.5YR5/4赤い青褐色	1/8 マツツ		ナデ		
397	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂合	7.5YR6/3赤い青褐色	1/8 ハケメ	118ヨコナデ		外画ナリサ	15
398	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂合	2.5Y6/3赤い青褐色	1/8 ハケメ	体触れさえ	体触れさえ	外画ナリサ	
399	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂少	10YR8/3弱青褐色	1/8 118ヨコナデ 体シケタ	118ヨコナデ 体触れさえ			
400	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂合	5YR5/3に赤い青褐色	1/8 ヨコナデ	口觸ヨコナデ以下 板ナデ	口觸ヨコナデ以下 板ナデ	地成岩解明	15
401	土師質土器 灰	B3	SD001			粗砂多	7.5YR2/1強青褐色	1/8 不規	口觸ヨコナデ 体触れさえ	口觸ヨコナデ 体触れさえ	外画ナリサ	
402	土師質 羽墨	B3	SD001			粗砂合	10YR8/2強白色	1/8 118ヨコナデ 脚下触れおき	118ヨコナデ 脚下触れおき			
403	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂合	7.5YR7/6強色	1/8 ハケメ	118ヨコナデ 脚下触れおき	118ヨコナデ 脚下触れおき		16
404	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂多	7.5YR6/4赤い青褐色	1/8 ハケメ	118ヨコナデ 脚下触れおき	118ヨコナデ 脚下触れおき	外画ナリサ	16
405	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂多	10YR8/4に赤い青褐色	1/8 板ナデ	口觸ヨコナデ 脚下触れおき	口觸ヨコナデ 脚下触れおき	外画ナリサ	16
406	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂多	7.5YR7/4に赤い青褐色	3/8 脣触れおさえ	118ヨコナデ 脚下触れおさえ	118ヨコナデ 脚下触れおさえ	外画ナリサ	16
407	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂合	5YR6/6褐色	3/8 板ナデ	118ヨコナデ 脚下触れおさえ	118ヨコナデ 脚下触れおさえ	外画ナリサ	16
408	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂合	10YR8/4淡黄褐色	1/8 板ナデ	口觸ヨコナデ 脚下触れおさえ	口觸ヨコナデ 脚下触れおさえ	外画ナリサ	16
409	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂多	7.5YR5/6弱褐色	1/8 口觸ヨコナデ 脚下触れおさえ	118ヨコナデ 脚下触れおさえ	118ヨコナデ 脚下触れおさえ	外画ナリサ	16
410	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂合	5YR6/6褐色	1/8 ハケメ	118ヨコナデ 脚下触れおさえ	118ヨコナデ 脚下触れおさえ	外画ナリサ	16
411	土師質土器 足姫	B3	SD001			粗砂多	2.5Y6/2淡黄色	1/8 ハケメ	口觸ヨコナデ 脚下触れおさえ	口觸ヨコナデ 脚下触れおさえ	外画ナリサ	16

番号	種類	地名	通称名	長さ	幅	書体	角型	その他	色	調査場	外因調査	備考	調査年
412	土師付土器	足釜	H3 SD01					粗糲少	7.5YR6/31-34 暗褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	1.1Mヨコナデ、脚折おさ	16
413	土師質器	足釜	B3 SD01					粗糲合	5YR4/2灰褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	16	
414	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	10YR7/41-35 黄褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	16	
415	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲少	2.5YR6/8暗褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚ハサ	16	
416	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	2.5YR6/31-34 暗褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	16	
417	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲少	10YR6/4灰褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	16	
418	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲少	2.5YR7/4灰褐色	2/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	16	
419	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲合	7.5YR7/41-35 暗褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	16	
420	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲合	2.5YR7/2灰褐色	2/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	16	
421	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	10YR4/1灰褐色	1/8	マツツ	マツツ	16
422	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲合	10YR8/35灰褐色	1/8	小明	「横ヨコナデ」脚折おさ	16
423	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	7.5YR5/41-35 暗褐色	3/8	「横ヨコナデ」脚折おさ	マツツ	17
424	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	10YR8/4灰褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折ナデ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
425	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	2.5YR5/6灰褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折ナデ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
426	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	5YR8/6褐色	1/8	マツツ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
427	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲合	7.5YR7/41-35 暗褐色	1/8	小明	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
428	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	10YR8/25灰褐色	8/8	マツツ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
429	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	2.5YR7/2灰褐色	—	「横ヨコナデ」脚折ナデ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
430	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	5YR8/41-35 暗褐色	1/8	「横ヨコナデ」脚折ナデ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
431	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	5YR8/6褐色	1/8	マツツ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
432	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲多	5YR/35褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	17
433	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲合	10YR8/35灰褐色	1/8	マツツ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
434	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲合	10YR7/6灰褐色	1/8	マツツ	「横ヨコナデ」脚折ナデ	17
435	瓦質 ミニチュア足釜		B3 SD01					粗糲合	10YR2/1灰褐色	1/8	指ナデ	1.1Mヨコナデ、脚ヘミガ	17
436	土師質土器	足釜	B3 SD01					粗糲少	2.5YR8/2灰褐色	1/8	ナデ	ナデ	17
437	瓦質 瓦		B3 SD01					粗糲少	2.5YR4/1灰褐色	1/8	マツツ	マツツ	17
438	土師質土器	瓦	B3 SD01					粗糲少	10YR8/1褐色	1/8	上・下脚折おさえ、手平ハサ	上・下脚折おさえ、手平ハサ	17
439	土師質土器	瓦	B3 SD01					粗糲合	2.5YR8/2灰白色	2/8	マツツ	「横ヨコナデ」脚ヘタケアリ	17
440	瓦質 三筋体		B3 SD01					粗糲少	N5/0褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	17

輸出番号	品種	地区名	通商名	系打・石英	漂性	角閃石	その他	色調	保存置	内面調査	外面調査	備考	価格
441	瓦灰 三足鉢	B3	SD01				粗砂少	10Y6/灰褐色	1/8	底敷ナデ,解へタケリ	板ナデ	1割減	17
442	十津賀土器 一足鉢	B3	SD01				粗砂含	10Y8R/2灰褐色	-	板ナデ	板ナデ	径は小縮長	17
443	上野土器 かまと	R3	SD01				粗砂多	7.5YR6/6褐色	1/8	ハマメ	ハマメ		17
444	有浦上鉢	B3	SD01				粗砂多	2.5Y7/3灰褐色	8/8		部おもえ俊ナデ		16
445	有浦土器	B3	SD01				粗砂多	7.5YR8/4淡紫褐色	-		滑脱ナデ		18
446	菅原土器 梅	B3	SD01				粗砂含	7.5YR7/4-5-6褐色	2/8		マメワ		16
447	須佐器 梅	B3	SD01				粗砂含	NS/0灰褐色	1/8	開片ナデ	開片ナデ		18
448	鬼山焼 鉢	B3	SD01				粗砂少	5Pb4/1灰褐色	1/8	口崩ヨコナデ,崩れT	タマキ		16
449	鬼山焼 黄	B3	SD01				粗砂少	2.5Y7/1黑色	1/8	板ナデ	板ナデ	径不縮長	18
450	東濃系直理器 楠	B3	SD01				粗砂少	N7/0灰白色	1/8	板ナデ	板ナデ		18
451	東濃系直理器 外	B3	SD01				粗砂多	NS/0灰白色	1/8	ヨコナデ	体面ナデ,底面切引		18
452	東濃系直理器 桧	B3	SD01				粗砂含	3Y7/2灰褐色	1/8	口崩ヨコナデ,解開内凹	ヨコナデ,崩れT		18
453	東濃系直理器 桧	B3	SD01				粗砂少	2.5G7/1オリーブ灰色	1/8	口崩ヨコナデ,体面切引	ヨコナデ,解開内凹		18
454	東濃系直理器 桧	B3	SD01				粗砂含	N7/0灰白色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ		18
455	東濃系直理器 桧	B3	SD01				粗砂含	NS/0灰白色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ		18
456	東濃系直理器 梅	B3	SD01				粗砂含	5Y5/1灰褐色	1/8	板ナデ	平ひだキ		16
457	藤前焼 杯	B3	SD01				粗砂少	2.5YR3/4灰褐色	1/8	回片ナデ,底面ナデ	回片ナデ		16
458	藤前焼 杯	B3	SD01				粗砂少	2.5YR3/6粉赤褐色	1/8	板ナデ	内面擦痕		18
459	藤前焼 杯	B3	SD01				粗砂含	5YR3/6粉赤褐色	1/8	開片ナデ	口一筋自然擦,底面擦へタ		18
460	藤前焼 杯	B3	SD01				粗砂多	5Y3/1リーブ褐色	1/8	ハマメ	ハマメ,体ノカヌ		18
461	藤前焼 鉢	B3	SD01				粗砂含	10R4/3灰褐色	2/8	開片ナデ	リヒン,底面擦,底カズ		18
462	藤前焼 タリ鉢	B3	SD01				粗砂含	10R4/4灰褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ		18
463	藤前焼 壺	B3	SD01				粗砂含	5YR4/2灰褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ		18
464	藤前焼 壺	B3	SD01				粗砂含	5G5/7/1明+リーブ	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ		18
465	藤前焼 壺	B3	SD01				粗砂多	2.5YR2/2墨青朴樹色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ		18
466	藤前焼 壺	B3	SD01				粗砂含	10YR4/1墨青色	1/8	ヨコナデ	自然擦		18
467	藤前焼 壺	B3	SD01				粗砂少	7.5YR3/2墨青色	1/8	板ナデ	マメワ		19
468	藤前焼 壺	B3	SD01				粗砂少	5P2/2墨青色	1/8	ナデ	自然擦		19
469	藤前焼 壺	B3	SD01				粗砂少	5Pb4/1墨青色	1/8	壁面上半ヨコナデ,下半黒	ナダ	上半ヨコナデ,下半黒	18
470	藤前焼 壺	B3	SD01				砂粒含ナデ	5YR2/2墨青色	1/8	自然擦,ヨコナデ	自然擦,ヨコナデ		19

試験番号	品種	地化色	通識名	長径・短径	葉序	葉肉形	相合さ	色調	枝付性	内面調査	外因調査	備考	固有番号	
471	福前丸葉	B3	SD01					7.5%FS/3%がく褐色	1/8	自然地	板ナゲ	生不確実	19	
472	福前丸葉	B3	SD01					10%S/2%赤褐色	1/8	ハサメ後ナデ	ヨコナデ、一部ハケナメ		19	
473	福前丸葉	B3	SD01					5%S/1%赤褐色	1/8	自然地	板ナゲ		19	
474	火輪内苗	B3	SD01					細粉少	1/8	ナフ	地物		19	
475	火輪内苗	B3	SD01					砂粒含まず	1/8	厚上質ヨコナデ、既下ハ	地物	前部手抜	19	
476	中国赤青葉	B3	SD01					砂粒含せず	1/8	ナフ	地物		19	
477	中国赤青葉	B3	SD01					砂粒含まず	1/8	地物	地物		19	
478	中国赤青葉	B3	SD01					砂粒含まず	3%Y/3%オリーブ色	1/8	地物	地物		19
479	中国赤青葉	B3	SD01					砂粒含せず	1/8	地物	地物		19	
480	中国赤白葉	B3	SD01					NB/0%白色	1/8	口唇状地	1/4地無地		19	
481	中国赤白葉	B3	SD01					砂粒含せず	2.5%G/6.1%オリーブ色	1/8	1/4地無地	1/4地無地		19
482	中国赤白葉	B3	SD01					砂粒含せず	2.5%G/7.1%オーブン	1/8	地物	一部無地		19
483	中国赤白葉	B3	SD01					砂粒含せず	2.5%G/7.1%オーブン	1/8	地物	地物		19
484	中国赤白葉	B3	SD01					砂粒含せず	10%R/14%白色	2/8	地物	地付無地		19
485	中国赤白葉	B3	SD01					砂粒含せず	浓緑色	2/8	地物	骨付無地	72%と同一筋地か	19
486	南高葉	B3	SD01					砂粒少	5%S/2%オリーブ色	1/8	ヨコナデ	抱さえ		19
487	白縮葉	B3	SD01					砂粒含せず	白色	1/8	地物		19	
488	大日輪	B3	SD01					砂粒少	10%R/21%白色	1/8	地物	既無地		19
489	天日輪	B3	SD01					砂粒含せず	10%R/21%白色	1/8	地物	同上		19
490	附器	B3	SD01					砂粒含せず	7.5%N/3%オリーブ黄色	1/8	地無地			19
491	附器	B3	SD02					細粉少	5%T/2%白色	1/8	地物	既無地、同上へラグナリ		19
492	附器	B3	SD01					粗粉少	5%T/2%明褐色	1/8	地物			19
493	附器	B3	SD01					粗粉少	7.5%N/3%オリーブ色	1/8	地物	ヘタケズリ、骨付無地		19
494	宮城風味	B3	SD01					砂粒含せず	5%N/3%オリーブ黄色	1/8	地物	地物		19
495	南高葉	B3	SD01					砂粒含せず	5%S/2%白色	6/8	地物	既無地、同上へラグナリ		19
496	赤村葉	B3	SD01					砂粒含せず	5%G/7.1%明黄色	1/8	地物	既無地		19
515	土師質	B3	SD02					粗粉少	5%T/6%褐色	2/8	同上	モリナデ、既無地		19
516	土師質	B3	SD02					粗粉少	5%T/6%褐色	1/8	既無ナデ	モリナデ		19
517	土師質	B3	SD02					粗粉少	5%R/6%褐色	1/8	既無ナデ	既無ナデ		19

観察番号	岩種	地名	標本名	長石・石英 雲母	角閃石	その他の 鉱物	色調	斑状岩	内面調査	外面調査	備考	説明
516	土師質土器	B3	SD02			粗砂含	10YR8/4/1赤褐色	1/8	固有ナメ	固有ナメ		
519	土師質土器	B3	SD02			粗砂含	5YR7/6褐色	1/8	固有ナメ	固有ナメ	19	
520	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂含	10YR8/2/5白色	2/8	体積粗ナメ,底ナメ	体積粗ナメ,底ナメ		
521	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂含	2.5YR8/3赤褐色	3/8	体積粗ナメ,底ナメ	体積粗ナメ,底ナメ	19	
522	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂含	7.5YR6/6褐色	4/8	固有ナメ	固有ナメ	19	
523	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂含	2.5YR1/5黄褐色	1/8	体積粗ナメ,底ナメ	体積粗ナメ,底ナメ		
524	土師質土器	杯	B3	SD02		砂質含ナメ	2.5YR8/2/5白色	3/8	固有ナメ	固有ナメ	19	
525	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂少	2.5YR8/2/5白色	5/8	固有ナメ	固有ナメ	19	
526	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂含	2.5Y7/2赤褐色	2/8	体積粗ナメ,底ナメ	体積粗ナメ,底ナメ	19	
527	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂少	2.5Y8/2赤褐色	2/8	固有ナメ	固有ナメ	19	
528	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂含	7.5YR7/4/1-2A褐色	1/8	固有ナメ	固有ナメ		
529	土師質土器	杯	B3	SD02		粗砂少	2.5YR8/1白色	2/8	マツツ	高白マツツ	19	
530	内村産瓦質土器	杯	B3	SD02		粗砂少	2.5YR1/1黄色	1/8	折ナメ	1.5横ヨコナメ	19	
531	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	10YR4/1褐色	1/8	板ナメ	1.5横ヨコナメ	19	
532	瓦質	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	5Y7/1灰白色	1/8	「横ヨコナメ」(体面)有	「横ヨコナメ」(体面)有	19	
533	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	2.5YR1/1灰白色	1/8	マツツ	1.5横ヨコナメ,体面有	20	
534	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂少	2.5YR4/2灰褐色	1/8	板ナメ	1.5横ヨコナメ,体面有	20	
535	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	10YR2/2褐色	1/8	マツツ	1.5横ヨコナメ,体面有	20	
536	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	10YR2/1褐色	1/8	板ナメ	1.5横ヨコナメ,体面有	20	
537	瓦質	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	5Y5/1灰色	1/8	口横縞(一部に)有	口横縞(一部に)有	20	
538	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	N2/0褐色	1/8	マツツ	1.5横ヨコナメ,体面有	20	
539	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂少	2.5YR4/2灰褐色	1/8	板ナメ	1.5横ヨコナメ,体面有	20	
540	瓦質	すり鉢	B3	SD02		粗砂含	5Y4/1灰色	2/8	「横ヨコナメ」(体面)ナメ	「横ヨコナメ」(体面)ナメ	20	
541	瓦質	すり鉢	B3	SD02		粗砂含	N4/0灰色	1/8	板ナメ	1.5横ヨコナメ,体面有	20	
542	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	7.5YR3/1褐色	1/8	板ナメ	口横縞(一部に)有	20	
543	瓦質	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	5YR6/1灰褐色	1/8	板ナメ	口横縞(一部に)有	20	
544	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	2.5YR6/2赤褐色	1/8	ナメ	体ケズリ状ナメ	20	
545	瓦質	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	N3/0褐色	1/8	「横ヨコナメ」(体面)ナメ	「横ヨコナメ」(体面)ナメ	20	
546	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂含	5YR8/2/5白色	1/8	「横ヨコナメ」(体面)ナメ	「横ヨコナメ」(体面)ナメ	20	
547	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂少	2.5YR8/2白色	1/8	ナメ	1.5横ヨコナメ,体面有	20	
548	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	2.5Y7/3灰褐色	1/8	マツツ	体面有	20	
549	土師質土器	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	10YR8/1灰褐色	1/8	板ナメ	1.5横ヨコナメ	20	
550	瓦質	すり鉢	B3	SD02		粗砂多	N3/0褐色	1/8	マツツ	小判	20	

順序番号	品種	地名	通称名	長石・石炭	雲母	角閃石	その他の 鉱物	粒度	粒度調査	色調	粒度	外因調査	備考	固有鉱
551	土師質土器	ナリツ	B3	SD02			粗砂多	7.5YR/21/白色	1/8 板ナメ	指おさえ後ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	おろし目8		
552	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂少	2.5YR/2灰白色	1/8 棒ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色の長さは不規則」	20		
553	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂含	7.5YR/1淡黄色	1/8 棒ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	20		
554	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂少	2.5YR/2灰灰黃色	2/8 ハツナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	20		
555	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂多	10YR/4-5灰い黄褐色	1/8 ヨコナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	20		
556	土師質土器	井	B3	SD02			粗砂多	10YR/4-5灰い黄褐色	1/8 ヨコナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	20		
557	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂含	2.5YR/3灰い黄褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	20		
558	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂含	2.5YR/1淡黄色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	20		
559	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂含	5YR/4-5灰い褐色	1/8 ヨコナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	20		
560	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂多	10YR/3-5灰い黄褐色	1/8 「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
561	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂多	10YR/3-5灰い黄褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
562	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂含	10YR/3-5灰い黄褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
563	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂多	3YR/3オリーブ褐色	1/8 ヨコナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
564	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂多	5YR/6褐色	1/8 ハツナメ後ヨコナデ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
565	土師質土器	鍋	B3	SD02			粗砂多	7.5YR/4-5灰い褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
566	土師質土器	井	B3	SD02			粗砂含	2.5YR/2灰褐色	1/8 「褐色後指おさえ」 「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	20		
567	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂含	7.5YR/3褐色	1/8 ハツナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
568	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	2.5YR/2灰褐色	1/8 ハツナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
569	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	7.5YR/4淡黄色	1/8 ハツナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
570	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	10YR/3-5灰い黄褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
571	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	5YR/3白色	1/8 ハツナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
572	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂含	10YR/4-5灰い黄褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
573	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	10YR/6-4灰い黄褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
574	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	7.5YR/5-4灰い褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
575	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂含	2.5YR/2灰褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
576	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂含	2.5YR/3淡黄色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
577	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	7.5YR/4-5灰い褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
578	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	10YR/7-3灰い黄褐色	1/8 「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
579	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	7.5YR/4淡黄色	1/8 「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
580	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	2.5YR/3淡黄色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
581	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	10YR/4-5灰い黄褐色	1/8 柄ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
582	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	2.5YR/2灰褐色	1/8 上ハサメ、下ハサメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		
583	土師質土器	足釜	B3	SD02			粗砂多	2.5YR/4-5灰い褐色	1/8 ハツナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	「褐色ヨコナデ」板ナメ	21		

管区番号	番 様	地名	通称名	長石・石英	漂白	二氧化硅	その他	色 調	検査値	内面鏡	外面鏡	備考	説明
584	丸真 犀牛	B3	SD02				粗砂合	2.5YR/4赤褐色	1/8	粒ナデ	口溶ヨコナデ, 断面丸さ 人	21	
585	十勝質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	2.5YR/4赤褐色	1/8	板ナデ	口溶ヨコナデ, 断面丸さ 人	21	
586	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	2.5YR/4(断面)褐色	1/8	ハイカ	口溶ヨコナデ	21	
587	十勝質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	2.5YR/4(断面)褐色	—	チホシスルハゲメ様	面おきえねナデ	21	
588	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂合	2.5YR/4赤褐色	1/8	1M6ヨコナデ, 断面ナデ	口溶ヨコナデ	21	
589	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	2.5YR/6褐色	1/8	9ヨコナデ	口溶ヨコナデ	21	
590	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	7.5YR/4/2赤褐色	1/8	埃ナデ	口溶ヨコナデ, 断面丸さ 人	21	
591	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂合	2.5YR/2(断面)赤色	2/8	ハイカ	口溶ヨコナデ, 断面丸さ 人	21	
592	丸真 犀牛	B3	SD02				粗砂合	5YR/3/1青灰色	1/8	1M6ヨコナデ, 断面ナデ	口溶ヨコナデ	21	
593	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	2.5YR/4(断面)青色	1/8	板ナデ	口溶ヨコナデ, 断面丸さ 人	21	
594	十勝質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	10YR/4/4-51(断面)青色	2/8	ハイカ	マツリ	外端ヤナ付	21
595	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂合	10YR/4/1灰褐色	1/8	9ヨコナデ	口溶ヨコナデ	21	
596	丸真 犀牛	B3	SD02				粗砂合	2.5YR/1灰白色	1/8	断面ナデ	マツリ	外端ヤナ付	21
597	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	2.5YR/6赤褐色	2/8	口溶ヨコナデ, 体脂丸さ 人	口溶ヨコナデ, 体脂丸さ 人	22	
598	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	10R6/3本褐色	2/8	1M6ヨコナデ, 断面ナデ	口溶ヨコナデ, 断面丸さ 人	22	
599	瓦野 犀牛	B3	SD02				粗砂多	5YR/6灰褐色	1/8	1M6ヨコナデ, 断面ナデ	口溶ヨコナデ, 断面丸さ 人	22	
600	十勝器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	2.5YR/2灰白色	1/8	ハイカメヨナデ	ローラー付, ハナ, 僕	22	
601	丸山焼 犀牛	B3	SD02				粗砂合	10YR/4灰褐色	1/8	9ヨコナデ	マツリ		
602	十勝質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	7.5YR/4/2赤褐色	1/8	マツリ	口溶ヨコナデ, 断面ナデ	22	
603	土海質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	5YR/6/4-51(断面)褐色	1/8	板ナデ	口溶ヨコナデ, 断面ナデ	22	
604	十勝質土器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	NS/6灰褐色	1/8	ハイカメ	ナデ		
605	丸真 犀牛	B3	SD02				粗砂少	—	—	ハイカメ	ヨコナデ	所下すナ付	22
606	里地器 犀牛	B3	SD02				粗砂少	7.5YR/3/6褐色	2/8	回溶ナデ, 飛出丸さ	体回丸ナデ, 体脂丸さ	22	
607	西村窑瓦土器 犀牛	B3	SD02				粗砂合	N7/0灰白色	3/8	山ナデ	口溶ナデ	22	
608	須志器 犀牛	B3	SD02				粗砂少	5YR/5灰褐色	1/8	1M6ヨコナデ, 体脂ナデ	口溶ヨコナデ, 体脂ナデ	22	
609	龜山燒 犀牛	B3	SD02				粗砂多	10YR/4/1灰白色	1/8	9ヨコナデ	口溶ヨコナデ, 体脂ナデ	22	
610	龜山燒 犀牛	B3	SD02				粗砂少	5YR/4灰褐色	1/8	9ヨコナデ	1M6ヨコナデ, 断面ナデ	22	
611	龜山燒 犀牛	B3	SD02				粗砂合	2.5YR/6赤褐色	1/8	ハイカメ	1M6ヨコナデ, 断面ナデ	22	
612	東部器製陶器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	10YR/4/1灰褐色	1/8	9ヨコナデ	口溶ヨコナデ	22	
613	東部器製陶器 犀牛	B3	SD02				粗砂合	7.5YR/5/1灰褐色	1/8	9ヨコナデ	口溶ヨコナデ	22	
614	東部器製陶器 犀牛	B3	SD02				粗砂多	7.5YR/1灰白色	1/8	9ヨコナデ	体ヨコナデ, 体脂ナデ	22	
615	偏頭燒 犀牛	B3	SD02				粗砂合	2.5YR/6/8褐色	5/8	所ナ付	体回丸ナデ, 体脂ナデ	22	

新日本式	種類	地図番号	通過名	長石・石英 岩質	角閃石	その他	色調	吸着量	内面調査	外表面調査	備考	固有率
616	偏前焼 サリズ	B3	SD02			粗粒合	SYGY/40%赤茶褐色	1/8	同上ナダ	同上ナダ	22	
617	偏前焼 サリズ	B3	SD02			粗粒少	10YR8/4赤茶褐色	1/8	ヨコナダ	ヨコナダ	22	
618	偏前焼 サリズ	B3	SD02			粗粒合	7.5YR8/1赤茶褐色	1/8	無限ナダ	内面調査による厚紙		
619	偏前焼 サリズ	B3	SD02			粗粒少	7.5R8/30%赤褐色	1/8	ヨコナダ	ヨコナダ		
620	偏前焼 青	B3	SD02			粗粒合	10YR8/25%褐色	1/8	同上ナダ	自然物	23	
621	偏前焼 青	R3	SD02			粗粒合	NN6/灰色	1/8	無限ナダ	無限ナダ、底ヘタクズリ		
622	偏前焼 青	B3	SD02			粗粒合	SY6/灰色	1/8	ヨコナダ	ヨコナダ	23	
623	偏前焼 青	B3	SD02			粗粒合	SY5/灰色	1/8	板状後ナダ	「土壤コナダ」風、ケメ	23	
624	偏前焼 大透	B3	SD02			粗粒合	10YR8/25%赤褐色	1/8	板ナダ、一部ツケメ	ハケメ後板ナダ	23	
625	偏前焼 漢	B3	SD02			粗砂多	2.5Y3/1黒褐色	1/8	ハナメ	ハナメ後板ナダ		
626	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	5G7/1明緑灰色	2/8	施釉 備添文少	底無釉	23	
627	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	10YR7/25%白色	1/8	施釉	施釉	23	
628	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	5G7/1明緑灰色	1/8	施釉	施釉	23	
629	中国青白釉 灰	B3	SD02			砂粒合ます	SY6/灰色	1/8	施釉	施釉	23	
630	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	5G7/1黒褐色	1/8	施釉	高引鉛の月輪ハギ	23	
631	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	SY6/灰色	1/8	施釉	高引鉛の日輪ハギ	23	
632	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	白色	1/8	施釉	高台下ノ無釉	23	
633	中国青白釉 灰	B3	SD02			砂粒合ます	浅緑灰色	1/8	施釉	施釉	23	
634	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	5G7/1明オリーブ灰色	2/8	施釉	底無釉	23	
635	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	浅青白色	2/8	施釉	骨付灰ののみ無釉	23	
636	中国金青石 灰	B3	SD02			砂粒合ます	10B6/7/1明緑灰色	2/8	施釉	骨付無釉	23	
637	片燒青 灰	B3	SD02			砂粒合ます	SY6/25%オリーブ色	3/8	施釉	底無釉		
638	磨滑青 灰	B3	SD02			粗砂少	2.5G7/1明オリーブ色	2/8	施釉	底引削無釉		
639	陶器灰釉 灰	B3	SD02			砂粒合ます	SY7/1淡黄色	1/8	施釉	施釉		
640	焼付 灰	B3	SD02			砂粒合ます	白色	2/8	施釉	骨付無釉	23	
641	半瓦 (窓透窓)	B3	SD02			粗粒合	SPB6/1青灰色	—	凹面有目模	凹面ヘラカリ		
642	丸瓦	B3	SD02			粗砂少	SPB3/1青灰色	1/8	凸面ナダ	凸面ナダ	23	
643	丸瓦	B3	SD02			粗砂少	N2/0黑色	—	凹面有目模	凸面有目模		
644	瓦状 L型	B3	SD02			粗砂多	SY7/25%白色	7/8	板ナダ	マメツ	23	
645	有柄 土瓶	B3	SD02			細織多	SYRS/6明赤褐色	1/8	—	マメツ	23	
646	有柄 土瓶 土瓶	B3	SD02			粗砂合	10YR8/25%白色	7/8	—	持力付き後ナダ	23	
657	土瓶 茶器 土瓶	B3	SD03			粗砂合	SY7/25%淡黄色	1/8	ヨコナダ	口縁コナダ		
658	土瓶 茶器 土瓶	B3	SD03			粗砂多	10YR8/41-51%黃褐色	1/8	ヨコナダ	ヨコナダ		
659	土瓶 茶器 土瓶	B3	SD03			粗砂多	SYR8/6褐色	1/8	ヨコナダ	マメツ		

種類番号	品種	地区名	油墨名	長さ・径	露骨	鉛筆	角鉛石	その他	色調	現存量	外見調査	備考	調査年	
660	上油門工器	■	B3 SD04				粗砂少	2.57R/2K白色	3/8	角鉛ナデ	飛回転ヘア トリガーナデ		23	
661	上油門工器	■	B3 SD04				粗砂多	7.57R/4K黃褐色	6/8	角鉛ナデ	飛回転ヘア トリガーナデ		23	
662	土油質土器	杯	B3 SD04				粗砂少	10R/6K黃褐色	1/8	角鉛ナデ	飛回転ナデ	沙や電動して いるた め口は不規則	23	
663	XN-すり拂		B3 SD04				粗砂少	N5/0K白色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
664	土油質土器	足釜	B3 SD04				粗砂多	10YR/4/3K黃褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ	粗砂多が目立つ 點	23	
666	土油質土器	■	B3 SD05				粗砂多	5YR/6K褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
667	土油質土器	杯	B3 SD05				粗砂少	7.5YR/4K褐色	2/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
668	土油質土器	杯	B3 SD05				粗砂少	5YR/7/6K褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ	口絞片	口狀に変形	23
669	土油質土器	杯	B3 SD05				粗砂合	10YR/7/6K黃褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
670	土油質土器	杯	B3 SD05				粗砂少	10YR/3/6K黃褐色	3/8	角鉛ナデ	飛回転ヘア トリガーナデ		23	
671	1.5油質土器	足釜	B3 SD05				粗砂少	5YR/2/6K白色	4/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
672	土油質土器	足釜	B3 SD05				粗砂多	5YR/1/6K白色	8/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ	手引筋状ナメ	23	
673	土油質土器	漏	B3 SD05				粗砂少	10YR/7/6K黃褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ	口絞片	口狀に変形	23
674	1.5油質土器	漏	B3 SD05				粗砂多	5YR/6/6K褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
675	土油質土器	足釜	B3 SD05				粗砂少	2.5Y/3K黃褐色	2/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
676	1.5油質土器	足釜	B3 SD05				粗砂多	2.5Y/5K鈍紅黃褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
677	1.5油質土器	足釜	B3 SD05				粗砂多	10YR/3/3K黃褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		23	
678	鐵燒灰	すり棒	B3 SD05				粗砂少	5YR/2/6Kオリーブ色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
679	鐵燒灰	毛	B3 SD05				粗砂合	淡黃褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
682	土油質土器	■	B3 SD06				粗砂少	7.5YR/2/6K褐色	4/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
683	1.5油質土器	足釜	B3 SD06				粗砂合	2.5Y/1K白色	5/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
684	1.5油質土器	杯	B3 SD06				粗砂少	2.5YR/2/6K白色	5/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
685	1.5油質土器	杯	B3 SD06				粗砂少	7.5YR/6/6K黃褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
686	東京系鉄器	鉢	B3 SD06				粗砂合	5Y/1/6K白色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ	保は不確実	24	
690	1.5油質土器	杯	B3 SD07				粗砂合	2.5Y/6/6K褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
691	1.5油質土器	杯	B3 SD07				粗砂合	10YR/6/6K褐色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
692	1.5油質土器	杯	B3 SD07				粗砂少	10YR/4/6K黃褐色	7/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
693	土油質土器	■	B3 SD12				粗砂合	5YR/7/6K褐色	2/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
694	1.5油質土器	■	B3 SD12				粗砂少	7.5YR/4/15K白色	1/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
695	1.5油質土器	杯	B3 SD12				粗砂合	2.5Y/8/6K白色	1/8	ヨコナデ後ナデ	1.14ヨコナデ		24	
696	1.5油質土器	■	B3 SD12				粗砂少	5YR/7/6K褐色	2/8	マツツ	マツツ		24	
697	1.5油質土器	■	B3 SD12				粗砂合	10YR/6/6K褐色	2/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	
698	土油質土器	■	B3 SD12				粗砂合	5YR/6/6K褐色	1/8	マツツ	マツツ		24	
699	土油質土器	杯	B3 SD12				粗砂少	5YR/6/6K褐色	2/8	ヨコナデ	1.14ヨコナデ		24	

標本番号	器種	地名	油墨名	民石・石炭	类型	鉱物名	その他	色調	飛行量	内面調査	外曲調査	備考
700	土師質土器 杯	B3	SD12			粗砂多	7.5YR7/4に5YR7/6に 粗砂少	2/8	マツツ	マツツ	マツツ	24
701	土師質土器 杯	B3	SD12			粗砂多	7.5YR8/6に5YR7/6に 粗砂少	3/8	マツツ	「横ヨコナデ、体板ねじ 丸」横ヨコナデ、体板ねじ 丸	24	
702	土師質土器 ソリ杯	B3	SD12			粗砂多	5YR7/6赤色	2/8	1種ヨコナデ、体ハケ 丸	「横ヨコナデ、体板ねじ 丸」横ヨコナデ、体板ねじ 丸	24	
703	土師質土器 ソリ杯	B3	SD12			粗砂多	2.5YR7/3赤黄色	3/8	不明	飛行さえ後ナデ	飛行さえ後ナデ	24
704	土師質土器 漏	B3	SD12			粗砂多	2.5YR8/6白色	1/8	ヨコナデ	口縁ヨコナデ、体ナデ	口縁ヨコナデ、体ナデ	24
705	瓦質 漏	B3	SD12			粗砂多	5Y7/1灰白色	1/8	ヨコナデ	上縁ヨコナデ	上縁ヨコナデ	24
706	土師質土器 足盤	B3	SD12			粗砂多	2.5Y7/3灰黄色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	24
707	土師質土器 足盤	B3	SD12			粗砂多	10YR8/4に5Y 粗砂少	1/8	マツツ	「横ヨコナデ、脚附ねじ 丸」ヨコナデ、脚附ねじ 丸	「横ヨコナデ、脚附ねじ 丸」ヨコナデ、脚附ねじ 丸	24
708	土師質土器 箸	B3	SD12			粗砂多	10YR8/5灰黄色	1/8	1種ヨコナデ、脚附ねじ 丸	脚附ねじ 丸	脚附ねじ 丸	24
709	土師質 筷	B3	SD12			粗砂多	N7/0灰白色	1/8	筋板ナデ	筋板ナデ	筋板ナデ	24
710	側面焼 ソリ鉢	B3	SD12			粗砂少	5P2/1紫黑色	1/8	自然輪	自然輪	自然輪	24
711	中国燒青磁 鉢	B3	SD12			砂合混ます	7.5YR7/3リード黄色	1/8	筋輪	筋輪	筋輪	24
712	土師質土器 箸	B3	SD14			粗砂少	2.5YR8/2灰白色	1/8	筋板ナデ	筋板ナデ、筋附ねじ ヘラ	筋板ナデ、筋附ねじ ヘラ	24
713	土師質土器 箸	B3	SD14			粗砂少	5YR8/2灰白色	2/8	筋板ナデ	筋板ナデ、筋附ねじ ヘラ	筋板ナデ、筋附ねじ ヘラ	24
714	土師質土器 杯	B3	SD14			粗砂少	2.5YR8/2灰白色	8/8	体板ナデ、底ナデ	体板ナデ、底ナデ	体板ナデ、底ナデ	24
715	土師質土器 杯	B3	SD14			粗砂少	2.5YR8/2灰白色	1/8	1種ヨコナデ、脚附ねじ 丸	脚附ねじ 丸	脚附ねじ 丸	24
716	土師質土器 杯	B3	SD14			粗砂少	2.5YR8/3灰色	1/8	山筋ナデ	山筋ナデ	山筋ナデ	24
717	土師質土器 杯	B3	SD14			粗砂少	10YR8/2灰白色	1/8	筋板ナデ	筋板ナデ	筋板ナデ	24
718	土師質土器 ソリ杯	B3	SD14			粗砂多	10YR8/4灰黄色	1/8	ヨコナデ	「横ヨコナデ、体板ねじ 丸」ヨコナデ	「横ヨコナデ、体板ねじ 丸」ヨコナデ	24
719	土師質土器 ソリ杯	B3	SD14			粗砂多	10YR8/3灰黄色	1/8	口縁ヨコナデ、体板ナデ	口縁ヨコナデ、体板ナデ	口縁ヨコナデ、体板ナデ	24
720	土師質土器 杯	B3	SD14			粗砂多	5Y7/3灰黄色	1/8	マツツ	飛行さえ後コナデ	飛行さえ後コナデ	24
721	土師質土器 足盤	B3	SD14			粗砂少	5Y7/3灰黄色	1/8	マツツ	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ	24
722	土師質土器 箸	B3	SD14			粗砂少	2.5YR7/4灰黄色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	24
723	朱漆系漆器 杯	B3	SD14			粗砂合	N4/0灰色	1/8	1種ヨコナデ	「横ヨコナデ、体ヨコナ テ」横ヨコナデ、体ヨコナ テ	「横ヨコナデ、体ヨコナ テ」横ヨコナデ、体ヨコナ テ	24
724	丸山焼 瓢	B3	SD14			粗砂合	N5/0灰色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	24
725	輪窓焼 容	B3	SD14			粗砂合	5YR4/1灰白色	1/8	自然輪	ヨコナデ	ヨコナデ	24
726	輪窓焼 瓢	B3	SD14			粗砂少	10Y3/3リード黑色	2/8	筋板ナデ	筋板ナデ	筋板ナデ	24
727	輪窓焼 容	B3	SD14			粗砂少	2.5Y5/1灰黑色	2/8	「横ヨコナデ、脚一底板 丸」ヨコナデ、脚一底板 丸	「横ヨコナデ、脚一底板 丸」ヨコナデ、脚一底板 丸	「横ヨコナデ、脚一底板 丸」ヨコナデ、脚一底板 丸	25
728	輪窓焼 瓢	B3	SD14			粗砂合	2.5YR8/4底板色	1/8	自然輪	自然輪	自然輪	24

管竹等号	番 種	地名	通称名	辰石・石炭	基母	角閃石	その他の 鉱物含合	赤 色	保存量	内面調査	外面調査	備考	落着年
729	中野原鉱山 銀	B3	SD14			赤鉄白色		1/8	施釉	施釉			24
733	土師質土器 銀	B3	SD23			粗砂多	2.5YR8/1灰白色	1/8	マツツ	マツツ			25
734	土師質土器 銀	B3	SD23			粗砂多	10YR7/4I+5II黄褐色	1/8	ハバク	ハバク			25
735	土師質土器 銀	B3	SD23			粗砂多	SYRS/6明赤褐色	1/8	ヨコナダ	ヨコナダ			25
736	土師質土器 銀	B3	SD23			粗砂多	2.5YR8/2灰白色	1/8	ナダ	口接ナダ			25
737	編筒焼 磁	B3	SD24			粗砂少	5R7/4灰褐色	1/8	固形ナダ	固形ナダ	編筒焼灰文		
738	土師質土器 銀	B3	SD28			粗砂少	2.5YR8/2灰白色	1/8	マツツ	マツツ			
739	土師質土器 銀	B3	SD28			粗砂少	7.5YR8/4浅褐色	1/8	固形ナダ	体固形ナダ			
740	土師質土器 杯	B3	SD28			粗砂少	5Y8/5灰白色	8/8	体固形ナダ、施釉ナダ	体固形ナダ、施釉ナダ			25
741	土師質土器 杯	B3	SD28			粗砂多	7.5YR8/4灰褐色	7/8	固形ナダ	ナダ			25
742	土師質土器 杯	B3	SD28			粗砂少	7.5YR8/4灰褐色	3/8	固形ナダ	固形ナダ			25
743	土師質土器 杯	B3	SD28			粗砂少	7.5YR7/4I+5II褐色	3/8	ナダ	ナダ			25
744	土師質土器 漆	B3	SD28			粗砂少	5Y8/5灰白色	1/8	体固形ナダ	不明			25
745	土師質土器 漆	B3	SD28			粗砂多	NA/0灰白色	1/8	ヨコナダ	口接ヨコナダ			25
746	土師質土器 漆	B3	SD28			粗砂少	2.5YR7/2灰黄色	1/8	ナダ	木接ナダ、体固形ナダ	木接ナダ、体固形ナダ		25
747	土師質土器 漆	B3	SD28			粗砂多	2.5YR8/4浅褐色	2/8	体、ナダ	木接ナダ、体、ナダ	木接ナダ、体、ナダ		25
748	土師質土器 漆	B3	SD28			粗砂少	2.5YR8/6褐色	1/8	マツツ	マツツ			25
749	土師質土器 漆	B3	SD28			粗砂多	2.5YR8/3褐色	1/8	ヨコナダ、固形ナダ	シラウメヨコナダ、固形ナダ	シラウメヨコナダ、固形ナダ		25
750	土師質土器 銀	B3	SD28			粗砂少	10YR8/2銀白色	1/8	ヨコナダ、固形ナダ	「横ヨコナダ」、「固形ナダ」 キセキナダ	「横ヨコナダ」、「固形ナダ」 キセキナダ		25
751	土師質土器 銀	B3	SD28			粗砂多	2.5YR8/2灰褐色	1/8	マツツ	箱おひきナダ			25
752	土師質土器 銀	B3	SD28			粗砂少	2.5Y7/3浅褐色	1/8	マツツ	マツツ			25
753	土師質土器 銀	B3	SD28			粗砂多	10YR8/1灰白色	2/8	マツツ	下半ケタリ後ヨコナダ			
754	亀山焼 磁	B3	SD28			粗砂少	NA/0灰白色	1/8	ヨコナダ	焼タリ後ヨコナダ	焼タリ後ヨコナダ		25
755	編筒焼 磁	B3	SD28			粗砂少	2.5YR8/1灰褐色	1/8	ヨコナダ	ヨコナダ			25
756	編筒焼 磁	B3	SD28			粗砂少	5Y7/5灰白色	1/8	ヨコナダ	ヨコナダ			25
757	編筒焼 磁	B3	SD28			粗砂少	2.5YR8/4灰褐色	2/8	口、体固形ナダ、施釉ナダ	口接ヨコナダ、施釉ナダ	口接ヨコナダ、施釉ナダ		26
758	須恵器 杯	B3	SD28			粗砂少	NB/0灰白色	6/8	体固形ナダ、施ナダ	体固形ナダ、施ナダ	体固形ナダ、施ナダ		25
759	編筒焼 磁	B3	SD28			粗砂少	5Y7/5灰白色	1/8	ヨコナダ	ヨコナダ			25
760	中国磁質陶 磁	B3	SD28			粗砂少	10Y5/2オリーブ色	1/8	施釉	施釉			25
761	瓦	B3	SD28			粗砂少	SPB2/1鶴青色	—	ヘラタケナダ	ナダ	口接ヨコナダ、施釉ナダ	口接ヨコナダ、施釉ナダ	25
762	土師質土器 足金	B3	E ₁ +1(SF0002)			粗砂少	SYRS/6明赤褐色	1/8	板ナダ	内面ナダ			
764	土師質土器 杯	B3	E ₁ +1(SP0013)			粗砂少	2.5YR8/3灰褐色	1/8	固形ナダ	固形ナダ			

管(7番引)	器種	地(4番引)	通稱名	瓦石・石灰	當村	陶粒石	その他	色調	現存量	内面調査	備考	出典等
765	土師質土器	田	B3	ビリ(SPO017)		粗砂少	2.5YR/6H赤褐色	2/8	回転ナメ	体面施ナデ、斜面施ヘタ		
766	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO017)		粗砂少	5YR/6H赤褐色	3/8	回転ナメ	斜面施ナデ		
767	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO018)		粗砂少	2.5YR/3H淡黄色	2/8	回転ナメ	斜面施ナデ		
768	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO018)		粗砂多	10YR/4Hに5H・黄褐色	4/8	回転ナメ	ヘラカリ施ナデ、斜面施ヘタ		
769	縦前改	笠	B3	ビリ(SPO020)		砂粒含まざ	2.5YR/1H赤灰色	2/8	回転ナメ	自然施		
770	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO020)		粗砂少	5YR/6H赤褐色	6/8	体面施ナデ、底ナメ	体面施ナデ、底ナメ		
771	丸山焼	器	B3	ビリ(SPO026)		粗砂少	5PRA/1H赤灰色	1/8	体面施ナデ	斜面施ナデ		
772	土師質土器	足釜	B3	ビリ(SPO054)		粗砂多	7.5YR/4H-5H・褐色	1/8	板ナメ	口縁ヨコナメ		
773	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO056)		粗砂少	5YR/6H褐色	2/8	回転ナメ	体面施ナデ、斜面施ヘタ		
774	土師質土器	器	B3	ビリ(SPO059)		粗砂少	10YR/2H褐色	2/8	回転ナメ	体面施ナデ		
775	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO100)		粗砂少	2.5YR/5H赤褐色	1/8	回転ナメ	底面施ナデ、斜面施ヘタ		
776	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	7.5YR/3H淡褐色	1/8	板ナメ	回転ナメ		
777	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	7.5YR/6H褐色	2/8	回転ナメ	体面施ナデ、斜面施ヘタ		
778	土師質土器	器	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	10YR/2H褐色	2/8	回転ナメ	体面施ナデ		
779	土師質土器	器	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	5YR/6H褐色	2/8	回転ナメ	体面施ナデ		
780	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	10YR/6H褐色	1/8	回転ナメ	底面施ナデ、斜面施ヘタ		
781	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	7.5YR/3H淡褐色	1/8	板ナメ	回転ナメ		
782	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	7.5YR/4H-5H・褐色	1/8	回転ナメ	体面施ナデ		
783	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	7.5YR/6H-5H・褐色	2/8	体面施ナデ、底ナメ	体面施ナデ、斜面施ヘタ		
784	水道系須器	鉢	B3	ビリ(SPO102)		粗砂少	7.5YR/1H褐色	1/8	ナメ	ヨコナメ		
785	瓦	瓦	B3	ビリ(SPO102)		粗砂多	5YR/1H褐色	1/8	ココナメ	口縁ヨコナメ		
786	土師質土器	鍋	B3	ビリ(SPO111)		粗砂少	7.5YR/4H-5H・褐色	1/8	板ナメ	外周すり付音		
787	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO117)		粗砂少	7.5YR/6H褐色	1/8	回転ナメ	体面施ナデ、底ナメ		
788	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO139)		粗砂少	10YR/3H淡褐色	4/8	体面施ナデ、底ナメ	体面施ナデ、斜面施ヘタ		
789	須器	器	B3	ビリ(SPO143)		粗砂少	NA/0H灰色	1/8	ナメ	ヨコナメ		
790	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO146)		粗砂少	5YR/7H褐色	1/8	回転ナメ	口縁ヨコナメ		
791	土師質土器	桶	B3	ビリ(SPO164)		粗砂少	2.5YR/2H褐色	2/8	ナメ	底面施ナデ、斜面施ナデ		
792	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO166)		粗砂少	5YR/4H-5H・褐色	2/8	回転ナメ	底面施ナデ、斜面施ナデ		
793	土師質土器	桶	B3	ビリ(SPO167)		粗砂少	2.5YR/2H褐色	1/8	回転ナメ	斜面施ナデ		
794	輪頂焼	糸	B3	ビリ(SPO168)		粗砂少	10YR/4H淡褐色	1/8	ヨコナメ	ヨコナメ		
795	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO181)		粗砂少	10YR/2H-5H・褐色	1/8	回転ナメ	斜面施ナデ		
797	土師質土器	かまと	B3	ビリ(SPO183)		粗砂多	5YR/6H褐色	—	ナメ	底面施ナデ	底面施ナデ	
798	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO186)		粗砂少	2.5YR/6H褐色	1/8	回転ナメ	ヨコナメ		
799	西村彦瓦(上器)	桶	B3	ビリ(SPO187)		粗砂少	5YR/3H-5H・褐色	4/8	板ナメ	斜面施ナデ		
800	内村翁从質土器	桶	B3	ビリ(SPO222)		粗砂少	NA/0H灰色	1/8	板ナメ	底面施ナデ、斜面施ヘタ		
801	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO223)		粗砂少	10YR/1H黒褐色	3/8	回転ナメ	底面施ナデ、斜面施ヘタ		
802	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO224)		粗砂少	10YR/1H褐色	2/8	回転ナメ	底面施ナデ、斜面施ヘタ		
803	土師質土器	糸	B3	ビリ(SPO227)		粗砂多	7.5YR/6H淡褐色	1/8	ナメ	底面施ナデ	底面施ナデ	

器物番号	品種	地区名	通稱名	長石・石英	窓	内面白	その他	内面黒	外面黒	備考	出典
804	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR028)			相砂少	NB/0K/1色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
805	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0260)			相砂多	5YR8/4赤褐色	8/8	内面ナデ	内面ナデ	26
806	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0244)			相砂少	7.5YR8/4赤褐色	3/8	内面ナデ	内面ナデ	
807	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0244)			相砂少	5YR/1灰白色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
808	土師質十湯 尾釜	B3	ビト(SPR0244)			相砂多	2.5YR8/1灰1色	2/8	相おさえ後ヨコナデ	ヨコナデ	
809	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0255)			相砂少	2.5YR8/2灰白色	1/8	体面黒ナデ	体面黒ナデ	
810	土師質十湯 罐	B3	ビト(SPR0269)			相砂少	7.5YR7/4灰1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
811	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0289)			相砂多	7.5YR8/4赤褐色	2/8	内面ナデ	内面ナデ	
812	土師質十湯 罐	B3	ビト(SPR0271)			砂利しまず	7.5YR7/1灰1色	1/8	口縁無	118無	
813	瓦気 井	B3	ビト(SPR0272)			相砂少	N4/0灰色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	26
814	土師器 豪	B3	ビト(SPR0273)			相砂多	2.5YR4/2灰1灰2色	1/8	相ナデおさえ後ハタメ、ヨコナデ	ヨコナデ	
815	土師質十湯 尾釜	B3	ビト(SPR0282)			相砂少	7.5YR7/4灰1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
816	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0289)			相砂少	10YR8/4赤褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
817	土師質十湯 罐	B3	ビト(SPR0315)			相砂少	2.5YR8/4赤色	2/8	内面ナデ	内面ナデ	
818	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0319)			相砂少	10YR7/2H-5H1灰1褐色	1/8	口縁ヨコナデ、刷ナデ	口縁ヨコナデ、刷ナデ	
819	土師質十湯 尾釜	B3	ビト(SPR0319)			相砂少	10YR8/4H-5H1灰1褐色	1/8	ヨコナデ後端おさえ	ヨコナデ後端おさえ	
820	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0319)			相砂少	5YR6/4H-5H1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
821	土師質十湯 サリ棒	B3	ビト(SPR0319)			相砂少	10YR8/1黒褐色	1/8	ヨコナデ、体面おさえ	ヨコナデ、体面おさえ	
822	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0322)			相砂少	2.5YR8/2灰白色	2/8	内面ナデ	内面ナデ	
823	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0322)			相砂少	7.5YR7/3H-5H1褐色	2/8	体面ナデ、底ナデ	体面ナデ、底ナデ	
824	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0322)			相砂少	5YR7/4H-5H1褐色	2/8	内面ナデ	内面ナデ	
825	土師質十湯 尾釜	B3	ビト(SPR0324)			相砂少	5YR7/4H-5H1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
826	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0324)			相砂少	5YR/1灰2色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
827	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0327)			相砂少	5YR7/6灰色	1/8	体面ナデ、底ナデ	体面ナデ、底ナデ	
828	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0331)			相砂少	7.5YR7/1灰1色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
829	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0331)			相砂少	7.5YR8/3H-5H1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
830	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0332)			相砂少	7.5YR8/4H-5H1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
831	土師質十湯 尾釜	B3	ビト(SPR0336)			相砂少	5YR6/4H-5H1褐色	1/8	ヨコナデ、刷ナデ	ヨコナデ、刷ナデ	
832	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0366)			相砂少	7.5YR8/4H-5H1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
833	土師質十湯 瓶	B3	ビト(SPR0366)			相砂少	2.5YR8/4H-5H1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
834	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0366)			相砂少	7.5YR8/4H-5H1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
835	須恵質 杯	B3	ビト(SPR0368)			相砂少	5YR8/1灰白色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	
836	土師質十湯 杯	B3	ビト(SPR0380)			相砂少	5YR7/4H-5H1褐色	1/8	内面ナデ	内面ナデ	

報告番号	岩種	地区名	地層名	風化石	雲母	角閃石	その他	色調	粒度	内面調整	外面調整	備考	施設
840	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO081)	粗砂少	7.5R7/6暗色	2/8	回転ナデ	体回転ナデ、底面凹凸ヘタリ
841	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO082)	粗砂少	2.5YR6/8暗色	3/8	回転ナデ	底面凹凸ヘタリ	体回転ナデ、底面凹凸ヘタリ
842	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO083)	粗砂含	10YR8/3暗黄色	1/8	回転ナデ	体回転ナデ、底面凹凸ヘタリ	体回転ナデ
843	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO085)	粗砂少	2.5YR7/6暗色	2/8	回転ナデ	体回転ナデ、底面凹凸ヘタリ	体回転ナデ
844	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO086)	粗砂少	5YR7/6暗色	1/8	回転ナデ	体回転ナデ、底面凹凸ヘタリ	体回転ナデ
845	土海賀土器	足盤	B3	ビト(SPO087)	粗砂少	5YR7/6暗色	1/8	回転ナデ	体回転ナデ、底面凹凸ヘタリ	体回転ナデ
846	土海賀土器	足盤	B3	ビト(SPO088)	粗砂少	5YR6/6暗色	1/8	ハゲメ	底面凹凸ヘタリ	底面凹凸ヘタリ
848	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO088)	粗砂含	10YR7/4/1-5暗色	7/8	回転ナデ	体回転ナデ、底面凹凸ヘタリ	体回転ナデ
849	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO088)	粗砂含	5YR7/6暗色	2/8	回転ナデ	体回転ナデ、底面凹凸ヘタリ	体回転ナデ
850	土海賀土器	足盤	B3	ビト(SPO088)	粗砂多	10YR6/2暗褐色	2/8	滑りえきカゲ	11種ヨコナダ、脚ナダ	11種ヨコナダ、脚ナダ	26
851	土海賀土器	足盤	B3	ビト(SPO088)	粗砂多	5YR8/2灰褐色	1/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚ナダ	11種ヨコナダ、脚ナダ
852	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO088)	粗砂含	5YR6/2暗褐色	1/8	板ナデ	板ナデ	板ナデ
853	燒前焼	甕	B3	ビト(SPO088)	粗砂少	2.5YR5/1赤褐色	2/8	ナデ	板ナデ	板ナデ
854	舟山焼	甕	B3	ビト(SPO089)	粗砂含	10YR7/6暗色	1/8	滑りヨコナダ	脚踏おさく	滑りヨコナダ
855	舟山焼	皿	B3	ビト(SPO089)	粗砂少	5YR7/6暗白色	2/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚ナダ	11種ヨコナダ、脚ナダ
856	舟山焼	足盤	B3	ビト(SPO089)	粗砂含	5YR6/2暗褐色	1/8	口縁ヨコナダ、脚ナダ	11種ヨコナダ、脚ナダ	11種ヨコナダ、脚ナダ
857	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO090)	粗砂含	2.5YR8/2暗褐色	1/8	回転ナデ	板ナデ	板ナデ
858	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO015)	粗砂含	5YR7/3/1-5暗色	3/8	回転ナデ、底面凹凸ヘタリ	11種ヨコナダ、脚踏おさく	11種ヨコナダ、脚踏おさく
859	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO015)	粗砂少	5YR7/6暗色	1/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏おさく	11種ヨコナダ、脚踏おさく
860	土海賀土器	足盤	B3	ビト(SPO015)	粗砂少	5YR8/2暗褐色	1/8	板ナデ	11種ヨコナダ、脚踏おさく	11種ヨコナダ、脚踏おさく
861	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO042)	粗砂少	10YR8/3暗褐色	2/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚ナダ	11種ヨコナダ、脚ナダ
862	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO033)	粗砂少	5YR7/6暗褐色	1/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏おさく	11種ヨコナダ、脚踏おさく
863	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO036)	粗砂少	7.5YR8/2暗白色	2/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏おさく	11種ヨコナダ、脚踏おさく
864	瓦賀	甕	B3	ビト(SPO036)	粗砂少	5Y4/2Hオリーブ色	1/8	口縁ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
865	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO037)	粗砂含	5YR6/8暗色	1/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
866	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO039)	粗砂少	10YR8/2暗褐色	1/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
867	土海賀土器	すり棒	B3	ビト(SPO041)	粗砂少	5YR6/6暗色	1/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
868	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO046)	粗砂含	10YR7/4/1-5暗褐色	2/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
869	土海賀土器	皿	B3	ビト(SPO046)	粗砂少	7.5YR2/2暗褐色	2/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
872	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO076)	粗砂少	10YR8/2暗褐色	1/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
873	土海賀土器	足盤	B3	ビト(SPO076)	粗砂少	5YR8/2暗褐色	5/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
874	土海賀土器	杯	B3	ビト(SPO077)	粗砂少	7.5YR8/2暗褐色	2/8	回転ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ
875	土海賀土器	足盤	B3	ビト(SPO092)	粗砂少	7.5YR7/6暗色	1/8	口縁ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ	11種ヨコナダ、脚踏ナデ

地點番号	名 標	周辺名	長さ・幅	断面名	側面行	その他	色 調	被覆量	外因調査	備考	測定年
876	土師瓦 壁 直	B3	ビット(SR0515)		粗砂少	5YR6/4;5YR7/1;6YR	1/8 粗砂ナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ			
877	繩柄丸 瓦	B3	ビット(SR0528)		粗砂少	7.5YR1/1灰色	1/8 ヨリナダ	ヨコナダ	仕は不確ナ		
878	土師瓦 上部 足差	B3	ビット(SR0543)		粗砂多	2.5YR8/3灰黑色	1/8 ハイナダ(後付ねじ入 き)	ヨコナダ	仕は不確ナ		
879	土師瓦 青瓦 脇	B3	ビット(SR0549)		粗砂多	7.5YR5/2灰オリーブ色	1/8 無地	ヨコナダ	施柵	26	
880	土師瓦 上部 直	B3	ビット(SR0554)		粗砂少	5YR7/6褐色	1/8 無地ナダ	ヨコナダ	ヨコナダ		
881	1脚瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0566)		粗砂少	2.5YR8/3灰黄色	1/8 ヨリナダ	ヨコナダ	体明ナダ、表面凹へタ ヨリ		
883	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0588)		粗砂少	7.5YR6/4灰黑色	1/8 ヨリナダ	ヨコナダ	山形ヨコナダ		
884	内村瓦 1脚+1脚 瓦	B3	ビット(SR0591)		粗砂少	10YR6/4褐色	1/8 ヨコナダ	ヨコナダ	山形ヨコナダ、体ナダ		
885	瓦瓦 瓦	B3	ビット(SR0593)		粗砂少	NA/0灰色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	山形ヨコナダ、体ナダ		
886	1脚瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0605)		粗砂少	5YR7/1灰白色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	体明ナダ		
887	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0605)		粗砂少	2.5YR7/3灰黄色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
888	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0606)		粗砂少	10YR8/1黑色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ		
889	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0608)		粗砂少	10YR8/4灰黑色	2/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ		
890	土師瓦 上部 直	B3	ビット(SR0618)		粗砂少	2.5YR5/8灰色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ、送ナダ		
891	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0631)		粗砂少	10YR6/4;5YR7/3灰黑色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	口縫ヨコナダ、ヨリナダ		
892	赤瓦系瓦芯窓 砖	B3	ビット(SR0636)		粗砂少	NA/0灰白色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	体明ナダ		
893	土師瓦 上部 直	B3	ビット(SR0641)		粗砂少	5YR7/6褐色	8/8 ナダ	ヨコナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ		
894	土師瓦 1脚 足差	B3	ビット(SR0647)		粗砂少	2.5YR7/3灰黑色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
895	土師瓦 上部 瓦	B3	ビット(SR0666)		粗砂少	2.5YR6/1灰白色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
896	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0674)		粗砂多	7.5YR2/6白色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
897	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0675)		粗砂多	10YR7/3;5YR7/3;6YR7/3 灰白色	2/8 ナダ	ヨコナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ		
898	1脚瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0694)		粗砂少	5G/1/10灰オリーブ色	2/6 ナダ	ヨコナダ	4回取ナダ		
899	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0704)		粗砂少	7.5YR7/2灰黑色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ		
900	土師瓦 1脚 キリ瓦	B3	ビット(SR0704)		粗砂多	5YR5/7灰色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
901	編頭焼 瓦	B3	ビット(SR0704)		粗砂少	2.5YR6/8褐色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ		
903	1脚瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0718)		粗砂少	2.5YR7/3灰黑色	3/8 ナダ	ヨコナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ		
904	編頭焼 瓦	B3	ビット(SR0718)		粗砂少	5G/3/2/10オリーブ灰色	1/8 ナダ	ヨコナダ	4回取ナダ		
906	瓦瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0720)		粗砂多	NA/0灰白色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
907	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0721)		粗砂少	5YR7/8褐色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
908	土師瓦 上部 瓦	B3	ビット(SR0724)		粗砂少	5YR7/2灰白色	7/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ、表面凹へタ ヨリ		
909	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0728)		粗砂少	10YR8/2灰色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
910	土師瓦 上部 瓦	B3	ビット(SR0729)		粗砂少	10YR8/3灰色	2/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
911	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0733)		粗砂少	2.5YR6/8褐色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		
912	土師瓦 1脚 瓦	B3	ビット(SR0733)		粗砂少	5YR7/4;5YR7/6褐色	1/8 ヨリナダ	ヨリナダ	4回取ナダ		

規格番号	種類	地名	油解名	長さ	幅	厚手	鉄骨石	その他	色調	現存	内部構造	外由焼	備考	焼成
913	土師質土器	■	B3	ビリ(SPN733)	長手	雲母	鉄骨少		SYR7/61:45:褐色	1/8	内壁ナメ	回転ナメ		
914	土師質土器	■	B3	ビリ(SPN733)	長手	雲母	鉄骨合		SYR7/6褐色	1/8	回転ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
915	土師質土器	■	B3	ビリ(SPN733)	長手	雲母	鉄骨合		SYR7/6褐色	1/8	回転ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
916	土師質土器	■	B3	ビリ(SPN733)	長手	雲母	鉄骨少		SYR7/41:45:褐色	1/8	回転ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
917	土師質土器	長	B3	ビリ(SPN738)	長手	雲母	鉄骨少		10YR7/5灰白色	2/8	内壁ナメ	回転ナメ		
918	土師質土器	■	B3	ビリ(SPN738)	長手	雲母	鉄骨合		SYR7/6褐色	2/8	内壁ナメ	回転ナメ		
919	土師質土器	長	B3	ビリ(SPN738)	長手	雲母	鉄骨合		10YR7/4:45:褐色	1/8	ナメ	10YR7/5灰白色	内壁ナメ	
920	須賀質 十字脚		B3	ビリ(SPN735)	長手	雲母	鉄骨合		NS/0灰色	1/8	ナメ	体折れさき端ナメ	おろし口1本1米幅	端
921	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN700)	長手	雲母	鉄骨少		SYR7/6灰色	1/8	回転ナメ	回転ナメ		
922	土師質土器	長	B3	ビリ(SPN700)	長手	雲母	鉄骨少		2.5YR7/3淡黄色	2/8	内壁ナメ	体折れナメ	端ナメ	
923	土師質土器	杯	B3	ビリ(SPN700)	長手	雲母	鉄骨合		SYR7/6褐色	2/8	内壁ナメ	体折れナメ	端ナメ	
924	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN703)	長手	雲母	鉄骨少		7.5YR7/4:5:褐色	1/8	回転ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
925	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN720)	長手	雲母	鉄骨少		2.5YR7/2灰黄色	1/8	回転ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
926	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN744)	長手	雲母	鉄骨少		2.5YR7/2灰黄色	2/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
927	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN744)	長手	雲母	鉄骨少		10YR7/3:45:褐色	3/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ
928	土師質土器	杯	B3	ビリ(SPN746)	長手	雲母	鉄骨少		10YR8/3灰褐色	1/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ
929	土師質土器	杯	B3	ビリ(SPN746)	長手	雲母	鉄骨少		NS/0灰色	1/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ
930	土師質土器	杯	B3	ビリ(SPN746)	長手	雲母	鉄骨少		SYR6/2灰オーブ色	2/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ
931	土師質土器	足金	B3	ビリ(SPN731)	長手	雲母	鉄骨合		SYR6/41:45:褐色	1/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ
932	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN775)	長手	雲母	鉄骨少		2.5YR8/3褐色	2/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ
933	山形質白磁	直	B3	ビリ(SPN777)	長手	雲母	鉄骨合		10YR6/1灰白色	1/8	施釉	施釉	施釉	26
934	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN778)	長手	雲母	鉄骨合		7.5YR7/1灰褐色	1/8	回転ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
935	瓦質 オリヅ		B3	ビリ(SPN778)	長手	雲母	鉄骨合		NA/0灰色	1/8	ヨコナメ	「18」ヨコナメ	内壁ナメ	
936	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN788)	長手	雲母	鉄骨少		10YR7/3:45:褐色	1/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
937	土師質土器	杯	B3	ビリ(SPN792)	長手	雲母	鉄骨少		10YR8/3灰褐色	8/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
938	白磁		B3	ビリ(SPN793)	長手	雲母	鉄骨合		7.5YR8/1灰白色	1/8	施釉	施釉	施釉	
939	土師質土器	杯	B3	ビリ(SPN801)	長手	雲母	鉄骨合		2.5YR8/2灰白色	1/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
940	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN806)	長手	雲母	鉄骨少		10YR7/3:45:褐色	1/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
941	土師質土器	瓶(底膨)	B3	ビリ(SPN815)	長手	雲母	鉄骨少		7.5YR8/4:5:褐色	1/8	横ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
943	水生・25 底膨		B3	ビリ(SPN825)	長手	雲母	鉄骨合		SYR6/6褐色	4/8	マツナメ	マツナメ	マツナメ	
944	土師質土器	杯	B3	ビリ(SPN825)	長手	雲母	鉄骨合		10YR8/1褐色	1/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
945	土師質土器	杯	B3	ビリ(SPN826)	長手	雲母	鉄骨少		SYR7/6褐色	1/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
946	土師質土器	瓶	B3	ビリ(SPN826)	長手	雲母	鉄骨合		2.5YR8/3:45:褐色	1/8	横ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	
947	土師質土器	直	B3	ビリ(SPN845)	長手	雲母	鉄骨合		10YR8/2灰白色	2/8	内壁ナメ	内壁ナメ	内壁ナメ	

報告番号	岩・場	地区名	地盤名	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	粒度	内面鏡観	外面鏡観	備考	識別号
948	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0865)				粗砂少	7.5YR7/31-51:紅褐色	1/8	中等5+デ	同上	同上	
949	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0862)				粗砂多	5YR8/6褐色	1/8	同上	同上	同上	
950	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0863)				粗砂少	7.5YR7/41-51:紅褐色	2/8	ナメ	同上	同上	
951	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0865)				粗砂多	5YR8/10白色	1/8	ナメ	同上	同上	
952	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0865)				粗砂少	10YR8/14褐色	2/8	ナメ	同上	同上	
953	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0867)				粗砂含	7.5YR7/41-51:紅褐色	1/8	中等5+デ	同上	同上	
955	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0865)				粗砂含	2.5YR7/26白色	1/8	同上	同上	同上	
956	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0868)				粗砂少	10YR8/15深褐色	1/8	同上	同上	同上	
957	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0869)				粗砂少	7.5YR8/41褐色	1/8	同上	同上	同上	
958	土師質土器 泡沫	B3	乙子†(SP0869)				粗砂多	10YR8/41-51:黃褐色	1/8	ハグテ強め	同上	同上	
959	土師質土器 瓢箪	B3	乙子†(SP0860)				粗砂少	7.5YR8/25褐色	1/8	ナメ	同上	同上	
960	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0861)				粗砂少	2.5YR7/3淡黃色	1/8	同上	同上	同上	
961	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0864)				粗砂含	5YR8/41-51:褐色	1/8	同上	同上	同上	
962	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0864)				粗砂少	10YR8/25白色	1/8	同上	同上	同上	
963	輪削塊 壺	B3	乙子†(SP0866)				粗砂少	10YR5/6赤色	1/8	ヨコナデ	同上	同上	
964	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0861)				粗砂少	5YR8/41-51:褐色	1/8	同上	同上	同上	
965	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0901)				粗砂少	7.5YR7/29褐色	1/8	同上	同上	同上	
966	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0922)				粗砂含	5YR8/1灰褐色	1/8	ヨコナデ	同上	同上	
967	中空筒骨 壺	B3	乙子†(SP0922)				砂粒含多	10YR7/15深褐色	1/8	無	同上	同上	
968	西脇瓦片 深褐色	B3	乙子†(SP0902)				粗砂少	5YR7/10白色	1/8	ナメ	同上	同上	
969	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0939)				粗砂含	7.5YR8/3深褐色	7/8	同上	同上	同上	
970	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0939)				粗砂含	2.5YR7/10白色	3/8	同上	同上	同上	
973	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0940)				粗砂少	2.5YR7/2灰褐色	2/8	同上	同上	同上	
974	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0942)				粗砂少	2.5YR8/3深褐色	1/8	同上	同上	同上	
975	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0942)				粗砂少	7.5YR7/6褐色	4/8	体現5+デ, 黒ナメ	同上	同上	
976	土師質土器 壺	B3	乙子†(SP0942)				粗砂少	10YR8/1褐色	1/8	同上	同上	同上	
977	米湯糸痕泥岩 杯	B3	乙子†(SP0942)				粗砂少	2.5YR7/26深褐色	1/8	ヨコナデ	同上	同上	
979	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0948)				粗砂少	10YR7/21-51:黃褐色	1/8	同上	同上	同上	
980	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0949)				粗砂含	7.5YR7/6褐色	1/8	同上	同上	同上	
981	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0965)				粗砂少	7.5YR7/41-51:褐色	1/8	同上	同上	同上	
982	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0972)				粗砂少	2.5YR7/1灰褐色	1/8	同上	同上	同上	
983	土師質土器 杯	B3	乙子†(SP0975)				粗砂少	2.5YR7/10白色	1/8	同上	同上	同上	
984	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0981)				粗砂少	2.5YR8/3深褐色	1/8	同上	同上	同上	
985	土師質土器 盆	B3	乙子†(SP0985)				粗砂少	2.5YR8/6褐色	1/8	アメ	同上	同上	

種内番号	名	種	地区名	通称名	長石・石英	蛋白石	列閃石	その他	色・調	奥存灰	内面調整	備考	規格外
9865	上野原1番 杯	B3	ビクトリ(SPR0863)	—	相较少	10YR8/3黄青灰色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	内面使用
9867	東新新規電器 杯	B3	ビクトリ(SPR0863)	—	相较多	7.5GY4/暗赤灰色	2/8	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	内面使用
9868	土師原土器 杯	B3	ビクトリ(SPR0865)	—	相较少	SYR7/6暗赤色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	相较少
9869	土師原1番 杯	B3	ビクトリ(SPR0865)	—	相较少	2.5Y8/2灰白色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9900	土師原土器 杯	B3	ビクトリ(SPR0860)	—	相较少	2.5Y8/1灰白色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
991	上野原1番 杯	B3	ビクトリ(SPR0860)	—	相较少	SYR7/6暗赤色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9902	土師原土器 杯	B3	ビクトリ(SPR0864)	—	相较少	10YR8/3灰褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9903	上野原1番 杯	B3	ビクトリ(SPR0868)	—	相较少	SYR7/6暗赤色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9904	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SPR0868)	—	相较少	10YR7/4にぼい黄褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9905	土師原土器 杯	B3	ビクトリ(SP1005)	—	相较少	7.5YR7/6暗赤色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9906	上野原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1005)	—	相较少	7.5YR7/6暗赤色	4/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9907	土師原土器 杯	B3	ビクトリ(SP1005)	—	相较少	7.5YR7/6暗赤色	4/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9908	土師原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1005)	—	相较少	7.5YR7/4にぼい褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
9909	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1005)	—	相较少	10YR8/3灰褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1002	上野原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1011)	—	相较少	2.5YR8/6暗赤色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1003	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1012)	—	相较少	2.5YR8/3灰褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1004	土師原土器 杯	B3	ビクトリ(SP1013)	—	相较少	7.5YR8/6暗赤色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1005	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1016)	—	相较少	SYR8/2灰白色	4/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1006	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1016)	—	相较少	10YR8/3灰褐色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	相较少
1007	上野原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1016)	—	相较少	2.5YR8/3灰褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1008	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1016)	—	相较少	2.5YR8/3灰褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1009	東風原系焼物 杯	B3	ビクトリ(SP1016)	—	相较多	SYR7/1灰白色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	相较少
1010	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1020)	—	相较少	2.5YR7/3灰褐色	2/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1011	土師原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1020)	—	相较少	SYR7/6暗赤色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1012	上野原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1020)	—	相较少	SYR7/6暗赤色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1013	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1029)	—	相较少	2.5Y8/2灰白色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1014	糸村窑1番 杯	B3	ビクトリ(SP1040)	—	相较少	NB/0灰白色	2/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1015	土師原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1041)	—	相较少	SYR8/4灰褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1016	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1048)	—	相较少	2.5YR8/3灰褐色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1017	土師原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1067)	—	相较少	SYR7/6暗赤色	3/8	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	相较少
1018	土師原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1068)	—	相较少	2.5YR8/6暗赤色	1/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1019	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1068)	—	相较少	10YR7/2にぼい褐色	5/8	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少	相较少
1020	土師原1番 杯	B3	ビクトリ(SP1061)	—	相较少	SYR7/6暗赤色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	相较少
1021	十郎賀1番 杯	B3	ビクトリ(SP1064)	—	相较少	SYR7/6暗赤色	1/8	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	マツツ	相较少

番号	名稱	地名	通商名	岩石・石炭	岩質	角閃石	その他	色 調	灰分	内山調査	外山調査	備考	調査年
10222	上野口 磐	B3	ビット(SP1064)					2.5YR/2灰白色	2%	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10223	上野口土器 直	B3	ビット(SP1077)					7.5YR/6灰色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10241	中野原十面 直	B3	ビット(SP1080)					5YR/6褐色	3/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10255	土野賀土器 直	B3	ビット(SP1102)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10265	上野口 磐 直	B3	ビット(SP1103)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10277	中野原十面 直	B3	ビット(SP1104)					10YR/6灰黃褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10288	土野賀土器 直	B3	ビット(SP1106)					10YR/6灰黃褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10299	中野原十面 滑	B3	ビット(SP1108)					5YR/7/4に=5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10300	土野賀土器 直	B3	ビット(SP1111)					5YR/7/4に=5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10311	上野原十面 直	B3	ビット(SP1114)					10YR/6灰黃褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10323	土野賀土器 直	B3	ビット(SP124)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10344	上野原十面 直	B3	ビット(SP130)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10355	土野賀土器 滑	B3	ビット(SP130)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10366	上野原十面 滑	B3	ビット(SP130)					5YR/6/3に=5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10377	中野原十面 直	B3	ビット(SP130)					5YR/6/8褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10388	土野賀土器 直	B3	ビット(SP130)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10399	上野原十面 金	B3	ビット(SP130)					10YR/6灰に=5YR/6褐色	1/8	アフリカナメ	アフリカナメ		
10400	西野口火薙十面 滑	B3	ビット(SP144)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ後板ナメ	角閃石ナメ後板ナメ		
10411	土野原十面 滑	B3	ビット(SP160)					5YR/6/4に=5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10422	上野原十面 滑	B3	ビット(SP160)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10433	土野賀土器 直	B3	ビット(SP175)					5YR/6/3灰褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10444	櫛目J	B3	ビット(SP175)					2.5YR/6褐色	3/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10477	中野原十面 滑	B3	ビット(SP190)					7.5YR/7/3に=5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10488	輪胎焼 茶	B3	ビット(SP190)					7.5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10499	上野原十面 滑	B3	ビット(SP231)					10YR/3灰に=5YR/6褐色	2/8	マツツ	マツツ		
10500	中野原十面 金	B3	ビット(SP242)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10511	土野賀土器 金	B3	ビット(SP243)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10522	上野原十面 滑	B3	ビット(SP243)					10YR/6灰褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10533	東野原銀色器 金	B3	ビット(SP243)					NR/6灰1色	1/8	ヨコナメ	ヨコナメ		
10544	土野賀土器 足金	B3	ビット(SP244)					5YR/6褐色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10555	東野原銀色器 金	B3	ビット(SP246)					5YR/6灰1色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10566	白磁 金	B3	ビット(SP250)					5YR/6灰1色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10588	土野原十面 滑	B3	ビット(SP253)					10YR/3灰に=5YR/6褐色	3/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		
10599	上野原十面 滑	B3	ビット(SP253)					2.5YR/6灰白色	1/8	角閃石ナメ	角閃石ナメ		

新番号	器種	地名	通名	長石・石英 雲母	鉱物	角閃石	その他	色調	斑状	内面鏡鑑	外由頭鑑	参考	備考
1060	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI253)	長石・石英 雲母	相少	2.5Y4/26赤褐色	1/8	固板ナデ	ヘタカリナデ,薄板				
1062	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI255)	長石・石英 雲母	相少	7.5Y7/1灰白色	1/8	固板	ヘタカリナデ,薄板		26		
1063	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI258)	長石・石英 雲母	相少合	2.5Y8/1灰白色	1/8	固板ナデ	固板ナデ,薄板				
1064	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI262)	長石・石英 雲母	相少合	5YR7/6褐色	3/8	固板ナデ	ヘタカリナデ,薄板				
1065	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI262)	長石・石英 雲母	相少	5YR7/6褐色	1/8	固板ナデ	固板ナデ,薄板				
1068	土師質土器 直	B3	ビット(SPI281)	長石・石英 雲母	相少	7.5Y8/3淡褐色	1/8	固板ナデ	ヘタカリナデ,薄板				
1069	土師質土器 直	B3	ビット(SPI283)	長石・石英 雲母	相少	10Y8/2灰白色	1/8	固板	固板ナデ				
1070	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI285)	長石・石英 雲母	相少	2.5YR7/4淡褐色	1/8	指おさえ	ヨコナデ				
1071	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI287)	長石・石英 雲母	相少	7.5Y8/4淡褐色	1/8	マツツ	メツツ				
1072	土師質土器 直	B3	ビット(SPI288)	長石・石英 雲母	相少	7.5YR7/4にせい褐色	2/8	固板ナデ	ヘタカリナデ,薄板				
1073	粘土陶器 瓶	B3	ビット(SPI289)	長石・石英 雲母	相少合	5PB5/1青灰色	1/8	固板ナデ	固板ナデ		26		
1074	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI293)	長石・石英 雲母	相少	2.5Y8/1灰白色	1/8	固板ナデ	固板ナデ				
1075	土師質土器 尾笠	B3	ビット(SPI297)	長石・石英 雲母	相少	5YR7/6褐色	1/8	板ナデ後部	指おさえ後ヨコナデ				
1076	土師質土器 直	B3	ビット(SPI298)	長石・石英 雲母	相少	5YR7/8褐色	1/8	固板ナデ	固板ナデ				
1077	土師質土器 直	B3	ビット(SPI302)	長石・石英 雲母	相少	7.5YR7/4にせい褐色	1/8	固板ナデ	固板ナデ				
1078	土師質土器 直	B3	ビット(SPI302)	長石・石英 雲母	相少	5YR6/6褐色	1/8	山形ナデ	山形ナデ				
1079	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI304)	長石・石英 雲母	相少合	2.5Y8/2灰白色	1/8	固板ナデ	固板ナデ		27		
1080	土師質土器 直	B3	ビット(SPI304)	長石・石英 雲母	相少	10Y8/2灰白色	2/8	板ナデ後部	指おさえ後ヨコナデ				
1081	粘土陶器 瓶	B3	ビット(SPI309)	長石・石英 雲母	相少	5YR7/1灰白色	1/8	マツツ	メツツ				
1082	土師質土器 かまど	B3	ビット(SPI312)	長石・石英 雲母	相少	10Y8/3にせい黄褐色	—	不明	不明				
1087	尖錐系須恵器 手	B3	ビット(SPI321)	長石・石英 雲母	相少	10YR7/2にせい灰褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ,体触れとき				
1088	土師質土器 長柄	B3	ビット(SPI322)	長石・石英 雲母	相少合	10YR7/4にせい灰褐色	1/8	ナデ	山形ナデ				
1089	土師質土器 直	B3	ビット(SPI329)	長石・石英 雲母	相少合	7.5Y8/6/3にせい褐色	1/8	指おさえ	指おさえ後板ナデ				
1090	西神奈瓦質土器 瓶	B3	ビット(SPI335)	長石・石英 雲母	相少	10Y7/1灰白色	1/8	固板ナデ後板ナデ	指おさえ後板ナデ				
1091	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI336)	長石・石英 雲母	相少合	2.5Y8/2灰白色	1/8	固板ナデ	固板ナデ				
1092	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI336)	長石・石英 雲母	相少	7.5YR8/6褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ,体触れとき				
1093	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI341)	長石・石英 雲母	相少合	2.5Y8/2灰白色	1/8	固板ナデ	固板ナデ				
1095	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI347)	長石・石英 雲母	相少	N2/0褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ,体触れとき				
1096	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI363)	長石・石英 雲母	相少	10Y7/3にせい黄褐色	3/8	体触れナデ,底ナデ	体触れナデ,底ナデ				
1098	土師質土器 丸瓶	B3	ビット(SPI366)	長石・石英 雲母	相少	2.5Y6/3にせい褐色	1/8	ヨコナデ,体ハケメ	ヨコナデ,体ハケメ				
1099	土師質土器 瓶	B3	ビット(SPI370)	長石・石英 雲母	相少合	7.5YR8/4にせい褐色	1/8	固板ナデ	固板ナデ				
1100	土師質土器 丸窓	B3	ビット(SPI370)	長石・石英 雲母	相少	5YR8/4にせい褐色	1/8	ナデ	ヨコナデ,体触れとき				
1101	土師質土器 すり棒	B3	ビット(SPI370)	長石・石英 雲母	相少	2.5Y7/2灰白色	1/8	板ナデ	ヨコナデ,体触れとき				
1102	丸窓 すり棒	B3	ビット(SPI370)	長石・石英 雲母	相少合	N6/0灰白色	1/8	ナデ	ヨコナデ,体触れとき				

測定番号	器種	地区名	通巻名	長石・石英	葉片	角閃石	その他の	粗砂多	色・調	粒状貌	内山帶	外因帶	備考	断続
1103	束繩系土器	神	B3 [Z-1(SP1371)]					7.5Y7/1灰白色	1/8	円滑輪廓	山ヨコナデ, 佐野ヨシ	山ヨコナデ, 佐野ヨシ		
1104	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1382)]					5Y7/6褐色	1/8	粗砂多	山ヨコナデ	山ヨコナデ	山ヨコナデ	
1105	中国産白磁	碗	B3 [Z-1(SP1385)]					5Y6/1灰色	1/8	施釉	施釉	施釉	施釉	26
1106	中国産青磁	碗	B3 [Z-1(SP1390)]					5Y5/5灰オリーブ色	1/8	施釉	施釉	施釉	施釉	26
1107	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1395)]					5Y6/2灰白色	6/8	体輪帶ナデ, 体輪	ヘタリ後輪	ヘタリ後輪	ヘタリ後輪	27
1108	土海門上口	皿	B3 [Z-1(SP1400)]					7.5YR8/4灰黑色	1/8	マーブル	マーブル	マーブル	マーブル	
1109	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1401)]					7.5YR7/2灰褐色	8/8	同前ナデ	体輪ナデ	体輪ナデ	体輪ナデ	27
1110	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1407)]					2.5Y8/2灰白色	2/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1112	須彌壺	ナリホ	B3 [Z-1(SP1410)]					5Y8/1灰白色	1/8	3コナデ	山ヨコナデ, 佐野ヨシ	山ヨコナデ, 佐野ヨシ	山ヨコナデ, 佐野ヨシ	
1113	中国産上口	皿	B3 [Z-1(SP1416)]					5Y6/1灰色	7/8	施釉	施釉	施釉	施釉	26
1114	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1416)]					5Y7/6褐色	3/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1115	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1416)]					2.5Y8/2灰白色	3/8	体輪帶ナデ, 佐ナデ	体輪ナデ	体輪ナデ	体輪ナデ	
1116	中国産青磁	碗	B3 [Z-1(SP1426)]					10Y6/6灰黑色	1/8	施釉	施釉	施釉	施釉	26
1118	土海門上口	皿	B3 [Z-1(SP1426)]					7.5YR8/4灰黑色	2/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1120	土海門上口	皿	B3 [Z-1(SP1433)]					7.5YR3/1灰褐色	1/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1121	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1439)]					2.5Y8/3灰褐色	2/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1122	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1439)]					2.5Y8/2灰白色	1/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1123	土海門上口	皿	B3 [Z-1(SP1442)]					2.5Y6/3に少し黄色	1/8	板ナデ	口輪帶ナデ, 体輪	口輪帶ナデ, 体輪	口輪帶ナデ, 体輪	
1125	西村産瓦門上口	碗	B3 [Z-1(SP1444)]					5Y8/2灰白色	1/8	板ナデ	板ナデ	板ナデ	板ナデ	
1126	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1447)]					10YR8/3灰黑色	2/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1127	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1448)]					5Y7/6褐色	1/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1128	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1448)]					2.5Y8/2灰白色	3/8	体輪帶ナデ, 佐ナデ	体輪ナデ	体輪ナデ	体輪ナデ	
1129	土海門上口	かまど	B3 [Z-1(SP1450)]					7.5Y6/4に少し褐色	1/8	ハクナ	ハクナ	ハクナ	ハクナ	
1130	中国産上口	皿	B3 [Z-1(SP1450)]					5Y6/3灰黑色	2/8	「漆」無輪	口輪無輪	口輪無輪	口輪無輪	26
1131	生牛上口	皿	B3 [Z-1(SP1455)]					2.5YR6/8褐色	1/8	マーブル	マーブル	マーブル	マーブル	
1132	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1461)]					2.5Y8/2灰白色	2/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1133	中国産青磁	碗	B3 [Z-1(SP1468)]					7.5Y6/2灰オリーブ色	1/8	施釉	施釉	施釉	施釉	26
1134	土海門上口	足袋	B3 [Z-1(SP1469)]					5Y6/6褐色	1/8	ハクナ, 後ナデ	「漆」無輪	「漆」無輪	「漆」無輪	
1135	中国産「門」形	皿	B3 [Z-1(SP1470)]					灰白色	1/8	「漆」無輪	口輪無輪	口輪無輪	口輪無輪	26
1136	土海門上口	足袋	B3 [Z-1(SP1480)]					10YR8/2灰褐色	1/8	ハクナ	「漆」無輪	「漆」無輪	「漆」無輪	
1137	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1481)]					2.5Y8/3灰褐色	1/8	施釉	施釉	施釉	施釉	
1138	土海門上口	皿	B3 [Z-1(SP1482)]					5Y7/6褐色	1/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1139	須彌壺	要	B3 [Z-1(SP1484)]					2.5Y8/2灰白色	1/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	
1140	土海門上口	杯	B3 [Z-1(SP1484)]					5Y8/2灰白色	1/8	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	同前ナデ	

管行番号	品種	被試名	通称名	長さ/石英	管母	拘束行	その他の	色調	測竹値	外筒直徑	幅	高さ	規格
1142	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP469)			相手少	7.5VR/14H明褐色	1/8	1mmナード			
1143	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1500)			相手多	SYR/66色	1/8	ハサメ後ナデ			
1144	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1504)			相手多	10YR/4/14:5/14:5黄褐色	1/8	指をえき側ナデ	外筒ナナ付替		
1145	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1508)			相手少	2.5VR/66色	1/8	回転ナデ			
1146	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1508)			相手合	10YR/1/14褐色	1/8	回転ナデ			
1147	東越系透器	杯	B3	ビット(SP1508)			相手多	10YR/1/14褐色	1/8	1mmヨコナダ,体ナデ			
1148	瓦質	盃	B3	ビット(SP1536)			相手少	N4/0赤色	2/8	ナデ			
1149	土師質/呑	盃	B3	ビット(SP1534)			相手多	SYR/66色	1/8	ハサメ後底ナデ			
1150	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1532)			相手合	2.5VR/25K白色	3/8	体回転ナデ,底ナデ			
1151	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1542)			相手少	7.5VR/41:5/14:5白色	2/8	1mmナード			
1152	土師質/呑	皿	B3	ビット(SP1542)			相手合	SYR/66色	1/8	1mmヨコナダ	体回転ナデ		
1153	土師質/呑	皿	B3	ビット(SP1553)			相手合	10YR/2/14:5/14:5黄褐色	1/8	1mmナード	外筒ナナ付替		
1154	土師質/呑	盃	B3	ビット(SP1564)			相手少	SYR/66色	1/8	ヨコナデ			
1155	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1565)			相手合	SYR/7/56色	2/8	1mmナード	回転ナナ付替		
1156	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1572)			相手少	SYR/66色	2/8	1mmナード	外筒ナナ付替		
1157	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1576)			相手合	SYR/66色	1/8	1mmヨコナダ,開ハサメ	門型把手ナナ付替		
1158	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1586)			相手少	SYR/66色	1/8	1mmナード	回転ナナ付替		
1159	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1602)			相手合	SYT/1灰褐色	1/8	ヨコナデ	回転ナナ付替		
1160	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1603)			相手多	10YR/2/14:5/14:5黄色	1/8	マツツ			
1161	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1607)			相手少	N3/0赤色	1/8	ヨコナデ			
1162	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1610)			相手合	10YR/1灰白色	1/8	1mmナード	外筒ナナ付替		
1163	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1622)			相手少	7.5VR/4/14:5/14:5青褐色	1/8	1mmナード	外筒ナナ付替		
1165	土師質/呑	盃	B3	ビット(SP1627)			相手合	7.5VR/2/14:5/14:5白色	1/8	口横ヨコナデ,体ハサメ	外筒ナナ付替		
1166	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1631)			相手多	2.5VR/25K白色	1/8	ナデ	回転ナナ付替		
1167	瓦質	ナリ杯	B3	ビット(SP1637)			相手少	7.5VR/14白色	2/8	マツツ			
1168	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1640)			相手合	10YR/2/14:5/14:5灰色	1/8	1mmナード	外筒ナナ付替		
1169	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1652)			相手多	SYR/66色	1/8	ハサメ			
1170	土師質/呑	盃	B3	ビット(SP1657)			相手合	SYR/66色	1/8	ナデ	外筒ナナ付替		
1171	土師質/呑	皿	B3	ビット(SP1662)			相手少	SYR/66色	1/8	ナデ	回転ナナ付替		
1172	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1663)			相手多	SYR/66色	1/8	マツツ			
1173	中国金青磁	杯	B3	ビット(SP1662)			相手合	N4/0赤色	1/8	ナデ			
1174	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1665)			相手多	SYR/66色	1/8	ハサメ			
1175	土師質/呑	皿	B3	ビット(SP1663)			相手少	SYR/66色	1/8	ナデ	外筒ナナ付替		
1176	土師質/呑	足金	B3	ビット(SP1673)			相手多	SYR/66色	1/8	ヨコナデ	回転ナナ付替		
1177	瓦質	盃	B3	ビット(SP1674)			相手少	N4/0赤色	1/8	ナデ	外筒ナナ付替		
1178	土師質/呑	皿	B3	ビット(SP1677)			相手少	10YR/6/68色	1/8	1mmナード	外筒ナナ付替		
1179	土師質/呑	杯	B3	ビット(SP1679)			相手合	2.5VR/25K白色	2/8	ナデ	外筒ナナ付替		
1179.01	土師質/呑	皿	B3	ビット			相手少	SYR/66色	7/8	体回転ナデ,底ナデ	外筒ナナ付替		
1179.02	土師質/呑	皿	B3	ビット			相手多	2.5VR/66色	7/8	体回転ナデ,底ナデ	外筒ナナ付替		

新規番号	品種	地名	通称名	長径・短径	葉形	葉質	肉質	その他の特徴	秀外賞	内山賞	外観賞	備考	類別
1179.03	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	SYR7/6褐色	8/8	所賞ナシ		
1179.04	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	10YR8/2淡粉紅色	7/8	所賞ナシ		
1179.05	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	10YR8/4淡綠褐色	8/8	所賞ナシ		
1179.06	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	SYR7/6褐色	6/8	所賞ナシ		
1179.07	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	10YR8/3淡黃褐色	8/8	所賞ナシ		
1179.08	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	2.5YR7/6褐色	7/8	所賞ナシ		
1179.09	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	SYR7/6褐色	7/8	所賞ナシ		
1179.1	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	2.5YR7/6褐色	1/8	所賞ナシ		
1179.11	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	10YR8/6淡粉紅色	1/8	所賞ナシ		
1179.12	土師質土器	皿	B3 ビット					粗糲多	10YR7/6褐色	1/8	所賞ナシ		
1180	土師質土器	皿	B3 (S0061)					砂粒含	2.5GY7/1暗オリーブ灰色	2/8	見入賞ノ目地ハギ		
1181	陶行 甕		B3 (S0061)					砂粒含	2.5GY7/1暗オリーブ灰色	1/8	無地		
1182	灰陶陶器	甕	B3 (S0061)					細糀含	7.5Y3/2オリーブ緑色	1/8	施釉		
1183	灰陶陶器	皿	B3 (S0061)					粗糲含	10YR4/6褐色	1/8	見入賞ノ目地ハギ		
1184	陶陶陶器	甕	B3 (S0061)					砂粒含	2.5Y4/4オリーブ緑色	1/8	無地		
1185	陶陶陶器	甕	B3 (S0061)					砂粒含	2.5GY7/1暗オリーブ灰色	1/8	口沿施釉		
1186	灰陶陶器	甕	B3 (S0061)					砂粒含	2.5GY7/1暗オリーブ灰色	2/8	無地		
1187	有溝土器		B3 (S0061)					粗糲含	10YR7/4/5ない黄褐色	8/8	所賞ナシ		
1188	土師質土器	ナリ体	B3 (S005)					粗糲含	2.5YR8/2灰白色	1/8	板ナシ		
1189	陶器	蓋	B3 (S005)					砂粒含	2.5Y7/6明黄褐色	1/8	見入賞		
1190	土師質土器	蓋	B3 (S005)					砂粒含	10G7/8/9暗黒灰褐色	1/8	見入賞ノ目地調子		
1191	土師質土器	蓋	B3 (S005)					粗糲含	N2/0無色	1/8	口沿施釉		
1192	土師質土器	ナリ体	B3 (S005)					粗糲含	3YR7/0白色	1/8	板ナシ		
1193	土師質土器	蓋	B3 (S005)					粗糲多	10YR8/8米色	1/8	ヨコナシ		
1194	土師質土器	足袋	B3 (S005)					粗糲多	10YR7/2/1ない黄褐色	1/8	ヨコナシ		
1195	土師質土器	火格	B3 (S005)					粗糲含	7.5YR2/1褐色	1/8	ヨコナシ		
1196	土師質土器	蓋	B3 (S005)					粗糲少	N2/0無色	1/8	板ナシ		
1197	灰陶陶器	甕	B3 (S005)					砂粒含	3YR7/2白色	1/8	施釉		
1198	灰陶陶器	皿	B3 (S005)					砂粒含	2.5YR8/3オリーブ黄色	1/8	施釉		
1199	陶器	甕	B3 (S005)					砂粒含	3YR6/3オリーブ黄色	2/8	口沿施釉		
1200	灰陶陶器	甕	B3 (S005)					褐色粉合	7.5YR7/1褐色	1/8	施釉		
1201	陶器	甕	B3 (S005)					黑色粉合	7.5YR2/1褐色	3/8	施釉		
1202	灰陶陶器	甕	B3 (S005)					砂粒含	3YR5/2オリーブ色	1/8	施釉		
1203	灰陶陶器	甕	B3 (S005)					粗糲含	2.5Y3/2黒褐色	1/8	施釉		

地名番号	名 場	地名	通称名	長 宽	斜 材	角四六	その他	内山測量	外山測量	備 留	備考
1204	高砂耕場	井	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	合計合ます	5YR2/1明黄色	1/8	無地	
1205	高砂水輪	井	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	合計合ます	5Y5/5モリーブ	2/8	無地	白色平行線
1206	高砂水輪	通称	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	合計合ます	2.5YR7/1明黄色	3/8	無地	
1207	高砂池	通称	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合少	2.5YR8/41-51褐色	3/8	圓錐ナデ	上半田原地盤、ナダケズリ
1208	高砂池	通称	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合少	2.5YR8/25赤色	1/8	圓錐ナデ	月桂ナデ、斯干ナダケズリ
1209	高砂池	通称	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合少	NA/0灰色	1/8	圓錐ナデ	圓錐ナデ、斯干ナダケズリ
1210	高砂池	通称	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合少	2.5YR8/46暗褐色	1/8	圓錐ナデ	圓錐ナデ、斯干ナダケズリ
1211	高砂池	通称	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	2.5YR8/1灰白色	1/8	圓錐ナデ	「ヨコナデ」
1212	中国原	通称	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	7.5Y7/1灰白色	1/8	無地	
1213	白福	紅葉	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	7.0色	5/8	無地	豊かな紅葉、口唇植物
1214	白福	杉	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	白色	2/8	無地	
1215	白福	桑	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	白色	1/8	無地	
1216	白福	樹	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	10YY7/1明黄色	1/8	無地	
1217	中国原	杏	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	灰绿色	1/8	無地	
1218	米尔	桑	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	白色	2/8	蛇目輪刺毛	蛇目輪刺毛
1219	新 丸瓦	井	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	2.5Y6/1灰白色	1/8	—	マツツ
1220	新 丸瓦	井	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合少	2.5Y6/1灰白色	—	圓錐以外ナデ	
1221	石井	通称	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	2.5Y7/4灰褐色	8/8	—	
1222	土人形	井	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合合	10YY8/2灰褐色	6/8	—	
1223	土井門	不明	高砂原(SDS1)	B3	通称原	通称原	相合少	2.5Y8/2灰白色	—	ナデ	
1227	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	2.5YK7/8灰色	8/8	体積ナデ、底ナデ	体積ナデ、底地盤へテラ
1228	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	5YR7/6褐色	7/8	圓錐ナデ	圓錐ナデ、底地盤へテラ
1229	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	5YR7/8褐色	8/8	圓錐ナデ	圓錐ナデ、底地盤へテラ
1230	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	7.5YR8/6褐色	4/8	体積ナデ、底ナデ	体積ナデ、底地盤へテラ
1231	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	2.5Y8/2灰白色	6/8	体積ナデ、底ナデ	体積ナデ、底地盤へテラ
1232	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	2.5Y8/3灰黑色	8/8	体積ナデ、底ナデ	体積ナデ、底地盤へテラ
1233	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	7.5YR7/41-51褐色	8/8	体積ナデ、底ナデ	体積ナデ、底地盤へテラ
1234	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	3YR8/4灰褐色	3/8	圓錐ナデ	圓錐ナデ、底地盤へテラ
1235	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	2.5Y7/3灰褐色	6/8	体積ナデ、底ナデ	体積ナデ、底地盤へテラ
1236	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	7.5YR7/41-51褐色	3/8	体積ナデ、底ナデ	体積ナデ、底地盤へテラ
1237	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	2.5Y8/4灰褐色	7/8	体積ナデ、底ナデ	体積ナデ、底地盤へテラ
1238	土井門	器	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	3PBT7/6褐色	1/8	圓錐ナデ	底地盤へテラ
1239	瓦質	井	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	3PT7/1灰白色	1/8	無地	「ヨコナデ」、体積ナデ
1240	瓦質	井	包合層	B3	包合層	包合層	相合少	5Y7/1灰白色	1/8	—	

筆者番号	器種	地区名	漁網名	長さ(右)cm	幅(左)cm	形状	向日石	その他	色調	模様	内面調査	外面調査	備考	規格
1241	土瓶貯水器 すり棒	B3	包合層				粗糲多		3YV/1K白色	1/8	ヨコナデ	「1種ヨコナデ」体面おき		
1242	土瓶貯水器 すり棒	B3	包合層				粗糾合		2.5YR/4K淡黄色	1/8	ヨコナデ	「1種ヨコナデ」体面おき		
1243	瓦質 すり棒	B3	包合層				粗糾合		7.5YV/1K白色	2/8	マツツ	「1種ヨコナデ」體面下端		
1244	土瓶貯水器 足綱	B3	包合層				粗糲多		2.5YV/2K淡黄色	2/8	ハタケ人像口縁ヨコナデ	「1種ヨコナデ」体面おき		
1245	土瓶貯水器 足笠	B3	包合層				粗糾合		2.5YV/3K淡黄色	1/8	ハタケメ	「1種ヨコナデ」足部ヨコナデ		
1246	土瓶貯水器 足笠	B3	包合層				粗糾合		10YR/4/にぶい黄褐色	1/8	ハタケメ後一部板ナデ	「1種ヨコナデ」脚ハタケメ		
1247	土瓶貯水器 足笠	B3	包合層				粗糲多		2.5Y6/3/にぶい黃褐色	2/8	口縁ヨコナデ、脚板ナデ	「1種ヨコナデ」脚ハタケメ		
1248	土瓶貯水器 筒	B3	包合層				粗糾合		7.5YR/4/にぶい褐色	1/8	口縁ヨコナデ、脚板ナデ	「1種ヨコナデ」脚ハタケメ		
1249	土瓶貯水器 容	B3	包合層				粗糲多		10YR/3/淡褐色	1/8	板ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1250	須恵器 杯	B3	包合層				粗糾少		5YR/1K白色	1/8	回転ナデ	「1種ヨコナデ」底切切り		
1251	須恵器 勝	B3	包合層				粗糾少		10YR/4/脚底灰褐色	7/8	口縁ヨコナデ	「1種ヨコナデ」底ハタケメ		
1252	須恵器 瓢	B3	包合層				粗糾少		N6/0K灰色	1/8	口縁ヨコナデ、脚板ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1253	須恵器 瓢	B3	包合層				粗糾少		10YR/1K灰色	1/8	平行タキ後ヨコナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1254	須恵器 瓢	B3	包合層				粗糾少		5PNS/1K白色	—	ハタケメ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1255	須恵器 斧頭	B3	包合層				粗糾合		10Y/1K白色	2/8	ヨコナデ	「1種ヨコナデ」底切切り		
1256	真貫 瓢	B3	包合層				粗糾少		N5/0K灰色	2/8	板ナデ	「1種ヨコナデ」平行タキ		
1257	瓦質 瓢	B3	包合層				粗糾合		5YV/1K灰色	1/8	ヘタギガキ?	「1種ヨコナデ」	日本櫻美	
1258	瓦質十脚 瓢	B3	包合層				粗糾少		N4/0K灰色	1/8	「1種ヨコナデ」体ハタケメ	「1種ヨコナデ」体面おき		
1259	瓦質土器 瓢	B3	包合層				粗糾少		N4/0K灰色	1/8	板ナデ	「1種ヨコナデ」体面おき		
1260	瓦質土器 瓢	B3	包合層				粗糾合		5Y3/1オリーブ黒色	1/8	ハタケメ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1261	龜山焼 瓢	B3	包合層				粗糾少		N3/0K灰色	1/8	口縁ヨコナデ、脚板ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1262	龜山焼 瓢	B3	包合層				粗糾合		5P6/1K青灰色	1/8	「1種ヨコナデ」脚ハタケメ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1263	龜山焼 瓢	B3	包合層				粗糾合		N4/0K灰色	1/8	板ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1264	龜山焼 瓢	B3	包合層				粗糾少		5YV/1K灰色	1/8	御漆	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1265	龜山焼 瓢	B3	包合層				粗糾少		7.5Y4/1K灰色	1/8	中心凹凸や底板ナデ、脚板ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1266	有蓋小鉢器 盆	B3	包合層				粗糾合		7.5Y/1K白色	1/8	口縁ヨコナデ、脚ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1267	米糀酒器 壺	B3	包合層				粗糾少		5YR/2K白色	1/8	「1種ヨコナデ」脚板ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1275	編刷鏡 杯	B3	包合層				粗糾少		10Y5/6K灰色	1/8	國字ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1276	編刷鏡 すり棒	B3	包合層				粗糾合		5YR/1K白色	1/8	ヨコナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1277	編刷鏡 すり棒	B3	包合層				粗糾少		10YR/3/にぶい黄褐色	1/8	板ナデ	「1種ヨコナデ」脚板ナデ		
1278	編刷鏡 すり棒	B3	包合層				粗糾少		2.5Y3/1黒褐色	1/8	ヨコナデ	「1種ヨコナデ」		

番号番号	名 種	地 区名	通称名	長石・石英 等母 岩類	角閃石 等母 岩類	その他の 鉱物	細粒含 有	漂砾質 1/8	表面風化 ヨコナデ	外表面風化 ヨコナデ	幅 年	標高
1279	偏光鏡 ナトリウム	B3 包含層									28	
1280	偏光鏡 カリ	B3 包含層					粗粒合 成	2.5YR6/1青灰色 漂砾層	1/8 ヨコナデ	ヨコナデ	28	
1281	偏光鏡 萤石	B3 包含層					砂粒合 成	2.5YR6/4に5Y6/2青灰色 漂砾層	— ヨコナデ	ヨコナデ	28	
1282	偏光鏡 萤石	B3 包含層					砂粒合 成	N6/0灰白色 漂砾層	2/8 ナデ後 ヨコナデ	自然物 同板ナデ	28	
1283	偏光鏡 萤石	B3 包含層					粗粒少 量	2.5Y4/3オーブー褐色 漂砾少 量	1/8 ヨコナデ	粗粒少 量	28	
1284	偏光鏡 萤石	B3 包含層					粗粒少 量	5Y7/4青灰色 漂砾少 量	1/8 ヨコナデ	自然物 粗粒少 量	28	
1285	偏光鏡 萤石	B3 包含層					粗粒少 量	5Y5/1灰白色 漂砾少 量	2/8 ヨコナデ	自然物 粗粒少 量	28	
1286	偏光鏡 萤石	B3 包含層					粗粒少 量	7.5Y6/3オーブー黄色 漂砾少 量	1/8 ヨコヨコナデ 漂砾ナデ	自然物 粗粒少 量	28	
1287	偏光鏡 萤石	B3 包含層					粗粒合 成	5YR3/2暗赤褐色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	ヨコナデ ヨコナデ	28	
1288	偏光鏡 萤石	B3 包含層					粗粒合 成	10YR5/4に5Y6/2青灰色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 同板ナデ	28	
1289	偏光鏡 萤石	B3 包含層					粗粒少 量	7.5Y7/1灰白色 漂砾少 量	1/8 ヨコナデ	自然物 粗粒少 量	28	
1290	偏光鏡 萤石	B3 包含層					砂粒合 成	7.5Y7/3オーブー黄色 漂砾少 量	1/8 ヨコナデ	自然物 粗粒少 量	28	
1291	偏光鏡 萤石	B3 包含層					粗粒少 量	7.5Y7/3浅黄色 漂砾少 量	1/8 ヨコナデ	自然物 粗粒少 量	28	
1292	偏光鏡 萤石	B3 包含層					砂粒合 成	10YR3/2暗赤褐色 漂砾合 成	5/8 ヨコナデ	自然物 自然物 自然物	28	
1293	日光場	B3 包含層					—	黑色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1294	人間場	B3 包含層					砂粒合 成	2.5Y8/1灰白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1295	人間場	B3 包含層					砂粒合 成	2.5Y6/1黄灰色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1296	開拓 楊	B3 包含層					砂粒合 成	2.5Y6/1灰白色 漂砾合 成	8/8 —	自然物 自然物	28	
1297	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	5YG8/1灰白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1298	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	7.5Y7/2灰白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1299	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	7.5Y7/2灰白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1300	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	7.5Y7/2灰白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1301	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	2.5G9/3灰白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1302	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	2.5G9/8/1灰白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1303	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	漂砾鉄色 漂砾鉄色	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1304	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	漂砾鉄色 漂砾鉄色	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1305	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	漂砾鉄色 漂砾鉄色	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1306	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	10Y6/2オーブー灰白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1307	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	7.5Y6/3オーブー黄色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1308	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	10Y5/3オーブー白色 漂砾合 成	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1309	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	漂砾白色 漂砾白色	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	
1310	中國磨介盤 鐵	B3 包含層					砂粒合 成	漂砾白色 漂砾白色	1/8 ヨコナデ	自然物 自然物	28	

観察番号	器	種	地区名	漬液化	長石・石英	漂母	角閃石	その他の 鉱物含合	色調	質子量	内山測定	外山測定	備考	固有号
1311	中国産青磁	陶	B3	包含層				砂粒含合	10Y7/2灰白色	1/8	無地	無地		28
1312	中国産青磁	陶	B3	包含層				砂粒含合	5Y6/2灰オリーブ色	1/8	無地	無地		28
1313	中国産青磁	陶	B3	包含層				砂粒含合	2.5G7/61リード灰色	1/8	無地	無地		28
1314	中国産青磁	陶	B3	包含層				砂粒含合	10Y7/7明緑灰色	8/8	無地	高反射地		28
1315	中国産青磁	陶	B3	包含層				砂粒含合	5G7/1明緑灰色	1/8	無地	高反射地の直施釉剥落		28
1316	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂少	2.5YR6/6褐色	—	不明	マメツ		29
1317	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂少	2.5YR6/8褐色	7/8	—	マメツ		29
1318	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂少	2.5YR5/8明赤褐色	7/8	不明	ケズイ状ナデ		29
1319	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂含	10Y5/6赤褐色	8/8	不明	マメツ		29
1320	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂含	2.5YR6/8褐色	8/8	ナゲ	箱ねじ入		29
1321	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂少	2.5YR7/2灰白色	5/8	ナゲ	不明		29
1322	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂少	10YR8/3淡青褐色	2/8	ヨコナデ	不明		29
1323	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂多	2.5YR7/3淡青褐色	8/8	ナゲ	マメツ		29
1324	有溝土器	陶	B3	包含層				粗砂含	5YR7/4灰褐色	7/8	—	濃帯ナゲ,地マメツ		29
1325	有溝土器	陶	B3	包含層	粗砂少			粗砂含	10YR7/4灰白色	8/8	—	箱ねじ入		29
1326	有溝土器	陶	B3	包含層				粗砂含	5YR7/6褐色	—	—	マメツ		29
1327	輪郭口	陶	B3	包含層				粗砂少	10YR7/3L-5L1黄褐色	1/8	マメツ	マメツ		29
1328	灰土	陶	B3	包含層				粗砂少	2.5YR6/6褐色	—	不明	マメツ		29
1329	有溝土器	陶	B3	包含層				粗砂含	7.5YR5/4灰褐色	8/8	—	マメツ		29
1330	不明	陶	B3	包含層				粗砂含	2.5YR7/2灰褐色	1/8	マメツ	ヘラミガキ		29
1331	中国産金剛石	目	B3	包含層				砂粒含合	5G7/1明緑灰褐色	1/8	無地	蛋白無地		29
1332	中国産青磁	陶	B3	包含層				砂粒含合	7.5G7/61緑灰褐色	1/8	無地	無地		29
1333	白磁	磁	B3	包含層				砂粒含合	5Y8/5灰白色	1/8	無地	底削底へラケズリ,無地		29
1334	中国産金剛石	陶	B3	包含層				砂粒含合	淡綠灰褐色	1/8	無地	無地		29
1335	中国産青磁	陶	B3	包含層				砂粒含合	5Y6/2灰オリーブ色	1/8	無地	口46ヨコナデ,体削ナデ		29
1336	中国産青磁	陶	B3	包含層				粗砂含	2.5YR7/1黒褐色	1/8	無地	マメツ		29
1337	青状土器	陶	B3	包含層				粗砂含	5Y8/1灰褐色	7/8	不明	体削ナデ,底削ナデ		29
1338	輪郭口	陶	B3	包含層				粗砂少	2.5YR6/3L-5L1赤褐色	3/8	—	底削ナデ,底削ナデ		29

報告番号	器種	地区名	造構名	重量(g)	石材	図版番号	備考
63	砾石	B3	SX03	25.1	頁岩	32	
118	砾石	B3	SX06	2.41	泥岩	31	
119	砾石	B3	SX06	34.72	頁岩	32	
120	砾石	B3	SX06	78.74	流紋岩	31	
121	たたき石	B3	SX06	535.87	不明	33	
282	たたき石	B3	SD22	171.55	粘晶片岩	33	
283	たたき石	B3	SD22	876.93	砂岩	33	
341	砾石	B3	SX04	45.59	頁岩	32	
350	摩滅ある石器	B3	SX08焼土(満有り)	3.7	安山岩	34	
497	砾石	B3	SD01	3.48	頁岩	31	
498	砾石	B3	SD01上面精査及び掘り下げ	17.03	頁岩	32	
647	砾石	B3	SD02	3.63	頁岩	31	
648	砾石	B3	SD02	142.35	流紋岩	31	
649	砾石	B3	SD02	143.18	流紋岩	31	あまり研磨されていない
650	砾石	B3	SD02	156.59	流紋岩	31	
651	砾石	B3	SD02	206.42	流紋岩	31	
652	砾石	B3	SD02	129.31	流紋岩	31	
680	砾石	B3	SD05	157.96	流紋岩	31	
681	砾石	B3	SD05	109.61	砂岩	34	
687	たたき石	B3	SD06	121.14	安山岩	33	
778	砾石	B3	SP0067	21.71	泥岩	32	
832	砾石	B3	ピット(SP0354)	66.96	流紋岩	31	
834.2	硯	B3	ピット(SP0356)	68.32	頁岩	32	
835	硯	B3	ピット(SP0360)	183.75	砂岩	32	
1032	砾石	B3	ピット(SP1119)	16.99	頁岩	32	
1046	砾石	B3	ピット(SP1183)	62.04	流紋岩	31	
1066	砾石	B3	ピット(SP1266)	14.76	泥岩	32	
1067	スタンプ	B3	ピット(SP1279)	55.25	滑石	33	
1339	ナイフ形石器	B3	包含層	11.63	サヌカイト	29	金山
1340	ナイフ形石器	B3	包含層	20.79	サヌカイト	29	O
1341	ナイフ形石器	B3	包含層	48.12	サヌカイト	29	金山
1342	有舌尖頭器	B3	包含層	15.85	サヌカイト	29	O
1343	石核分割	B3	包含層	13.82	サヌカイト	29	金山 風化している
1344	石核分割	B3	包含層(SD24)	20.77	サヌカイト	29	金山
1345	石核	B3	包含層(SD27)	24.43	サヌカイト	29	金山
1346	素材	B3	包含層(SD51)	144.69	サヌカイト	29	金山
1347	石礫	B3	包含層(SP1451)	0.37	サヌカイト	30	金山
1348	石礫	B3	包含層	0.82	サヌカイト	30	金山
1349	石礫	B3	包含層(SP0190)	1.3	サヌカイト	30	金山
1350	石礫	B3	包含層	1.99	サヌカイト	30	金山
1351	石礫	B3	包含層	1.19	サヌカイト	30	金山
1352	石礫	B3	包含層(SD04)	1.24	サヌカイト	30	O
1353	石礫	B3	包含層	3.09	サヌカイト	30	金山
1354	石礫	B3	包含層	1.1	サヌカイト	30	金山
1355	石礫	B3	包含層(SP1316)	1.61	サヌカイト	30	金山
1356	石礫	B3	包含層	0.89	サヌカイト	30	金山
1357	スクレイバー	B3	包含層(ST01)	4.96	サヌカイト	30	金山
1358	スクレイバー	B3	包含層	7.23	サヌカイト	30	金山
1359	スクレイバー	B3	包含層(SP0765)	16.64	サヌカイト	30	金山
1360	スクレイバー	B3	包含層	69.26	サヌカイト	30	金山
1361	スクレイバー	B3	包含層	94.82	サヌカイト	30	金山
1362	楔形石器	B3	包含層	16.13	サヌカイト	30	金山
1363	楔形石器	B3	包含層(SP0718)	18.68	サヌカイト	30	金山
1364	楔形石器	B3	包含層	15.84	サヌカイト	30	金山
1365	楔形石器	B3	包含層	41.59	サヌカイト	30	金山
1366	楔形石器	B3	包含層	54.48	サヌカイト	30	金山
1367	打製石砲丁	B3	包含層(SD01)	51.2	粘晶片岩	30	
1368	磨製石砲丁	B3	包含層	20.46	安山岩	30	
1369	磨製石砲丁	B3	包含層	72.1	安山岩	30	木製品
1370	柱状片刃石斧	B3	包含層	26.84	綠泥片岩	30	

B3区 石器觀察表(i)

報告番号	器種	地区名	遺構名	重量(g)	石材	図版番号	備考
1371	たたき石	B3	包含層	36.15	サヌカイト	33	金山
1372	垂玉	B3	包含層	9.11	不明	33	
1373	打ち欠き石錘	B3	包含層	121.87	砂岩	33	
1374	不明	B3	包含層	227.61	結晶片岩	33	
1375	石錘	B3	包含層	3.6	漂石	32	
1376	石錘	B3	包含層	61.05	漂石	32	
1377	石錘	B3	包含層	22.95	漂石	32	
1378	スタンブ	B3	包含層	7.67	漂石	33	石錘軸用
1379	スタンブ	B3	包含層	6.39	漂石	33	
1380	スタンブ	B3	包含層	23.77	漂石	33	
1381	杵石	B3	包含層	1.08	不明	33	両面ともほとんど表面がうすく剥離している
1382	杵石	B3	包含層	8.04	泥岩	31	
1383	杵石	B3	包含層	10.97	泥岩	31	
1384	杵石	B3	包含層	2.86	頁岩	31	
1385	杵石	B3	包含層	4.12	頁岩	31	
1386	杵石	B3	包含層	13.43	頁岩	32	
1387	杵石	B3	包含層	17.98	頁岩	32	
1388	杵石	B3	包含層	7.81	流紋岩	31	被熱している?
1389	杵石	B3	包含層	42.73	流紋岩	31	
1390	杵石	B3	包含層	37.22	流紋岩	31	
1391	杵石	B3	包含層	57.5	流紋岩	31	
1392	杵石	B3	包含層	67.18	流紋岩	31	
1393	杵石	B3	包含層	103.51	流紋岩	31	
1394	杵石	B3	包含層	35.99	砂岩	32	
1395	杵石	B3	包含層	152.41	砂岩	34	
1396	杵石	B3	包含層	328.37	安山岩	34	

B3区 石器観察表(2)

報告番号	器種	地区名	造構名	重量(g)	材質	出版番号	備考
56	刀子	B3	SK02		鉄		
57	刀子	B3	SK02		鉄		
58	釘	B3	SK02		鉄		
59	釘	B3	SK02		鉄		
60	釘	B3	SK02		鉄		
68	不明	B3	SX05		鉄		
69	釘	B3	SK06		鉄		
82	釘	B3	ST03		鉄		
85	釘	B3	ST07		鉄		
122	小刀	B3	SX06		鉄		
123	小刀	B3	SX06		鉄		
124	釘	B3	SX06		鉄		
125	釘	B3	SX06		鉄		
126	釘	B3	SX06		鉄		
127	釘	B3	SX06		鉄		
128	鉗	B3	SX06		鉄		
129	不明	B3	SX06		鉄		
138	釘	B3	SX07		鉄		
173	釘	B3	SX10		鉄		
174	釘	B3	SX10		鉄		
175	釘	B3	SX12		鉄		
176	釘	B3	SX12		鉄		
177	釘	B3	SX12		鉄		
178	釘	B3	SX12		鉄		
179	釘	B3	SX12		鉄		
180	釘	B3	SX12		鉄		
181	釘	B3	SX12		鉄		
182	釘	B3	SX12		鉄		
183	釘	B3	SK12		鉄		
184	釘	B3	SX12		鉄		
185	不明	B3	SK12		鉄		
186	不明	B3	SK12		鉄		
187	鉄器	B3	SK12		鉄		
188	不明	B3	SK12		鉄		
227	銅錢	B3	SX14	2.09	銅	35	唐宋元寶あるいは熙寧元寶
233	釘	B3	SX15		鉄		
240	釘	B3	SX18		鉄		
266	釘	B3	SD13		鉄		
267	釘	B3	SD13		鉄		
284	不明	B3	SD22		鉄		
342	釘	B3	SX04		鉄		
343	釘	B3	SX04		鉄		
499	釘	B3	SD01		鉄		
500	釘	B3	SD01		鉄		
501	釘	B3	SD01		鉄		
502	釘	B3	SD01		鉄		
503	釘	B3	SD01		鉄		
504	釘	B3	SD01		鉄		
505	釘	B3	SD01		鉄		
506	不明	B3	SD01		鉄		
507	不明	B3	SD01		鉄		
508	不明	B3	SD01		鉄		
509	不明	B3	SD01		鉄		
510	不明	B3	SD01	3.31	銅	35	
512	銅錢	B3	SD01	3.23	銅	34	大聖元寶
513	銅錢	B3	SD01	2.68	銅	34	熙寧元寶
514	銅錢	B3	SD01	0.63	銅	35	銘不明
653.1	不明	B3	SD02	4.03	銅		
653.2	不明	B3	SD02		銅		
654	銅錢	B3	SD02	2.8	銅	34	皇宋通寶

報告番号	器種	地区名	遺構名	重量(g)	材質	回収番号	備考
655	銅鏡	B3	SD02	2.22	銅	35	洪武通寶
656	銅鏡	B3	SD02	3.52	銅	35	永樂通寶
665	銅鏡	B3	SD04	2.53	銅	34	皇宋通寶
688	釘	B3	SD06		鉄		
689	釘	B3	SD06		鉄		
712	不明	B3	SD12		鉄		
731	釘	B3	SD21		鉄		
732	不明	B3	SD21		鉄		
762	釘	B3	SD28		鉄		
772	釘	B3	ピット(SP0037)		鉄		
773	小刀	B3	ピット(SP0042)		鉄		
796	釘	B3	ピット(SP0182)		鉄		
847	釘	B3	ピット(SP0385)		鉄		
870	かすがい	B3	ピット(SP0463)		鉄		
871	釘	B3	ピット(SP0464)		鉄		
882	銅鏡	B3	ピット(SP0566)	2.59	銅	35	元豐通寶
902	釘	B3	ピット(SP0709)		鉄		
905	釘	B3	ピット(SP0718)		鉄		
942	釘	B3	ピット(SP0818)		鉄		
954	釘	B3	ピット(SP0878)		鉄		
971	青銅製 瓶	B3	ピット(SP0939)	15.4	銅	34	
972	青銅製 器台	B3	ピット	9.52	銅	34	
978	釘	B3	ピット(SP0942)		鉄		
1000	釘	B3	ピット(SP1005)		鉄		
1001	釘	B3	ピット(SP1005)		鉄		
1045	不明	B3	ピット(SP1175)		鉄		
1057	不明	B3	ピット(SP1252)		鉄		
1061	釘	B3	ピット(SP1253)		鉄		
1083	釘	B3	ピット(SP1315)		鉄		
1084	釘	B3	ピット(SP1316)		鉄		
1085	釘	B3	ピット(SP1316)		鉄		
1086	釘	B3	ピット(SP1316)		鉄		
1094	釘	B3	ピット(SP1344)		鉄		
1097	釘	B3	ピット(SP1363)		鉄		
1111	釘	B3	ピット(SP1406)		鉄		
1117	釘	B3	ピット(SP1423)		鉄		
1119	小刀	B3	ピット(SP1432)		鉄		
1124	飾り金具	B3	ピット(SP1442)	3.41	銅	35	
1141	釘	B3	ピット(SP1491)		鉄		
1160	不明	B3	ピット(SP1572)		鉄		
1162	不明	B3	ピット(SP1594)		鉄		
1164	釘	B3	ピット(SP1599)		鉄		
1187.2	不明	B3	ピット(SP0051)		鉄		
1224	鍔先	B3	近世以降(SD51)		鉄		
1225	不明	B3	近世以降(SD51)		銅		
1397	小刀	B3	包合層		鉄		
1397.2	小刀	B3	包合層		鉄		
1398	小刀	B3	包合層		鉄		
1399	小刀	B3	包合層		鉄		
1400	小刀	B3	包合層		鉄		
1401	鍔先	B3	包合層		鉄		
1402	鍔先	B3	包合層		鉄		
1403	釘	B3	包合層		鉄		
1404	釘	B3	包合層		鉄		
1405	釘	B3	包合層		鉄		
1406	不明	B3	包合層		鉄		
1407	不明	B3	包合層		鉄		
1408	不明	B3	包合層		鉄		
1409	不明	B3	包合層		鉄		
1410	不明	B3	包合層		鉄		

B3区 金属器觀察表(2)

報告番号	器種	地区名	遺構名	重量(g)	材質	図版番号	備考
1411	不明	B3	包含層		鉄		
1412	不明	B3	包含層		鉄		
1413	不明	B3	包含層		鉄		
1414	不明	B3	包含層		鉄		
1415	不明	B3	包含層		鉄		
1416	不明	B3	包含層		鉄		
1417	不明	B3	包含層		鉄		
1418	刀	B3	包含層		鉄		
1419	不明	B3	包含層		鉄		
1420	不明	B3	包含層		鉄		
1421	不明	B3	包含層		鉄		
1422	不明	B3	包含層		鉄		
1423	不明	B3	包含層		鉄		
1423.2	銅錢	B3	包含層	2.59	銅	34	太平通寶
1424	銅錢	B3	包含層	2.58	銅	34	皇宋通寶
1425	銅錢	B3	包含層	3	銅	34	景祐元寶
1426	銅錢	B3	包含層	2.48	銅	35	元豐通寶
1427	銅錢	B3	包含層	4.19	銅	35	元祐通寶
1428	銅錢	B3	包含層	3.57	銅	35	永泰通寶
1429	銅錢	B3	包含層	3.14	銅	35	永泰通寶
1430	銅錢	B3	包含層	3.14	銅	35	永泰通寶
1431	銅錢	B3	包含層	2.28	銅	35	「元」「通」「寶」の3字
1432	銅錢	B3	包含層	1.82	銅	35	此不明
1433	不明	B3	包含層	1.06	銅	35	
1434	不明	B3	包含層	5.49	銅	35	
1435	不明	B3	包含層	8.65	銅	35	
1436	不明	B3	包含層	8.61	銅	35	
1437	不明	B3	包含層	6	銅	35	
1438	紅皿	B3	包含層		金銅	35	
1441	不明	B3	包含層		鉄		
1442	銅錢	B3	包含層	2.89	銅	35	元豐通寶
1443	銅錢	B3	包含層	1.17	銅	34	天聖元寶
1444	銅錢	B3	包含層	3.21	銅	35	「天元通寶」「天元通寶」「天聖元宝」
1445	銅錢	B3	包含層	3.77	銅	35	大觀通寶

B3区 金属器観察表(3)

報告番号	遺構名	器種	図版番号	樹種	備考
730	SD14	柱材(加工木)	35	スギ製	
1155	SP1564	蓋	35	スギ製	
1156	SP1564	不明	36	広葉樹	
1157	SP1564	不明	36	ヒノキ製?	孔あり
1226	SD51	栓	36	スギ製	
1439	包含層	板材	36	スギ製?	
1440	包含層	加工木	36	マツ製?	

B3区 木器観察表

河川番号	道 備 名	土 壯 名	高 度	地 様	施 工	外 色	調 査	内面調整	外面調整	执行状況	備 考	因数番号
1446 A 2 区 SH01	生後附 枝	生後附 枝	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/4mL/5mW/5mB 外 1.5mR/2mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少 漂砂・漂砂少	板ナデ・タキナデ ヨコナデ	タケナシ・タキナデ	2/8					
1447 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8					
1448 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8					
1449 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タミガキ	タミガキ	2/8					
1450 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	マツツ	マツツ	2/8					
1451 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ヨコガキ	ヨコガキ	4/8					
1452 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ヨコガキ・ヨコガキ ヨコガキ・ヨコガキ	ヨコガキ・ヨコガキ	1/8					
1453 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	板ナデ・タキナデ ヨコナデ	板ナデ・タキナデ ヨコナデ	5/8					
1454 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ・ヨコナデ	タケナシ・ヨコナデ	1/8					
1455 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	1/8					
1456 A 2 区 SH01	生後附 蓬	生後附 蓬	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タテハナ・船オサエ・ナデ	タテハナ・船オサエ・ナデ	1/8					
1457 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	2/8					
1458 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	1/8					
1459 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	3/8					
1460 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	3/8					
1461 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ・船オサエ ヨコミ	タケナシ・船オサエ ヨコミ	3/8					
1462 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	1/8					
1463 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ・ナデ	タケナシ・ナデ	1/8					
1464 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	1/8					
1465 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ・船オサエ	タケナシ・船オサエ	1/8					
1466 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	1/8					
1467 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	1/8					
1468 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	1/8					
1469 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	1/8					
1470 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	板ナデ	板ナデ	1/8					
1471 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	タケナシ	タケナシ	1/8					
1472 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ナデ	ナデ	3/8					
1473 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	シギリ板・ナデ	シギリ板・ナデ	6/8					
1474 A 2 区 SH01	生後附 漂	生後附 漂	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8					
1475 A 2 区 SH01	山系系	表砂器台	外 10mR/4mL/5mW/5mB 内 10mR/2mL/5mW/5mB	漂砂・漂砂少	ヨコケズリ	ヨコケズリ	1/8					

種別(学名)	通称名	十箇名	香	味	形	土	色	調	内面測定		外面測定	灰分率	備考	肉眼分
									外	内	ヨコナデ	タテナデ		
糞(内寄生)	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1476 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1477 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1478 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1479 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1480 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1481 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1482 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1483 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1484 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1485 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1486 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1487 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1488 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1489 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1490 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1491 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1492 A 2 K SH01	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1496 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1497 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1498 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1499 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1500 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1501 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1502 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1503 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1504 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1505 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1506 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1507 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		
1508 A 2 K SH02	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	糞	5.7%	8.8%	糞色	1/8		

標識番号	地圖名	上層名	岩相	生長帶	土	石	色	調	内面顕微鏡	外面顕微鏡	保存庫	備考	出版番号
1539	A 2 K SH02	劣生後期 壓	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 5%灰褐色	タテミガキ, ナデ	タテハケ	1/8	1/8			
1540	A 2 K SH02	劣生後期 熟	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 5%灰褐色	ヨコナデ	ヨコナデ, タテハケ	1/8	1/8			
1541	A 2 K SH02	劣生後期 混	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	ヨコナデ, ナデ	タテケズリ, ナデ	4/8	168と同側体			
1542	A 2 K SH02	劣生後期 混	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外内: 10.8%灰褐色	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	ミガキ	マメツ	1/8	1/8			
1543	A 2 K SH02	劣生後期 純	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ヨコナデ, タテミガキ	マメツ	1/8	1/8			
1544	A 2 K SH02	劣生後期 純	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ヨコナデ	マメツ	1/8	1/8			
1545	A 2 K SH02	劣生後期 高	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	ナデ	タテミガキ	1/8	1/8			
1546	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ナダ?	マメツ	1/8	1/8			
1547	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	マメツ	タテハケ	1/8	1/8			
1548	A 2 K SH02	劣生後期 外	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	板ナデ	板ナデ, ヨコミガキ	1/8	1/8			
1549	A 2 K SH02	劣生後期 混	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	板ナデ	タテヨコミガキ, ヨコナデ	1/8	1/8			
1550	A 2 K SH02	劣生後期 混	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	板ナデ	タテヨコミガキ, ヨコナデ	1/8	1/8			
1551	A 2 K SH02	劣生後期 純	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	板ナデ	板ナデ	1/8	1/8			
1552	A 2 K SH02	劣生後期 混	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	板ナデ	板ナデ	1/8	1/8			
1553	A 2 K SH02	劣生後期 混	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	外: 10.8%灰褐色 内: 10.8%灰褐色	ナデ	ナデ	1/8	1/8			
1554	A 2 K SH02	劣生後期 純	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ナデ	タテハケ	1/8	1/8			
1555	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ナデ	ナデ	1/8	1/8			
1556	A 2 K SH02	劣生後期 純	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	マメツ	タテハケ, ナデ	1/8	1/8			
1557	A 2 K SH02	劣生後期 混	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ナデ	マメツ	1/8	1/8			
1558	A 2 K SH02	劣生後期 混	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ナデ	ケズリ, ナデ	2/8	2/8			
1559	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	タテミガキ	ヨコナデ	1/8	1/8			
1560	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	タテミガキ	ナデ	1/8	1/8			
1561	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	板ナデ	タテケズリ, ナデ	1/8	1/8			
1562	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	板ナデ	タテケズリ, ナデ	3/8	3/8			
1563	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ナデ	タテケズリ, ナデ	3/8	3/8			
1564	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ヨコナデ	タテハケ, タテケズリ	1/8	1/8			
1565	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ヨコナデ	タテケズリ, ナデ	1/8	1/8			
1566	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	ナデ	タテケズリ, ナデ, タテケズス	3/8	3/8			
1567	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	マメツ	マメツ	1/8	1/8			
1568	A 2 K SH02	劣生後期 薄	長石・石英砂岩	長石・石英砂岩	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	外: 7.5%灰褐色 内: 7.5%灰褐色	タテミガキ	ナデ	1/8	1/8			

地図番号	流域名	土質名	岩種	堆積物	土	色調	内面調査	外見調査	備考	地図番号
1569 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂・鈣砂や含	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	1/8	
1570 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	1/8	
1571 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	左上がりタキナデ	48	
1572 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	1/8	
1573 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	1/8	
1574 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナメツ	ナメツ	ナメツ	1/8	
1575 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナメツ	ナメツ	ナメツ	1/8	
1576 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ヨコハケ ミガキ?	ヨコハケ ミガキ?	ヨコハケ ミガキ?	1/8	
1577 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	タケツリ	タケツリ	板ナデ	4/8	
1578 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	1/8	
1579 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	板ナデ,ヨコミガキ ケズリ,ナデ	板ナデ,ヨコミガキ ケズリ,ナデ	板ナデ,ヨコミガキ ケズリ,ナデ	2/8	
1580 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ヨコナデ,タダケズリ	ヨコナデ,タダケズリ	ヨコナデ,タダケズリ	4/8	
1581 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	4/8	
1582 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	板ナデ	板ナデ	板ナデ	3/8	
1583 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	1/8	
1584 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	1/8	
1585 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ヨコハケ,ナデ	ヨコハケ,ナデ	ヨコハケ,ナデ	6/8	
1586 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	6/8	
1587 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	1/8	
1588 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナメツ	ナメツ	ナメツ	1/8	
1589 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	タケツリ,板ナデ	タケツリ,板ナデ	タケツリ,板ナデ	1/8	
1590 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	タケツリ,板ナデ	タケツリ,板ナデ	タケツリ,板ナデ	7/8	
1591 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	6/8	
1592 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	タハハケ,ナデ	タハハケ,ナデ	タハハケ,ナデ	8/8	
1593 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ヨコハケ,ナデ	ヨコハケ,ナデ	ヨコハケ,ナデ	6/8	
1594 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ヨコハケ,ナデ	ヨコハケ,ナデ	ヨコハケ,ナデ	2/8	
1595 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	2/8	
1596 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	タタハタ,ナデ	タタハタ,ナデ	タタハタ,ナデ	1/8	
1597 A 2 K SH02	深生樹林	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 7.5YR6/6(6)褐色 内: 10YR7/4(4)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	6/8	
1598 A 2 K SH02	不明	千ヶね上層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 10YR4/6(6)褐色 内: 10YR4/6(6)褐色	ナデ	ナデ	ナデ	6/8	

標本番号	地 点	名	土 壹 名	基 质	通 气	透 水	上	色 调	内面构造	外 部构造	残存率	備 考	圆版番号
1599	A 2 区	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	ナデ	8/8		
1600	A 2 区	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	7/8	48	
1601	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ミガキ?	ヨコミガキ, 滑鳞1条	1/8		
1602	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	タラナカ, 鳞片全曲	1/8		
1603	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	ナデ	1/8	寄生文系混入	
1604	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	タチハタ	1/8		
1605	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	マメツ	1/8		
1606	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	ナデ	1/8	断面混入品	
1607	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	1/8		
1608	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	4/8	混入品	
1609	A 2 K	SH02	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	2/8		
1610	A 2 K	SH07	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ヨコミガキ	タラナカ, 直ナデ	1/8		
1611	A 2 K	SH06	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	タラナカ, ナデ	1/8		
1612	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	2/8		
1613	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	ヨリミナチ, 断面直板ヘタキ	1/8		
1614	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	ヨリミナチ, 断面直板ヘタキ	1/8		
1615	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	タチハタ	タチハタ	1/8		
1616	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	1/8		
1617	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	ナデ, 間オサエ	1/8		
1618	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	一	板ナデ	—		
1619	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ヨコミガキ	タラナカ, ヨコミガキ	1/8		
1620	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	1/8		
1621	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	1/8		
1622	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	ヨリミナチ, 断面直板ヘタキ	2/8		
1623	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	ヨリミナチ, 断面直板ヘタキ	1/8		
1624	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	板ナデ	板ナデ	1/8		
1625	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	ナデ	8/8		
1626	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	ナデ	7/8		
1627	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	ナデ	8/8		
1628	A 2 K	SH05	浮石	浮石	良好	良好	灰白	外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色 外: 5YR 6/1-4; 内: 黄褐色	ナデ	ナデ	8/8		

神奈川県	道 線 名	上層名	西 植	南 植	北 土	色 調	内油鑑鑑	外油鑑鑑	紙秤半	偏 光	固相分
1629 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	良石・石英細砂少	良石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1630 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	良石・石英細砂少	良石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1631 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	良石・石英細砂少	良石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1632 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1633 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1634 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	7/8		
1635 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂多	長石・石英細砂多	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1636 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1637 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1638 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1639 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	7/8		
1640 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1641 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1642 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	8/8		
1643 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	7/8		
1644 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	7/8		
1645 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	6/8		
1646 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	7/8		
1647 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	7/8		
1648 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	5/8		
1649 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	2/8		
1650 A 2 K SB05	管状土層	管状土層	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：SYK/4-1 内：SYK/4-1 外：57%白 内：57%白 外：2.5%黄 内：2.5%黄 外：10%灰 内：10%灰	-	-	ナデ	2/8		
1651 A 2 K SB01	西村地質剖面 植	西村地質剖面 植	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：N0/0h白色 内：N0/0h白色	タチハケ	同様ミガキ	7/8			
1652 A 2 K SB01	土壌質土器 Ⅲ	土壌質土器 Ⅲ	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：N0/0h白色 内：N0/0h白色	タチハケ	同様ミガキ→サリ	3/8			
1653 A 2 K SB01	土壌質土器 植	土壌質土器 植	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：N0/0h白色 内：N0/0h白色	ヨコヒケ、タチハケ	タチハケ、ナデ	2/8			
1654 A 2 K SB01	東洋系地質 植	東洋系地質 植	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：N0/0h白色 内：N0/0h白色	タチハケ	同様ナデ	1/8			
1655 A 2 K SB04	白細質陶 植	白細質陶 植	砂粒含まず	砂粒含まず	外：10G7/1灰褐色 内：10G7/1灰褐色	施相	施相	1/8			
1656 A 2 K SB04	十輪質土器 植	十輪質土器 植	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：10G7/1灰褐色 内：10G7/1灰褐色	ナデ	ナデ	-			
1657 A 2 K SD01	中層 東洋系地質器 植	中層 東洋系地質器 植	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外：N0/0h白色 内：N0/0h白色	同様ナデ	同様ナデ	1/8			
1658 A 2 K SD01	中層 地質系地質器 陶	中層 地質系地質器 陶	砂粒含らず	砂粒含らず	外：10G7/1灰褐色 内：10G7/1灰褐色	施相	施相	1/8			

規格番号	通称名	上層名	中層	底層	鉢	上	色調	内面調査	外面部調査	現存率	備考	回収率
1659 A 2 K SD01	小壺	電球系須恵器 捨持	灰石・石炭繊維少	外: 2.57H/4.5W/1.5D 黄褐色 内: 2.57H/4.5W/1.5D 黄褐色	板ナデ	平行ナキ	1/8					
1660 A 2 K SD01	中壺	灰石繊維器 直	砂粒含まず	外: 3.0W/1.5D 白色	施袖	施袖	1/8					
1661 A 2 K SD01	中壺	金張瓦陶器 瓶	砂粒含ます	外: 2.5W/2.5D 白色 内: 2.5W/2.5D 黄褐色	施袖	施袖	4/8					
1662 A 2 K SD01	漏斗	燒附 砂利	砂粒含まず	外: 2.5W/2.5D 黄褐色 内: 2.5W/2.5D 黄褐色	施袖	施袖	1/8					
1663 A 2 K SD01	漏斗	燒附 瓷	砂粒含まず	外: 2.5W/2.5D 黄褐色 内: 2.5W/2.5D 黄褐色	施袖	施袖	1/8					
1664 A 2 K SD01	漏斗	燒附 瓷	灰石・石炭	外: 2.5W/2.5D 黄褐色 内: 2.5W/2.5D 黄褐色	施袖	施袖ナデ	1/8					
1665 A 2 K SD01	中壺	上島山空窓引窓器 变	灰石・石炭繊維少	外: 3.0W/1.5D 黄褐色 内: 3.0W/1.5D 黄褐色	板ナデ	板ナデ	1/8					
1666 A 2 K SD01	小壺	上島山空足 島足	灰石・石炭繊維多	外: 3.0W/1.5D 黄褐色 内: 3.0W/1.5D 黄褐色	タハナ・ナデ	タハナ・ナデ	1/8					
1667 A 2 K SD01	中壺	簡前焼 人體	灰石・石炭繊維・織物紋	外: 3.0W/1.5D 黄褐色	板ナデ 回転ナデ	回転ナデ	1/8					
1668 A 2 K SD01	中壺	東都系須恵器 捨持	灰石・石炭繊維少	外: 3.0W/1.5D 黄褐色 内: 3.0W/1.5D 黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8					
1669 A 2 K SD01	中壺	牧野系須恵器 捨持	灰石・石炭繊維少	外: 3.0W/1.5D 黄褐色 内: 3.0W/1.5D 黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8					
1670 A 2 K SD01	矮下壺	資本土器	灰石・石炭繊維少	外: 3.0W/1.5D 黄褐色 内: 3.0W/1.5D 黄褐色	—	ナデ	4/8					
1671 A 2 K SD01	矮下壺	土質質土器 直	灰石・石炭繊維少	外: 3.0W/1.5D 黄褐色 内: 3.0W/1.5D 黄褐色	板ナデ	回転板ナデ	2/8					
1672 A 2 K SD01	矮下壺	十脚實十箇 杯	灰石・石炭繊維少	外: 2.5W/2.5D 黄褐色 内: 2.5W/2.5D 黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8					
1673 A 2 K SD01	矮下壺	上島質土器 杯	灰石・石炭繊維少	外: 1.0W/2.5D 黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	1/8					
1674 A 2 K SD01	矮下壺	上島質 地(青白)	砂粒含まず	外: 1.0W/2.5D 黄褐色	施袖	施袖	3/8					
1675 A 2 K SD01	矮下壺	十脚山空窓引窓器 直	灰石・石炭繊維少	外: 1.0W/2.5D 黄褐色 内: 1.0W/2.5D 黄褐色	板ナデ	回転ナデ	1/8					
1676 A 2 K SD01	矮下壺	土質質土器 直	砂粒含多	外: 1.5W/2.5D 黄褐色 内: 1.5W/2.5D 黄褐色	板ナデ	タハナ・ナデ	1/8					
1677 A 2 K SD01	矮下壺	十脚實十箇 鋼	灰石・石炭中	外: 1.5W/2.5D 黄褐色 内: 1.5W/2.5D 黄褐色	板ナデ	タハナ・ナデ	1/8					
1678 A 2 K SD01	矮下壺	十脚山空窓引窓器 灰	灰石・石炭繊維少	外: 1.0W/2.5D 黄褐色 内: 1.0W/2.5D 黄褐色	板ナデ	板ナデ	1/8					
1679 A 2 K SD01	矮下壺	燒附不明陶器 循利	砂粒含まず	外: 1.0W/2.5D 黄褐色 内: 1.0W/2.5D 黄褐色	施袖	施袖	1/8					
1680 A 2 K SD01	地位不明前焼 櫛付	灰石・石炭繊維少	砂粒含多	外: 1.0W/2.5D 黄褐色 内: 1.0W/2.5D 黄褐色	板ナデ	タハナ・ナデ	1/8					
1681 A 2 K SD01	地位不明 十脚實十箇 鋼	灰石・石炭中	砂粒含少	外: 1.5W/2.5D 黄褐色 内: 1.5W/2.5D 黄褐色	板ナデ	ナデ	1/8					
1682 A 2 K SD01	地位不明 上島質土器 捨持	灰石・石炭繊維少	砂粒	外: 1.0W/2.5D 黄褐色 内: 1.0W/2.5D 黄褐色	ナデ	ナデ	1/8					
1683 A 2 K SD01	地位不明質土器	灰石・石炭繊維少	砂粒	外: 1.0W/2.5D 黄褐色 内: 1.0W/2.5D 黄褐色	—	ナデ	8/8					
1684 A 2 K PS006	土質質土器 直	長石・石炭繊維少	砂粒含少	外: 1.0W/2.5D 黄褐色 内: 1.0W/2.5D 黄褐色	板ナデ	回転板ナデ	1/8					
1685 A 2 K PS006	上島質土器 直	砂粒含多	砂粒	外: 1.5W/2.5D 黄褐色 内: 1.5W/2.5D 黄褐色	板ナデ	回転板ナデ	1/8					
1686 A 2 K PS006	上島質土器 杯	長石・石炭繊維少	砂粒	外: 1.0W/2.5D 黄褐色 内: 1.0W/2.5D 黄褐色	板ナデ	回転板ナデ	1/8					
1687 A 2 K SD01	PS006 上島質土器 杯	長石・石炭繊維少	砂粒	外: 2.5W/2.5D 黄褐色	回転板ナデ	回転板ナデ	1/8					

地質番号	地名	土層名	岩 種	基 礎 土	色 調	中面構造	外面构造	参考	地質番号
1688 A 2 K S001	PSN06 上部瓦器 杯	長石・石灰繊維少	外: 10YR8/1赤/白 内: 10YR8/2赤白色	圓柱ナデ	圓柱ナデ、瓦器瓦片ヘラキ	1/8			
1689 A 2 K S001	PSN06 上部瓦器 杯	長石・石灰繊維少	外: 10YR8/2赤白色	圓柱ナデ	円柱ナデ、瓦器瓦片ヘラキ	6/8			
1690 A 2 K S001	PSN06 上部瓦器 杯	長石・石灰繊維少	外: 10YR8/2赤白色	圓柱ナデ	円柱ナデ、瓦器瓦片ヘラキ	2/8			
1691 A 2 K S001	PSN06 上部瓦器 杯	長石・石灰繊維多	外: 10YR8/2灰黄色 内: 10YR8/2灰白色	圓柱ナデ	圓柱ナデ、瓦器瓦片ヘラキ	1/8			
1692 A 2 K S001	PSN06 上部瓦器 杯	砂粒含ます	内: 2.5YR8/2灰白色	圓柱ナデ	圓柱ナデ	1/8			
1693 A 2 K S001	PSN06 上部瓦器 杯	砂粒含ます	外: N: 5YR7/2灰白色	「ナ」、ミガキ	圓柱ナデ	2/8			
1694 A 2 K S001	PSN06 上部瓦器 杯	長石・石灰繊維少	外: 10YR8/2灰白色 内: 7.5YR7/4灰/青色	ミガキ	圓柱ナデ、指サエ	6/8			
1695 A 2 K S001	PSN06 上部瓦器 杯	長石・石灰繊維少	外: 7.5YR7/4灰/青色 内: 7.5YR7/4灰/青色	ヨリハツ	タバハツ、ナデ	1/8			
1697 A 2 K S002	上部瓦器 皿	長石・石灰繊維少	外: 7.5YR8/4灰/青色 内: 7.5YR8/4灰/青色	圓柱ナデ	圓柱ナデ、瓦器瓦片ヘラキ	1/8			
1698 A 2 K S002	上部瓦器 皿	砂粒含ます	外: 7.5YR8/4灰/青色 内: 7.5YR8/4灰/青色	圓柱ナデ	圓柱ナデ、瓦器瓦片ヘラキ	3/8			
1699 A 2 K S002	上部瓦器 皿	砂粒含ます	外: 2.5YR8/4灰白色	圓柱ナデ	圓柱ナデ	1/8			
1700 A 2 K S002	上部瓦器 皿	長石・石灰繊維少	外: 2.5YR8/2灰白色	圓柱ナデ	圓柱ナデ	2/8			
1701 A 2 K S002	上部瓦器 皿	砂粒含ます	外: N: 10YR8/2灰白色	圓柱ナデ	圓柱ナデ	2/8			
1702 A 2 K S002	上部瓦器 皿	砂粒含ます	外: 7.5YR8/4灰/青色 内: 7.5YR8/4灰/青色	圓柱ナデ	圓柱ナデ	1/8			
1703 A 2 K S002	上部瓦器 皿	砂粒含ます	外: N: 10YR8/4灰/青色 内: 10YR7/1灰/白	圓柱ナデ	圓柱ナデ、瓦器瓦片ヘラキ	1/8			
1704 A 2 K S002	上部瓦器 皿	砂粒含ます	外: 10YR7/1灰/白 内: 10YR8/2灰/白	圓柱ナデ	圓柱ナデ	4/8			
1705 A 2 K S002	上部瓦器 皿	長石・石灰繊維少	外: 7.5YR8/2灰/白 内: 7.5YR8/1灰/白	圓柱ナデ	圓柱ナデ	1/8			
1706 A 2 K S002	上部瓦器 皿	長石・石灰繊維少	外: N: 10YR8/1灰/白 内: N: 7.5YR8/1灰/白	圓柱ナデ	圓柱ナデ	1/8			
1707 A 2 K S002	上部瓦器 皿	長石・石灰繊維少	外: N: 7.5YR8/1灰/白 内: N: 7.5YR8/1灰/白	圓柱ナデ	圓柱ナデ	1/8			
1708 A 2 K S002	上部瓦器 皿	長石・石灰繊維少	外: 5YR7/1灰白色	圓柱ナデ	圓柱ナデ	1/8			
1709 A 2 K S002	上部瓦器 皿	長石・石灰繊維多	外: 7.5YR8/6灰/青色 内: 7.5YR8/5灰/青色	板ナデ	タバハツ	1/8			
1710 A 2 K S002	上部瓦器 皿	長石・石灰繊維少	外: 7.5YR8/5灰/青色 内: 7.5YR8/4灰/青色	板ナデ	圓柱ナデ	2/8			
1711 A 2 K S002	伴生崩壊 皿	長石・石灰繊維少	外: 7.5YR8/5灰/青色 内: 7.5YR8/4灰/青色	マツツ	マツツ	2/8			
1712 A 2 K S002	伴生崩壊 皿	長石・石灰繊維少	外: N: 10YR8/1灰/白 内: N: 10YR8/1灰/白	板ナデ	平行タキ	1/8			
1713 A 2 K S002	伴生崩壊 皿	長石・石灰繊維少	外: N: 5YR6/1灰/白	板ナデ	格子タタキ	1/8			
1714 A 2 K S002	伴生崩壊 皿	長石・石灰繊維少	外: 2.5YR5/1灰/白 内: 2.5YR5/1灰/白	板ナデ	格子タタキ	1/8			
1715 A 2 K S002	土解消 泥炭	長石・石灰繊維少	外: 7.5YR8/5灰/青色 内: 7.5YR8/4灰/青色	板ナデ	ナデ	1/8			
1716 A 2 K S002	土解消 泥炭	長石・石灰繊維少	外: 10YR7/3灰/青色 内: 10YR7/3灰/青色	板ナデ	ナデ	1/8			
1717 A 2 K SD16	土解消 泥炭	長石・石灰繊維少	外: 2.5YR7/2灰/青色	板ナデ	タバハツ	1/8			
1718 A 2 K SD16	土解消 泥炭	長石・石灰繊維少	外: N: 10YR8/1灰/白	板ナデ	格子タタキ	1/8			

鉱物番号	通 番 号	上 番 号	上 番 名	石 相	粒 程	粒 上	色	内面鏡像	外面鏡像	特征半	備 考	図版番号
1719	A 2 K	S002	土壌岩 壓	長石・石英砂岩・鈣長石 外内：2.5V/10%白色	鈣ナデ		外：2.5V/10%白色 内：2.5V/10%白色	ナデ		1/8		
1720	A 2 K	S016	生長岩質 食付鉢	長石・石英砂岩 外内：2.5V/6%白色	ナデ		外：2.5V/6%白色 内：2.5V/6%白色	ナデ		1/8		
1721	A 2 K	S016	結晶岩質 亜鉢	鈣長石・鈣 鈣長石含まず			外：N/0%白色 内：2.5G/1%一薄灰白色	鈣ナデ・鈣鈣 鈣ナデ	鈣ナデ・鈣鈣 鈣ナデ	1/8	鈣ナデ・鈣鈣 鈣ナデ	
1722	A 2 K	S018	土壌岩 上器	長石・石英砂岩少			外内：2.5V/8%白色 内：2.5V/8%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		
1723	A 2 K	S018	土壌岩 鉢	鈣長石含まズ			外：2.5V/8%白色 内：2.5V/4%白色	ナデ？	ナデナデ	1/8		
1724	A 2 K	S018	微生物系青板 岩	鈣長石含まズ			外：2.5G/6%1ナリ一薄灰白色 内：2.5G/6%白色	鈣鈣	鈣鈣	7/8		
1725	A 2 K	S018	葉酸系須透器 棒	長石・石英砂岩 長石・石英砂岩少			外：10V/6%白色 内：2.5V/2%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		
1726	A 2 K	S018	葉酸系須透器 枝	長石・石英砂岩少			外：2.5V/4%白色 内：2.5V/4%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		
1727	A 2 K	S018	虫掛系須透器 食付	長石・石英砂岩少			外内：2.5V/1%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		
1728	A 2 K	S018	土壌質上器 足置附	長石・石英砂岩 鈣長石・石英砂岩少			外内：2.5V/7%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		
1729	A 2 K	S018	土壌質 地片	長石・石英砂岩少			外内：10V/6%白色 内：2.5V/1%白色	ナデ	ナデ	1/8		
1730	A 2 K	S014	生長岩 要	長石・石英砂岩少			外：2.5V/7%白色 内：2.5V/7%白色	ナデ	ナデ	1/8		
1731	A 2 K	S014	土壌岩質 岩	鈣長石・石英砂岩少			外：2.5V/6%白色 内：2.5V/6%白色	ヨコナゲ	ヨコナゲ	1/8		
1732	A 2 K	S003	土壌質下器 岩	長石・石英砂岩少			外内：10V/6%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	2/8		
1733	A 2 K	S004	土壌質上器 杯	長石・石英砂岩少			外内：10V/8%白色 内：2.5V/8%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	4/8		
1734	A 2 K	S003	土壌質須透器 岩	長石・石英砂岩少			外内：2.5V/8%白色 内：2.5V/8%白色	ナデ	ナデ	1/8		
1735	A 2 K	S003	東掛系須透器 片	長石・石英砂岩少			外内：N/0%白色	鈣ナデ・鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		
1736	A 2 K	S003	鬼山塊 壓	長石・石英砂岩 長石・石英砂岩少			外：2.5V/2%白色 内：2.5V/2%白色	ナデ	平滑斜タキ	1/8		
1737	A 2 K	S003	土壌質上器 足置	長石・石英砂岩少			外：10V/6%白色 内：10V/6%白色	鈣ナデ	タテナ	1/8		
1738	A 2 K	S003	土壌質土器 岩	鈣長石・石英砂岩 鈣長石・石英砂岩少			外内：10V/6%白色 内：2.5V/8%白色	鈣ナデ	タテナ	1/8		
1739	A 2 K	S005	土壌質土器 亂	鈣長石含まズ			外内：2.5V/7%白色	鈣ナデ	鈣ナデ・鈣鈣	2/8		
1740	A 2 K	S005	土壌質土器 杯	長石・石英砂岩少			外内：2.5V/8%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		
1741	A 2 K	S005	白根縫 (食付)	鈣長石含まズ			外内：2.5V/7/1%白色	鈣鈣	鈣ナデ	1/8		
1742	A 2 K	S008	土壌質上器 壓	長石・石英砂岩少			外：2.5V/8%白色 内：2.5V/8%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		
1743	A 2 K	S008	十櫻山深淵須透器 岩	長石・石英砂岩少			外：2.5V/7%白色 内：2.5V/7%白色	鈣ナデミガキ	鈣ナデ	1/8		
1744	A 2 K	S008	土壌質土器 岩	長石・石英砂岩少			外：10V/6%白色 内：10V/6%白色	鈣ナデ	タテナ	1/8		
1745	A 2 K	S012	土壌質上器 壓	長石・石英砂岩少			外：2.5V/8%白色 内：2.5V/8%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	2/8		
1746	A 2 K	S012	土壌質下器 壓	長石・石英砂岩少			外内：2.5V/8%白色	鈣ナデ	鈣ナデ	1/8		

地図番号	測量区	測量名	土所名	固有種	調査地	上	断面	外観断面	既存率	備考	既存率
1747	A 2 区	SK12	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8 外: 235/2/3/4/5/6/7/8 内: 235/2/3/4/5/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1748	A 2 区	SK12	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 235/2/3/4/5/6/7/8 内: 235/2/3/4/5/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1749	A 2 区	SK12	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 235/2/3/4/5/6/7/8 内: 235/2/3/4/5/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1750	A 2 区	SK12	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 235/2/3/4/5/6/7/8 内: 235/2/3/4/5/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1751	A 2 区	SP068	学生前附	金	長石・石英細砂少	外: 57R8/6/7/8 内: 57R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1752	A 2 区	SP049	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1753	A 2 区	SP158	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 107R8/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1754	A 2 区	SP076	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 107R8/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1755	A 2 区	SP064	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 75R8/6/7/8 内: 75R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1756	A 2 区	SP158	土所質土器	木	砂充含す	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1757	A 2 区	SP110	土所質土器	木	長石・石英細砂少	外: 57R8/6/7/8 内: 57R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1758	A 2 区	過橋外	学生前附	人形壹	長石・石英多	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1759	A 2 区	過橋外	学生前附	活壹	長石・石英細砂少	外: 75R8/6/7/8 内: 75R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1760	A 2 区	過橋外	学生前附	壹	長石・石英細砂・中粒砂多	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1761	A 2 区	過橋外	学生前附	壹	長石・石英細砂多	外: 235/2/3/4/5/6/7/8 内: 235/2/3/4/5/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	2/8		
1762	A 2 区	過橋外	学生前附	鉢	長石・石英細砂多	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1763	A 2 区	過橋外	学生前附	鉢	長石・石英細砂多	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1764	A 2 区	過橋外	学生前附	高杯	長石・石英細砂多	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1765	A 2 区	過橋外	学生前附	高杯	長石・石英細砂多	外: 235/2/3/4/5/6/7/8 内: 235/2/3/4/5/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1766	A 2 区	過橋外	学生前附	高杯	長石・石英細砂多	外: 75R8/6/7/8 内: 75R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1767	A 2 区	過橋外	学生前附	高杯	長石・石英細砂多	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1768	A 2 区	過橋外	学生前附	壹	長石・石英細砂多	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1769	A 2 区	過橋外	学生前附	壹	長石・石英多	外: 107R8/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1770	A 2 区	過橋外	学生前附	壹	長石・石英細砂多	外: 75R8/6/7/8 内: 75R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1771	A 2 区	過橋外	学生前附	壹	長石・石英細砂多	外: 107R8/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1772	A 2 区	過橋外	学生文系	壹	長石・石英細砂多	外: 75R8/6/7/8 内: 75R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1773	A 2 区	過橋外	学生文系	壹	長石・石英細砂多	外: 107R7/4-5/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1774	A 2 区	過橋外	学生文系	壹	長石・石英細砂多	外: 75R8/6/7/8 内: 75R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1775	A 2 区	過橋外	学生文系	壹	長石・石英細砂多	外: 107R8/6/7/8 内: 107R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		
1776	A 2 区	過橋外	学生文系	壹	長石・石英細砂多	外: 75R8/6/7/8 内: 75R8/6/7/8	同様ナメ	同様ナメ	1/8		

地図番号	通構名	土判名	岩	砂	粘	粉	土	色	調	内面調整	外面部調整	操作半	備考	開拓手
1777 A 2区 通構外	支承系 壁	支承系 石 灰岩細粉多	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR6/14-5分の黄褐色 内: 10TR7/14-5分の黄褐色	マーティ			マーティ				1/8		
1778 A 2区 通構外	軸用上蓋 桶構車	灰石 - 石英細粉多	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR7/14-5分の黄褐色	-			ナデ				8/8		
1779 A 2区 通構外	桶構車	灰石 - 石英細粉少	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR6/14-5分の黄褐色	ヨコケズリ、ヨコミガキ			ヨコケズリ、ヨコミガキ				2/8		
1780 A 2区 通構外	籠引系青石 箱15kg	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 750kg/14-5分の黄褐色 内: 10TR6/14-5分の黄褐色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1781 A 2区 通構外	付包 壓	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR6/14-5分の黄褐色 内: 10TR7/14-5分の黄褐色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1782 A 2区 通構外	付包 壓	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR6/14-5分の黄褐色 内: 10TR7/14-5分の黄褐色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	2/8		
1783 A 2区 通構外	土質土器 梆	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 25TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1784 A 2区 通構外	土質土器 杯	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色 内: 25TR7/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1785 A 2区 通構外	土質土器 瓶	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 25TR7/25白色 内: 25TR7/25黄色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1792 B 2区 S801	土質土器 盒	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1793 B 2区 S801	土質土器 盒	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 75TR7/16白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1794 B 2区 S801	土質土器 盒	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 75TR8/41-5分の褐色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1795 B 2区 S801	土質土器 盒	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 75TR7/16白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	5/8		
1796 B 2区 S801	土質土器 盒	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 10TR6/14-5分の黄褐色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1797 B 2区 S801	土質土器 杯	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 75TR7/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1798 B 2区 S801	土質土器 杯	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 25TR7/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	2/8		
1799 B 2区 S801	土質土器 杯	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 10TR6/14-5分の黄褐色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1800 B 2区 S801	土質土器 杯	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 25TR7/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	2/8		
1801 B 2区 S801	土質土器 杯	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	4/8		
1802 B 2区 S801	土質土器 杯	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 25TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1803 B 2区 S801	土質土器 杯	長石 - 石英細粉少	長石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	5/8		
1804 B 2区 S801	黑色土器A類 梆	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 75TR7/41-5分の褐色	ヨコナデ、ヨコミガキ			ヨコナデ、ヨコミガキ				1/8		
1805 B 2区 S801	土質土器 杯	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1806 B 2区 S801	土質土器 杯	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1807 B 2区 S801	土質土器 杯	灰石 - 石英細粉少	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1808 B 2区 S801	土質土器 杯	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	ホ	1/8		
1809 B 2区 S801	黑色土器A類 梆	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	分削ヨコミガキ、タテハタ			分削ヨコミガキ				2/8		
1810 B 2区 S801	黑色土器A類 梆	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	分削ヨコミガキ			分削ヨコミガキ				1/8		
1811 B 2区 S801	黑色土器A類 梆	砂粒含まず	灰石 - 石英細粉少	外: 10TR8/25白色	分削ヨコミガキ			分削ヨコミガキ				1/8		

標本番号	通称名	土着名	岩種	粘土	色	調	内面調査	外面調査	残存率	備考	回収率
1812	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	灰・石英砂少	外：2.57K/7.1%白色、7.5N 内：2.57K/7.1%白色	分削ヨコミガキ	1/8				
1813	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	長石・石英砂少	外：10YR8/1%白色 内：10YR8/1%白色	分削ヨコミガキ	1/8				
1814	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	長石・石英砂少	外：2.57K/7.1%白色 内：2.57K/7.1%白色	分削ヨコミガキ	1/8				
1815	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	砂粒含まず	外：10YR8/1%白色 内：10YR8/1%白色	ヨコミガキ、タテハタ	1/8				
1816	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	長石・石英砂少	外：10YR8/1%白色 内：10YR8/1%白色	ヨコミガキ	1/8				
1817	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	長石・石英砂少	外：10YR8/1%白色 内：10YR8/1%白色	ヨコミガキ	1/8				
1818	H 2 K S01	黑色土器A類	陶	長石・石英砂少、粘 長石・石英砂少、粘	外：10YR7/2%白色、7.5N 内：10YR7/2%白色、7.5N	ヨコミガキ	1/8				
1819	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	長石・石英砂少、 長石・石英砂少、	外：10YR8/2%白色 内：2.57K/4%白色	ヨコミガキ	3/8				
1820	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	長石・石英砂少	外：10YR8/2%白色 内：2.57K/4%白色	ヨコナデ、ヨコミガキ	6/8				
1821	B 2 K S01	褐色土器上蓋	陶	長石・石英砂少	外：10YR8/2%白色 内：N3/0%灰色	分削ミガキ	1/8				
1822	B 2 K S01	褐色土器底土器	陶	砂粒含まず	外：H：572/1%白色 内：H：572/1%白色	ヨコミガキ	1/8				
1823	B 2 K S01	黑色土器B類 植	陶	砂粒含まず	外：H：572/1%白色 内：2.57K/1%白色	ヨコミガキ	1/8				
1824	B 2 K S01	黑色土器B類	陶	長石・石英砂少	外：2.57K/1%白色	分削ヨコミガキ	2/8				
1825	B 2 K S01	黑色土器A類	陶	長石・石英砂少、雲母微 長石・石英砂少、雲母微	外：2.57K/1%白色 内：N3/0%白色	ヨコナデ、紙面研磨合せ	2/8				
1826	B 2 K S01	土鉢器 漢	陶	長石・石英砂少、云母細 長石・石英砂少、云母細	外：10YR7/3%白色 内：10YR6/3%白色	タテハタ、ナデ	1/8				
1827	B 2 K S01	土鉢器 羽半	陶	長石・石英砂少や多 長石・石英砂少や多	外：10YR6/3%白色 内：10YR6/3%白色	ヨコナデ、タテハタ、ナデ	1/8				
1828	B 2 K S01	土鉢器 黒	陶	長石・石英砂少、砂粒多 砂粒少、石英砂少	外：2.57K/2%白色 内：2.57K/2%白色	ヨコナデ、紙面研磨合せ	1/8				
1829	H 2 K S01	十輪山窯底遺物	陶	砂粒含まず	外：H：572/1%白色 内：H：572/1%白色	ヨコナデ、当て具抜	1/8				
1830	B 2 K S01	土鉢器 細	陶	長石・石英砂少	外：H：572/1%白色 内：H：572/1%白色	ヨコサエ	1/8				
1831	B 2 K S01	龜山燒 黑	陶	長石・石英砂少	外：2.57K/1%白色 内：2.57K/1%白色	板子タタキ	1/8				
1832	B 2 K S01	上輪器 薄片	陶	長石・石英砂少、中粘砂や 長石・石英砂少、中粘砂や	外：10YR8/2%白色 内：10YR8/2%白色	タテハタ ナデ	1/8				
1833	B 2 K S01	土鉢器土器 直	陶	長石・石英砂少	外：2.57K/2%白色 内：2.57K/2%白色	回転ナデ	2/8				
1834	B 2 K S01	上輪器上器 直	陶	長石・石英砂少	外：2.57K/1%白色 内：2.57K/1%白色	回転ナデ	7/8				
1835	B 2 K S01	土鉢器土器 直	陶	砂粒含まず	外：H：10YR8/2%白色 内：H：10YR8/2%白色	回転ナデ	7/8				
1836	B 2 K S01	上輪器土器 直	陶	長石・石英砂少	外：2.57K/2%白色 内：2.57K/2%白色	回転ナデ	1/8				
1837	B 2 K S01	土鉢器土器 直	陶	砂粒含まず	外：10YR8/4%白色 内：576/4%白色	回転ナデ	1/8				
1838	B 2 K S01	土鉢器土器 直	陶	長石・石英砂少	外：H：2.57/2%白色 内：H：2.57/2%白色	回転ナデ	5/8				
1839	B 2 K S01	上輪器土器 直	陶	長石・石英砂少	外：H：10YR8/4%白色 内：H：10YR8/4%白色	回転ナデ	3/8				

標本番号	通 構 名	十脚科	居 植	植 物	上	色	調	内面調査	操作手	備 考	因数参考
1840 B 2 K SK01	十脚科上器	杯	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/2%W白色	固板ナデ	1/8					
1841 B 2 K SK01	[前]質十器	杯	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/2%W白色	固板ナデ	1/8					
1842 B 2 K SK01	黑色居A新 槌	砂粒含らず		外内 : 2.5%W/6%W白色 内 : 7.5%W/6%W白色	分離・ガキ	1/8					
1843 B 2 K SK01	土脚竹2器	杯	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/2%W白色	固板ナデ	1/8					
1844 B 2 K SK01	十脚質土器	杯	砂粒含らず	外内 : 2.5%W/2%W白色 内 : 7.5%W/6%W白色	固板ナデ	1/8					
1845 B 2 K SK01	[前]質十器	杯	砂粒含らず	外内 : 2.5%W/2%W白色	固板ナデ	1/8					
1846 B 2 K SK01	[前]質十器	台付皿	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/3%W淡黄色	固板ナデ・ヨコハケ	5/8					
1847 B 2 K SK01	土脚竹1器	台付皿	長石・石灰繊維少	外内 : 10%W/3%W淡黄色	固板ナデ	1/8					
1848 B 2 K SK01	土脚質土器	台付皿	長石・石灰繊維少	外内 : 10%W/2%W白色	固板ナデ	1/8					
1849 B 2 K SK01	[前]質土器	台付皿	砂粒含らず	外内 : 10%W/2%W白色	固板ナデ	1/8					
1850 B 2 K SK01	土脚質土器	台付皿	砂粒含らず	外内 : 10%W/2%W白色	固板ナデ	1/8					
1851 B 2 K SK01	極端白色居B瓶	瓶	長石・石灰繊維少	外内 : N3/9%W灰色	4分離ミガキ	1/8					
1852 B 2 K SK01	黑色居八頭 機	瓶	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/2%W白色	分離ミガキ・タテハケ	1/8					
1853 B 2 K SK01	黑色土器A新 槌	瓶	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/2%W白色	3分離ミガキ	3/8					
1854 B 2 K SK01	黑色土器A新 皿	杯	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/2%W白色	固板ナデ・ヨコハケ	5/8					
1855 B 2 K SK02	十脚居金須須器	砂	長石・石灰繊維少	外内 : N5/9%W灰色	板ナデ	1/8					
1856 B 2 K SK01	[前]質居金須須器	砂	長石・石灰繊維少	外内 : N6/9%W灰色	板ナデ	1/8					
1857 B 2 K SD08	角付置皿	上脚瓦上器 皿	砂粒含らず	外内 : 2.5%W/2%W白色	固板ナデ	2/6					
1858 B 2 K SD08	角付置皿	土脚瓦上器 皿	砂粒少	外内 : 10%W/2%W淡黄色	固板ナデ	3/6					
1859 B 2 K SD08	角付置皿	土脚瓦上器 皿	砂粒少	外内 : 7.5%W/6%W白色	固板ナデ	1/8					
1860 B 2 K SD08	角付置皿	土脚瓦上器 皿	砂粒少	外内 : 7.5%W/6%W淡黄色	固板ナデ	1/8					
1861 B 2 K SD08	角付置皿	[前]質土器 皿	砂粒含らず	外内 : 10%W/3%W淡黄色	固板ナデ	1/8					
1862 B 2 K SD08	角付置皿	[前]質土器 皿	砂粒少	外内 : 10%W/2%W淡黄色	固板ナデ	1/8					
1863 B 2 K SD08	角付置皿	[前]質土器 皿	砂粒少	外内 : 10%W/6%W淡黄色	固板ナデ・ミガキ?	1/8					
1864 B 2 K SD08	角付置皿	土器 皿	砂粒少	外内 : 7.5%W/6%W白色	ミガキ?	1/8					
1865 B 2 K SD08	角付置皿	黑色十器A新 槌	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/2%W白色	分離ミガキ	1/8					
1866 B 2 K SD08	角付置皿	黑色土器A新 槌	砂粒含らず	外内 : 2.5%W/2%W白色	固板ナデ	3/8					
1867 B 2 K SD08	角付置皿	黑色土器A新 槌	長石・石灰繊維少	外内 : 2.5%W/2%W白色	固板ナデ	7/8					
1868 B 2 K SD08	角付置皿	極端白色居B瓶	瓶	長石・石灰繊維少	分離ミガキ	1/8					
1869 B 2 K SD08	角付置皿	黑色[前]器B瓶	瓶	長石・石灰繊維少	分離ミガキ	1/8					

地番地号	通 横 名	上 横 名	面 種	岩 土	色 調	内面調査	外向調査	現行率	備 考	回数番号
1870 B 2 K SD08	柱土質砂 塗色土器B類 植		長石・石英細砂少	外内: NS/000灰白色 外内: 101R7/4/5灰黃色	分類ミガキ 板ナデ?	同様ナデ 板ナデ	タハケ 板ナデ	1/8		
1871 B 2 K SD08	柱土質砂 上鉢器 刺金		長石・石英細砂多	外内: 2.5/8/1灰白色	同様ナデ	同様ナデ	板ナデ	1/8	内側に使用箇	
1872 B 2 K SD08	柱土質砂 沈底器 鉢		長石・石英中粒・細砂多	外内: 7.5/R7/2灰褐色	—	—	—	8/8		
1873 B 2 K SD08	柱土質砂 沈底器 盆		長石・石英中粒砂多	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/3/5灰褐色	板ナデ 板ナデ 板ナデ	板ナデ 板ナデ 板ナデ	タハケ タハケ タハケ	1/8		
1874 B 2 K SD08	柱土質砂 土器器 製		長石・石英細砂多	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	板ナデ 板ナデ 板ナデ	板ナデ 板ナデ 板ナデ	ヨハハゲ ヨハハゲ ヨハハゲ	1/8		
1875 B 2 K SD08	柱土質砂 土器器 製		長石・石英細砂少	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	板ナデ	板ナデ	板ナデ	1/8		
1876 B 2 K SD08	柱土質砂 支脚器器 台		長石・石英中粒砂 細砂多。 之の他無色或黄褐色	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	板ナデ	板ナデ	板ナデ	1/8		
1877 B 2 K SD08	北側 上鉢器 壁		長石・石英細砂少	外内: 2.5/7/2灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1878 B 2 K SD08	北側 土質土器 壁		長石・石英細砂少	外内: 7.5/R7/2灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1879 B 2 K SD08	北側 黒色土器 A類 植		長石・石英細砂少	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	分類ミガキ 同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1880 B 2 K SD08	西側 十輪土器底削器 壁		長石・石英細砂少	外内: 3/8/1灰白色 外内: 101R7/2灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1881 B 2 K SD08	西側 黑色土器 A類 植		長石・石英細砂少	外内: 101R7/2灰褐色 外内: 101R7/2灰褐色	ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	1/8		
1882 B 2 K SD08	東側 土質土器 壁		長石・石英細砂少	外内: 101R7/2灰褐色 外内: 101R7/2灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	3/8		
1883 B 2 K SD08	東側 土質土器 杯		長石・石英細砂少	外内: 101R7/2灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1884 B 2 K SD08	東側 土質土器 杯		長石・石英細砂少	外内: 101R7/2灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1885 B 2 K SD08	東側 土器系須器 植		長石・石英細砂少	外内: 2.5/8/3灰褐色 外内: 2.5/8/3灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1886 B 2 K SD08	東側 土器 壁		長石・石英細砂少	外内: 101R7/2灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1887 B 2 K SD08	東側 土質土器 杯		長石・石英細砂少	外内: 101R7/2灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1888 B 2 K SD08	東側 土質土器 杯		長石・石英細砂少	外内: 101R7/2灰褐色 外内: 101R7/2灰褐色	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ	7/8		
1889 B 2 K SD08	東側 黑色土器 A類 植		粘粒含合少	外内: 101R7/2灰褐色 外内: 101R7/2灰褐色	分類ミガキ 同様ナデ	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1890 B 2 K SD08	東側 黑色土器 A類 植		粘粒含合少	外内: 101R7/2灰褐色 外内: 101R7/2灰褐色	分類ミガキ 同様ナデ	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1891 B 2 K SD08	東側 粘粒物質土器 B類 植		長石・石英細砂少	外内: NS/000灰白色	分類ミガキ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1892 B 2 K SD08	南側 土質土器 杯		長石・石英細砂少	外内: 101R7/2灰白色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1893 B 2 K SD08	南側 上鉢器 壁		長石・石英細砂少	外内: 101R7/4/5灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1894 B 2 K SD08	南側 土質器 杯		長石・石英細砂少	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ 同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1895 B 2 K SD08	南側 土質器 杯		長石・石英細砂少	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	1/8		
1896 B 2 K SD08	南側 上鉢器 壁		長石・石英細砂少	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		
1897 B 2 K SD08	南側 土質器 杯		長石・石英細砂少	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	同様ナデ	同様ナデ	同様ナデ	7/8		
1898 B 2 K SD08	南側 黑色土器 A類 植		長石・石英細砂少	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	ミガキ ミガキ	4/8		
1899 B 2 K SD08	南側 黑色土器 A類 植		粘粒含合少	外内: 101R7/4/5灰褐色 外内: 101R7/4/5灰褐色	分類ミガキ	同様ナデ	同様ナデ	1/8		

標識番号	遺傳名	土質名	茎	葉	根	土	色	表面調査	地下調査	種子	参考	回収年
1890	B 2 区 SD08	赤側	黒色十筋A型	梅	長石・石英細砂少	外: 2.578/2%白色 内: 3.54/1%白色	外: 2.578/2%白色 内: 3.54/1%白色	外: 2.578/2%白色 内: 3.54/1%白色	外: 2.578/2%白色 内: 3.54/1%白色	ミガキ	2/8	
1891	B 2 区 SD08	赤側	黒色十筋A型	梅	砂粒含まず	外: 2.088/2%白色 内: 3.54/1%白色	外: 2.088/2%白色 内: 3.54/1%白色	外: 2.088/2%白色 内: 3.54/1%白色	外: 2.088/2%白色 内: 3.54/1%白色	回転ナデ	2/8	
1892	B 2 区 SD08	赤側	出色上筋A型	梅	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	回転ナデ	1/8	
1893	B 2 区 SD08	赤側	出色土富A型	梅	長石・石英細砂少	外: 2.578/2%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/2%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/2%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/2%白色 内: 3.54/0%白色	ミガキ	1/8	
1894	B 2 区 SD08	赤側	黑色土富A型	梅	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%白色 内: 3.54/0%白色	回転ミガキ、グズリ	1/8	
1895	B 2 区 SD08	赤側	黑色十筋A型	梅	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	ミガキ	2/8	
1896	B 2 区 SD08	赤側	褐色墨色上B型	梅	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	回転ナデ	1/8	
1897	B 2 区 SD08	赤側	紅葉器 梅	長石・石英細砂少	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	ミガキ	1/8	
1898	B 2 区 SD08	赤側	十筋山高麗細砂器	梅	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	板ナデ	1/8	
1899	B 2 区 SD08	赤側	十筋山高麗細砂器	紫	長石・石英細砂少	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	板ナデ	2/8	
1910	B 2 区 SD08	赤側	十筋山高麗細砂器	紫	長石・石英細砂少	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	板ナデ	1/8	
1911	B 2 区 SD08	赤側	十筋山高麗細砂器	紫	長石・石英細砂少	外: N7.0%白色	外: N7.0%白色	外: N7.0%白色	外: N7.0%白色	回転ナデ	1/8	
1912	B 2 区 SD08	赤側	十筋山高麗細砂器	紫	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%淡灰色	外: 2.088/2%淡灰色	外: 2.088/2%淡灰色	外: 2.088/2%淡灰色	回転ナデ、火だすき	1/8	
1913	B 2 区 SD08	赤側	十筋山高麗細砂器	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%白色 内: 3.54/0%白色	回転ナデ、機ナタキ	1/8	
1914	B 2 区 SD08	赤側	土鍋器 紫	紫	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%淡灰色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡灰色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡灰色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡灰色 内: 3.54/0%白色	タテハゲ	1/8	
1915	B 2 区 SD08	赤側	土鍋器 紫	紫	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%淡灰色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡灰色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡灰色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡灰色 内: 3.54/0%白色	タテハゲ	1/8	
1916	B 2 区 SD08	赤側	土鍋器 紫	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/2%淡黄色	外: 2.578/2%淡黄色	外: 2.578/2%淡黄色	外: 2.578/2%淡黄色	板ナデ	1/8	
1917	B 2 区 SD08	赤側	土鍋器 紫	紫	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	タテハゲ	2/8	
1918	B 2 区 SD08	赤側	土鍋器 紫	紫	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	タテハゲ	1/8	
1919	B 2 区 SD08	赤側	土鍋器 紫	紫	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	タテハゲ	1/8	
1920	B 2 区 SD08	赤側	土鍋器 紫	紫	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	タテハゲ	1/8	
1921	B 2 区 SD08	赤側	十筋山高麗細砂器	紫	長石・石英細砂少	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.088/2%淡黄色 内: 3.54/0%白色	板ナデ	1/8	
1922	B 2 区 SD08	赤側	十筋山高麗細砂器	紫	長石・石英細砂少	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	外: N6.0%白色	板ナデ	1/8	
1923	B 2 区 SD08	赤側	須志竹 平瓦	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	回転日タキ	1/8	
1924	B 2 区 SD08	赤側	須志竹 平瓦	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	ナデ	6/8	
1925	B 2 区 SD08	赤側	須志竹 平瓦	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	ナデ	—	
1926	B 2 区 SD08	赤側	須志竹 平瓦	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	ナデ	8/8	
1927	B 2 区 SD08	赤側	須志竹 平瓦	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	ナデ	7/8	
1928	B 2 区 SD08	赤側	須志竹 平瓦	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	ナデ	7/8	
1930	B 2 区 SD08	赤側	須志竹 深林	紫	長石・石英細砂少	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	外: 2.578/1%淡黄色 内: 3.54/0%白色	マツツ	1/8	

地図番号	道 横 名	上層名	基 構	施 工	上	色 調	内面調性	外面部色	備 考	固液率%
1931 B 2 区 SD08	織文 深井	長石・石英細砂少	外 : SYR5/41-51/白色 内 : 107R5/41-51/青色	マメツ	マメツ	8/8				
1932 B 2 区 SD08	織文 深井	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	マメツ	マメツ	1/8				
1933 B 2 区 SD08	織文 深井	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色	マメツ	マメツ	1/8				
1934 B 2 区 SD08	織文 深井	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	マメツ	マメツ	1/8				
1935 B 2 区 SD08	織文 深井	長石・石英細砂多	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	マメツ	マメツ	1/8				
1936 B 2 区 SD08	織文 深井	長石・石英細砂多	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	マメツ	マメツ	1/8				
1937 B 2 区 SP10	土壌質土器 杯	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1938 B 2 区 SP10	土壌質土器 杯	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1939 B 2 区 SB10	土壌質土器 土器	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1940 B 2 区 SB10	土壌質土器 杯	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1941 B 2 区 SB10	土壌質土器 合併皿	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1942 B 2 区 SB10	土壌質土器 台皿	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1943 B 2 区 SB10	土壌質土器 杯	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	5/8				
1944 B 2 区 SB10	土壌質土器 杯	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	3/8				
1945 B 2 区 SB10	土壌質土器 杯	砂粒含まず	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1946 B 2 区 SB10	土壌質土器 杯	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1947 B 2 区 SB10	土壌質土器 杯	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1948 B 2 区 SB10	黒色土器A 鍋	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8				
1949 B 2 区 SB10	黒色土器A 鍋	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	タミニガキ	タミニガキ	2/8				
1950 B 2 区 SB10	黒色土器A 鍋	雲母微細少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	タミニガキ	タミニガキ	1/8				
1951 B 2 区 SB10	黒色土器A 鍋	砂粒含まズ	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8				
1952 B 2 区 SB10	黒色土器A 鍋	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8				
1953 B 2 区 SB10	黒色土器A 鍋	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	タミニガキ	タミニガキ	1/8				
1954 B 2 区 SB10	黒色土器A 鍋	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	タミニガキ	タミニガキ	5/8				
1955 B 2 区 SB10	褐色帶色土器B 鍋	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	ミガキ	ミガキ	1/8				
1956 B 2 区 SB10	土壌質 灰	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	ヨコナダ	ヨコナダ	1/8				
1957 B 2 区 SB10	土壌質 壺	長石・石英細砂多	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	ヨコナダ	ヨコナダ	1/8				
1958 B 2 区 SB03	土壌質土器 土器	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1959 B 2 区 SB03	上海瓦上器 土器	砂粒含まズ	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	回転ナデ	回転ナデ	1/8				
1960 B 2 区 SB03	渠器 壺?	長石・石英細砂少	外 : 107R5/41-51/青色 内 : 107R5/41-51/青色	ヨコナダ	ヨコナダ	1/8				

構造番号	測定名	土種名	岩・樹	砂・粘	粉・含	動・土	色	調	内面調査	外面調査	検討	備考	回数等	
1961	B 2 区 SB03	清瀬市器	杯	砂粒含まず			外: N8/0%白色		ヨコナデ	ヨコナデ, 斜面削除切り	1/8			
1962	B 2 区 SB03	黒十器 A 削 横	長石・石英砂少		外: 2.57%/-1/15%白色		ヨコミガキ	ヨコケズリ, ヨコミガキ	3/8					
1963	B 2 区 SB02	上削 横	長石・石英砂多・赤色斑	外: 7.57%/-1/15%白色	ヨコミガキ	ヨコハバ, ヨコナデ	ヨコケズリ, ヨコミガキ	ヨコハバ, ヨコナデ	タテ, ヨコケズリ, ヨコナデ	タテ, ヨコハバ, ヨコナデ	1/8			
1964	B 2 区 SB02	土削 横	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	板ナダ	タタキ	タタキ	板ナダ	板ナダ, タテ	板ナダ, タテ	1/8			
1965	B 2 区 SB02	十鬼山窯跡発掘	長石・石英砂・細砂	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	分離ミガキ	分離ミガキ	分離ミガキ	分離ミガキ	分離ミガキ	分離ミガキ	1/8		
1966	B 2 区 SK16	龍泉窯系青磁 瓶	砂粒含まず	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
1967	B 2 区 SB02	栗山窯 A 削 横	砂粒含まず	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 7.5%/-1/15%白色	板ナダ	板ナダ	板ナダ	板ナダ, 頂面削除ヘラキ	板ナダ, 頂面削除ヘラキ	板ナダ	1/8		
1968	B 2 区 SB02	黒十器 A 削 横	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 7.5%/-1/15%白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
1969	B 2 区 SB02	上削直上器 Ⅲ	砂粒含まず	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ, 頂面削除ヘラキ	回転ナデ, 頂面削除ヘラキ	回転ナデ	1/8		
1970	B 2 区 SB09	横割切込土器直削 横	砂粒含まず	外: N-0%白色	内: N-0%白色	ミガキ前	ミガキ前	ミガキ前	ミガキ前	ミガキ前	ミガキ前	1/8		
1971	B 2 区 SB09	土削質土器 Ⅲ	長石・石英砂少・微砂少	外: 7.5%/-1/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ, 頂面削除ヘラキ	回転ナデ, 頂面削除ヘラキ	回転ナデ	1/8		
1972	B 2 区 SB08	十鬼山窯跡発掘器 直	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8		
1973	B 2 区 SB08	上削直上器 Ⅲ	砂粒含まず	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ, 頂面削除ヘラキ	回転ナデ, 頂面削除ヘラキ	回転ナデ	1/8		
1974	B 2 区 SB08	上削直上器 直	長石・石英砂少	外: 5.9%/-1/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1975	B 2 区 SB05	須賀窯直	砂粒含まず	外: N-0%白色	内: N-0%白色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8		
1976	B 2 区 SB05	十削直十器 直	砂粒・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1977	B 2 区 SB05	土削質土器 Ⅳ	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ, 頂面削除ヘラキ	回転ナデ, 頂面削除ヘラキ	回転ナデ	1/8		
1978	B 2 区 SB05	土削質土器 Ⅴ	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1979	B 2 区 SB05	土削質土器 Ⅵ	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1980	B 2 区 SB05	土削質土器 Ⅶ	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1981	B 2 区 SB05	十削直器 Ⅷ	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	ヨコハバ	ヨコハバ	ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	1/8		
1982	B 2 区 SB05	上削直	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	1/8		
1983	B 2 区 SB11	東浦系須頭器	杯	長石・石英砂少	内: 1.09%/-2/15%白色	回転ナデ, 水ダスク	回転ナデ, 水ダスク	回転ナデ, 水ダスク	回転ナデ, 水ダスク	回転ナデ, 水ダスク	回転ナデ, 水ダスク	1/8		
1984	B 2 区 SB11	十削直土器 直	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 5.9%/-1/15%白色	ヨコハバ	ヨコハバ	ヨコハバ	ヨコハバ	ヨコハバ	ヨコハバ	1/8		
1985	B 2 区 SB06	上削直器 Ⅸ	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1986	B 2 区 SB07	上削直 僧	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	ヨコナデ, ヨコハバ	1/8		
1987	B 2 区 SD03	十削直土器 杯	長石・石英砂少	外: 5.9%/-1/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1988	B 2 区 SD03	上削直土器 杯	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1989	B 2 区 SD03	上削直土器 杯	長石・石英砂少	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
1990	B 2 区 SD03	黒色上削 A 削 横	砂粒含まず	外: 1.09%/-2/15%白色	内: 1.09%/-2/15%白色	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2/8		

編付番号	通称名	土所名	番種	粒度	色調	肉面顔色	外油顔色	保存料	備考	回収番号
1991 B 2 K S003	果樹系殺虫器 槌	瓦石・石灰細砂少	外内: NS/0灰白色	回転ナデ	特殊ナデ,底面削除後	1/8				
1992 B 2 K S003	十角山(火災復興)器 槌	瓦石・石灰細砂少	外内: 5Y7/1灰白色	板ナデ 回転ナデ	特殊ナデ	2/8				
1993 B 2 K S003	十角山(火災復興)器 槌	瓦石・石灰細砂少	外: NS/0灰白色 内: NS/0灰白色	回転ナデ	特殊ナデ	1/8				
1994 B 2 K S003	樹皮剥離 壓	瓦石・石灰細砂少	外: 5Y7/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色	ケシリ 回転ナデ	特殊ナデ	1/8				
1995 B 2 K S003	土壤器 利斧	瓦石・石灰細砂多	外内: 5Y7/4灰黄色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
1996 B 2 K S003	十角山(火災復興)器 破砕合ます	瓦石・石灰細砂多	外: 5Y6/1灰白色 内: 5Y6/1灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
1997 B 2 K S003	先生剪削 壺	瓦石・石灰細砂多	外: 5Y7/1灰白色 内: 5Y7/1灰白色	マツツ	特殊ナデ	1/8				
1998 B 2 K S003	先生剪削 壺	瓦石・石灰細砂多	外: 5Y6/1灰白色 内: 5Y6/1灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
1999 B 2 K S003	資林土壤	瓦石・石灰細砂質	外内: 5Y7/4灰白色	—	ナデ	4/8				
2000 B 2 K S004	上削器 槌	瓦石・石灰細砂少	外内: 10YR8/4灰褐色	ミガキ	ミガキ	1/8				
2001 B 2 K S004	黒色上器A型 槌	瓦石・石灰細砂少	外: 5Y8/2灰白色 内: 5Y8/2灰白色	分離ミガキ	回転ナデ,底面削除	1/8				
2002 B 2 K S004	土質試土器 槌	瓦石・石灰細砂少	外内: 10YR8/2灰褐色	板ナデ	特殊ナデ	2/8				
2003 B 2 K S004	相刺型土壤 槌	瓦石・石灰細砂少	外内: 5Y6/1灰白色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8				
2004 B 2 K S004	先生剪削 壺	瓦石・石灰細砂多	外内: 10YR7/4灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2005 B 2 K S004	先生剪削 壺	瓦石・石灰細砂多	外: 5Y7/3灰白色 内: 5Y7/3灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2006 B 2 K S004	先生剪削 壺	瓦石・石灰細砂多	外: 5Y7/3灰白色 内: 5Y7/3灰白色	板ナデ	特殊ナデ	2/8				
2007 B 2 K S022	十角山(火災復興)器 槌	瓦石・石灰細砂少	外内: 10YR8/1灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2008 B 2 K S022	上削器土壤 槌	瓦石・石灰細砂少	外内: 10YR8/2灰褐色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2009 B 2 K S021	土質試土器 壺	瓦石・石灰細・鉱物質	外: 10YR8/2灰褐色 内: 5Y7/2灰白色	板ナデ,板ナデ	特殊ナデ,板ナデ	1/8				
2010 B 2 K S021	上削器土壤 槌	瓦石・石灰中鉱物質	外: 5Y7/2灰白色 内: 10YR8/2灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2011 B 2 K S021	土質試土器 槌	瓦石・石灰粗・鉱物質	外内: 10YR8/1灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2012 B 2 K S021	陶器 地科	瓦石・石灰細砂少	外: 7.5Y7/2灰褐色 内: 2.5Y7/4灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2013 B 2 K S021	陶器 台付セメント	瓦石・石灰合ます	外: 10YR7/2灰褐色 内: 5Y7/1灰白色	—	特殊	6/8				
2014 B 2 K S005	土質試土器 壺	瓦石・石灰細砂少	外内: 10YR8/2灰褐色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2015 B 2 K S005	土質試土器 壺	瓦石・石灰合ます	外内: 10YR8/2灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2016 B 2 K S005	土質試土器 壺	瓦石・石灰合ます	外内: 10YR8/2灰白色	板ナデ	特殊ナデ	1/8				
2017 B 2 K S005	土質試土器 壺	瓦石・石灰合ます	外内: 10YR8/2灰白色	板ナデ	特殊ナデ	2/8				
2018 B 2 K S005	黑色土器A新 槌	瓦石・石灰細砂少	外: 5Y8/6灰褐色 内: 10YR7/2灰褐色	分離ミガキ	回転ミガキ?	1/8				

測定番号	造形・名	上層名	苗	種	科	科包含ます	色	調	内面調査	外面部調査	残存率	備考	回数番号
2019 B 2 K S005	土瓶器 棺	土瓶器 棺					外内: 10YR 1/10灰白色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8		
2020 B 2 K S005	土瓶器 棺	土瓶器 棺	良石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰黄色 外: 10YR 2/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2021 B 2 K S005	黑色土器A瓶 棺	土瓶器 棺	良石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色 外: 10YR 2/2灰白色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8		
2022 B 2 K S005	黑色土器A瓶 棺	土瓶器 棺	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色 外: 10YR 2/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2023 B 2 K S005	黑色土器A瓶 棺	土瓶器 棺	砂粒多				外内: 10YR 7/2灰白色 外: 10YR 2/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2024 B 2 K S005	黑色土器A瓶 棺	土瓶器 棺	良石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色 外: 10YR 2/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2025 B 2 K S005	土瓶器 棺	土瓶器 棺	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2026 B 2 K S005	土瓶器 棺	土瓶器 棺	良石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色 外: 10YR 2/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2027 B 2 K S005	土瓶器 桶	土瓶器 桶	良石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2028 B 2 K S005	土瓶器 桶	土瓶器 桶	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2029 B 2 K S005	土瓶十箇 桶	土瓶十箇 桶	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2030 B 2 K S005	青状土瓶	土瓶十箇 桶	良石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2031 B 2 K S017	土瓶十箇 杯	土瓶十箇 杯	良石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2032 B 2 K S017	土瓶十箇 杯	土瓶十箇 杯	良石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2033 B 2 K S017	土瓶器 桶	土瓶器 桶	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2034 B 2 K S017	土瓶山笠形乳頭器 桶	土瓶器 桶	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2035 B 2 K S017	土瓶山笠形乳頭器 桶	土瓶器 桶	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2036 B 2 K S027	黑色土器A瓶 杯	土瓶十箇 杯	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2037 B 2 K S027	土瓶十箇 杯	土瓶十箇 杯	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2038 B 2 K S027	土瓶實十箇 杯	土瓶實十箇 杯	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2039 B 2 K S027	土瓶山笠形乳頭器 桶	土瓶實十箇 杯	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2040 B 2 K S006	土瓶實十箇 桶	土瓶實十箇 桶	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2041 B 2 K S006	土瓶實上器 桶	土瓶實上器 桶	砂粒含まず				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	2/8		
2042 B 2 K S006	土瓶實十箇 桶	土瓶實十箇 桶	長石・石英細砂少				外内: 10YR 7/2灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	2/8		
2043 B 2 K S006	土瓶實上器 桶	土瓶實上器 桶	長石・石英細砂少、その他 赤色も石英砂少				外: 10YR 6/6灰白色 内: 10YR 6/6灰白色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8		
2044 B 2 K S006	土瓶實上器 桶	土瓶實上器 桶	砂粒含まず				外内: 10YR 7/6灰白色	ミガキ	ミガキ	ミガキ	1/8		
2045 B 2 K S006	土瓶器 桶	土瓶器 桶	砂粒含まず				外: 10YR 7/6灰白色 内: 10YR 7/6灰白色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8		
2046 B 2 K S006	出合土器A瓶 桶	土瓶器 桶	長石・石英細砂少				外: 10YR 7/6灰白色 内: 10YR 7/6灰白色	ヨコミガキ	ヨコミガキ	ヨコミガキ	1/8		

地図番号	測量名	上層名	西	北	東	南	色調	内面構造	外向構造	保存率	備考	周囲番号
2047	B 2 K S006	黒色土器A類 杯	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：10/26/18/25 内：10/26/18/25 外：10/26/18/25	分離ミガキ 板ナデ 板ナデ	同様ミガキ、ヨコカズリ タテナデ 横カタキ	2/8					
2048	B 2 K S006	土壌器 親	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：10/26/18/25 内：10/26/18/25 外：10/26/18/25	分離ミガキ 板ナデ 板ナデ	タテナデ 横カタキ	1/8					
2049	B 2 K S006	1種山窓乳頭器 罩	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：10/26/18/25 内：10/26/18/25	分離ミガキ 板ナデ	横カタキ	1/8					
2050	B 2 K S007	土壌器上器 Ⅲ	長石・石英繊維少	外内：10/26/25/白色	同様ナデ	同様ナデ ヨリレーピ、板ナデ	1/8					
2051	B 2 K S007	土壌器土器 Ⅲ	長石・石英繊維少	外内：10/26/25/白色	同様ナデ	ヨリレーピ、板ナデ	3/8					
2052	B 2 K S007	1種山窓乳頭器 罩	長石・石英繊維少	外内：10/26/25/白色	タテカタキ、板ナデ	板ナデ	1/8					
2053	B 2 K S007	1種山窓乳頭器 罩	長石・石英繊維少	外内：10/26/25/白色	板ナデ	平行カタキ	1/8					
2054	B 2 K S007	1種山窓乳頭器 罩	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	板ナデ 板ナデ 板ナデ	板ナデ タテナデ、ナデ タテナデ、ナデ	1/8					
2055	B 2 K S007	土壌器土器 丸	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ、ナデ 板ナデ 板ナデ	板ナデ、ヨコカタキ、板ナデ ヨコカタキ、板ナデ	1/8					
2056	B 2 K S007	土壌器土器 丸	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ、ナデ 板ナデ 板ナデ	ヨコカタキ、板ナデ ヨコカタキ、板ナデ	1/8					
2057	B 2 K S007	1種山窓乳頭器 罩	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	板ナデ 板ナデ	ヨコカタキ、板ナデ ヨコカタキ、板ナデ	1/8					
2058	B 2 K S009	土壌器 土器	長石・白灰中・繊維少	外内：1.57/5.91/5.91 内：10/26/25/白色	同様ナデ	ヨリレーピ、板ナデ	2/8					
2059	B 2 K S009	土壌器土器 Ⅳ	長石・石英繊維少	外内：1.57/5.91/5.91 内：10/26/25/白色	同様ナデ	ヨリレーピ、板ナデ	1/8					
2060	B 2 K S009	土壌器 土器 杯	長石・石英繊維少	外内：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	山形ナデ	ヨリレーピ、板ナデ	1/8					
2061	B 2 K S009	黑色土器A類 杯	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	ヨコミガキ 板ナデ	ヨコミガキ ヨコミガキ ヨコミガキ	1/8					
2062	B 2 K S009	土壌器 棘	砂粒含まず	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ 板ナデ	ヨコカタキ ヨコカタキ	1/8					
2063	B 2 K S009	土壌器 棘	砂粒含め少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ 板ナデ	ヨコカタキ ヨコカタキ	1/8					
2064	B 2 K S010	土壌器 土器	砂粒含め少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ 板ナデ	ヨコカタキ ヨコカタキ	1/8					
2065	B 2 K S010	土壌器土器 Ⅳ	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	山形ナデ	ヨコカタキ、板ナデ	1/8					
2066	B 2 K S010	土壌器土器 Ⅳ	長石・石英繊維少	外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	山形ナデ	ヨコカタキ、板ナデ	1/8					
2067	B 2 K S010	椭形短柄土器B類 棘	砂粒含め少	外内：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25	分離ミガキ	分離ミガキ	1/8					
2068	B 2 K S010	黑色土器A類 杯	砂粒含め少	外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25	分離ミガキ	分離ミガキ	1/8					
2069	B 2 K S010	黑色土器A類 杯	砂粒含め少	外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ 板ナデ	ヨコカタキ 板ナデ	1/8					
2070	B 2 K S011	土壌器 棘	砂粒含め少	外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ、ヨコカタデ	ヨコカタキ、ヨコカタデ	1/8					
2071	B 2 K S011	土壌器 棘	砂粒含め少	外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ、ヨコカタデ	ヨコカタキ、ヨコカタデ	1/8					
2072	B 2 K S011	土壌器 棘	砂粒含め少	外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/5.91/5.91 内：10/26/18/25	ヨコカタキ	ヨコカタキ	1/8					
2073	B 2 K S004	土壌器 土器	長石・石英繊維少	外内：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	山形ナデ	ヨリレーピ、板ナデ	1/8					
2074	B 2 K S004	土壌器 土器	長石・石英繊維少	外内：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	山形ナデ	ヨリレーピ、板ナデ	1/8					
2075	B 2 K S004	土壌器 土器	長石・石英繊維少	外内：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	山形ナデ	ヨリレーピ、板ナデ	1/8					
2076	B 2 K S004	土壌器 土器	長石・石英繊維少	外内：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25 外：1.57/7.41/5.91 内：10/26/18/25	山形ナデ	ヨリレーピ、板ナデ	1/8					